

刈谷市高齢者等実態調査報告書

【後編】

令和5年3月

刈 谷 市

目次

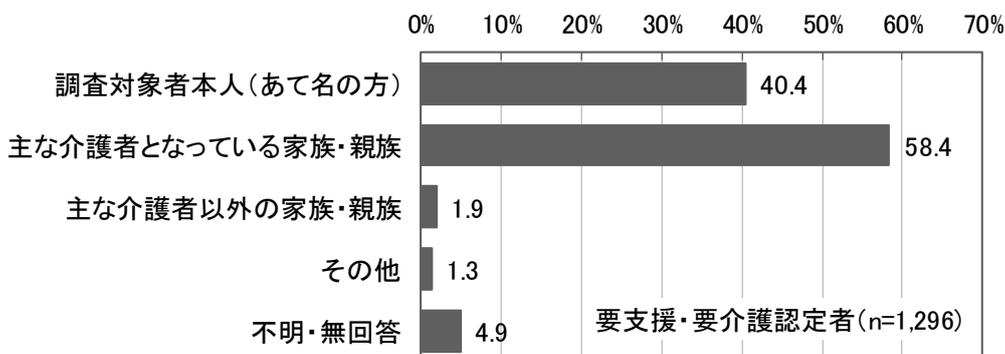
V	居宅要支援・要介護認定者調査結果	1
1	あなたとご家族について	2
2	要介護認定について	4
3	介護保険サービスについて	12
4	災害時の対策について	30
5	認知症の支援について	34
6	歯の健康について	38
7	高齢期の課題について	39
8	希望する医療等について	44
9	その他近年の生活状況について	47
10	介護者について	51
VI	事業所調査結果	71
1	事業所の概要について	72
2	事業所の人材確保の状況について	78
VII	訪問介護員調査結果	101
VIII	介護支援専門員調査結果	109
1	あなたについて	110
2	介護サービス計画について	113
3	医療関係者との連携について	119
4	本市の介護サービスの供給について	128
5	虐待や権利擁護について	136
6	在宅生活の継続や介護人材について	139

V 居宅要支援・要介護認定者調査結果

1 あなたとご家族について

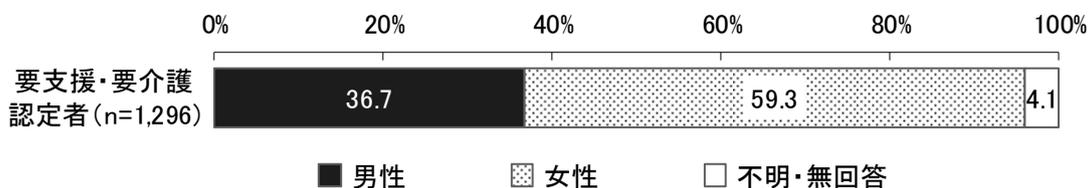
問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(複数回答)

回答者について、「主な介護者となっている家族・親族」が 58.4%と最も高く、次いで「調査対象者本人（あて名の方）」が 40.4%となっています。



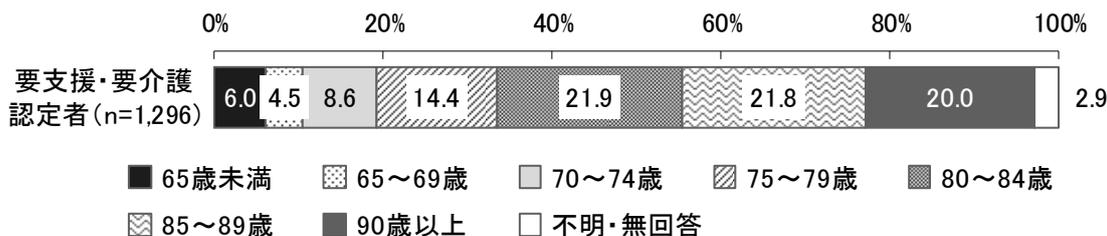
問2 あなた(あて名の方で、要介護認定を受けている方)の性別はどちらですか。(単数回答)

性別について、「女性」が 59.3%、「男性」が 36.7%となっています。



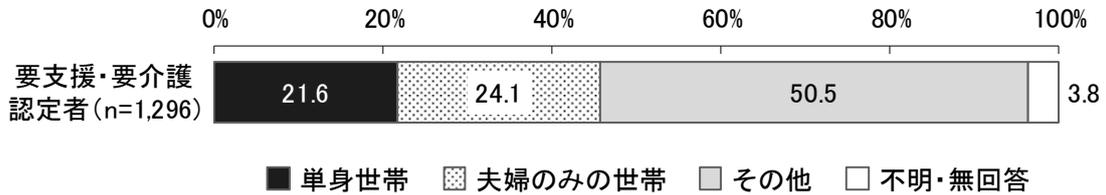
問3 あなたの年齢は、おいくつですか。(単数回答)

年齢について、「80～84歳」が 21.9%と最も高く、次いで「85～89歳」が 21.8%、「90歳以上」が 20.0%となっています。



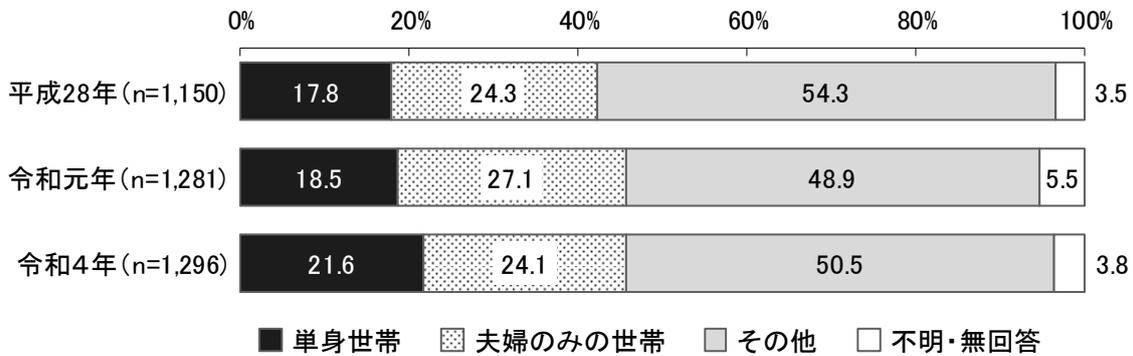
問4 あなたの世帯は次のどれですか。(単数回答)

世帯について、「その他」が50.5%、「夫婦のみの世帯」が24.1%、「単身世帯」が21.6%となっています。



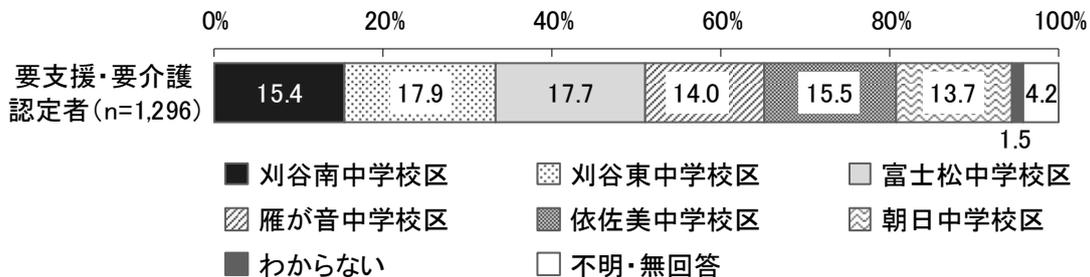
■ ■ 経年変化

経年でみると、平成28年以降、「単身世帯」が高くなっています。



問5 あなたの居住地(中学校区別)は次のどれですか。(単数回答)

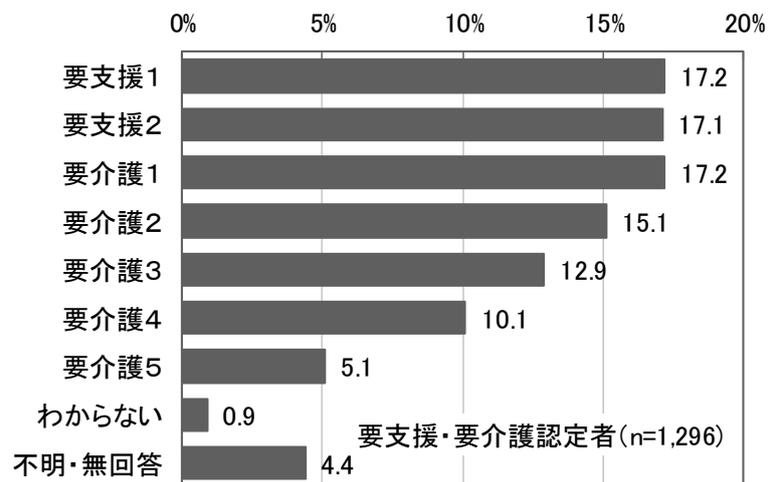
中学校区別の居住地については概ね均等に分散しており、その中では「刈谷東中学校区」が17.9%と最も高く、次いで「富士松中学校区」が17.7%、「依佐美中学校区」が15.5%となっています。



2 要介護認定について

問6 あなたの要介護度は次のどれに該当しますか。(単数回答)

要介護度について、「要支援1」「要介護1」がそれぞれ17.2%と最も高く、次いで「要支援2」が17.1%、「要介護2」が15.1%となっています。

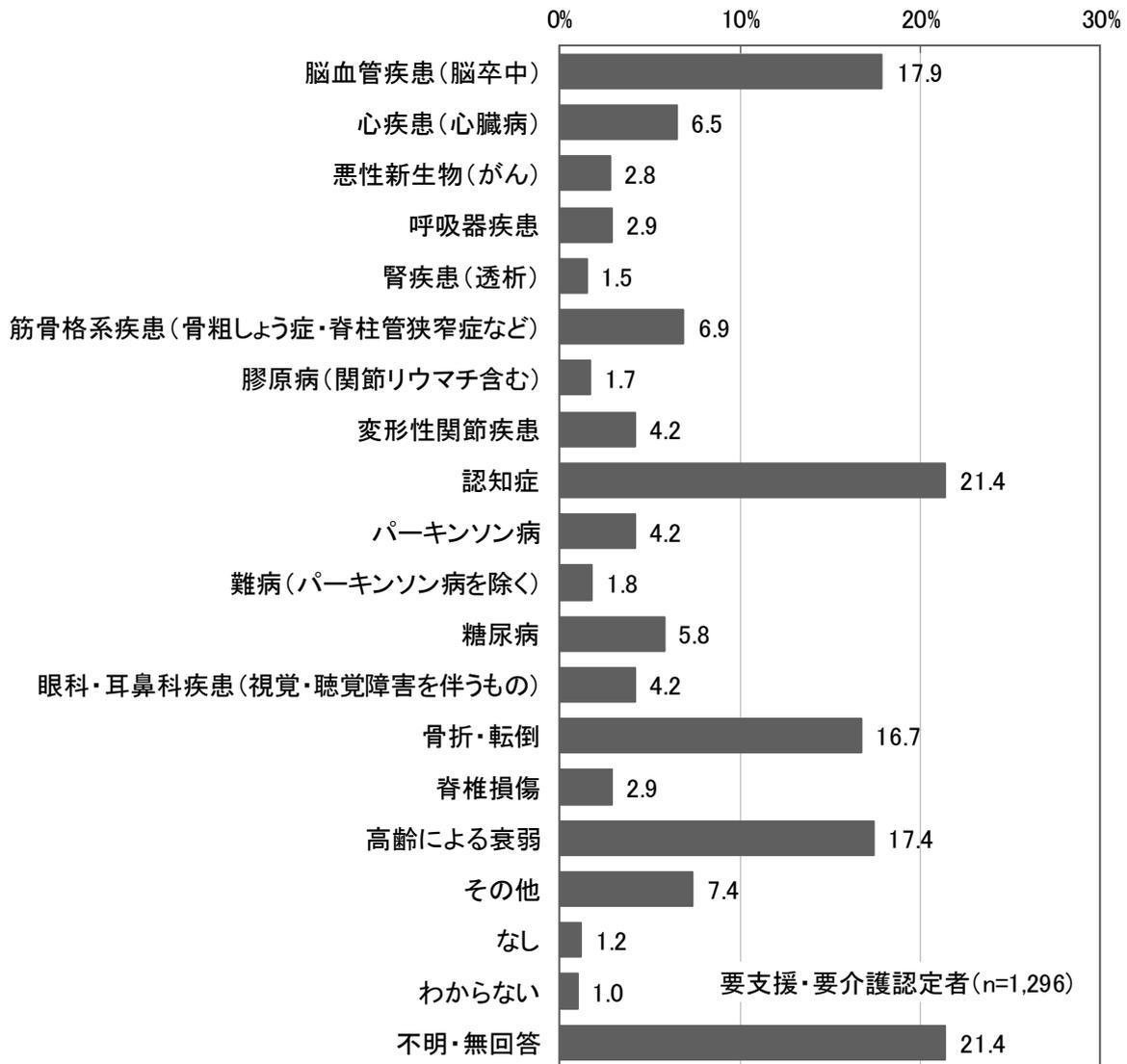


問7 介護・介助が必要になった主な原因と現在抱えている病気についてお答えください。(複数回答)

①介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要になった主な原因について、「認知症」が21.4%と最も高く、次いで「脳血管疾患(脳卒中)」が17.9%、「高齢による衰弱」が17.4%となっています。

要介護度別でみると、要支援1・2では「骨折・転倒」が、要介護1～4では「認知症」が、要介護5では「脳血管疾患(脳卒中)」が、それぞれ最も高くなっています。



■要介護度別

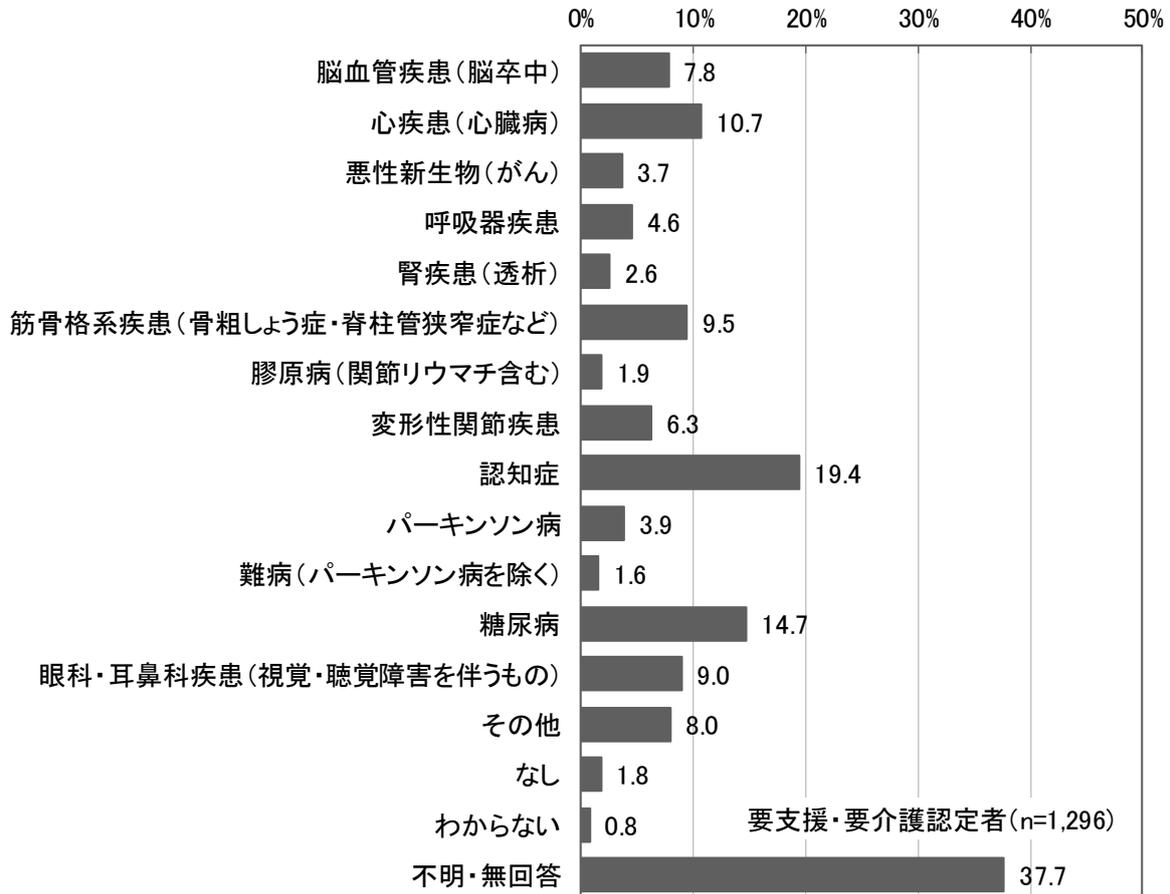
(単位:%)	n=	脳血管疾患(脳卒中)	心疾患(心臓病)	悪性新生物(がん)	呼吸器疾患	腎疾患(透析)	筋骨格系疾患(骨粗しょう症・脊柱管狭窄症など)	膠原病(関節リウマチ含む)	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病
		要介護度別									
要支援1	223	10.8	6.7	1.8	2.2	0.9	5.8	1.3	4.0	6.3	3.1
要支援2	221	12.7	5.4	2.3	2.7	0.9	10.9	1.8	6.3	5.0	4.5
要介護1	223	15.7	5.8	3.6	4.0	0.4	7.6	1.3	7.6	35.0	3.6
要介護2	196	21.9	6.1	4.1	3.6	3.1	11.2	1.5	3.6	26.0	6.1
要介護3	167	22.8	7.2	1.8	2.4	1.8	4.8	2.4	1.8	36.5	3.0
要介護4	131	29.8	11.5	3.8	2.3	3.1	2.3	3.1	2.3	32.1	3.8
要介護5	66	34.8	3.0	3.0	4.5	1.5	1.5	1.5	1.5	28.8	7.6

(単位:%)	n=	難病(パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	なし	わからない	不明・無回答
		要介護度別									
要支援1	223	0.0	4.9	3.6	12.6	1.8	11.2	8.1	2.2	0.9	39.9
要支援2	221	2.7	4.1	3.6	18.6	4.1	16.7	7.2	2.3	0.5	26.7
要介護1	223	1.8	5.8	6.3	13.9	2.2	22.4	6.7	1.3	1.8	11.7
要介護2	196	1.0	6.6	3.1	18.9	2.6	18.4	7.7	0.0	0.0	12.8
要介護3	167	3.0	7.2	5.4	22.8	2.4	23.4	9.0	0.0	1.8	9.6
要介護4	131	0.8	9.9	5.3	19.8	4.6	21.4	6.1	0.8	1.5	6.1
要介護5	66	6.1	3.0	3.0	16.7	6.1	15.2	7.6	0.0	0.0	7.6

②現在抱えている病気

現在抱えている病気について、「認知症」が19.4%と最も高く、次いで「糖尿病」が14.7%、「心疾患（心臓病）」が10.7%となっています。

要介護度別で見ると、要支援1では「糖尿病」が、要支援2では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症・脊柱管狭窄症など）」が、要介護1～5では「認知症」が、それぞれ最も高くなっています。



■要介護度別

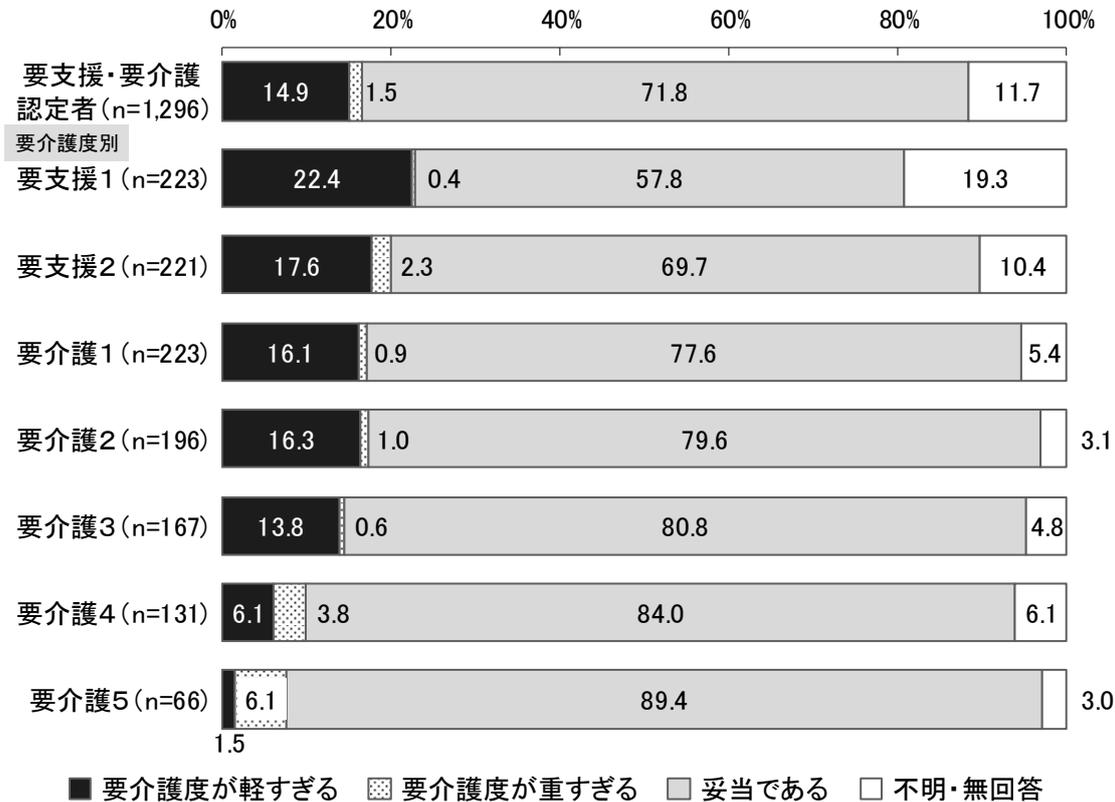
(単位:%)	n=	脳血管疾患(脳卒中)	心疾患(心臓病)	悪性新生物(がん)	呼吸器疾患	腎疾患(透析)	筋骨格系疾患(骨粗しょう症・脊柱管狭窄症など)	膠原病(関節リウマチ含む)	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病
		要介護度別									
要支援1	223	4.9	11.7	3.6	4.0	1.8	8.1	1.3	6.7	5.8	3.6
要支援2	221	4.1	10.0	3.6	5.9	2.3	14.0	2.3	10.0	3.2	3.6
要介護1	223	6.7	13.5	4.5	4.9	1.3	9.4	2.2	7.6	28.7	3.1
要介護2	196	10.7	9.2	3.1	5.1	4.6	13.3	1.5	5.1	27.0	5.1
要介護3	167	7.8	10.2	2.4	3.6	3.6	7.8	2.4	3.6	30.5	2.4
要介護4	131	16.0	11.5	3.8	4.6	3.8	6.1	2.3	4.6	31.3	3.8
要介護5	66	16.7	10.6	7.6	6.1	1.5	6.1	1.5	7.6	33.3	9.1

(単位:%)	n=	難病(パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)	その他	なし	わからない	不明・無回答
		要介護度別						
要支援1	223	0.0	14.3	8.1	7.6	2.2	0.4	44.8
要支援2	221	1.4	13.1	10.4	10.0	2.3	0.9	40.3
要介護1	223	2.7	16.1	9.9	9.9	3.1	0.9	29.6
要介護2	196	1.5	18.9	10.7	5.1	1.0	0.0	33.2
要介護3	167	1.8	15.6	12.0	8.4	1.8	1.2	34.7
要介護4	131	1.5	17.6	5.3	9.2	0.8	1.5	28.2
要介護5	66	4.5	7.6	9.1	6.1	0.0	0.0	27.3

問8 要介護認定結果に対する不満はありますか。(単数回答)

要介護認定への不満について、「妥当である」が71.8%、「要介護度が軽すぎる」が14.9%、「要介護度が重すぎる」が1.5%となっています。

要介護度別でみると、要介護度が高くなるにしたがい「要介護度が軽すぎる」は低くなっています。なお、要介護4以上で「要介護度が重すぎる」が他の要介護度と比べて高くなっています。

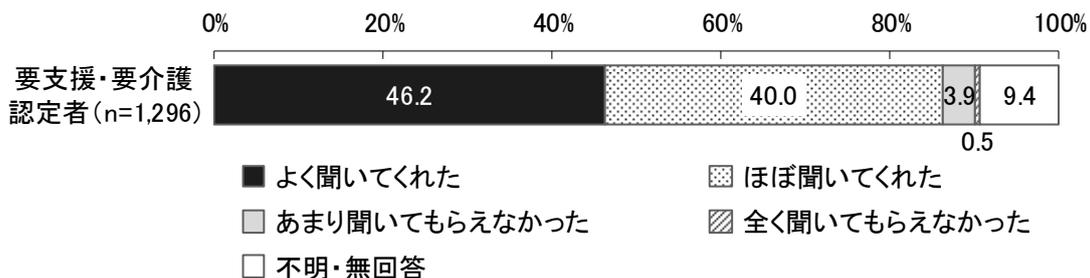


問9 要介護認定の訪問調査員は、あなたの心身の状況について、よく話を聞いてくれましたか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

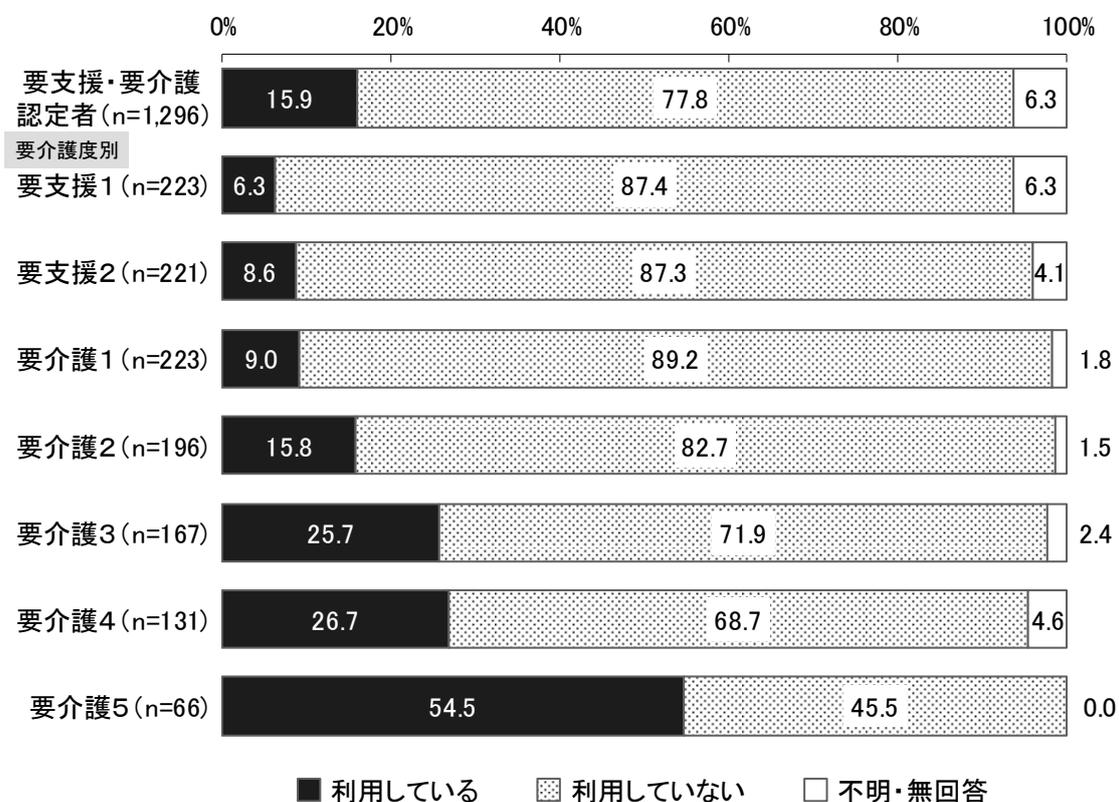
- 『聞いてくれた』 … 「よく聞いてくれた」と「ほぼ聞いてくれた」を合算
- 『聞いてもらえなかった』 … 「あまり聞いてもらえなかった」と「全く聞いてもらえなかった」を合算

訪問調査員は話を聞いてくれたかについて、『聞いてくれた』が86.2%、『聞いてもらえなかった』が4.4%となっています。



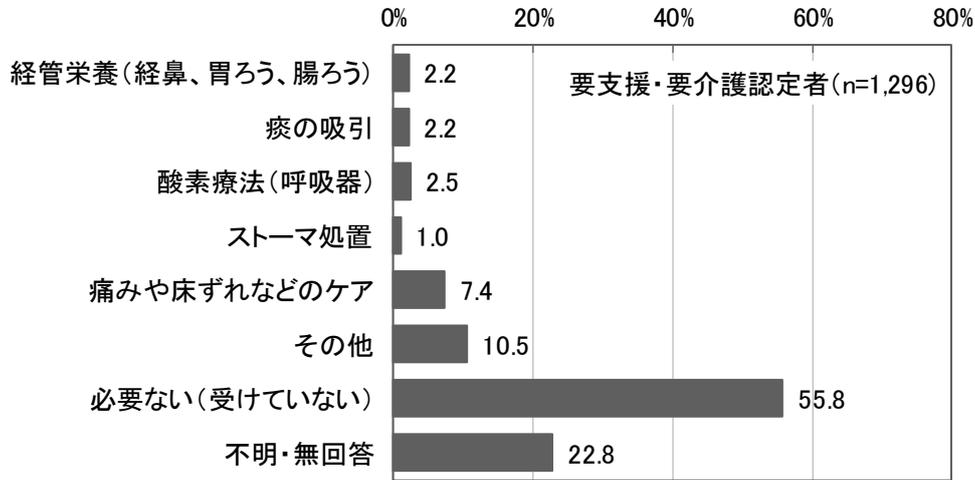
問10 訪問診療（医師の訪問）を利用していますか。（単数回答）

訪問診療の利用について、「利用していない」が77.8%、「利用している」が15.9%となっています。
 要介護度別にみると、要介護度が高くなるにしたがい「利用している」が高くなっており、要介護度5では54.5%となっています。



問11 現在、受けている医療的ケアはありますか。(複数回答)

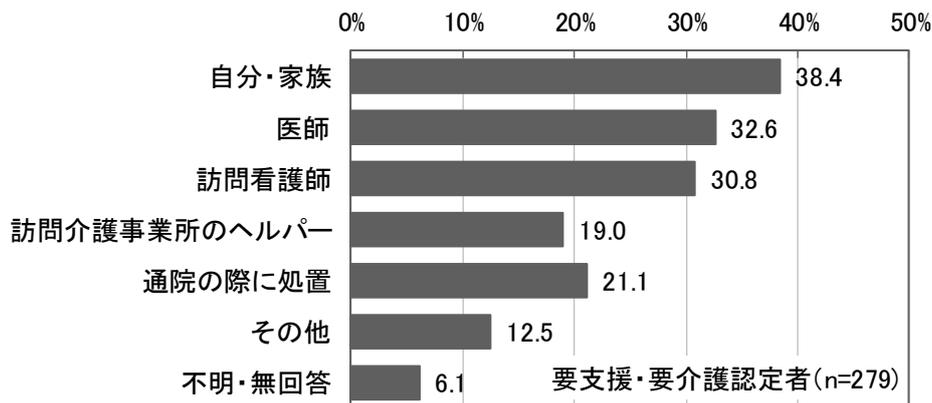
現在、受けている医療的ケアについて、最も高い「必要ない(受けていない)」(55.8%)を除くと、「その他」が10.5%、「痛みや床ずれなどのケア」が7.4%と高くなっています。



<医療的ケアを受けている方のみ>

問12 医療的ケアを実施しているのはどなたですか。(複数回答)

医療的ケアを実施している方について、「自分・家族」が38.4%と最も高く、次いで「医師」が32.6%、「訪問看護師」が30.8%となっています。

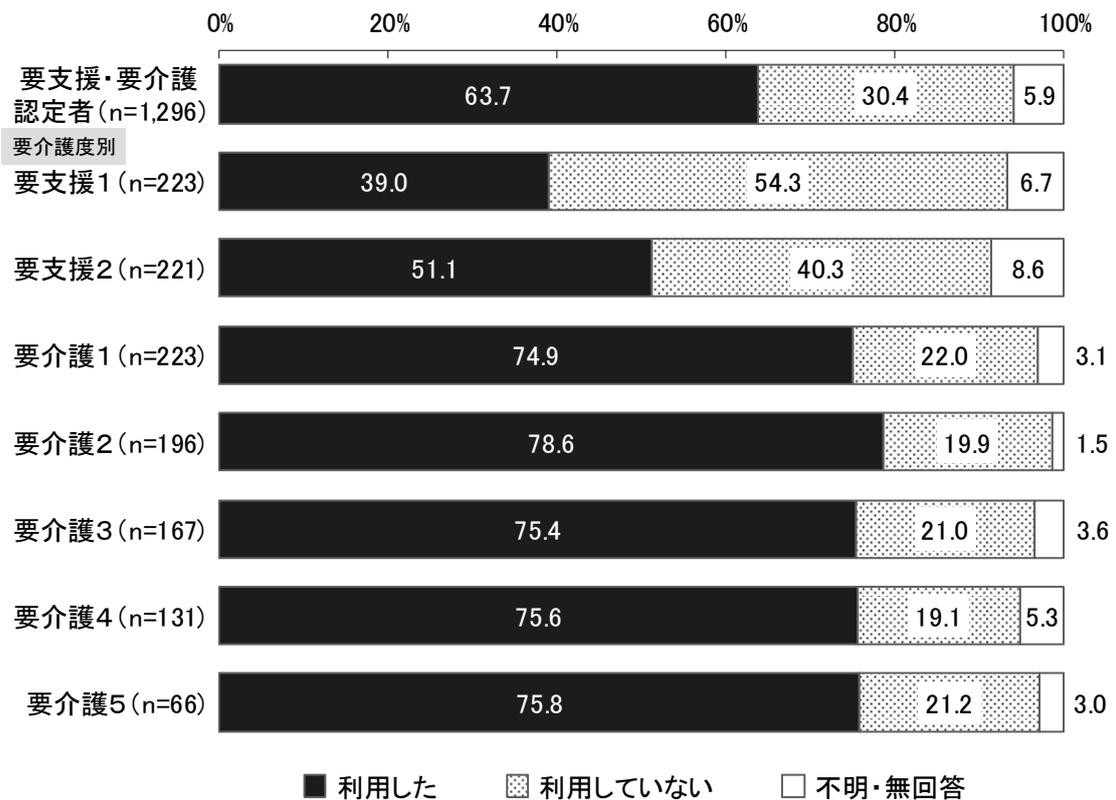


3 介護保険サービスについて

問13 あなたは、令和4年11月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)の介護保険サービスを利用しましたか。(単数回答)

介護保険サービスの利用の有無について、「利用した」が63.7%、「利用していない」が30.4%となっています。

要介護度別でみると、要支援1では「利用していない」が「利用した」を上回っているものの、要支援2以上では「利用した」が高くなっており、要介護1以上ではそれぞれ7割を超えています。



<介護保険サービスを利用したと回答した方のみ>

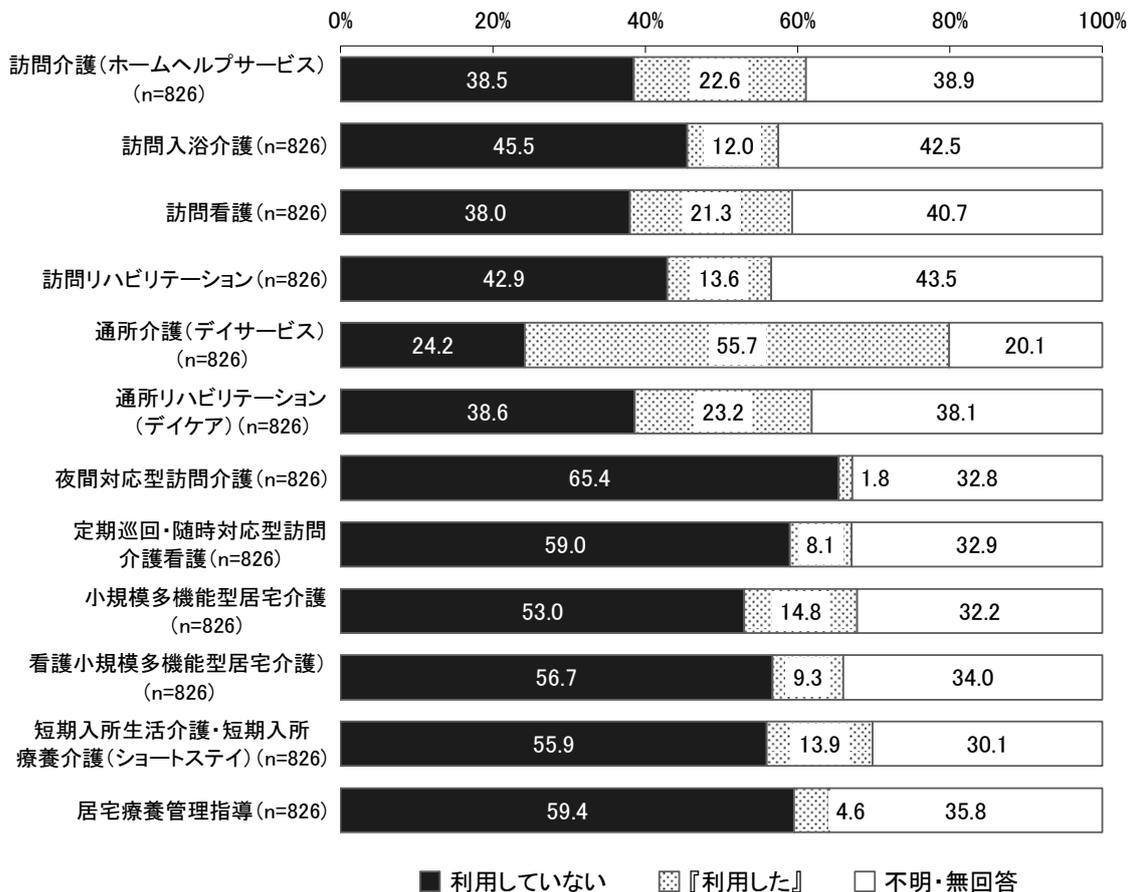
問 14 以下の介護保険サービスについて、令和4年11月の1か月間の利用状況と今後の利用意向をお答えください。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる『利用した』の表現は以下のように区分しています。

- 訪問介護（ホームヘルプサービス）、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）、夜間対応型訪問介護については、選択肢の「週1回程度以下」と「週2回程度」と「週3回程度」と「週4回程度」と「週5回以上」を合算。
- 短期入所生活介護・短期入所療養介護（ショートステイ）については、選択肢の「月1～7日程度」と「月8～14日程度」と「月15～21日程度」と「月22日以上」を合算。
- 居宅療養管理指導については、「月1回程度」と「月2回程度」と「月3回程度」と「月4回程度」を合算。

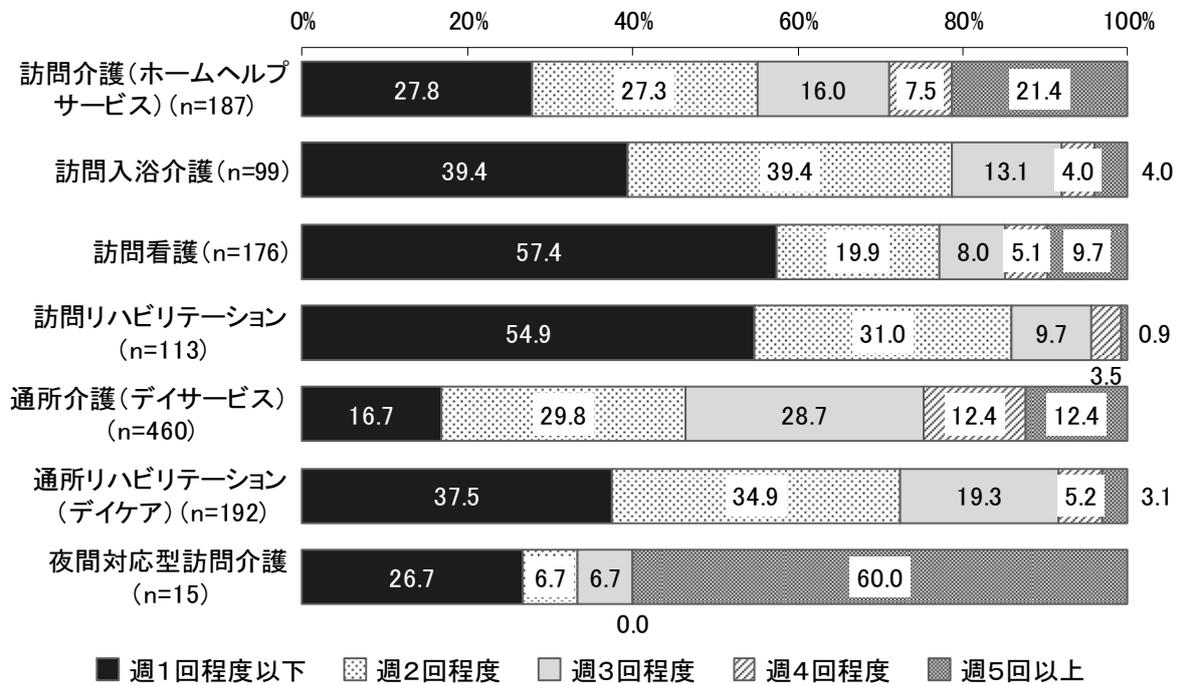
■利用状況

各サービスの利用状況について、通所介護（デイサービス）で『利用した』が55.7%と、他のサービスと比べて高くなっています。



■利用頻度 ※サービスを『利用した』人で利用頻度を回答した方のみ集計

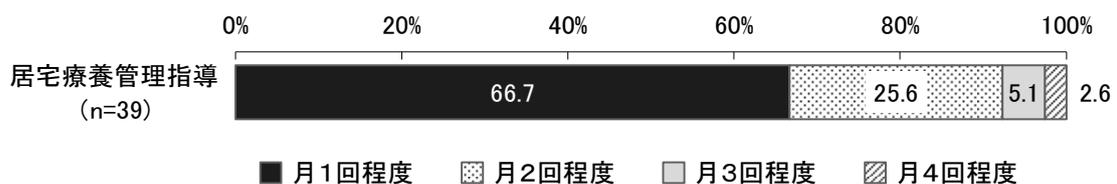
各サービスを『利用した』人の利用頻度については、「訪問看護」「訪問リハビリテーション」で「週1回程度以下」がそれぞれ5割を超えています。



短期入所生活介護・短期入所療養介護(ショートステイ)を『利用した』人の利用頻度については、「月1～7日程」が60.0%と高くなっています。

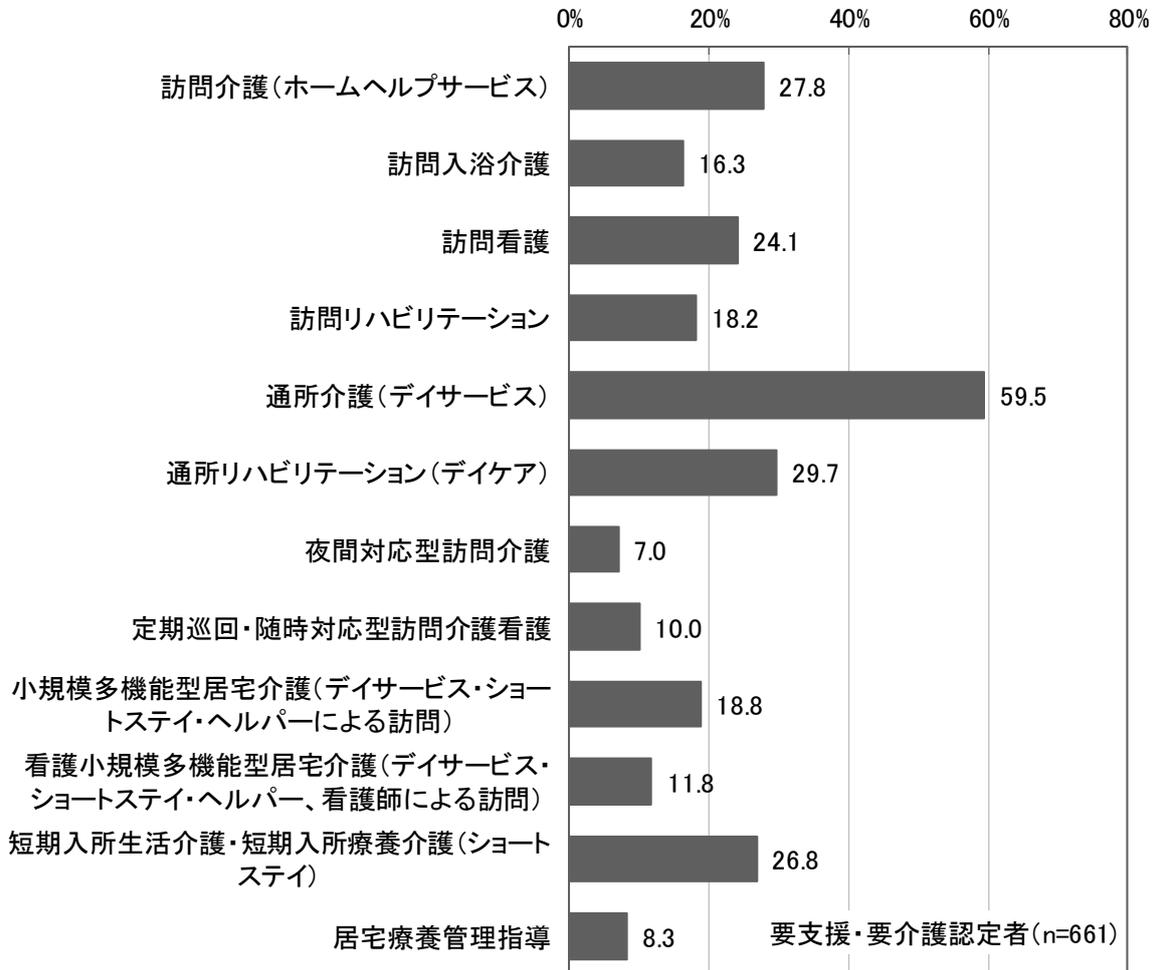


居宅療養管理指導を『利用した』人の利用頻度については、「月1回程度」が66.7%と高くなっています。



■利用意向 ※サービスを『利用した』人で利用意向を回答した方のみ集計

今後の利用意向について、「通所介護（デイサービス）」が59.5%と最も高く、次いで「通所リハビリテーション（デイケア）」が29.7%、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が27.8%となっています。



■ ■ 経年変化

経年でみると、令和元年と比べて「夜間対応型訪問介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「短期入所生活介護・短期入所療養介護（ショートステイ）」は低くなっているものの、その他のサービスは高くなっています。特に、「通所介護（デイサービス）」は10.9ポイント高くなっています。

(単位:%)	n=	訪問介護(ホームヘルプサービス)	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護(デイサービス)	通所リハビリテーション(デイケア)	夜間対応型訪問介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	小規模多機能型居宅介護(デイサービス・ショートステイ・ヘルパーによる訪問)	看護小規模多機能型居宅介護(デイサービス・ショートステイ・ヘルパー、看護師による訪問)	短期入所生活介護・短期入所療養介護(ショートステイ)	居宅療養管理指導
		調査年度											
平成28年	647	20.4	11.1	14.5	12.4	48.8	21.8	1.1	1.4	12.8	1.1	30.1	8.3
令和元年	638	25.4	13.3	19.3	16.8	48.6	26.3	7.5	10.8	12.7	5.5	27.7	7.4
令和4年	661	27.8	16.3	24.1	18.2	59.5	29.7	7.0	10.0	18.8	11.8	26.8	8.3

※不明・無回答者を除く

<介護保険サービスを利用したと回答した方のみ>

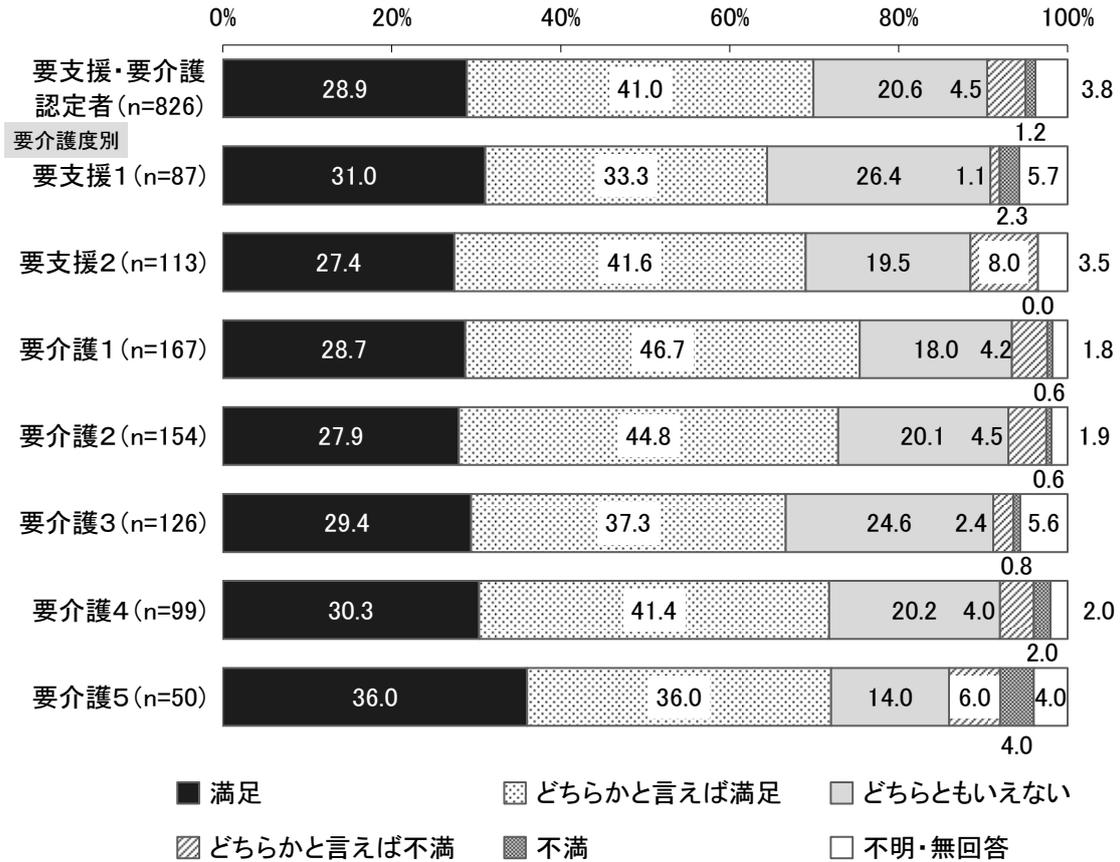
問 15 あなたは、介護保険サービスに満足していますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

- 『満足』 … 「満足」と「どちらかと言えば満足」を合算
- 『不満』 … 「どちらかと言えば不満」と「不満」を合算

介護保険サービスに満足しているかについて、『満足』が69.9%、「どちらともいえない」が20.6%、『不満』が合わせて5.7%となっています。

要介護度別でみると、要介護1・2・4・5で『満足』がそれぞれ7割以上となっています。

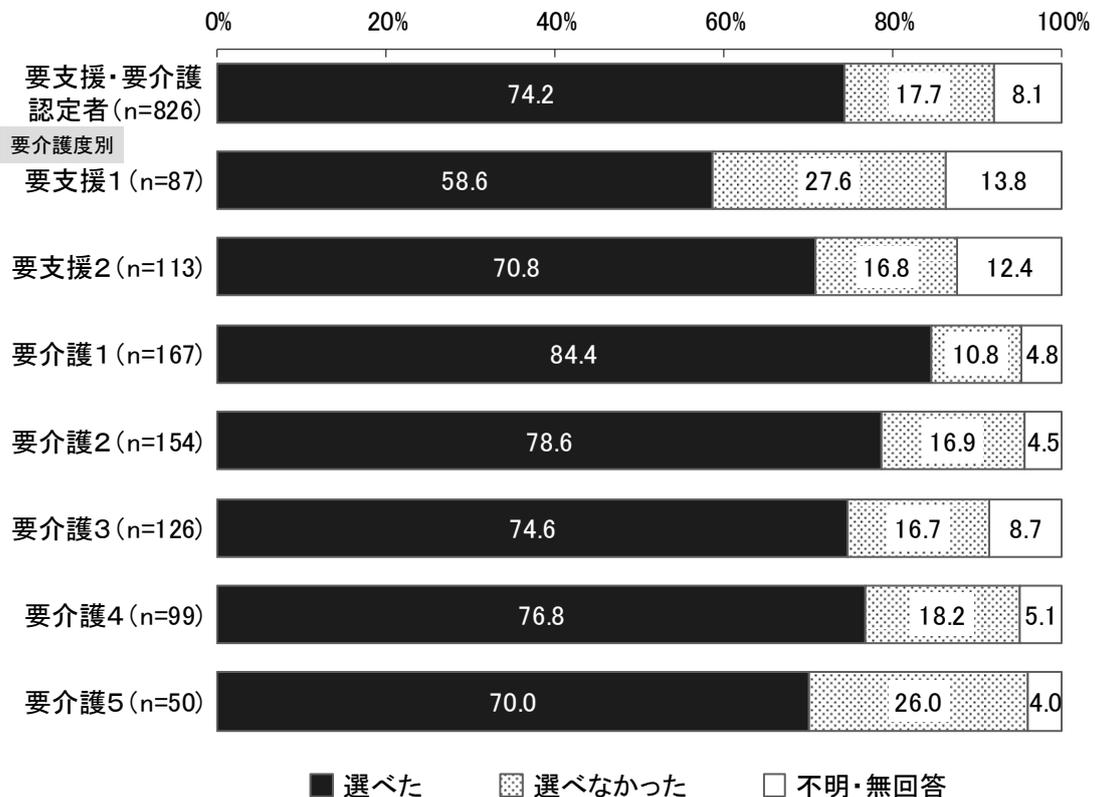


<介護保険サービスを利用したと回答した方のみ>

問 16 自分が必要と思うサービスを必要なだけ選べましたか。(単数回答)

必要なサービスを必要なだけ選べたかについて、「選べた」が74.2%、「選べなかった」が17.7%となっています。

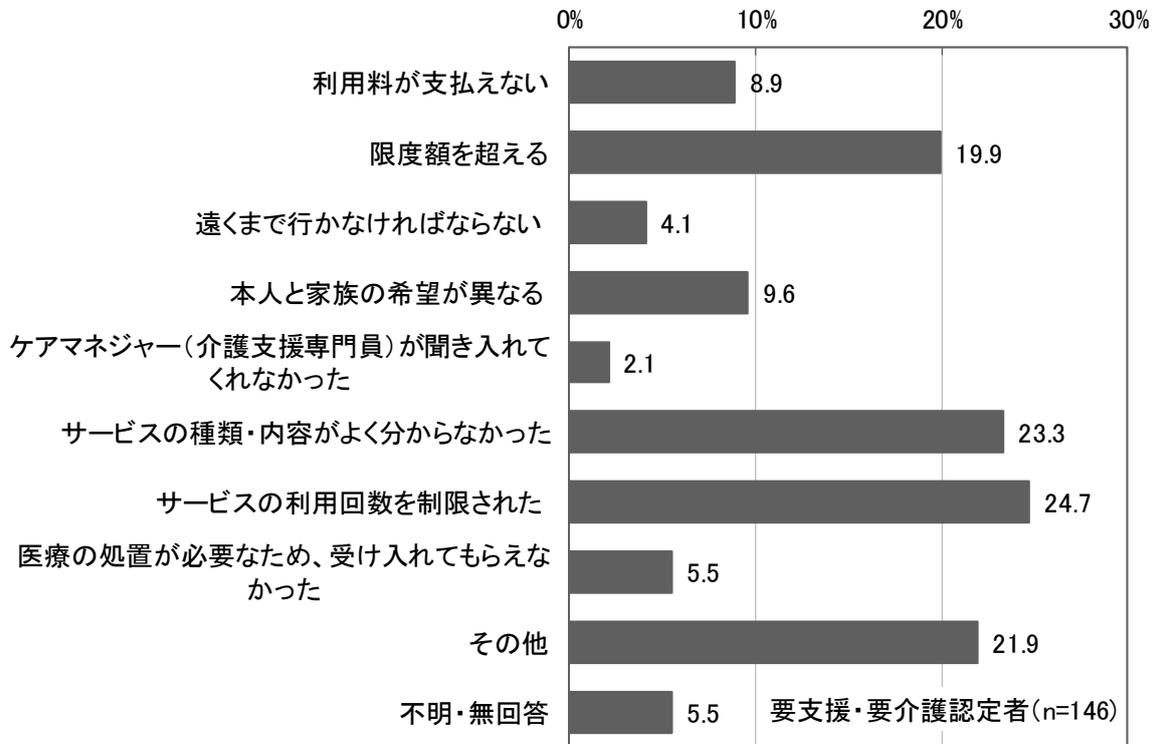
要介護度別でみると、「選べた」は要支援2以上で7割以上となっています。



<介護保険サービスを利用しており、必要なサービスを選べなかったと回答した方のみ>

問 17 選べなかった理由は何ですか。(複数回答)

選べなかった理由について、「サービスの利用回数を制限された」が 24.7%と最も高く、次いで「サービスの種類・内容がよく分からなかった」が 23.3%、「その他」が 21.9%となっています。

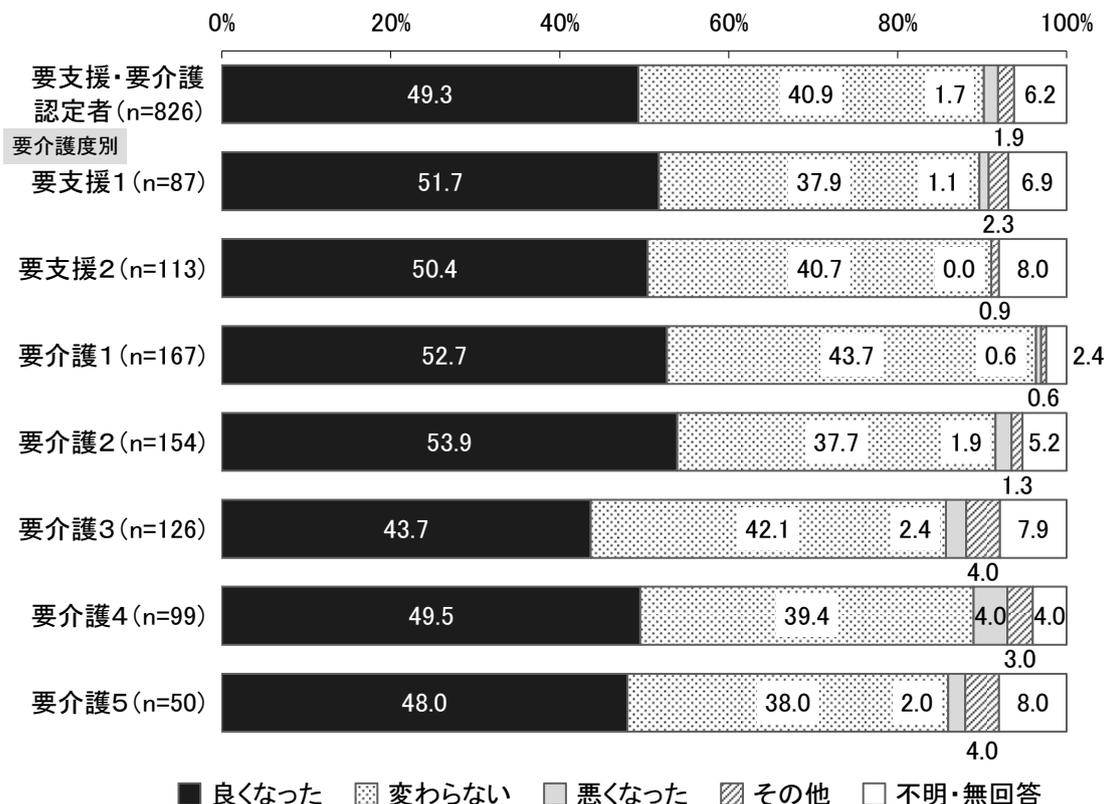


<介護保険サービスを利用したと回答した方のみ>

問 18 サービスを利用して、あなたの身体および精神に変化がありましたか。(単数回答)

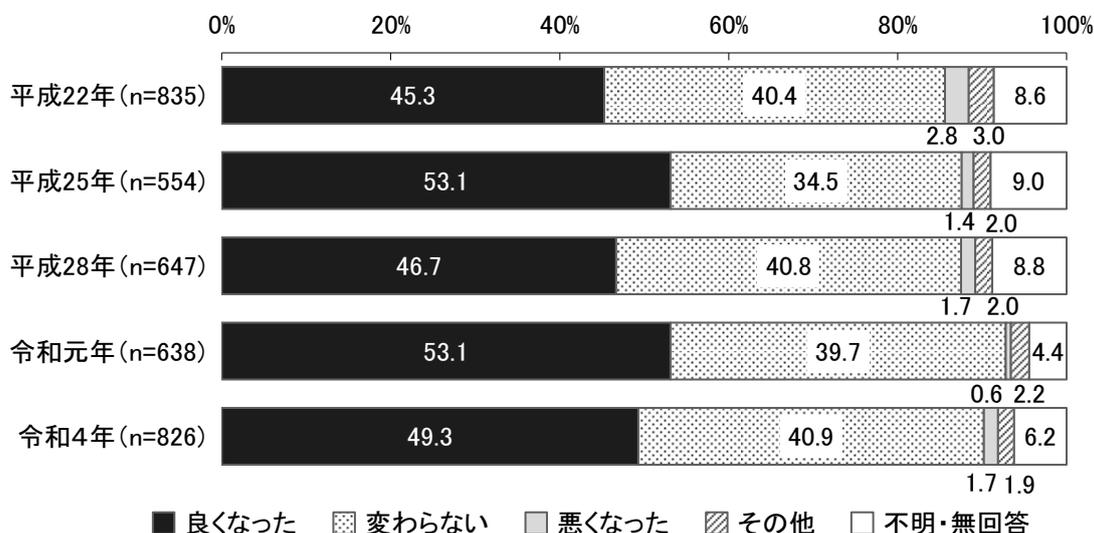
サービス利用による身体的・精神的変化について、「良くなった」が49.3%と最も高く、次いで「変わらない」が40.9%、「その他」が1.9%となっています。

要介護度別でみると、要介護3を除いた要介護度で「良くなった」が5割前後となっています。



■ ■ 経年変化

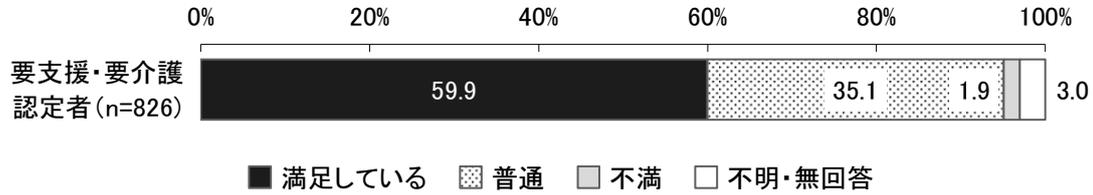
経年でみると、平成22年以降、「良くなった」は5割前後で推移しています。



<介護保険サービスを利用したと回答した方のみ>

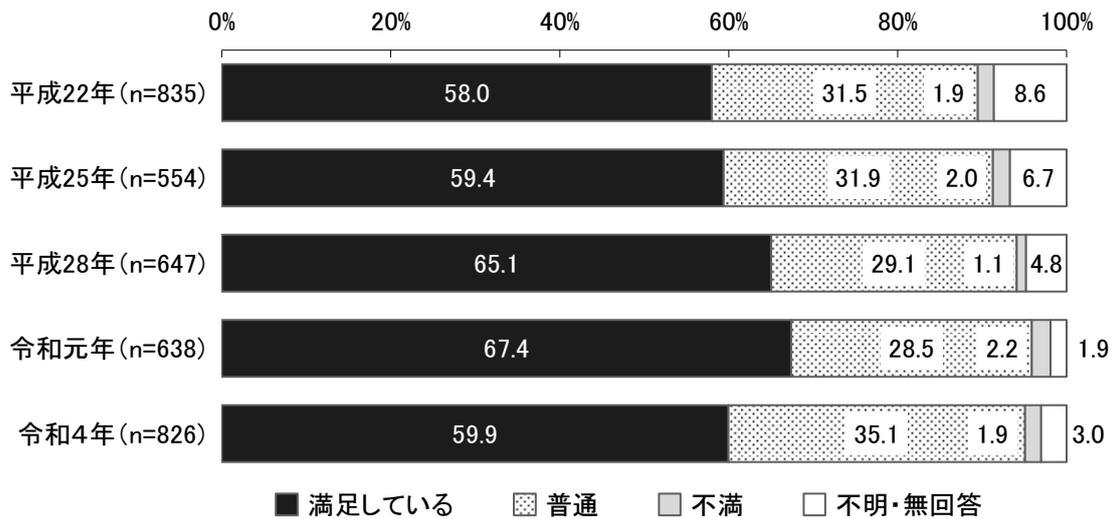
問19 現在のケアマネジャー(介護支援専門員)の対応に満足していますか。(単数回答)

ケアマネジャーの対応への満足度について、「満足している」が59.9%、「普通」が35.1%、「不満」が1.9%となっています。



■ ■ 経年変化

経年でみると、平成22年以降「満足している」が高くなっていったものの、令和4年には7.5ポイント低くなっています。

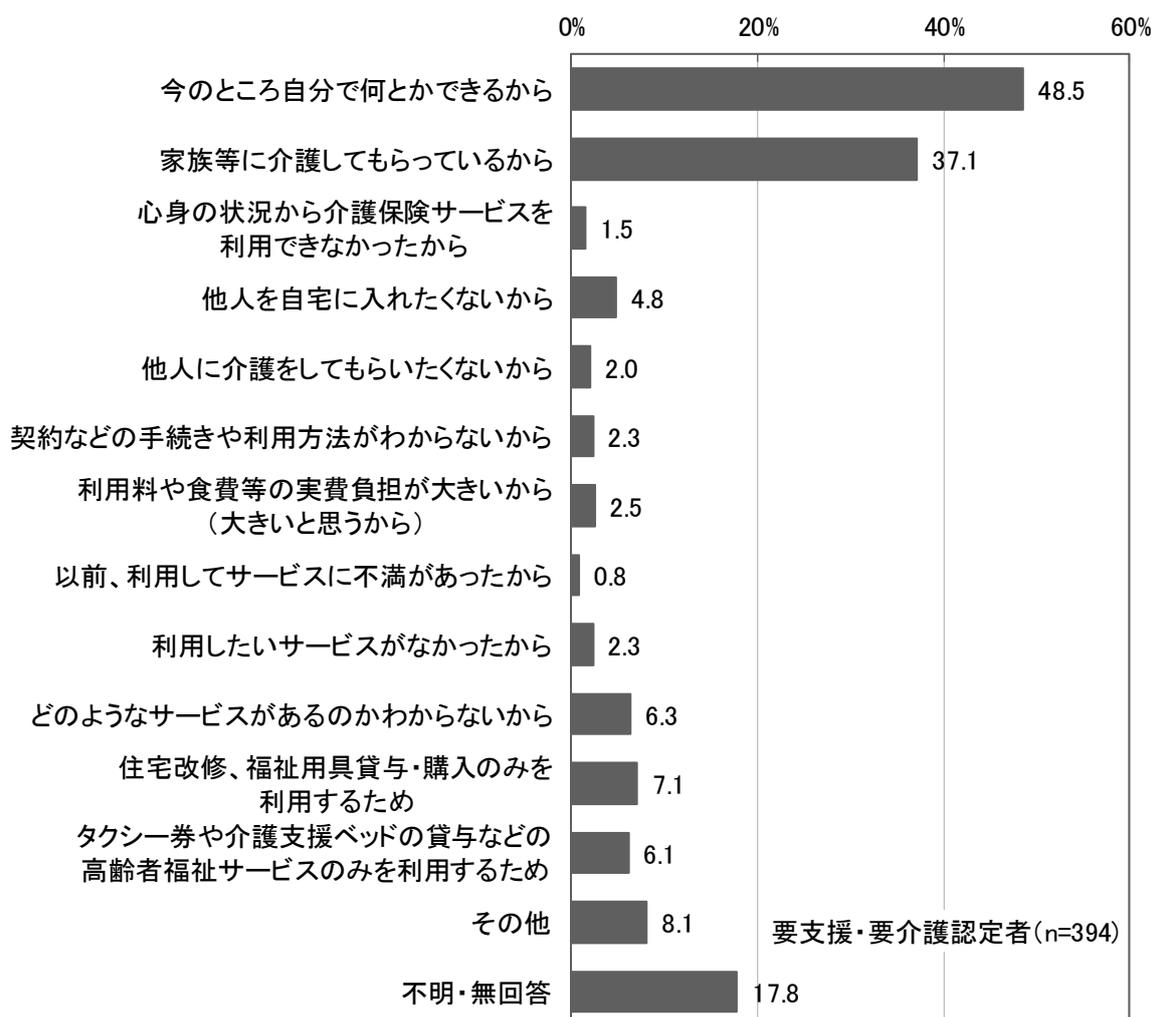


<介護保険サービスを利用していないと回答した方のみ>

問 20 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数回答)

介護保険サービスを利用していない理由について、「今のところ自分で何とかできるから」が 48.5%と最も高く、次いで「家族等に介護してもらっているから」が 37.1%となっています。

要介護度別でみると、要支援 1・2 では「今のところ自分で何とかできるから」が、要介護 1～3 では「家族等に介護してもらっているから」が、要介護 4・5 では「その他」が、それぞれ最も高くなっています。なお、いずれの要介護度においても「家族等に介護してもらっているから」が上位となっており、特に要介護 2 は 66.7%と他の要介護度と比べて高くなっています。



■要介護度別

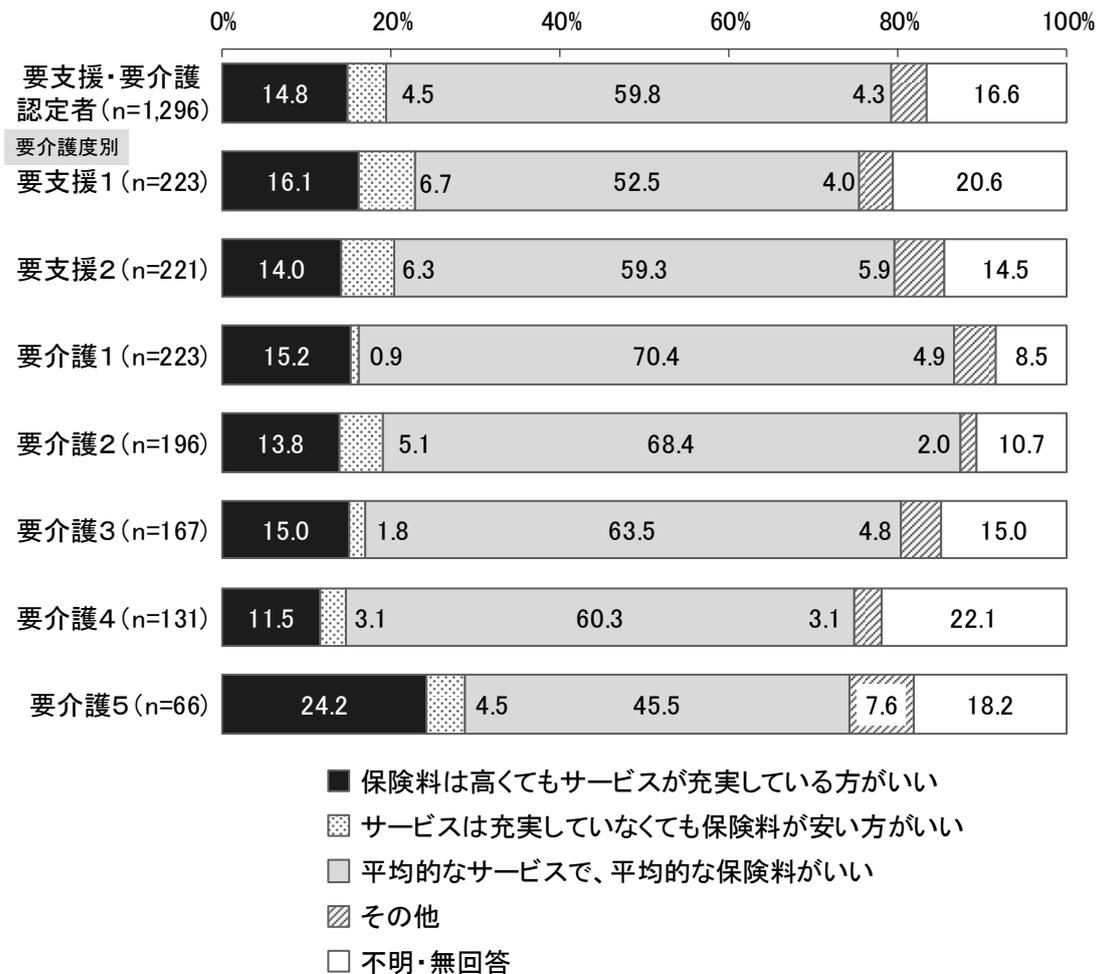
(単位:%)	n=	から	今	ら	心	他	い	契	利	が	利	わ
		今	今	今	心	他	い	契	利	が	利	わ
要介護度別												
要支援1	121	64.5	30.6	1.7	6.6	2.5	3.3	0.8	0.8	1.7	7.4	
要支援2	89	57.3	33.7	1.1	7.9	2.2	1.1	2.2	1.1	2.2	7.9	
要介護1	49	46.9	51.0	2.0	4.1	0.0	4.1	0.0	0.0	2.0	4.1	
要介護2	39	35.9	66.7	2.6	0.0	2.6	5.1	5.1	0.0	5.1	5.1	
要介護3	35	25.7	37.1	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	5.7	
要介護4	25	8.0	24.0	4.0	8.0	4.0	0.0	12.0	0.0	4.0	4.0	
要介護5	14	0.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(単位:%)	n=	す	タ	そ	不
		す	タ	そ	不
要介護度別					
要支援1	121	6.6	3.3	1.7	14.9
要支援2	89	4.5	10.1	3.4	14.6
要介護1	49	10.2	4.1	6.1	12.2
要介護2	39	12.8	7.7	0.0	20.5
要介護3	35	14.3	11.4	11.4	28.6
要介護4	25	0.0	0.0	40.0	32.0
要介護5	14	0.0	0.0	50.0	28.6

問21 介護保険サービスの水準と保険料についてどのように考えますか。(単数回答)

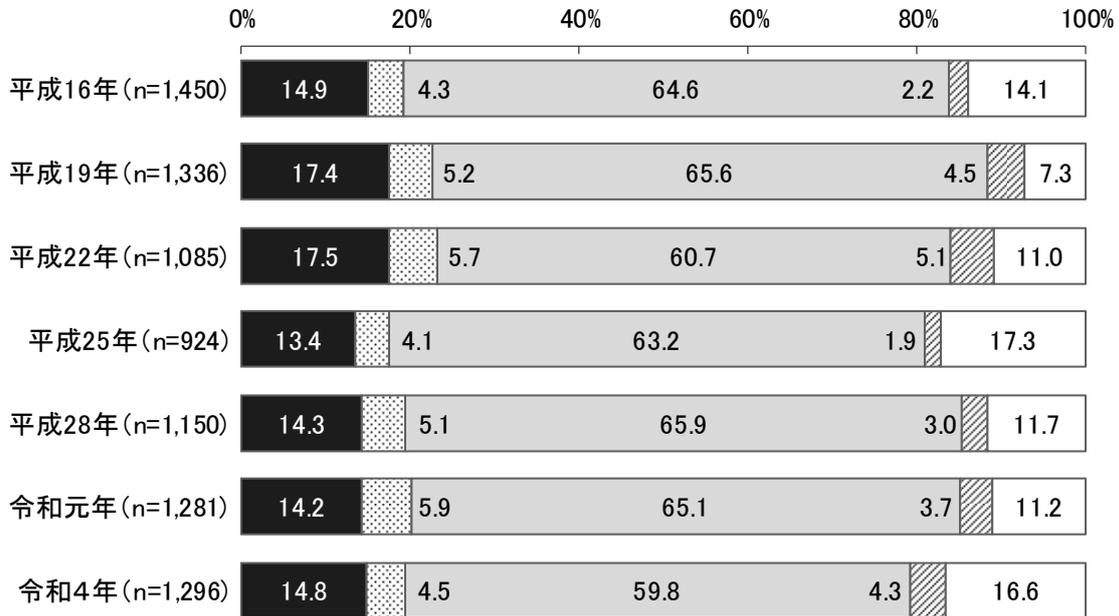
介護保険サービスの水準と保険料について、「平均的なサービスで、平均的な保険料がいい」が59.8%と最も高く、次いで「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が14.8%、「サービスは充実してなくても保険料が安い方がいい」が4.5%となっています。

要介護度別でみると、要介護5で「保険料は高くてもサービスが充実している方がいい」が24.2%と、他の要介護度と比べて高くなっています。



■ ■ 経年変化

経年でみると、平成16年以降、大きな変化はありません。



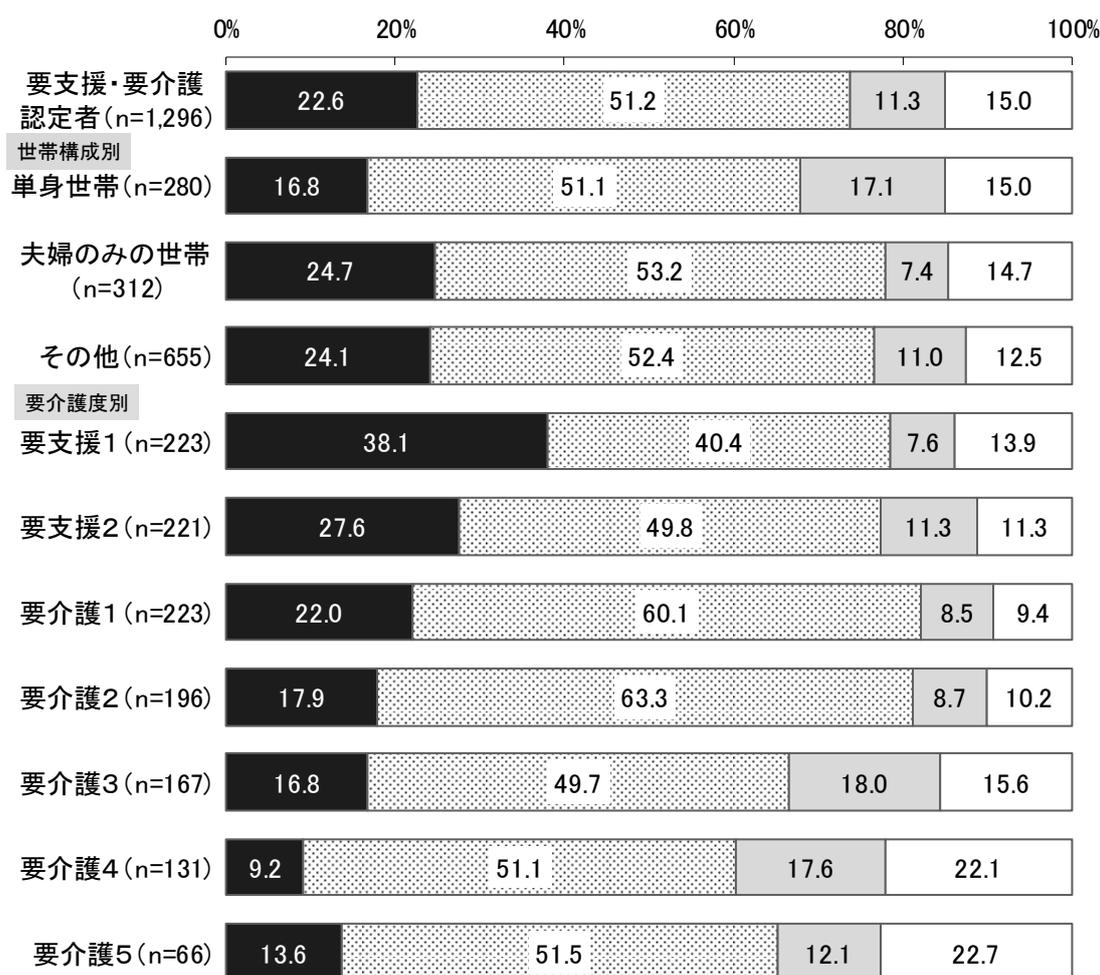
- 保険料は高くてもサービスが充実している方がいい
- ▨ サービスは充実してなくても保険料が安い方がいい
- 平均的なサービスで、平均的な保険料がいい
- ▨ その他
- 不明・無回答

問22 今後どこでどのように暮らしたいとお考えですか。(単数回答)

今後の暮らしについて、「自宅で訪問介護や通所介護などを利用しながら暮らしたい」が51.2%と最も高く、次いで「自宅で家族以外の世話にならないで暮らしたい」が22.6%となっています。

世帯構成別でみると、単身世帯では「何らかの入所施設に入りたい」が17.1%と、夫婦のみの世帯を9.7ポイント上回っています。

要介護度別でみると、いずれの要介護度でも「自宅で訪問介護や通所介護などを利用しながら暮らしたい」が最も高くなっています。次いで、要支援1・2、要介護1・2・5では「自宅で家族以外の世話にならないで暮らしたい」となっています。



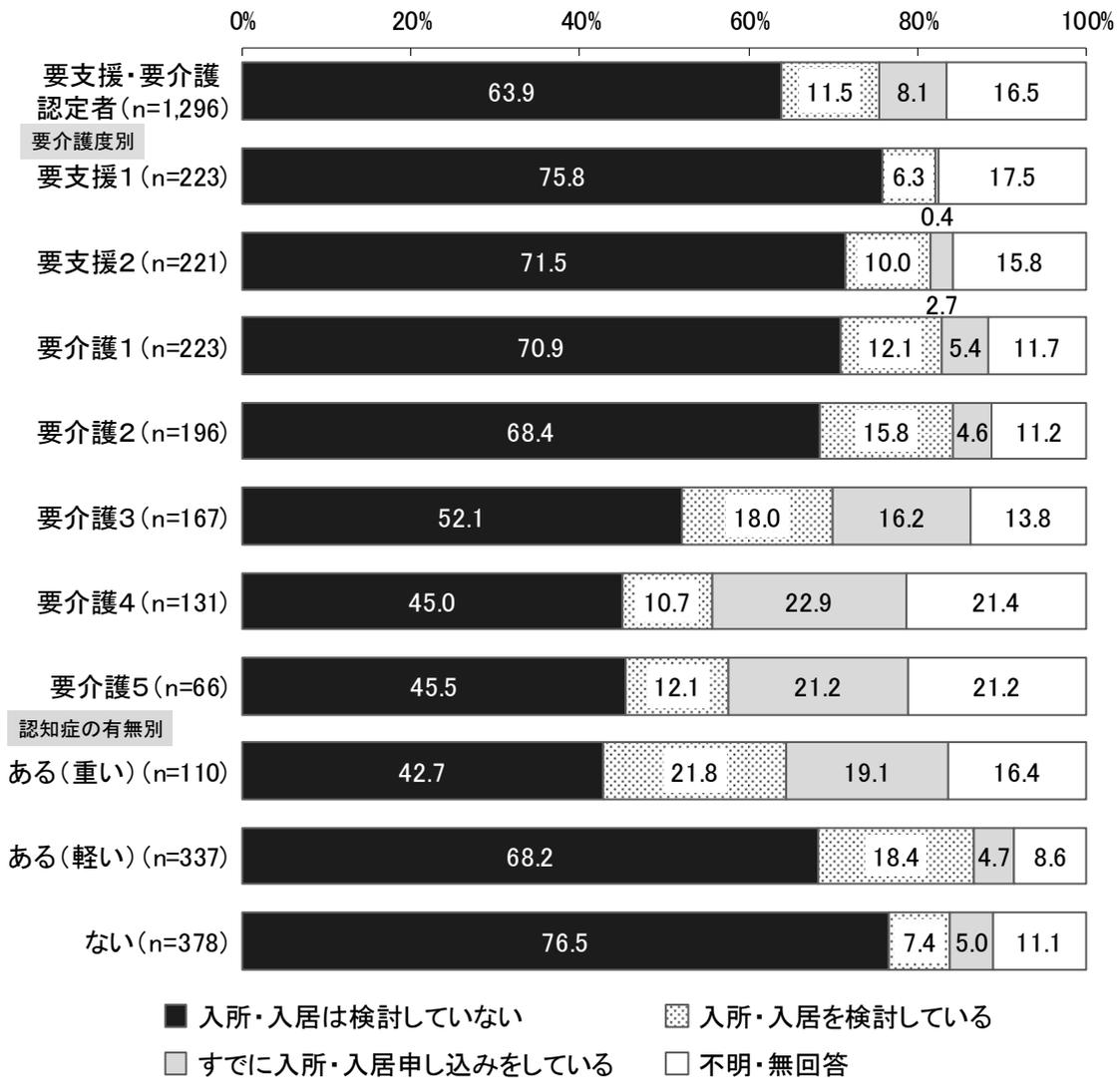
- 自宅で家族以外の世話にならないで暮らしたい
- ▨ 自宅で訪問介護や通所介護などを利用しながら暮らしたい
- 何らかの入所施設に入りたい
- 不明・無回答

問23 現時点での、施設など（特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホームなど）への入所・入居の検討状況についてお聞きます。（単数回答）

施設などへの入所・入居の検討状況について、「入所・入居は検討していない」が63.9%、「入所・入居を検討している」が11.5%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が8.1%となっています。

要介護度別でみると、要介護2・3で「入所・入居を検討している」がそれぞれ約2割となっています。また、要介護3以上で「すでに入所・入居申し込みをしている」がそれぞれ約2割となっています。

認知症の有無別でみると、認知症がある（重い）・ある（軽い）のいずれも「入所・入居を検討している」がそれぞれ2割前後であり、ある（重い）で「すでに入所・入居申し込みをしている」が19.1%と、認知症がない人に比べて高くなっています。



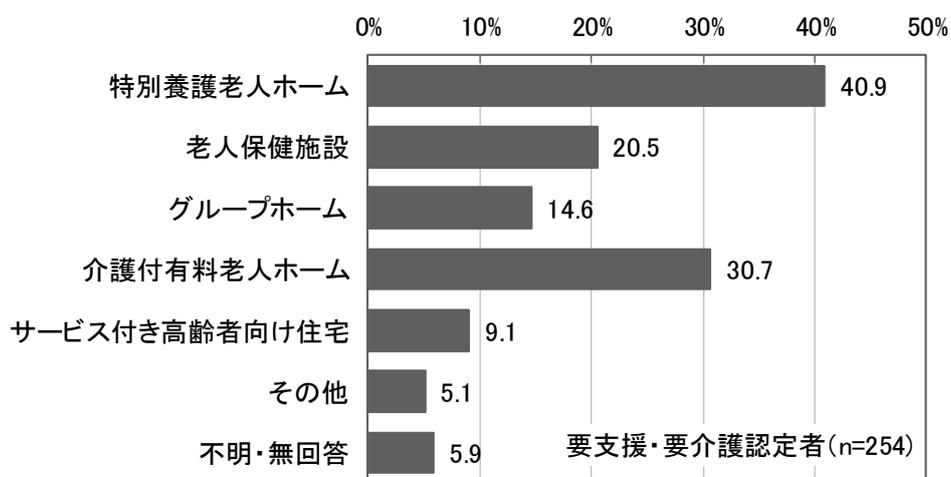
<入所・入居を検討しているまたはすでに入所・入居申し込みをしていると回答した方のみ>

問24 入所・入居希望施設は次のどれですか。(複数回答)

入所・入居希望施設について、「特別養護老人ホーム」が40.9%と最も高く、次いで「介護付有料老人ホーム」が30.7%、「老人保健施設」が20.5%となっています。

要介護度別で見ると、要支援1では「特別養護老人ホーム」「老人保健施設」が、要支援2では「老人保健施設」が、要介護1では「グループホーム」「介護付有料老人ホーム」が、要介護2では「介護付有料老人ホーム」が、要介護3以上で「特別養護老人ホーム」が、それぞれ最も高くなっています。

認知症の有無別で見ると、認知症がある(重い)・ある(軽い)のいずれも「特別養護老人ホーム」がそれぞれ最も高くなっています。



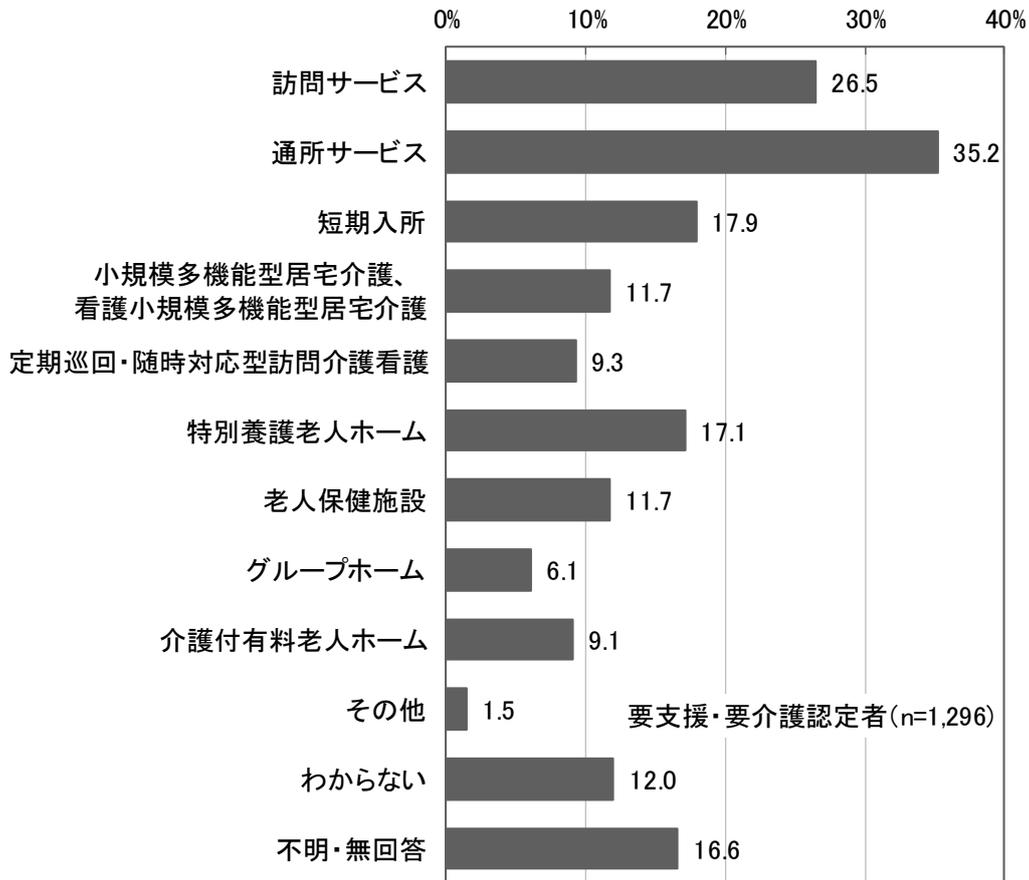
■要介護度別・認知症の有無別

(単位:%)	n=	特別養護老人ホーム	老人保健施設	グループホーム	介護付有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	その他	不明・無回答
要介護度別								
要支援1	15	26.7	26.7	0.0	20.0	13.3	13.3	6.7
要支援2	28	28.6	32.1	25.0	25.0	17.9	10.7	17.9
要介護1	39	15.4	25.6	30.8	30.8	12.8	2.6	7.7
要介護2	40	32.5	20.0	17.5	40.0	5.0	0.0	12.5
要介護3	57	56.1	19.3	15.8	15.8	12.3	7.0	1.8
要介護4	44	65.9	13.6	4.5	34.1	4.5	0.0	0.0
要介護5	22	50.0	13.6	0.0	45.5	0.0	9.1	0.0
認知症の有無別								
ある(重い)	45	57.8	15.6	17.8	24.4	4.4	2.2	2.2
ある(軽い)	78	47.4	24.4	25.6	23.1	9.0	3.8	9.0
ない	47	31.9	36.2	8.5	29.8	14.9	0.0	6.4

問 25 今後、どのようなサービスを充実していく必要があると考えられますか。(複数回答)

今後、充実していく必要があると考えるサービスについて、「通所サービス」が 35.2%と最も高く、次いで「訪問サービス」が 26.5%、「短期入所」が 17.9%となっています。

要介護度別でみると、要介護3以下で「通所サービス」が、要介護4で「特別養護老人ホーム」が、要介護5「訪問サービス」が、それぞれ最も高くなっています。



■要介護度別

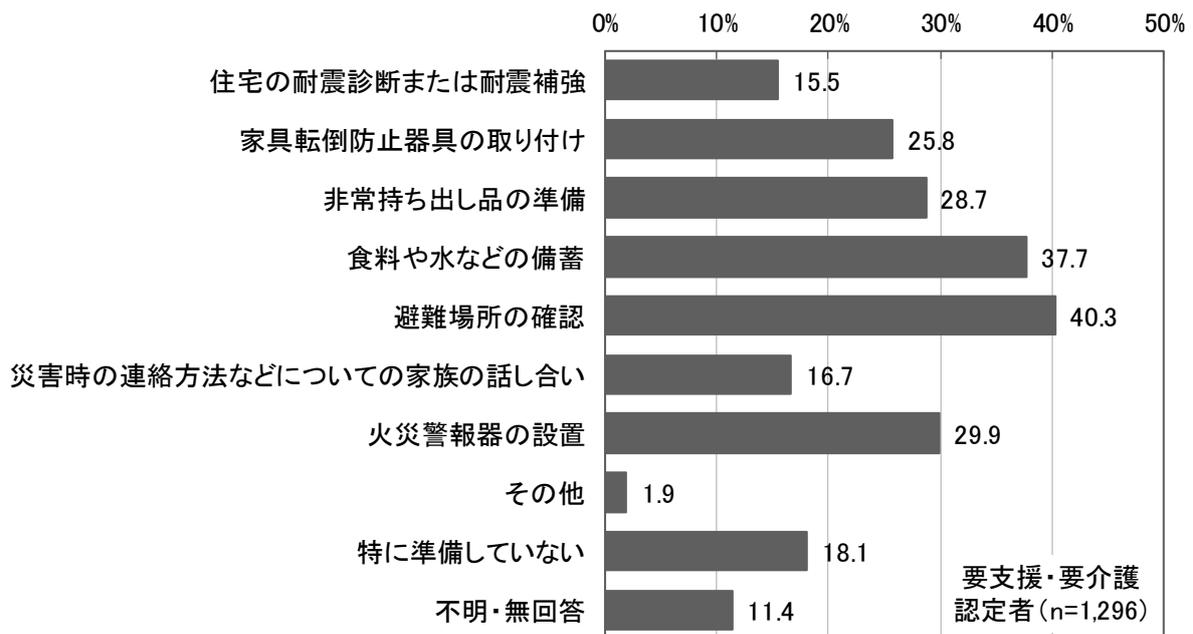
(単位: %)	n=	訪問サービス	通所サービス	短期入所	小規模多機能型居宅介護、 看護小規模多機能型居宅介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	特別養護老人ホーム	老人保健施設	グループホーム	介護付有料老人ホーム	その他	わからない	不明・無回答
		要介護度別											
要支援1	223	29.6	31.4	9.9	7.2	14.3	11.2	14.3	2.7	7.6	1.8	15.7	17.9
要支援2	221	22.6	33.5	10.9	11.3	10.9	14.0	11.8	4.1	10.0	0.9	18.1	15.4
要介護1	223	26.5	47.5	22.4	18.4	8.1	16.1	13.5	10.8	9.9	0.9	8.5	9.9
要介護2	196	28.6	46.9	28.6	13.8	5.6	12.8	12.2	8.2	8.2	1.5	9.7	12.2
要介護3	167	27.5	31.1	23.4	13.8	6.0	22.2	10.8	6.0	6.0	1.2	9.0	16.8
要介護4	131	19.1	26.0	20.6	6.9	8.4	35.1	9.2	6.1	13.0	3.1	9.2	19.8
要介護5	66	40.9	27.3	16.7	7.6	10.6	22.7	9.1	1.5	16.7	3.0	6.1	24.2

4 災害時の対策について

問26 あなたの家では、地震などに対してどのような備えをしていますか。(複数回答)

地震などに対する備えについて、「避難場所の確認」が40.3%と最も高く、次いで「食料や水などの備蓄」が37.7%、「火災警報器の設置」が29.9%となっています。

要介護度別でみると、要支援2では「食料や水などの備蓄」「避難場所の確認」が、その他の要介護度では「避難場所の確認」が、それぞれ最も高くなっています。



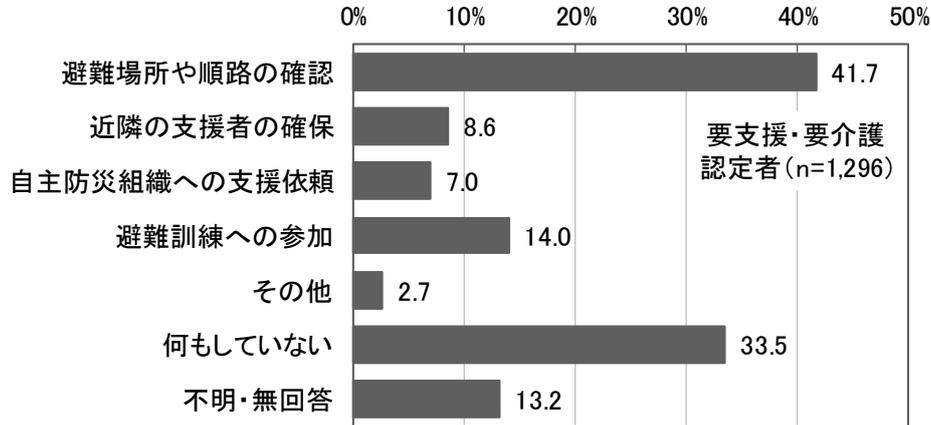
■要介護度別

(単位: %)	n=	震補強 住宅の耐震診断または耐 震補強	家具 転倒防止器具の取 り付け	非常 持ち出し品の準備	食料 や水などの備蓄	避難 場所の確認	災害 時の連絡方法など について の家族の話し 合い	火災 警報器の設置	その他	特に 準備して いない	不明・ 無回答
要介護度別											
要支援1	223	17.5	30.9	31.8	40.4	42.6	15.7	30.9	3.1	14.8	9.4
要支援2	221	15.4	29.4	24.9	36.2	36.2	14.0	28.1	2.3	22.2	9.0
要介護1	223	15.2	27.8	25.1	36.3	40.8	16.6	26.0	1.3	17.0	9.4
要介護2	196	17.3	25.5	34.7	41.8	45.9	20.4	34.2	1.5	19.4	5.6
要介護3	167	12.0	20.4	32.3	40.7	41.9	19.2	31.7	0.6	20.4	8.4
要介護4	131	15.3	22.1	27.5	37.4	42.0	16.0	30.5	2.3	16.0	18.3
要介護5	66	19.7	25.8	25.8	43.9	50.0	16.7	40.9	0.0	10.6	18.2

問27 災害時の避難においてどのような対策をとっていますか。(複数回答)

災害時の避難においての対策について、「避難場所や順路の確認」が41.7%と最も高く、次いで「何もしていない」が33.5%、「避難訓練への参加」が14.0%となっています。

要介護度別でみると、要介護4では「何もしていない」が、その他の要介護度では「避難場所や順路の確認」が、それぞれ最も高くなっています。



■要介護度別

(単位: %)	n=	避難場所や順路の確認	近隣の支援者の確保	依頼 自主防災組織への支援	避難訓練への参加	その他	何もしていない	不明・無回答
要介護度別								
要支援1	223	45.3	10.3	6.3	19.3	2.2	32.3	11.7
要支援2	221	40.3	7.2	6.3	12.2	5.9	32.6	12.7
要介護1	223	40.8	6.3	3.6	12.1	2.2	39.9	9.9
要介護2	196	51.5	12.8	8.2	18.4	1.0	30.6	6.6
要介護3	167	37.7	10.2	9.6	12.0	4.2	37.1	11.4
要介護4	131	30.5	8.4	10.7	10.7	1.5	32.8	20.6
要介護5	66	48.5	4.5	9.1	18.2	1.5	25.8	16.7

■ 経年変化

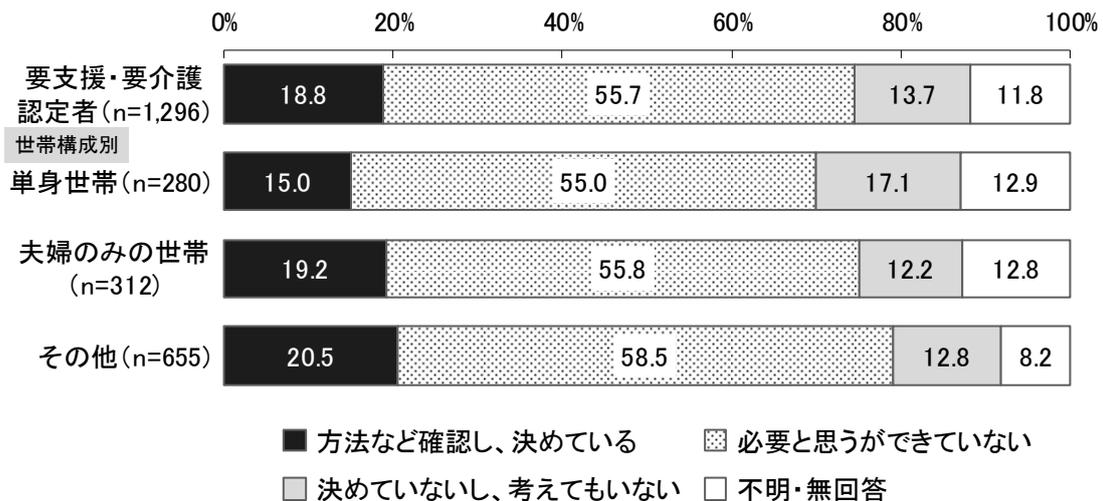
経年でみると、令和元年で高くなった「避難場所や順路の確認」「避難訓練への参加」について、令和4年では減少に転じています。

(単位:%)	n=	避難場所や順路の確認	近隣の支援者の確保	依頼 自主防災組織への支援	避難訓練への参加	その他	何もしていない	不明・無回答
調査年度								
平成28年	1,150	35.0	8.6	6.0	9.7	2.0	44.3	11.5
令和元年	1,281	46.8	9.8	8.3	20.0	1.5	33.6	8.7
令和4年	1,296	41.7	8.6	7.0	14.0	2.7	33.5	13.2

問 28 家族と避難方法や安否確認の方法についての話し合いや決めごとをしていますか。(単数回答)

家族で避難方法や安否確認の話し合いや決めごとをしているかについて、「必要と思うができていない」が55.7%、「方法など確認し、決めている」が18.8%、「決めていないし、考えてもいない」が13.7%となっています。

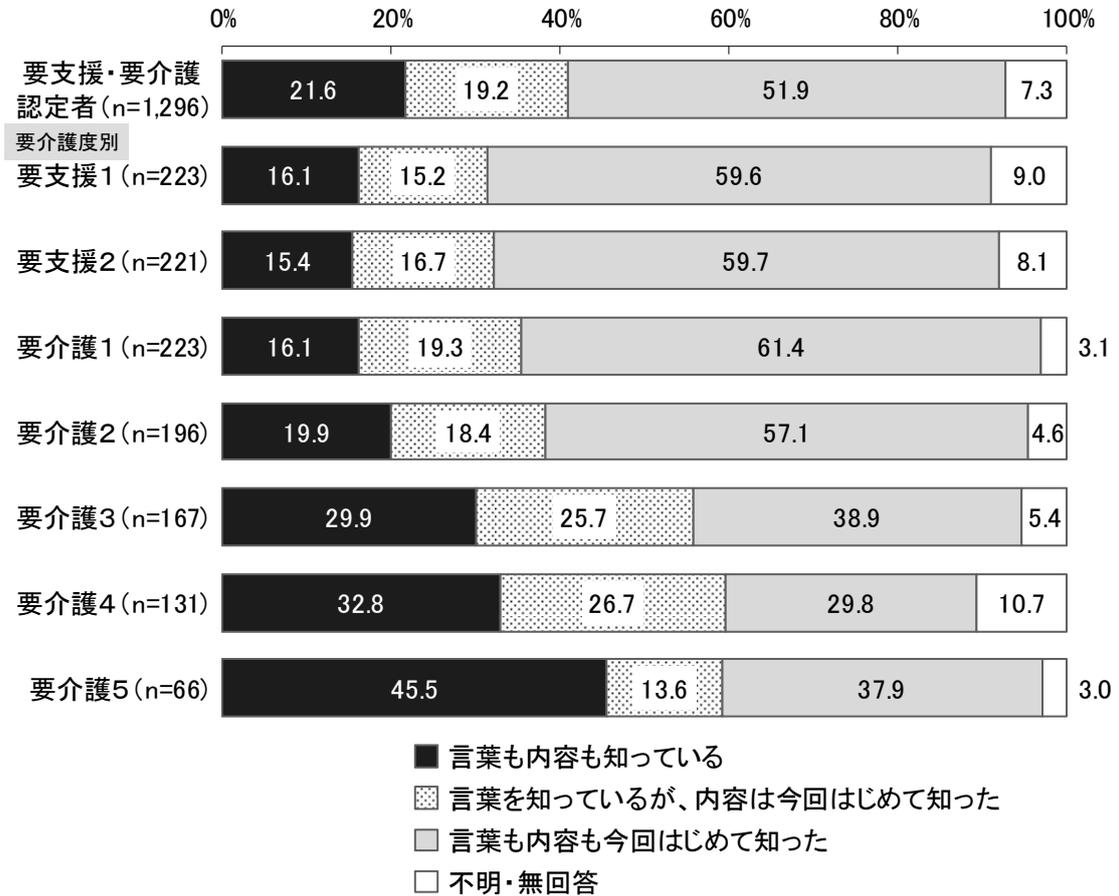
世帯構成別でみると、単身世帯では「決めていないし、考えてもいない」が17.1%と、他の世帯構成と比べて高くなっています。



問29 避難行動要支援者名簿をご存知ですか。(単数回答)

避難行動要支援者名簿の認知度について、「言葉も内容も今回はじめて知った」が51.9%、「言葉も内容も知っている」が21.6%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が19.2%となっています。

要介護度別でみると、要介護度が高くなるにつれ「言葉も内容も知っている」が高くなっています。

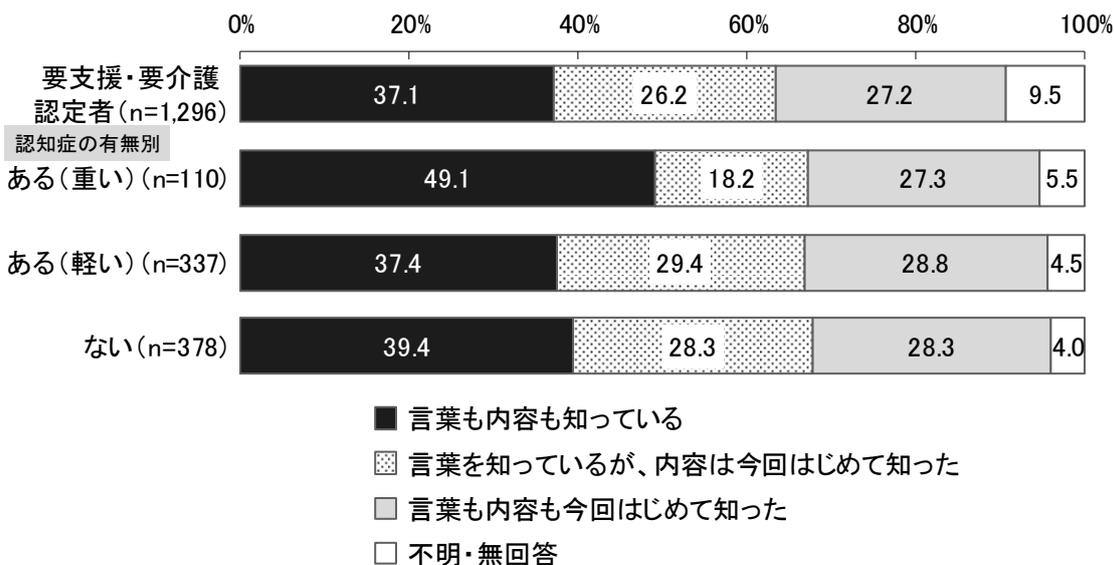


5 認知症の支援について

問 30 成年後見制度をご存じですか。(単数回答)

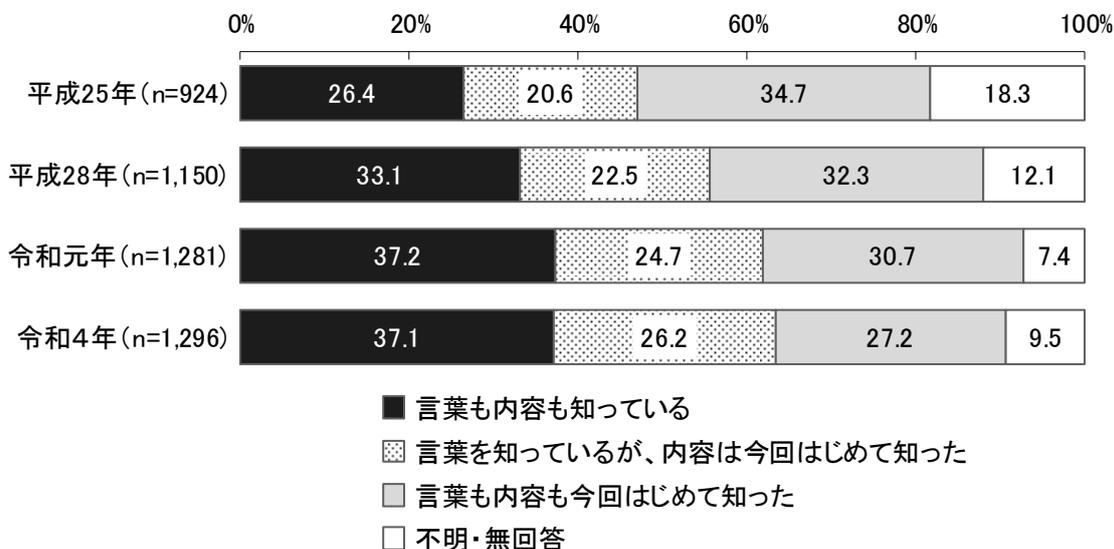
成年後見制度の認知度について、「言葉も内容も知っている」が37.1%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が27.2%、「言葉も内容も今回はじめて知った」が26.2%となっています。

認知症の有無別でみると、認知症がある（重い）では「言葉も内容も知っている」が49.1%と、他の区分と比べて高くなっています。



■ 経年変化

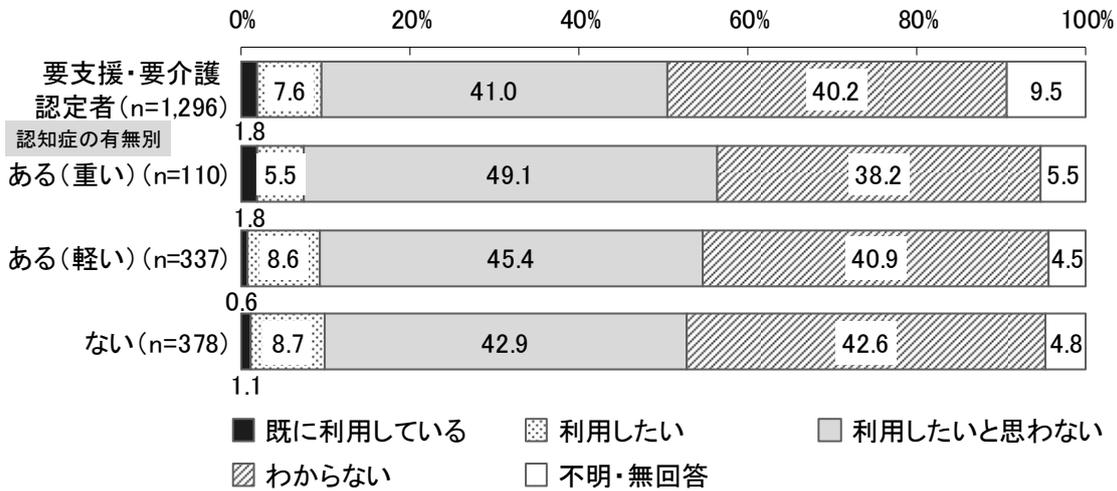
経年でみると、「言葉も内容も知っている」は平成25年以降高くなっていったものの、令和4年には横ばいとなっています。



問31 成年後見制度を今後利用したいと思えますか。(単数回答)

今後の成年後見制度の利用意向について、「利用したいと思わない」が41.0%と最も高く、次いで「わからない」が40.2%、「利用したい」が7.6%となっています。

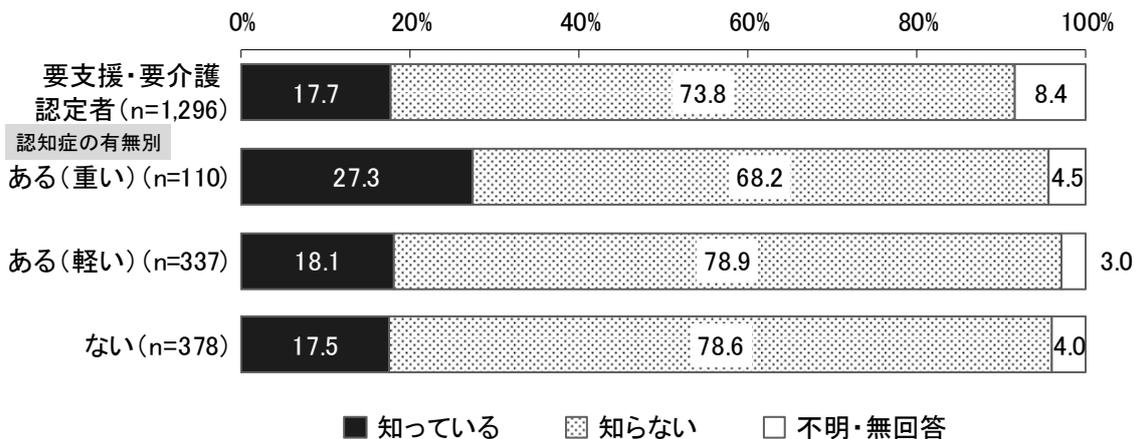
認知症の有無別でみると、認知症の有無にかかわらず大きな差はみられません。



問32 認知症サポーターをご存じですか。(単数回答)

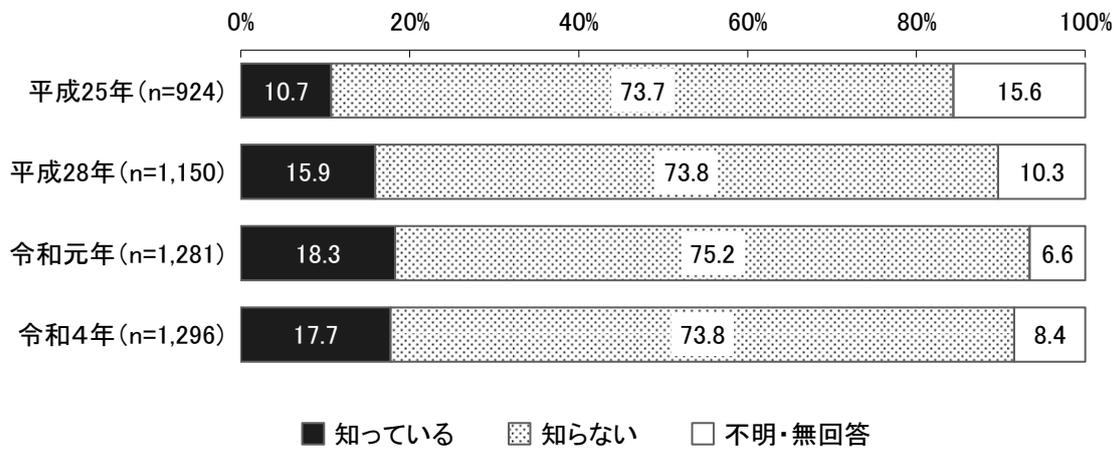
認知症サポーターの認知度について、「知らない」が73.8%、「知っている」が17.7%となっています。

認知症の有無別でみると、認知症がある(重い)では「知っている」が27.3%と、他の区分と比べて高くなっています。



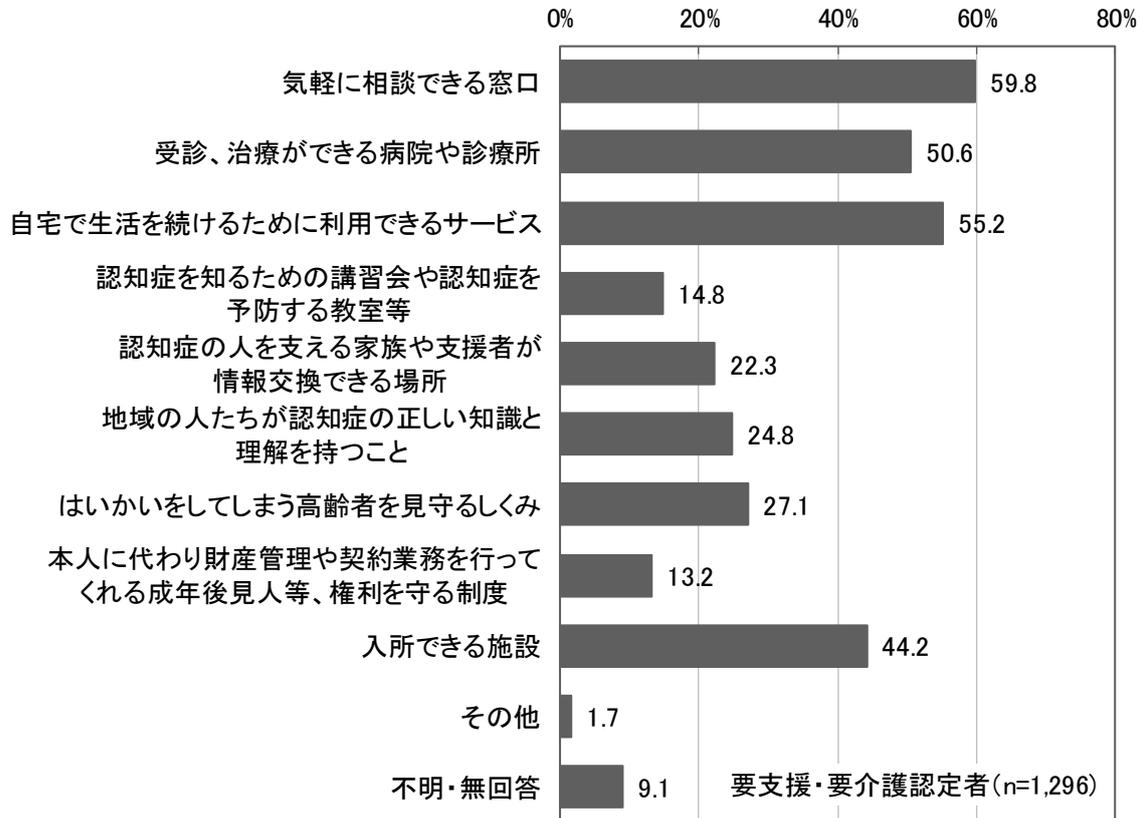
■ ■ 経年変化

経年でみると、「知っている」は平成25年以降高くなっていったものの、令和4年には横ばいとなっています。



問 33 どのようなことが充実すれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができると思いますか。(複数回答)

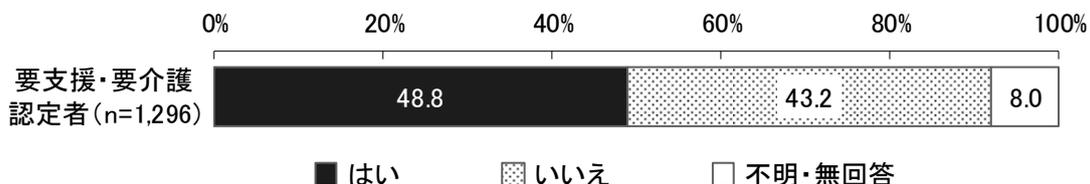
どのようなことが充実すれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができると思うかについて、「気軽に相談できる窓口」が59.8%と最も高く、次いで「自宅で生活するために利用できるサービス」が55.2%、「受診、治療ができる病院や診療所」が50.6%となっています。



6 歯の健康について

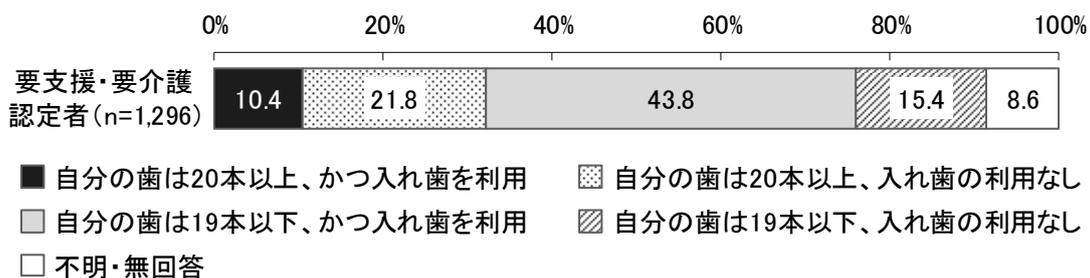
問 34 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(単数回答)

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについて、「はい」が48.8%、「いいえ」が43.2%となっています。



問 35 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(単数回答)

歯の数と入れ歯の利用状況について、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が43.8%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が21.8%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が15.4%となっています。

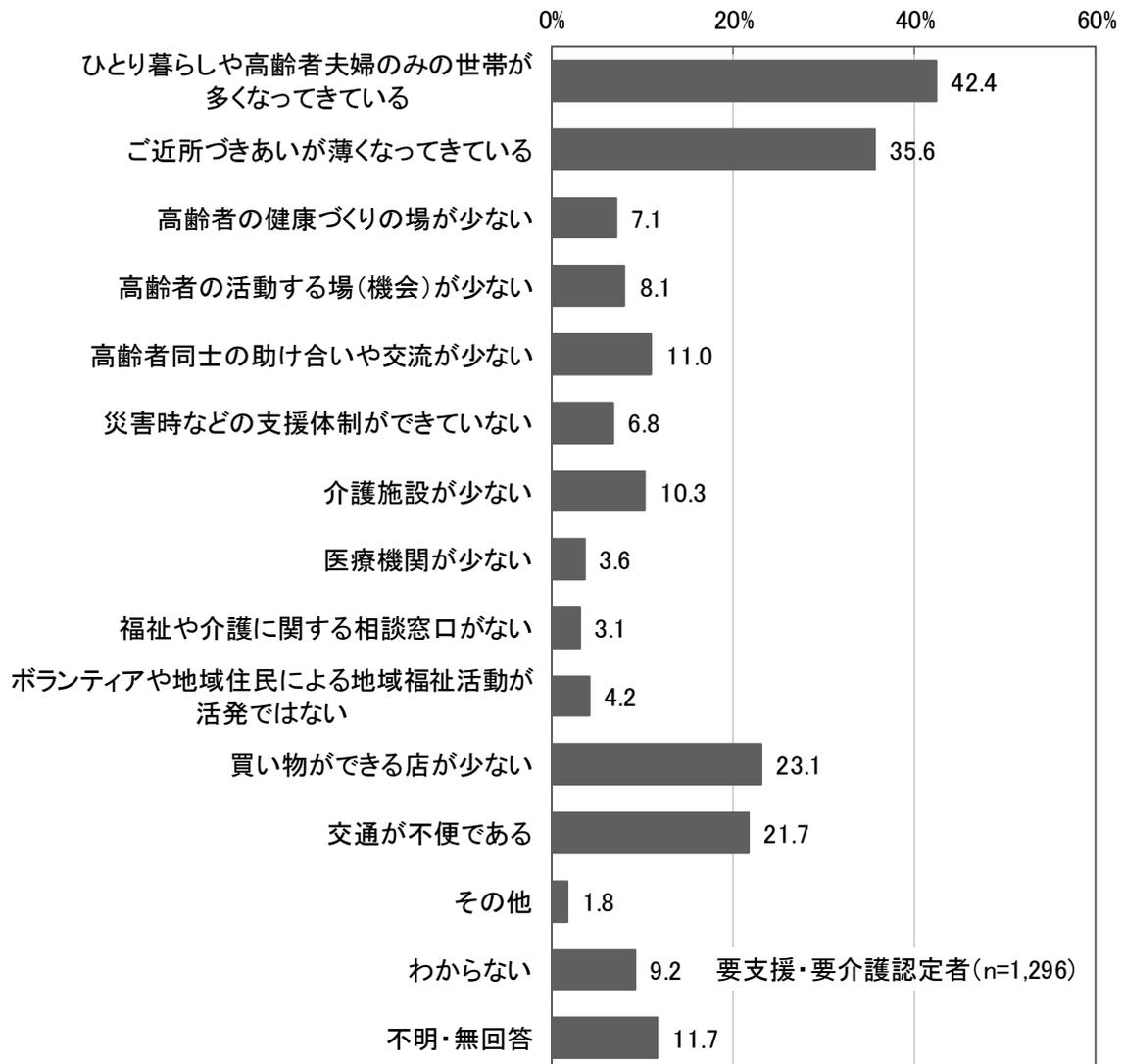


7 高齢期の課題について

問 36 あなたの地域(中学校区程度)における高齢者(高齢化)に関する課題は何だと思いますか。(複数回答)

地域の高齢者に関する課題について、「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」が42.4%と最も高く、次いで「ご近所づきあいが薄くなってきている」が35.6%、「買い物ができる店が少ない」が23.1%となっています。

中学校区別でみると、刈谷南中学校区では「ご近所づきあいが薄くなってきている」が、その他の中学校区では「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」が、それぞれ最も高くなっています。なお、刈谷南中学校区では「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」も同様に高くなっています。また、「買い物ができる店が少ない」が雁が音中学校区で約4割、刈谷南、富士松の各中学校区でそれぞれ3割前後と高くなっています。



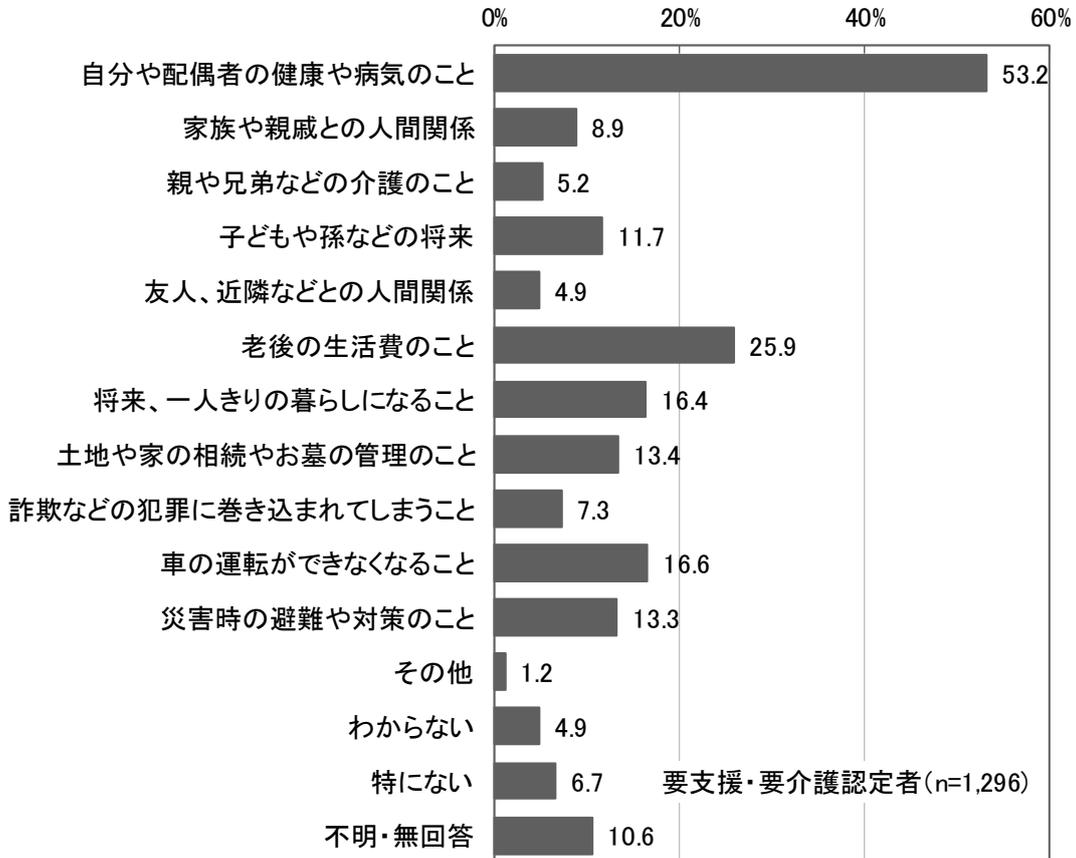
■中学校区別

(単位: %)	n=	ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなっている	近所づきあいが薄くなっている	高齢者の健康づくりの場が少ない	高齢者の活動する場(機会)が少ない	高齢者同士の助け合いや交流が少ない	災害時などの支援体制ができていない	介護施設が少ない	医療機関が少ない	福祉や介護に関する相談窓口がない	ボランティアや地域住民による地域福祉活動が活発ではない
刈谷南	199	40.2	40.7	9.5	6.0	12.1	8.0	9.0	4.0	4.0	2.0
刈谷東	232	47.4	40.5	6.0	6.5	10.8	5.2	12.9	3.0	4.3	3.4
富士松	230	40.4	33.9	5.7	8.3	14.3	6.1	8.7	3.9	2.6	5.7
雁が音	182	41.8	32.4	6.6	11.5	11.0	9.3	9.3	4.9	2.7	5.5
依佐美	201	43.3	34.3	6.0	6.5	8.0	7.5	6.5	2.5	1.0	4.5
朝日	178	48.9	37.1	10.1	11.2	11.2	5.6	16.3	3.9	3.9	5.6

(単位: %)	n=	買い物ができる店が少ない	交通が不便である	その他	わからない	不明・無回答
刈谷南	199	31.2	17.1	2.0	8.0	10.1
刈谷東	232	16.4	19.4	2.6	6.9	12.1
富士松	230	26.1	24.8	1.7	7.8	10.9
雁が音	182	39.0	24.2	1.6	9.9	8.2
依佐美	201	22.4	26.9	2.0	10.9	10.0
朝日	178	6.7	18.5	0.6	9.6	11.2

問37 あなたご自身が、高齢期において不安に思うことがありますか。(複数回答)

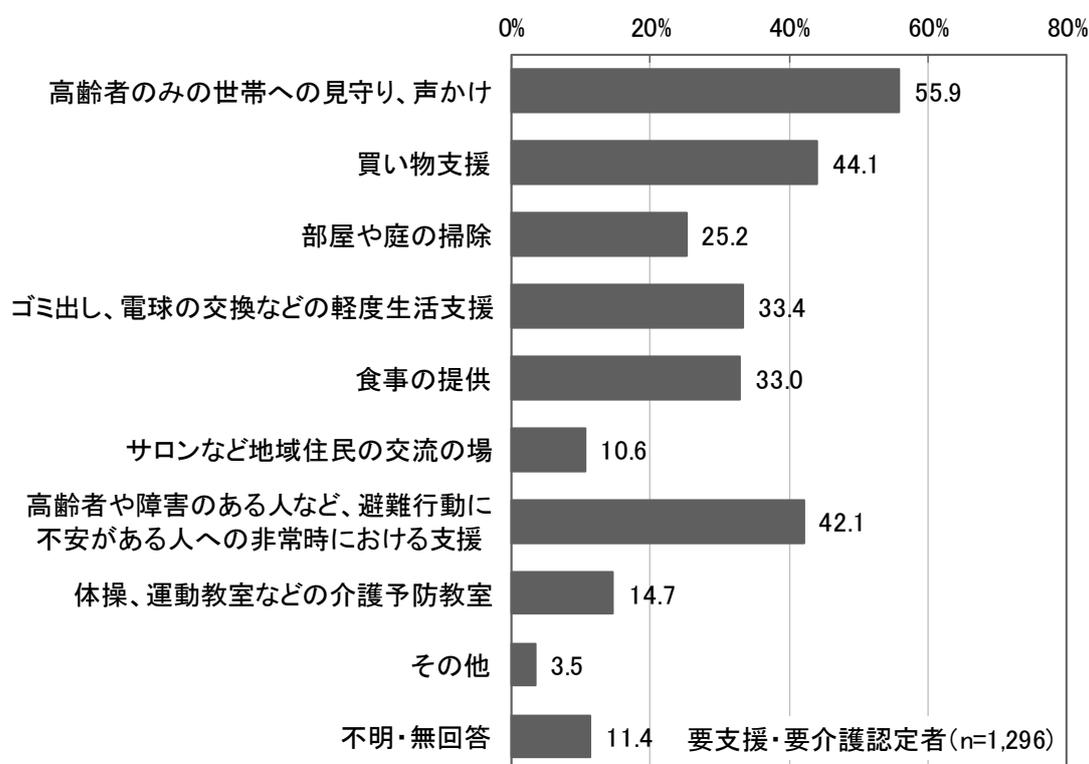
高齢期において不安に思うことについて、「自分や配偶者の健康や病気のこと」が53.2%と最も高く、次いで「老後の生活費のこと」が25.9%、「車の運転ができなくなること」が16.6%となっています。



問 38 誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らしていくためには、地域住民同士の助け合い、支え合いの活動が重要となります。そこで、地域住民の力を活かした高齢者支援で必要だと思うものについて、あてはまるものをお答えください。(複数回答)

地域住民の力を活かした高齢者支援で必要だと思うものについて、「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が55.9%と最も高く、次いで「買い物支援」が44.1%、「高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援」が42.1%となっています。

性別・年齢別・要介護度別でみると、いずれの区分でも「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が、それぞれ最も高くなっています。また、いずれも「買い物支援」「高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援」も上位となっています。



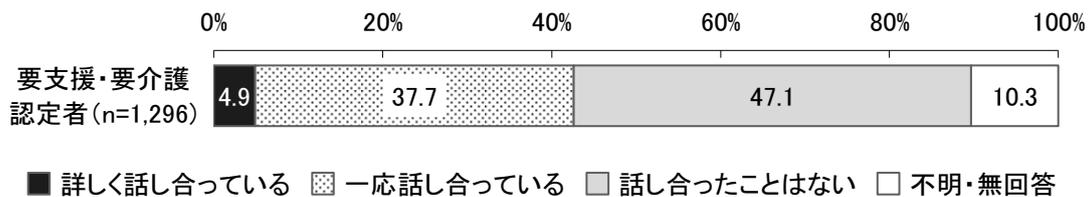
■性別・年齢別・中学校区別

(単位:%)	n=	高齢者のみの世帯への見守り、声かけ	買い物支援	部屋や庭の掃除	ゴミ出し、電球の交換などの軽度生活支援	食事の提供	サロンなど地域住民の交流の場	高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援	体操、運動教室などの介護予防教室	その他	不明・無回答
世帯構成別											
男性	475	54.1	42.5	25.5	33.3	30.7	9.3	42.9	12.4	3.4	11.8
女性	768	58.6	46.2	25.5	34.5	35.7	11.5	42.6	16.7	3.8	9.0
年齢別											
65歳未満	78	55.1	51.3	30.8	41.0	41.0	5.1	50.0	14.1	1.3	6.4
65～69歳	58	60.3	46.6	25.9	29.3	41.4	3.4	46.6	6.9	0.0	8.6
70～74歳	111	63.1	48.6	23.4	34.2	29.7	9.9	43.2	12.6	2.7	11.7
75～79歳	186	52.7	48.4	28.0	35.5	34.4	9.1	40.3	14.5	2.7	10.8
80～84歳	284	55.6	39.4	25.4	33.5	28.2	13.7	40.1	14.4	3.5	10.2
85～89歳	282	53.2	44.3	25.5	31.6	34.8	12.8	45.0	18.8	5.3	10.6
90歳以上	259	60.2	44.0	22.0	34.0	35.5	9.3	40.2	13.9	4.2	10.8
要介護度別											
要支援1	223	52.5	43.0	19.3	31.8	30.0	13.9	38.6	18.4	2.2	12.6
要支援2	221	51.6	49.8	33.0	35.3	33.5	11.3	35.3	13.6	3.2	12.2
要介護1	223	56.5	39.9	23.8	33.6	30.0	12.6	43.9	18.8	4.0	7.2
要介護2	196	64.8	46.9	26.5	37.2	35.7	11.7	50.5	15.3	4.1	7.1
要介護3	167	63.5	40.7	23.4	34.1	32.3	6.0	43.7	9.0	4.2	12.0
要介護4	131	54.2	46.6	21.4	27.5	35.9	7.6	47.3	13.0	4.6	11.5
要介護5	66	60.6	51.5	28.8	34.8	47.0	7.6	45.5	15.2	4.5	7.6

8 希望する医療等について

問 39 あなたは、自分の死期が近づいた場合の治療方針等について、ご家族等（内縁関係の方を含みます）や医療介護関係者とのどのくらい話し合ったことがありますか。（単数回答）

自分の死期が近づいた場合の治療方針等について、ご家族等や医療介護関係者とのどのくらい話し合ったことがあるかについて、「話し合ったことはない」が47.1%、「一応話し合っている」が37.7%、「詳しく話し合っている」が4.9%となっています。

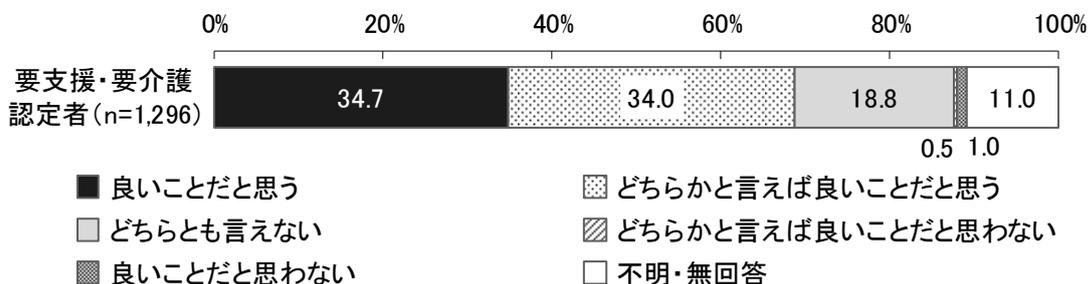


問 40 あなたは、自分が意思決定できなくなった時に備えて、どのような医療・療養・介護を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについてどう思いますか。（単数回答）

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

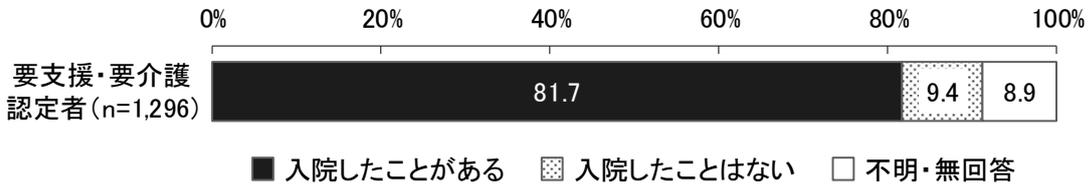
『良いことだと思う』 … 「良いことだと思う」と「どちらかと言えば良いことだと思う」を合算
 『良いことだと思わない』 … 「どちらかと言えば良いことだと思わない」と「良いことだと思わない」を合算

自分が意思決定できなくなった時に備えて、どのような医療・療養・介護を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面をあらかじめ作成しておくことについて、『良いことだと思う』が68.7%、「どちらとも言えない」が18.8%、『良いことだと思わない』が1.5%となっています。



問 41 あなたは、これまでに病院に入院したことがありますか。(単数回答)

これまでに病院に入院したことがあるかについて、「入院したことがある」が81.7%、「入院したことはない」が9.4%となっています。

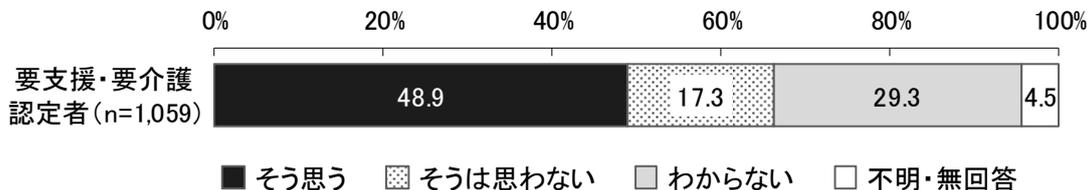


問 42 住み慣れた地域で自分らしい生活をするためには、生活をサポートする医療と介護の連携体制が必要です。あなたは、刈谷市において以下のような体制が整っていると思いますか。(単数回答)

<入院したことがあると回答した方のみ>

(1) 入退院の際に、入院機能がある病院と在宅生活をサポートするかかりつけ医と介護保険サービス事業者との間で、必要な連絡を取り合い、切れ目なく継続して医療・介護のサービスを受けられていると思いますか。

「そう思う」が48.9%、「わからない」が29.3%、「そうは思わない」が17.3%となっています。



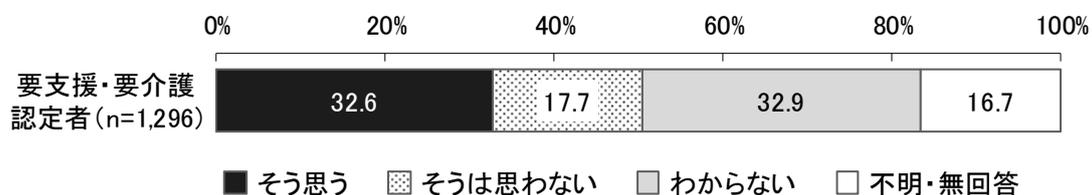
(2) 療養が必要であっても、在宅生活を続けるために、疾患や必要な支援の状態に応じた適切な医療・介護保険サービスを受けられていると思いますか。

「そう思う」が34.6%、「わからない」が34.2%、「そうは思わない」が14.4%となっています。



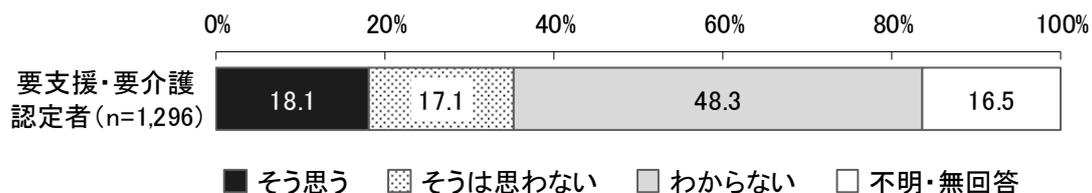
(3) 体調の急変に備え、日頃よりかかりつけ医と介護保険サービス事業者との間で、自身の医療と介護の情報が適切に情報交換され、安心して過ごすことのできる体制が整っていると思いますか。

「わからない」が32.9%、「そう思う」が32.6%、「そうは思わない」が17.7%となっています。



(4) 自分の死期が近づいた場合に、自身の意思が尊重され、望んだ場所で人生の最終を迎えられるよう医療と介護の連携の体制が整っていると思いますか。

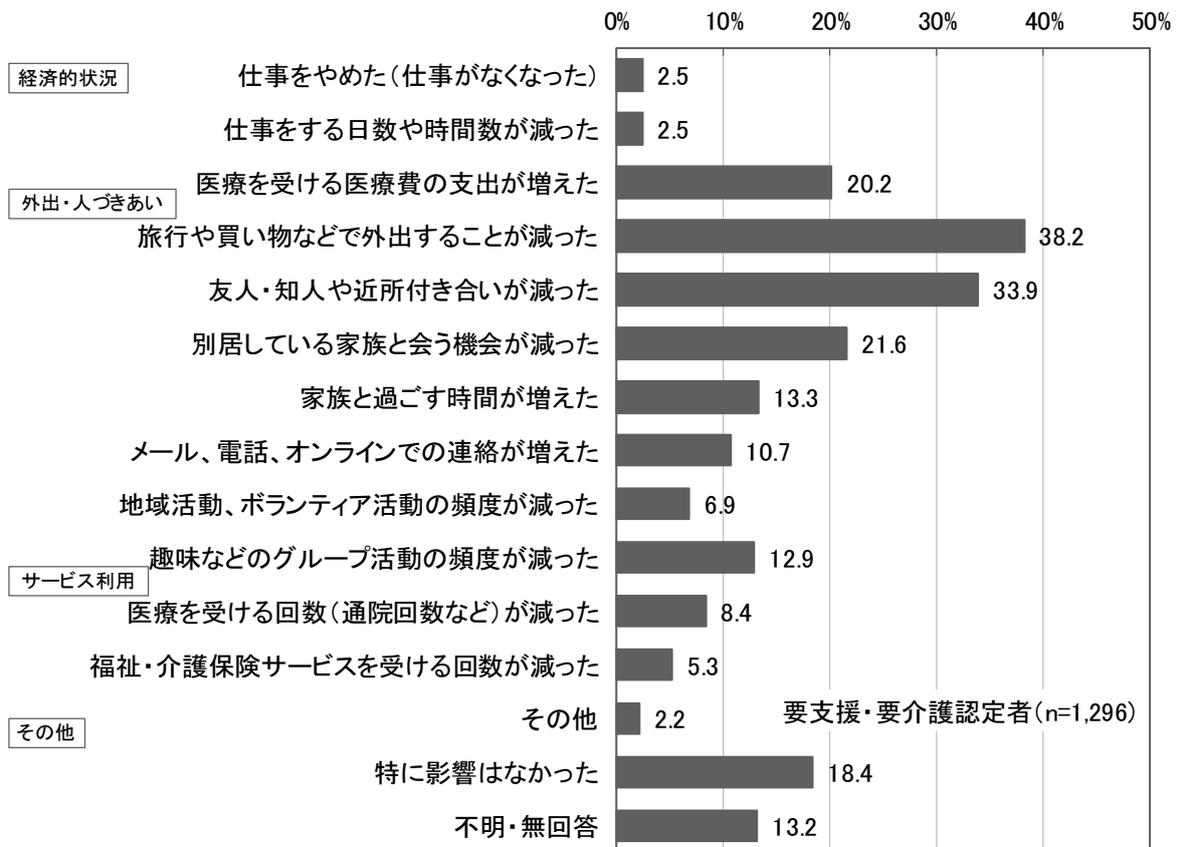
「わからない」が48.3%、「そう思う」が18.1%、「そうは思わない」が17.1%となっています。



9 その他近年の生活状況について

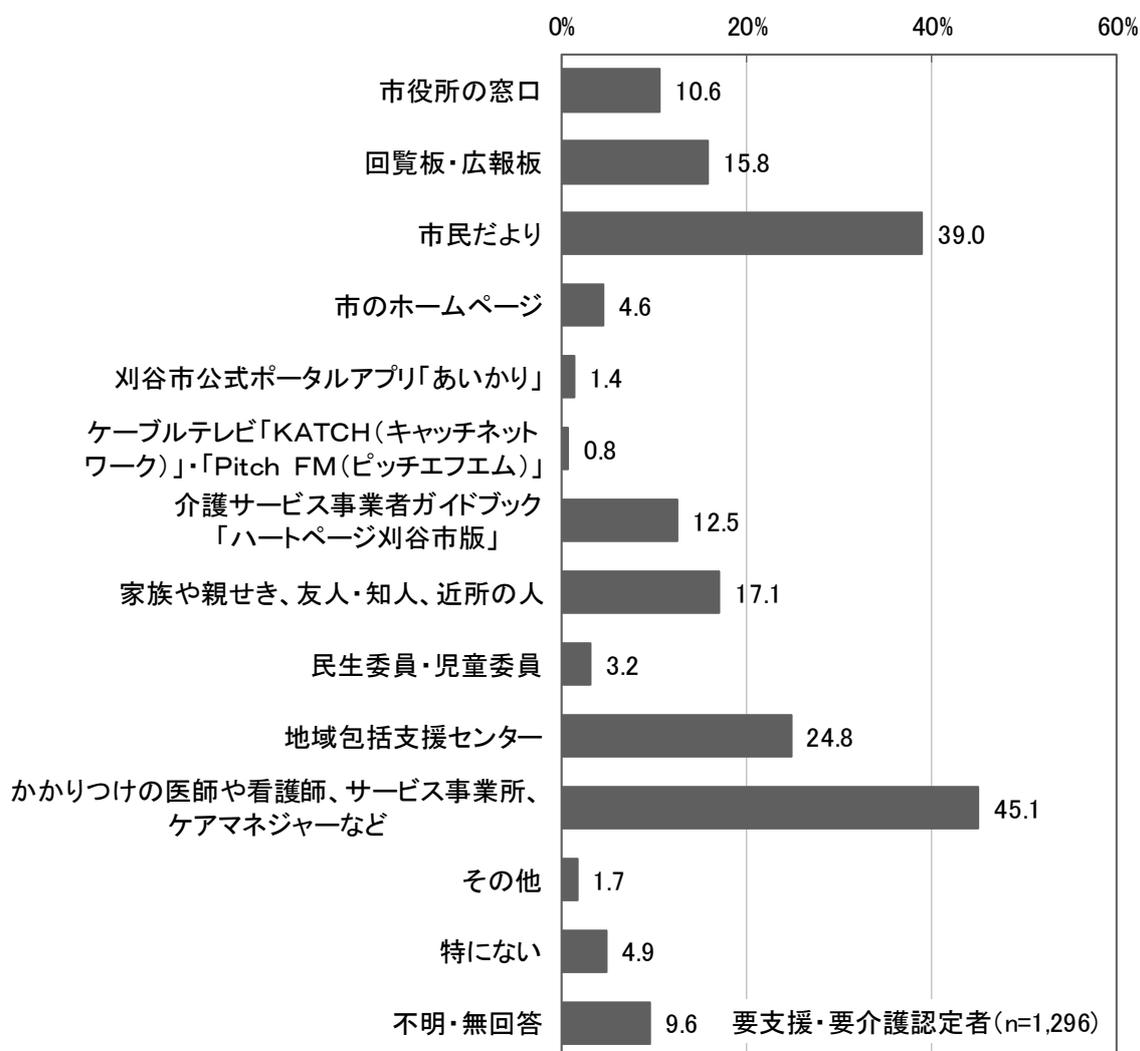
問 43 新型コロナウイルス感染症が流行して以降、あなたの生活はどう変わりましたか。(複数回答)

新型コロナウイルス感染症が流行して以降、生活はどう変化したかについて、「旅行や買い物などで外出することが減った」が38.2%と最も高く、次いで「友人・知人や近所付き合いが減った」が33.9%、「別居している家族と会う機会が減った」が21.6%と、外出・人づきあいに関する割合が高くなっています。



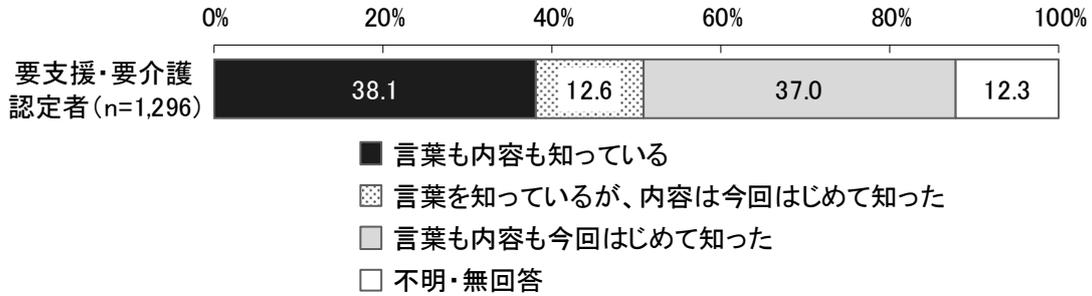
問 44 あなたは、市の高齢者福祉や介護に関する情報をどこから入手していますか。
(複数回答)

市の高齢者福祉や介護に関する情報の入手先について、「かかりつけの医師や看護師、サービス事業所、ケアマネジャーなど」が45.1%と最も高く、次いで「市民だより」が39.0%、「地域包括支援センター」が24.8%となっています。



問 45 介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ刈谷市版」をご存じですか。(単数回答)

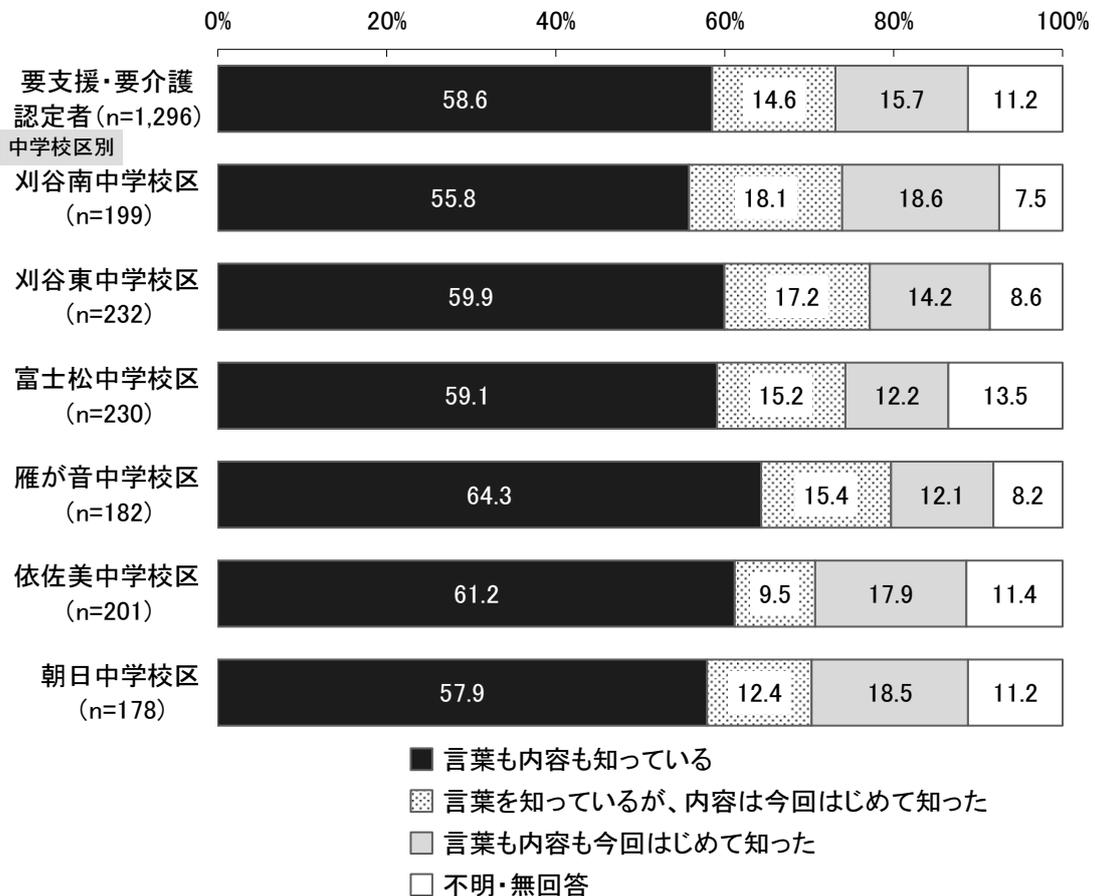
介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ刈谷市版」の認知度について、「言葉も内容も知っている」が38.1%、「言葉も内容も今回はじめて知った」が37.0%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が12.6%となっています。



問 46 地域包括支援センターをご存じですか。(単数回答)

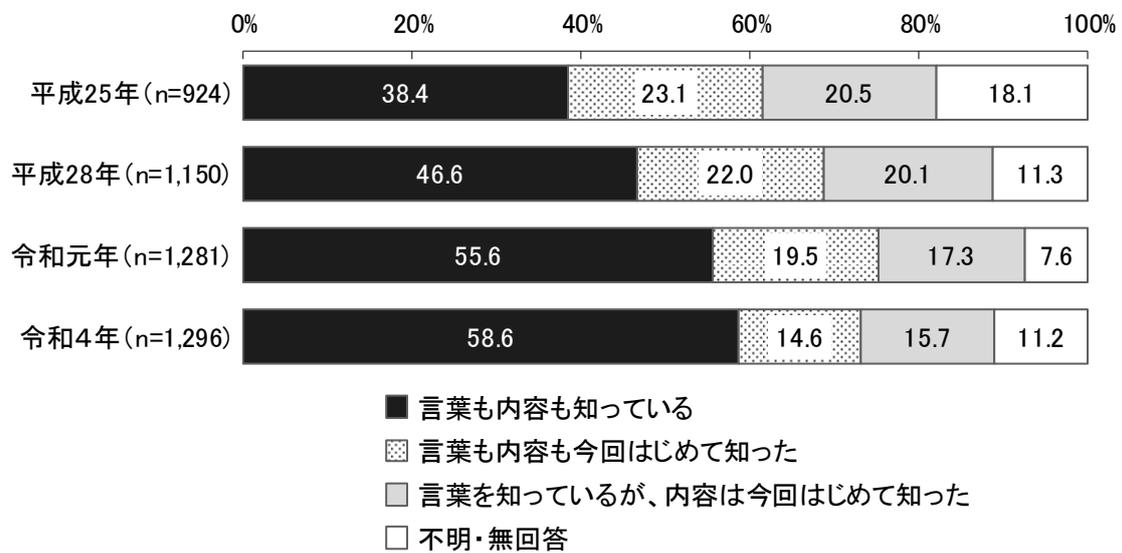
地域包括支援センターの認知度について、「言葉も内容も知っている」が58.6%、「言葉も内容も今回はじめて知った」が15.7%、「言葉を知っているが、内容は今回はじめて知った」が14.6%となっています。

中学校区別でみると、雁が音中学校区では「言葉も内容も知っている」が64.3%と、他の中学校区と比べて高くなっています。



■ ■ 経年変化

経年でみると、平成25年以降、「言葉も内容も知っている」は高くなっています。



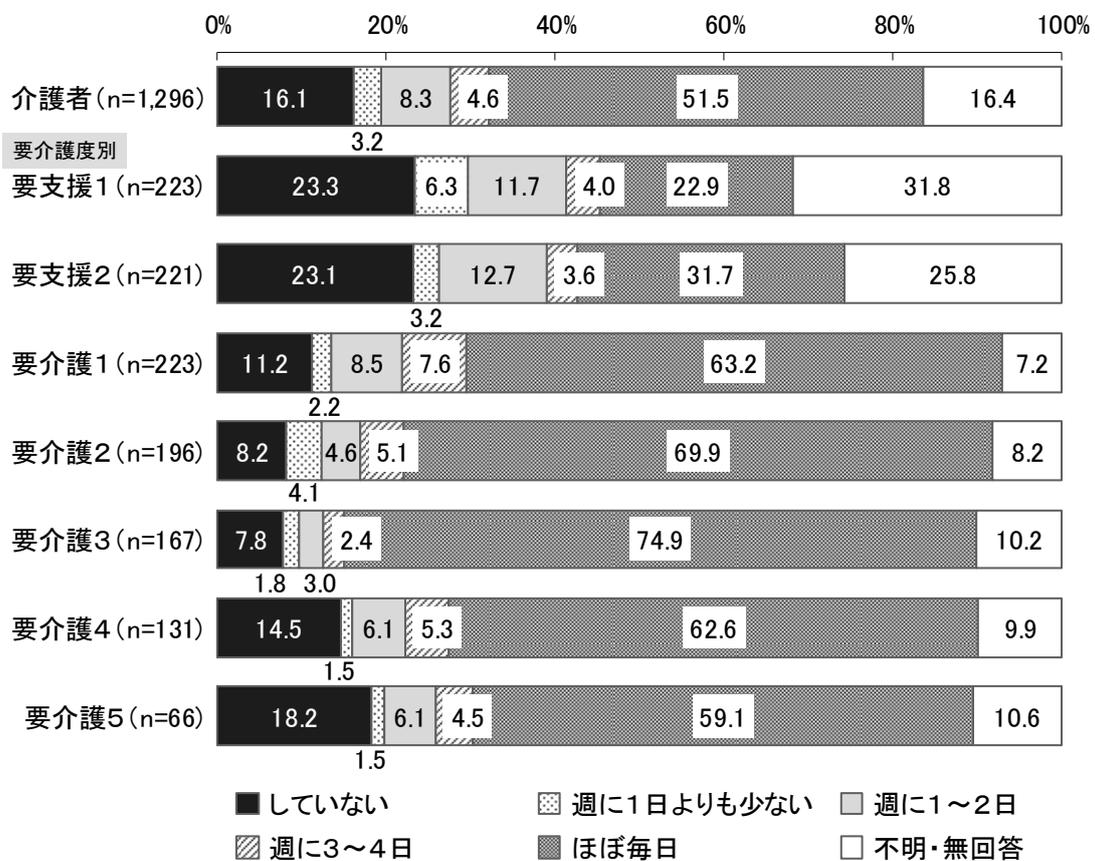
10 介護者について

※問47からは、あて名の方を主に介護している方（以下、「介護者」）を対象とした質問です。

問47 ご家族やご親族の方は、週にどのくらい介護していますか（同居していない子どもや親族などの介護を含む）。（単数回答）

介護の頻度について、「ほぼ毎日」が51.5%と最も高く、次いで「していない」が16.1%、「週に1～2日」が8.3%となっています。

要介護度別でみると、要介護1～要介護4では「ほぼ毎日」が6割以上となっており、要介護3では74.9%と、他の要介護度と比べて高くなっています。



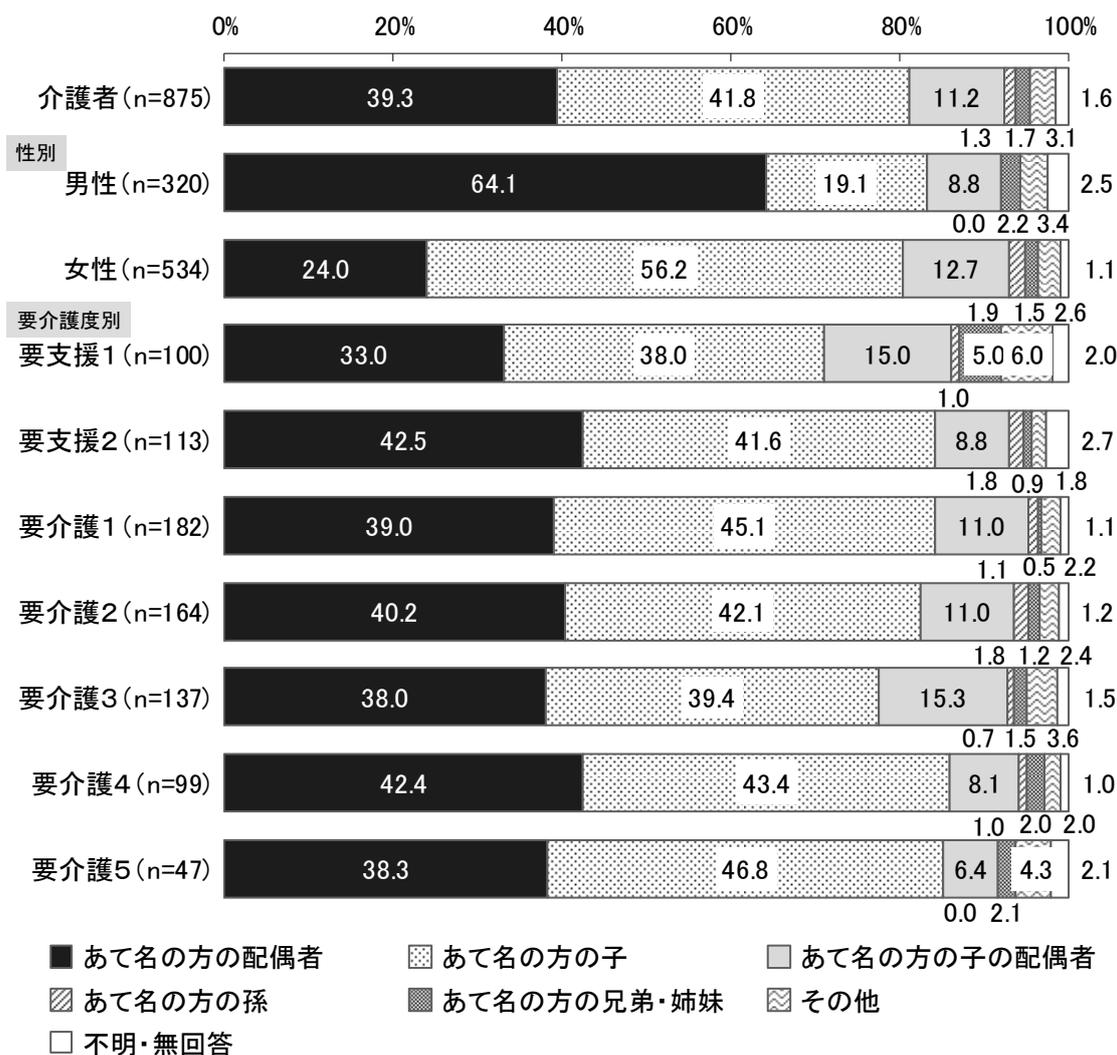
<介護をしていると回答した方のみ>

問 48 ご家族の中で、主な介護者はどなたですか。(単数回答)

主な介護者について、「あて名の方の子」が41.8%と最も高く、次いで「あて名の方の配偶者」が39.3%、「あて名の方の子の配偶者」が11.2%となっています。

あて名の方の性別でみると、男性では「あて名の方の配偶者」が、女性では「あて名の方の子」が、それぞれ最も高くなっています。

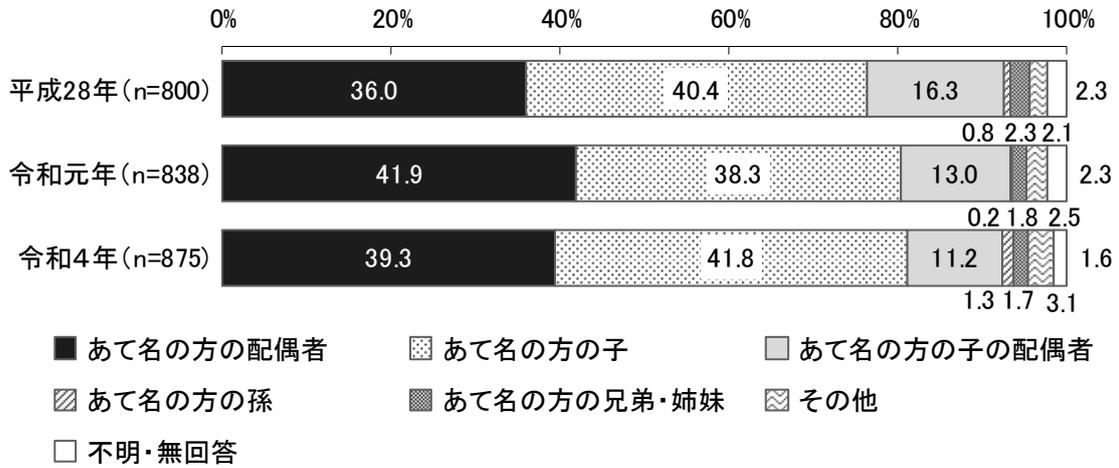
要介護度別でみると、要介護1、要介護5で「あて名の方の子」が5割前後となっています。



※性別は、回答者（介護者）の性別ではなく、あて名の方（介護を受けている方）の性別です。

■ ■ 経年変化

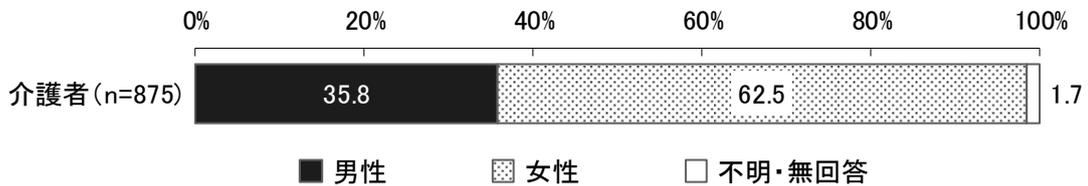
経年でみると、令和元年と比べて「あて名の方の子」が高くなっています。



<介護をしていると回答した方のみ>

問 49 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(単数回答)

主な介護者の性別について、「女性」が62.5%、「男性」が35.8%となっています。

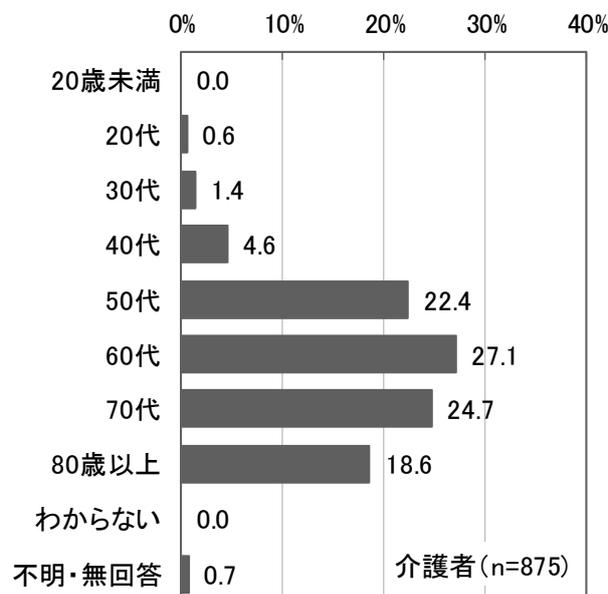


<介護をしていると回答した方のみ>

問 50 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(単数回答)

主な介護者の年齢について、「60代」が27.1%と最も高く、次いで「70代」が24.7%、「50代」が22.4%となっています。

要介護度別でみると、要介護1・5では「60代」が、要介護4では「70代」が、それぞれ3割を超えています。



■要介護度別

(単位: %)	n=	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	わからない	不明・無回答
要介護度別											
要支援1	100	0.0	1.0	0.0	6.0	27.0	27.0	16.0	22.0	0.0	1.0
要支援2	113	0.0	0.9	3.5	6.2	21.2	28.3	21.2	18.6	0.0	0.0
要介護1	182	0.0	0.0	0.5	3.3	18.1	33.5	26.9	16.5	0.0	1.1
要介護2	164	0.0	1.8	1.8	3.0	25.0	25.6	26.8	15.2	0.0	0.6
要介護3	137	0.0	0.0	0.7	2.2	23.4	25.5	25.5	22.6	0.0	0.0
要介護4	99	0.0	0.0	2.0	6.1	22.2	20.2	30.3	19.2	0.0	0.0
要介護5	47	0.0	0.0	0.0	6.4	25.5	31.9	21.3	14.9	0.0	0.0

■経年変化

経年でみると、令和元年と比べて「60代」が高くなっています。

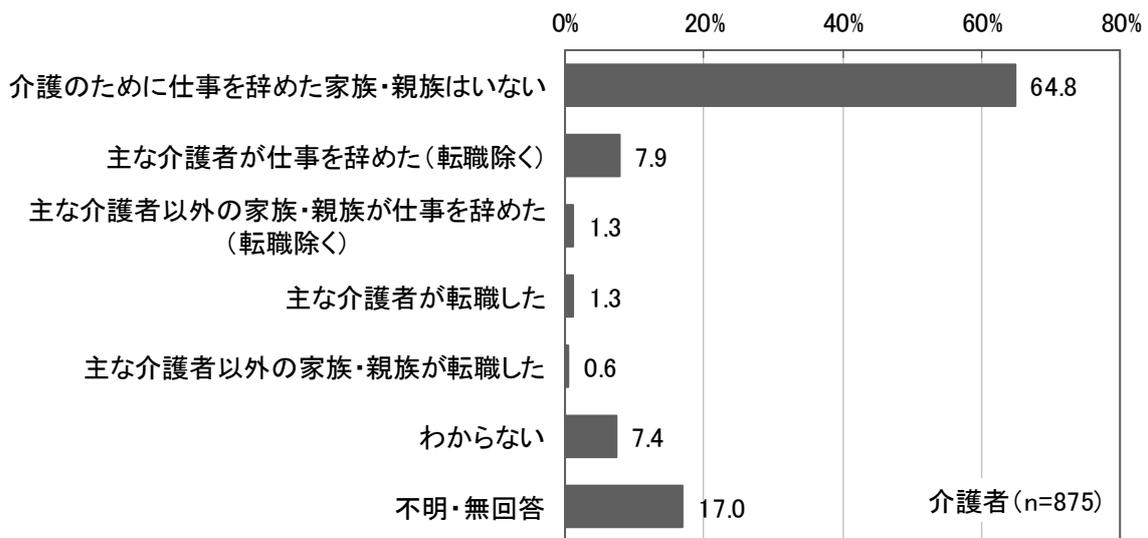
(単位: %)	n=	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	わからない	不明・無回答
調査年度											
平成28年	800	0.0	0.3	1.4	6.0	23.9	33.8	21.9	12.0	0.3	0.6
令和元年	838	0.0	0.2	0.6	6.4	23.4	25.3	27.0	16.0	0.0	1.1
令和4年	875	0.0	0.6	1.4	4.6	22.4	27.1	24.7	18.6	0.0	0.7

<介護をしていると回答した方のみ>

問 51 ご家族やご親族の中で、あて名の方の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。 ※自営業や農林水産業の仕事を辞めた方も含みます。（複数回答）

介護を主な理由として過去1年の間に仕事を辞めた家族や親族の有無について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が64.8%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が7.9%となっています。

要介護度別でみると、要介護5で「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が1割を超えています。



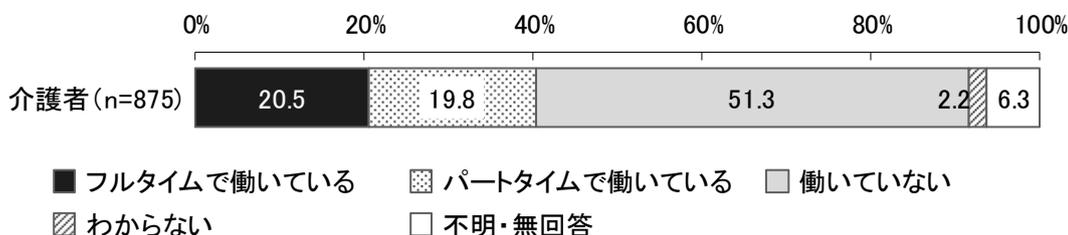
■要介護度別

(単位:%)	n=	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	わからない	不明・無回答
要介護度別								
要支援1	100	70.0	3.0	1.0	0.0	0.0	7.0	19.0
要支援2	113	71.7	9.7	0.0	0.0	0.9	6.2	11.5
要介護1	182	68.1	7.1	1.1	1.1	1.1	6.0	15.9
要介護2	164	61.6	6.7	1.2	1.8	0.0	7.9	20.7
要介護3	137	60.6	9.5	2.2	1.5	0.7	10.9	14.6
要介護4	99	59.6	8.1	2.0	3.0	0.0	7.1	20.2
要介護5	47	63.8	12.8	0.0	2.1	0.0	4.3	17.0

<介護をしていると回答した方のみ>

問 52 主な介護者の現在の勤務形態について、ご回答ください。(単数回答)

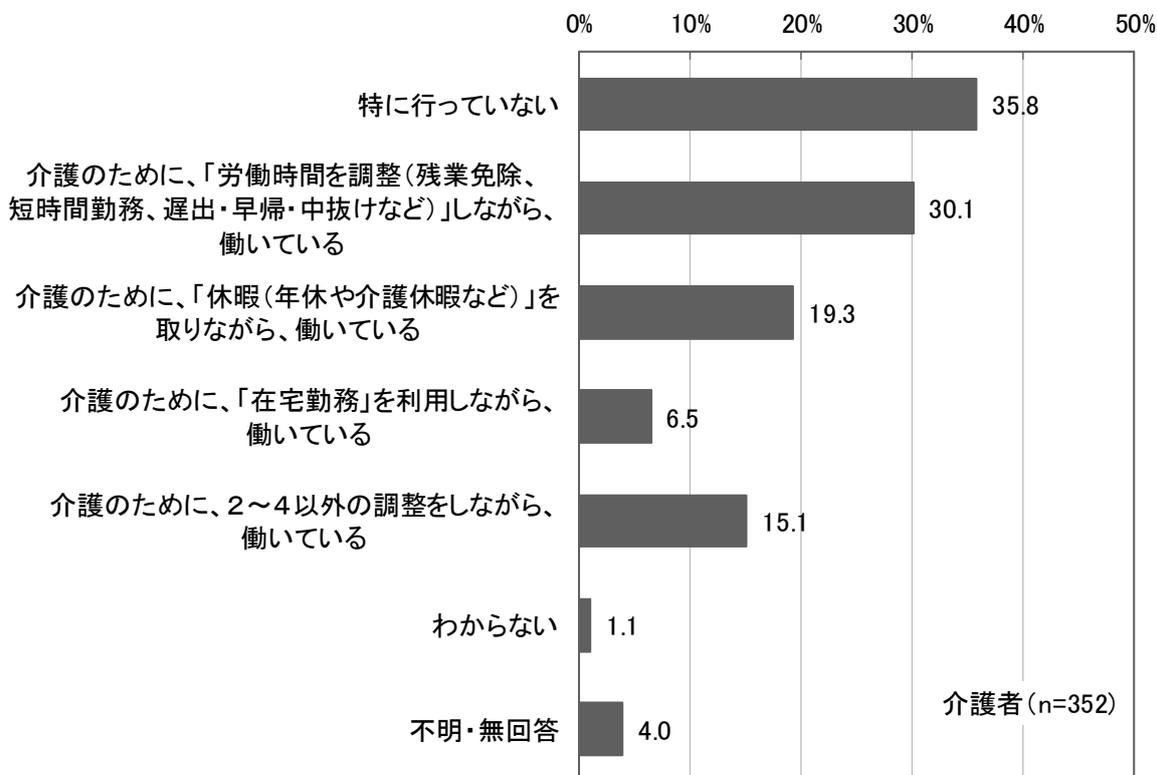
主な介護者の現在の勤務形態について、「働いていない」が 51.3%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が 20.5%、「パートタイムで働いている」が 19.8%となっています。



<介護をしながら働いていると回答した方のみ>

問 53 主な介護者は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整などを行っていますか。(複数回答)

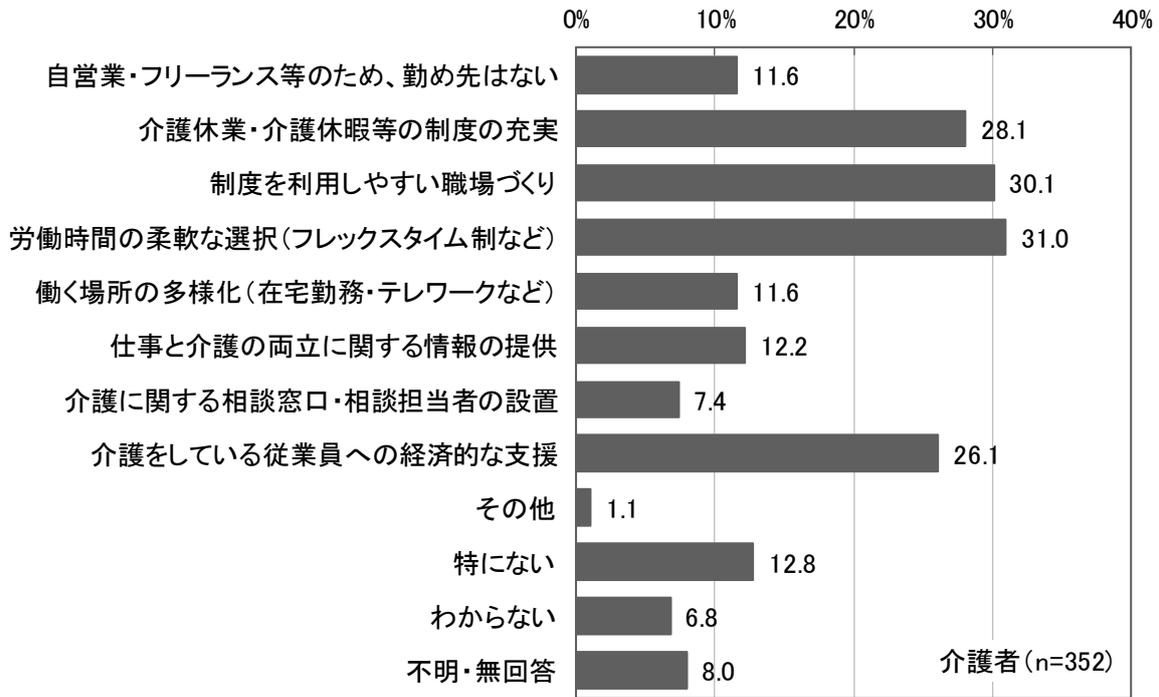
働き方に関する調整について、「特に行っていない」が 35.8%と最も高く、次いで「介護のために、『労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど)』しながら、働いている」が 30.1%、「介護のために、『休暇(年休や介護休暇など)』を取りながら、働いている」が 19.3%となっています。



<介護をしながら働いていると回答した方のみ>

問 54 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(複数回答)

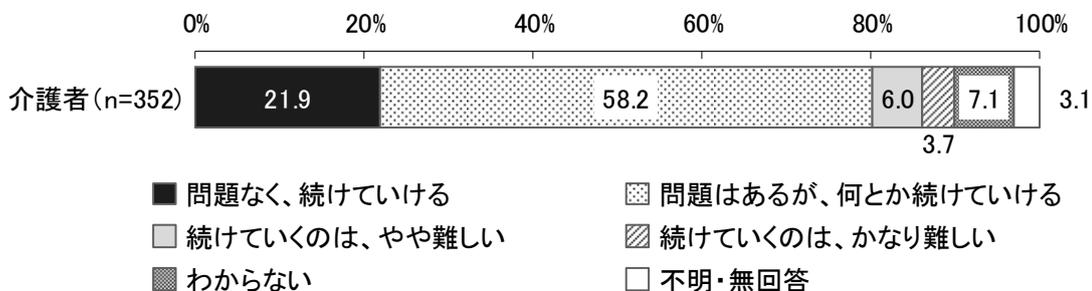
勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うかについて、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が31.0%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が30.1%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が28.1%となっています。



<介護をしながら働いていると回答した方のみ>

問 55 主な介護者は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(単数回答)

今後も働きながら介護を続けていけそうかについて、「問題はあるが、何とか続けていける」が58.2%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.9%、「わからない」が7.1%となっています。

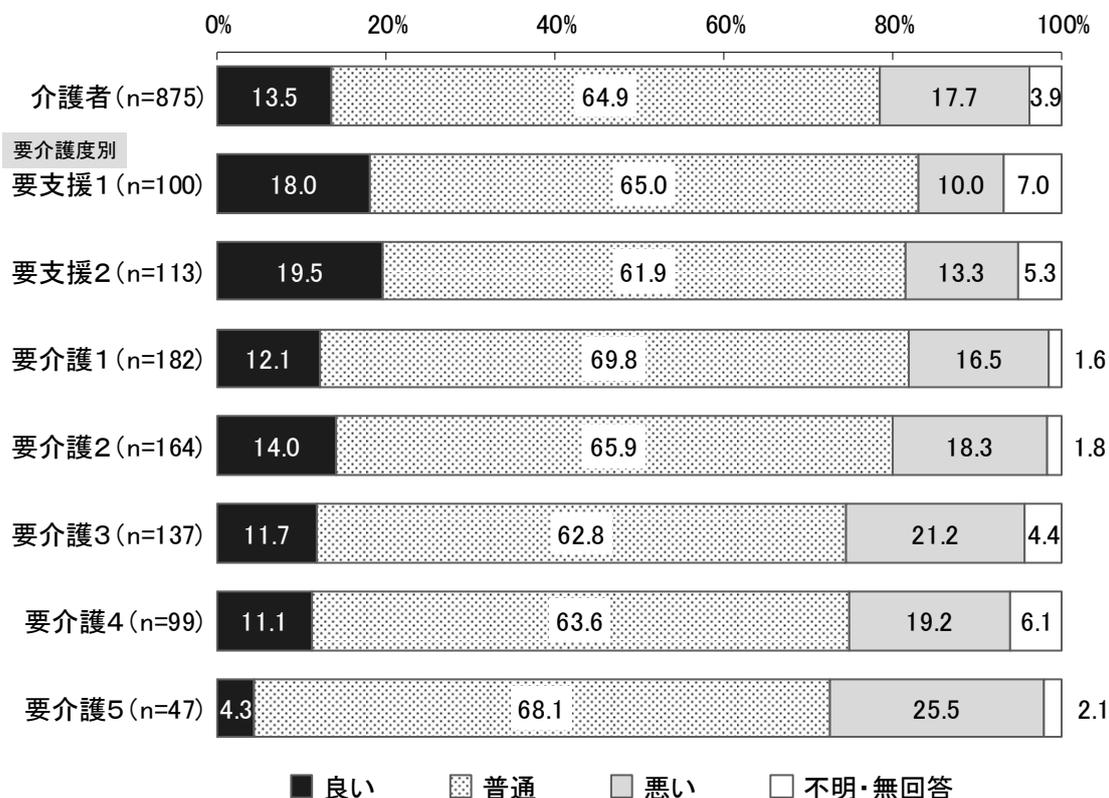


<介護をしていると回答した方のみ>

問 56 主な介護者の健康状態はどうか。(単数回答)

主な介護者の健康状態について、「普通」が64.9%、「悪い」が17.7%、「良い」が13.5%となっています。

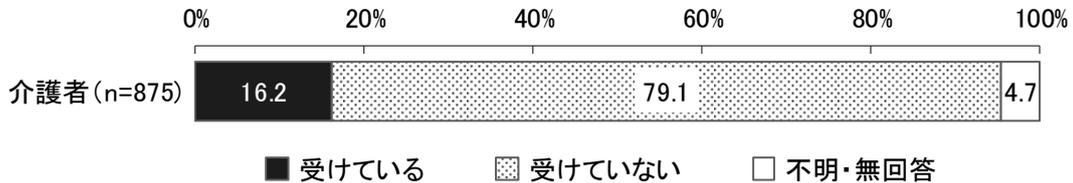
要介護度別でみると、「悪い」が要介護1以上で2割前後、要介護5で25.5%と、要支援2以下と比べて高くなっています。



<介護をしていると回答した方のみ>

問 57 主な介護者は要介護認定を受けていますか。(単数回答)

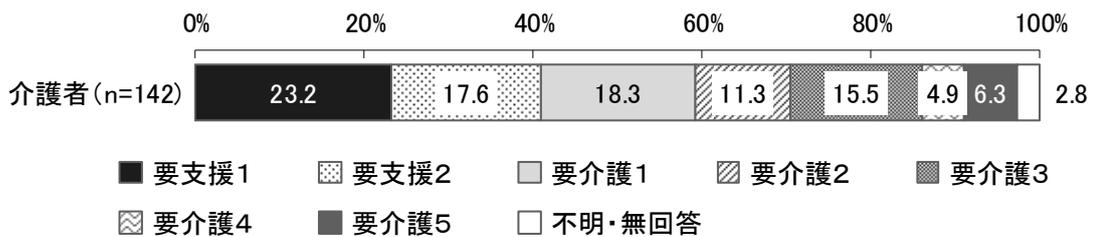
主な介護者の要介護認定の有無について、「受けていない」が79.1%、「受けている」が16.2%となっています。



<介護者が要介護認定を受けていると回答した方のみ>

問 58 主な介護者の要介護度はどれですか。(単数回答)

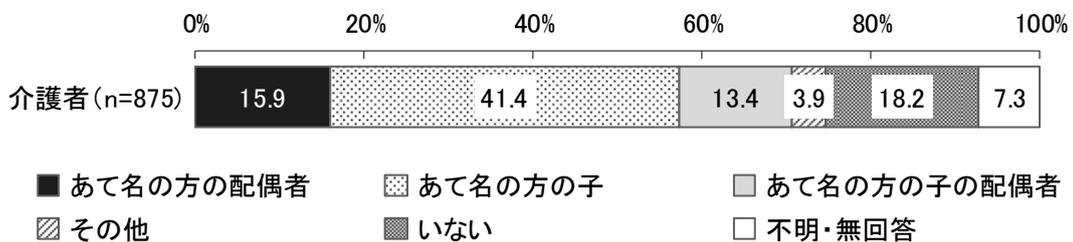
主な介護者の要介護度について、「要支援1」が23.2%と最も高く、次いで「要介護1」が18.3%、「要支援2」が17.6%となっています。



<介護をしていると回答した方のみ>

問 59 ご家族の中で、介護を手伝ってくれる人はいますか。(単数回答)

家族内の補助的な介護者の有無について、「あて名の方の子」が41.4%と最も高く、次いで「いない」が18.2%、「あて名の方の配偶者」が15.9%となっています。

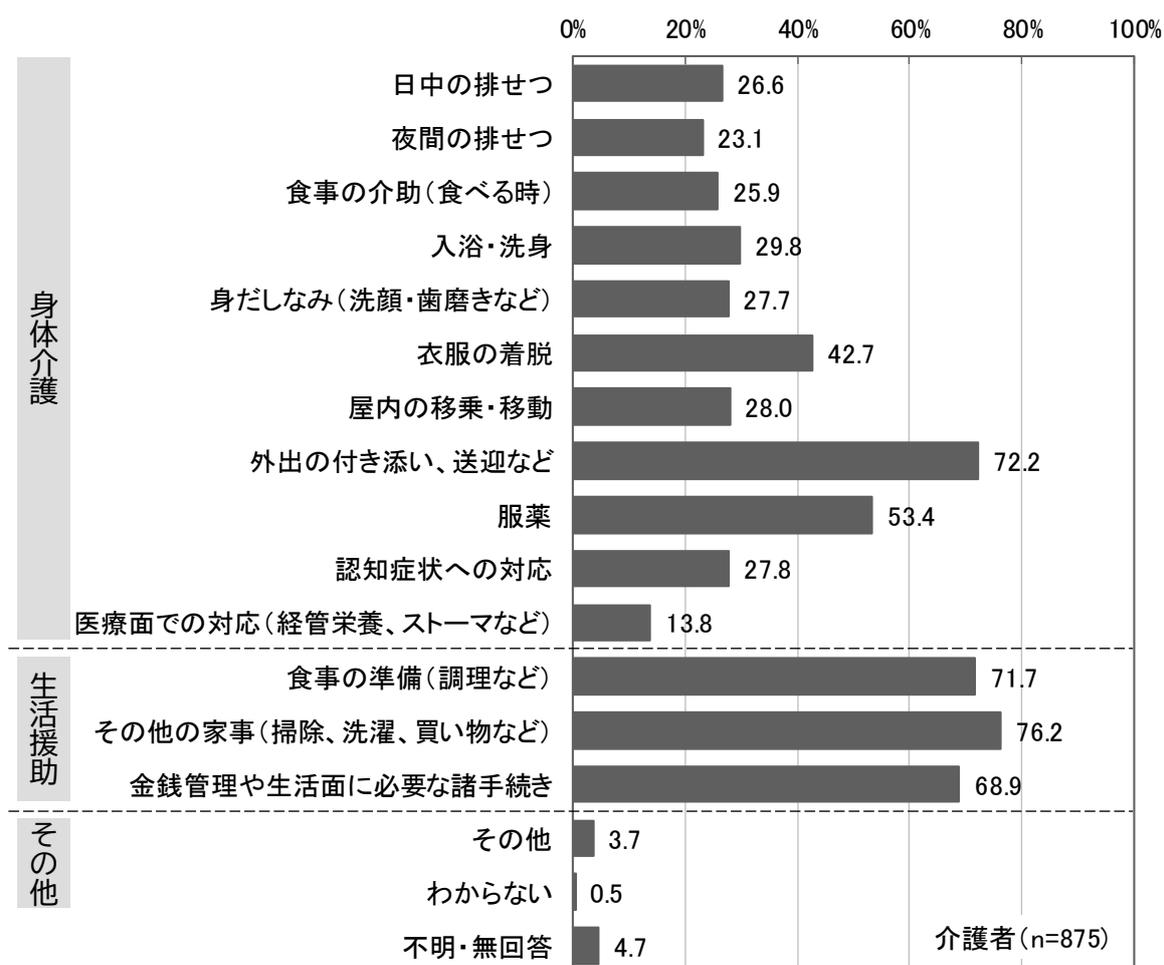


<介護をしていると回答した方のみ>

問 60 現在、主な介護者が行っている介護などについて、ご回答ください。(複数回答)

主な介護者の介護内容について、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）」が 76.2%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎など」が 72.2%、「食事の準備（調理など）」が 71.7%となっています。

要介護度別で見ると、要支援 1、要介護 1 では「外出の付き添い、送迎など」が、要介護 2 では「食事の準備（調理など）」が、要支援 2、要介護 3・4 では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）」が、要介護 5 では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が、それぞれ最も高くなっています。



■要介護度別

		身体介護								
(単位:%)	n=	日中の排せつ	夜間の排せつ	食事の介助(食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ(洗顔・歯磨きなど)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎など	服薬
要介護度別										
要支援1	100	4.0	4.0	6.0	16.0	9.0	13.0	8.0	66.0	27.0
要支援2	113	3.5	2.7	9.7	28.3	4.4	16.8	9.7	68.1	19.5
要介護1	182	11.5	12.1	19.2	25.3	19.2	31.3	13.7	80.2	59.9
要介護2	164	19.5	15.9	19.5	32.3	24.4	43.9	30.5	76.8	54.9
要介護3	137	49.6	38.7	37.2	35.8	42.3	68.6	40.9	70.8	65.0
要介護4	99	66.7	60.6	52.5	39.4	60.6	73.7	61.6	70.7	81.8
要介護5	47	63.8	48.9	66.0	29.8	59.6	70.2	53.2	59.6	74.5

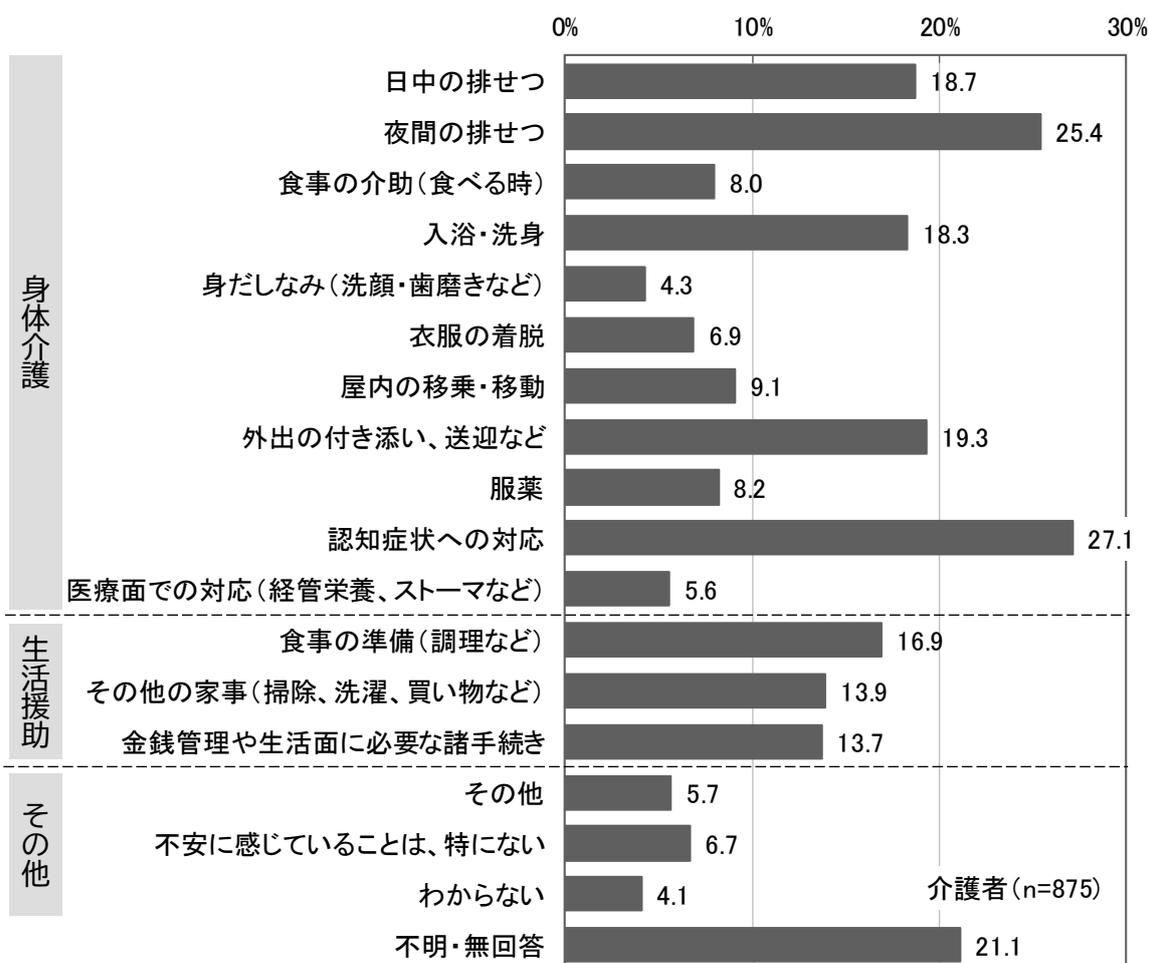
		身体介護		生活援助			その他		不明・無回答
(単位:%)	n=	認知症状への対応	医療面での対応(経管栄養、ストーマなど)	食事の準備(調理など)	その他の家事(掃除、洗濯、買い物など)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	わからない	
要介護度別									
要支援1	100	16.0	5.0	46.0	59.0	46.0	3.0	1.0	11.0
要支援2	113	8.0	8.8	54.9	69.0	55.8	4.4	0.0	8.0
要介護1	182	35.2	13.7	74.2	79.7	75.8	3.3	0.5	3.8
要介護2	164	29.3	14.6	78.7	77.4	75.0	3.7	0.0	2.4
要介護3	137	37.2	14.6	83.9	85.4	73.7	3.6	0.0	4.4
要介護4	99	31.3	18.2	84.8	86.9	82.8	3.0	1.0	1.0
要介護5	47	34.0	25.5	70.2	76.6	78.7	6.4	0.0	2.1

<介護をしていると回答した方のみ>

問 61 現在の生活を継続していくにあたって、不安に感じる介護などについて、ご回答ください。(複数回答)

主な介護者が不安に感じる介護などについて、「認知症状への対応」が27.1%と最も高く、次いで「夜間の排せつ」が25.4%、「外出の付き添い、送迎など」が19.3%となっています。

要介護度別でみると、要支援2、要介護5では「外出の付き添い、送迎など」が、要支援1、要介護1・5では「認知症状への対応」が、要介護2～4では「夜間の排せつ」が、それぞれ最も高くなっています。



■要介護度別

		身体介護								
(単位:%)	n=	日中の排せつ	夜間の排せつ	食事の介助(食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ(洗顔・歯磨きなど)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎など	服薬
要介護度別										
要支援1	100	11.0	14.0	6.0	18.0	3.0	3.0	5.0	19.0	5.0
要支援2	113	9.7	18.6	6.2	23.9	3.5	7.1	7.1	30.1	5.3
要介護1	182	20.3	24.7	10.4	14.8	4.9	5.5	11.5	19.2	13.2
要介護2	164	25.0	28.0	4.3	21.3	4.3	7.9	8.5	22.0	9.8
要介護3	137	23.4	35.0	9.5	17.5	6.6	9.5	8.8	16.1	8.0
要介護4	99	26.3	36.4	11.1	16.2	3.0	8.1	12.1	9.1	5.1
要介護5	47	4.3	10.6	10.6	12.8	4.3	6.4	10.6	14.9	6.4

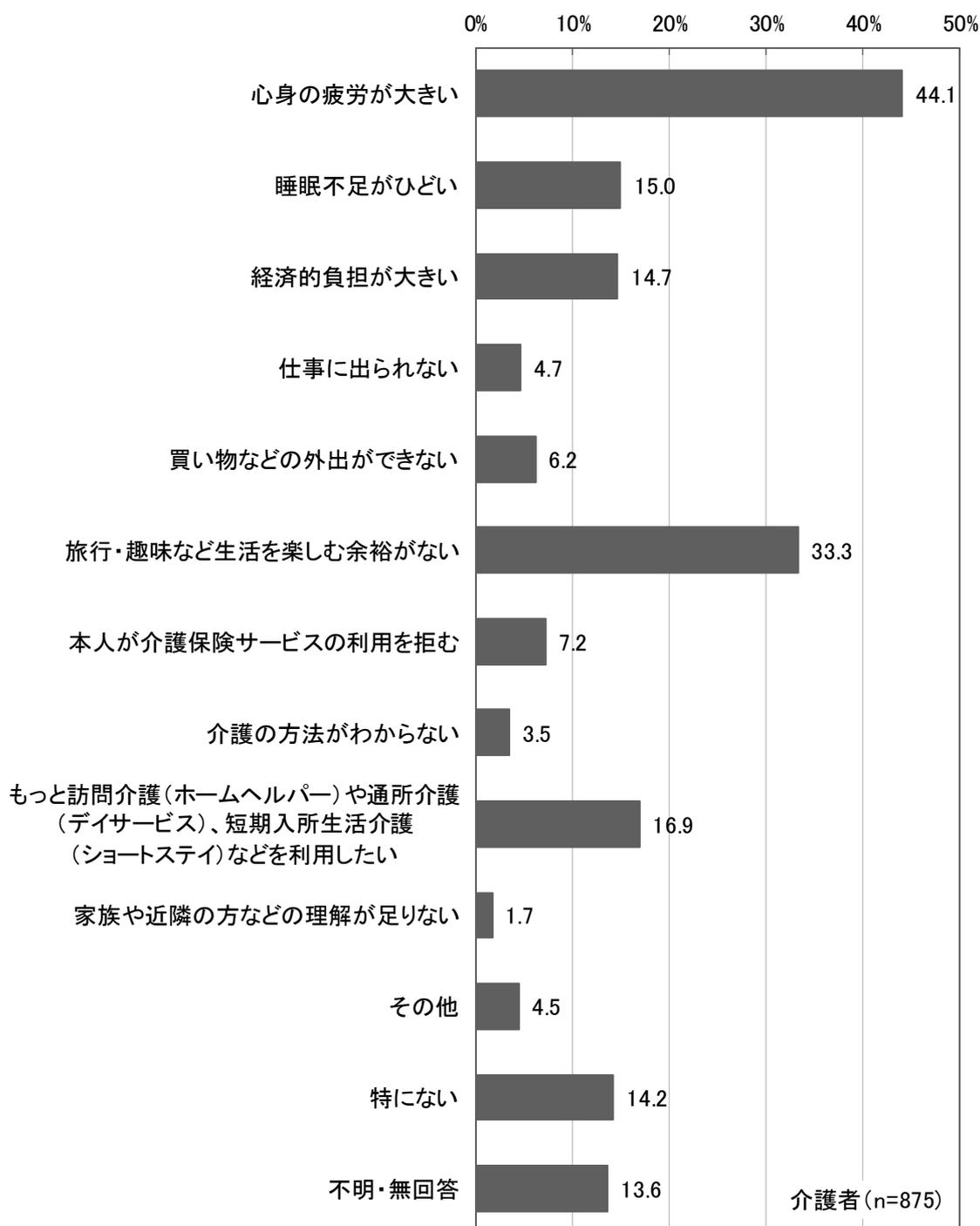
		身体介護		生活援助			その他			不明・無回答
(単位:%)	n=	認知症状への対応	医療面での対応(経管栄養、ストーマなど)	食事の準備(調理など)	その他の家事(掃除、洗濯、買い物など)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特になし	わからない	
要介護度別										
要支援1	100	23.0	4.0	14.0	17.0	13.0	4.0	8.0	3.0	29.0
要支援2	113	14.2	3.5	22.1	24.8	14.2	4.4	6.2	6.2	19.5
要介護1	182	36.8	5.5	13.7	10.4	15.4	4.9	3.3	3.3	22.5
要介護2	164	26.2	3.7	17.7	12.2	12.2	3.0	6.7	4.9	18.9
要介護3	137	34.3	2.9	19.7	10.2	13.1	7.3	6.6	4.4	20.4
要介護4	99	27.3	11.1	15.2	11.1	14.1	10.1	11.1	3.0	16.2
要介護5	47	14.9	12.8	8.5	10.6	12.8	8.5	8.5	6.4	21.3

<介護をしていると回答した方のみ>

問 62 介護するうえで、どんなことに困っていますか。(複数回答)

介護するうえで困っていることについて、「心身の疲労が大きい」が44.1%と最も高く、次いで「旅行・趣味など生活を楽しむ余裕がない」が33.3%、「もっと訪問介護（ホームヘルパー）や通所介護（デイサービス）、短期入所生活介護（ショートステイ）などを利用したい」が16.9%となっています。

要介護度別でみると、いずれの要介護度においても「心身の疲労が大きい」が最も高くなっており、要介護2以上ではそれぞれ5割を超えています。また、要介護1～4で「旅行・趣味など生活を楽しむ余裕がない」がそれぞれ4割前後と、他の要介護度と比べて高くなっています。



■要介護度別

(単位:%)	n=	心身の疲労が大きい	睡眠不足がひどい	経済的負担が大きい	仕事に出られない	買い物などの外出ができない	旅行・趣味など生活を楽しむ余裕がない	本人が介護保険サービスの利用を拒む	介護の方法がわからない	もっと訪問介護(ホームヘルパー)や通所介護(デイサービス)、短期入所生活介護(ショートステイ)などを利用したい	家族や近隣の方などの理解が足りない
		要介護度別									
要支援1	100	28.0	4.0	9.0	3.0	5.0	24.0	12.0	2.0	12.0	1.0
要支援2	113	31.0	6.2	8.8	4.4	3.5	21.2	5.3	8.0	20.4	0.9
要介護1	182	40.7	13.2	9.3	2.7	5.5	35.2	9.9	3.8	21.4	1.1
要介護2	164	51.8	17.7	14.0	4.9	3.7	40.9	8.5	2.4	20.7	3.0
要介護3	137	51.8	15.3	20.4	6.6	7.3	38.0	3.6	4.4	13.1	1.5
要介護4	99	57.6	27.3	27.3	6.1	13.1	40.4	3.0	3.0	9.1	3.0
要介護5	47	51.1	27.7	17.0	4.3	6.4	27.7	2.1	0.0	14.9	2.1

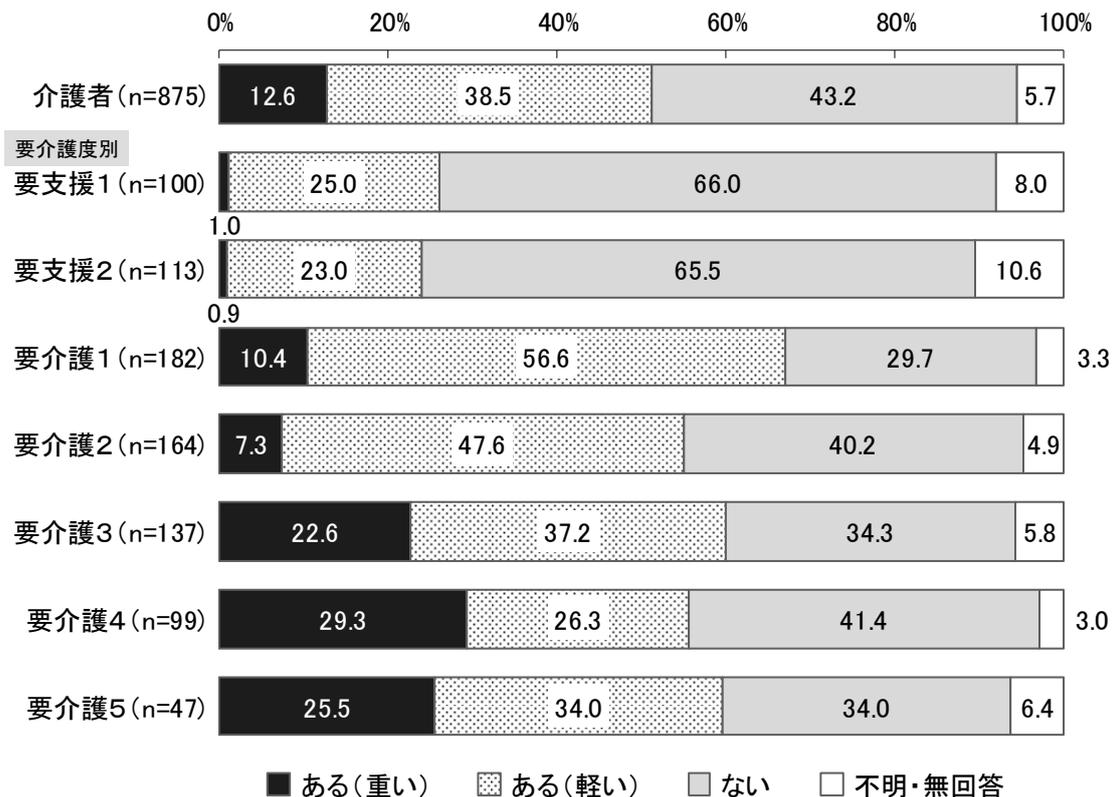
(単位:%)	n=	その他	特にない	不明・無回答
		要介護度別		
要支援1	100	6.0	23.0	18.0
要支援2	113	3.5	29.2	15.9
要介護1	182	4.9	14.3	10.4
要介護2	164	2.4	13.4	10.4
要介護3	137	4.4	5.8	18.2
要介護4	99	5.1	2.0	9.1
要介護5	47	6.4	14.9	10.6

<介護をしていると回答した方のみ>

問 63 あて名の方には認知症の症状がありますか。(単数回答)

あて名の人の認知症の症状について、「ない」が43.2%、「ある(軽い)」が38.5%、「ある(重い)」が12.6%となっています。

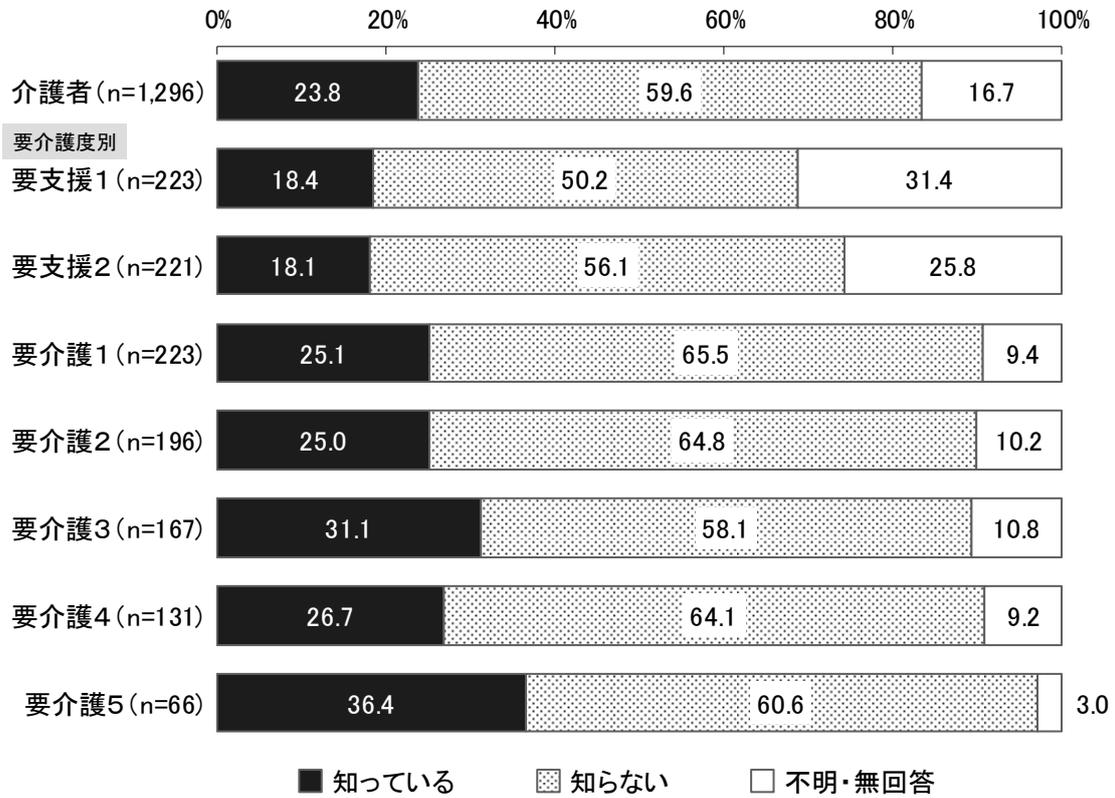
要介護度別でみると、要介護3以上で「ある(重い)」が2~3割と、要介護2以下と比べて高くなっています。



問 64 認知症サポーターをご存じですか。(単数回答)

認知症サポーターの認知度について、「知らない」が 59.6%、「知っている」が 23.8%となっています。

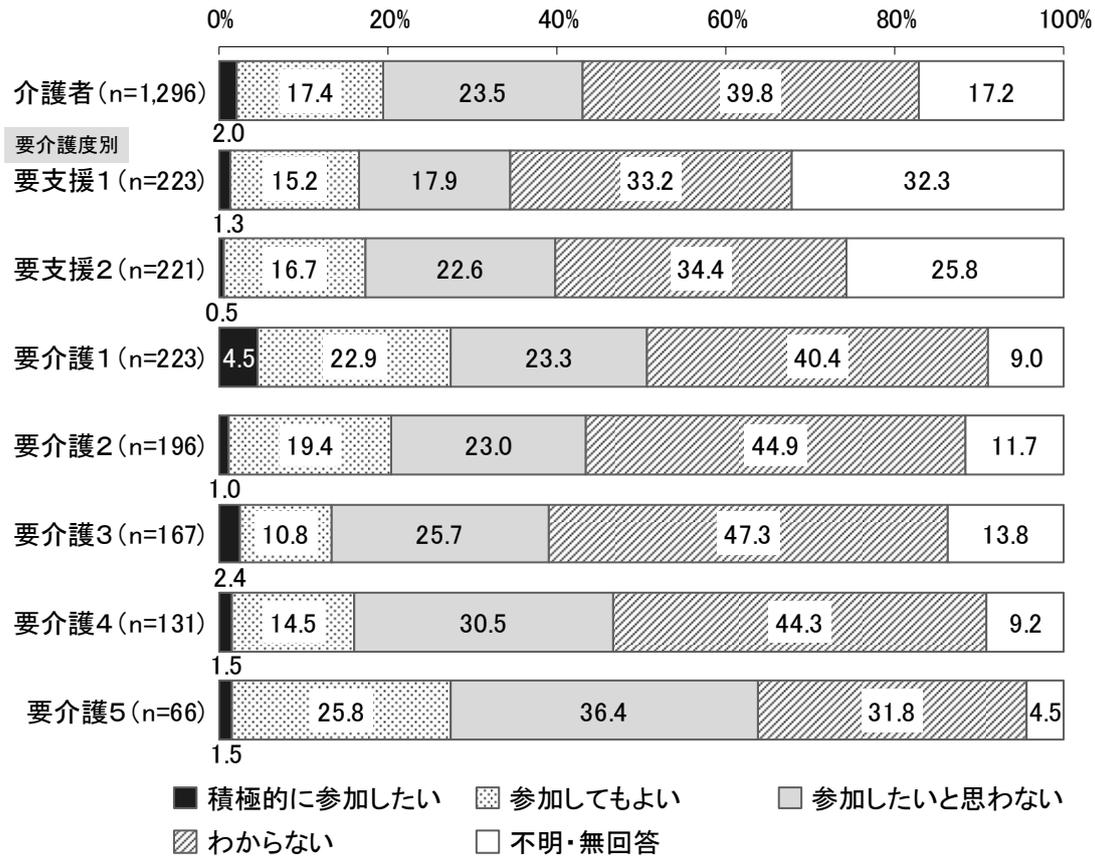
要介護度別でみると、要介護1以上で「知っている」がそれぞれ2割以上となっています。



問 65 市が行っている、認知症サポーター養成講座について、今後参加したいと思いますか。 ※過去に参加したこともある方も今後の意向としてお答えください。(単数回答)

認知症サポーター養成講座への参加意向について、「参加してもよい」が 17.4%「積極的に参加したい」が 2.0%となっています。

要介護度別では、「積極的に参加したい」は最も高い割合の要介護 1 においても 4.5%にとどまっており、「参加してもよい」は要介護 1・5 で 2割以上となっています。



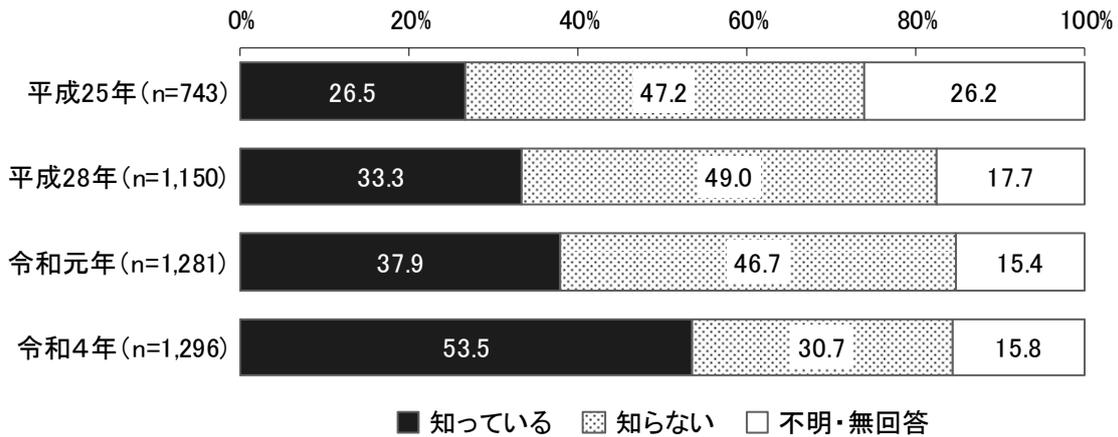
問 66 市、地域包括支援センターが、高齢者の権利を守るなど、高齢者や家族のための総合的な相談窓口であることを知っていますか。(単数回答)

総合的な相談窓口の認知度について、「知っている」が 53.5%、「知らない」が 30.7%となっています。



■ ■ 経年変化

経年でみると、平成 25 年以降「知っている」が高くなっており、令和元年と比べても 15.6 ポイント高くなっています。

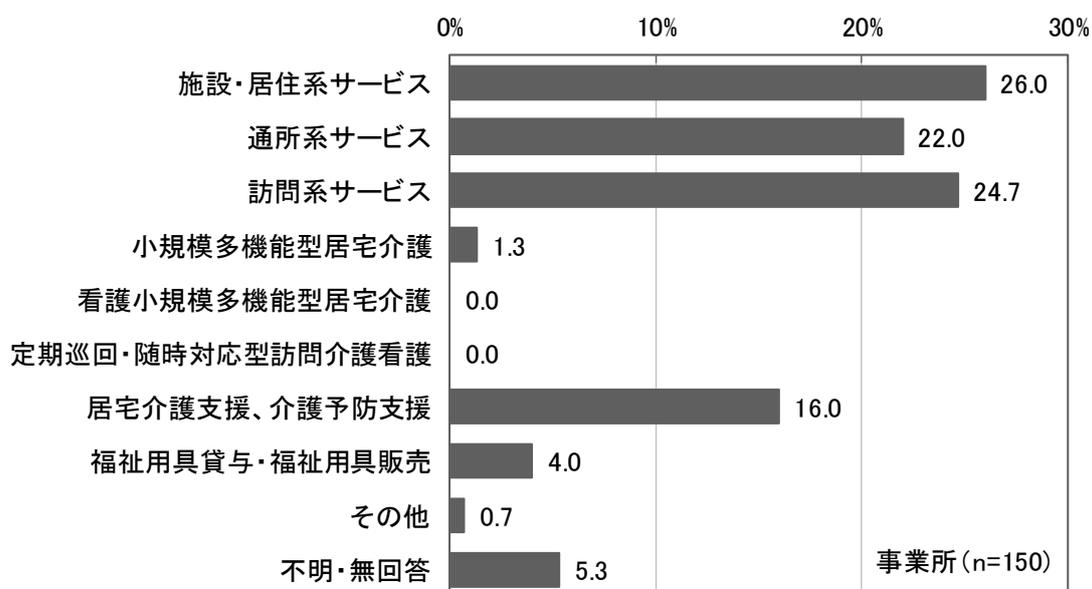


VI 事業所調査結果

1 事業所の概要について

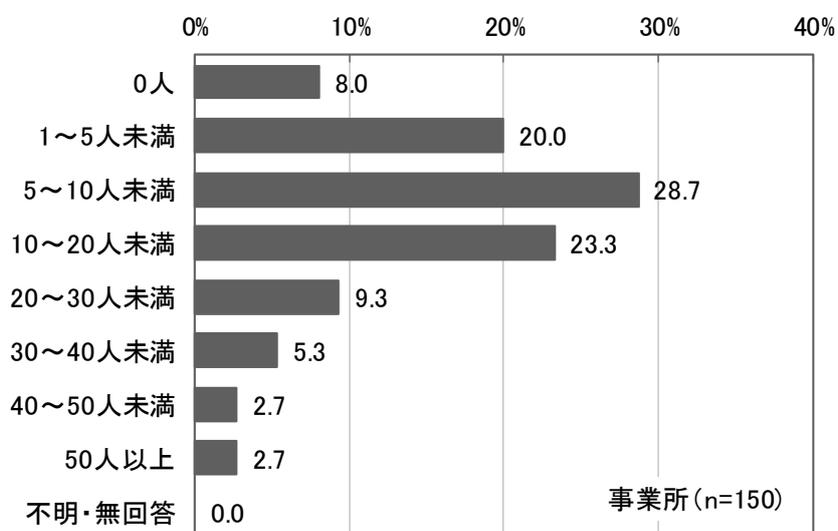
問1 貴事業所のサービス種別（介護予防を含む）をお答えください。（単数回答）

事業所のサービス種別について、「施設・居住系サービス」が26.0%と最も高く、次いで「訪問系サービス」が24.7%、「通所系サービス」が22.0%となっています。



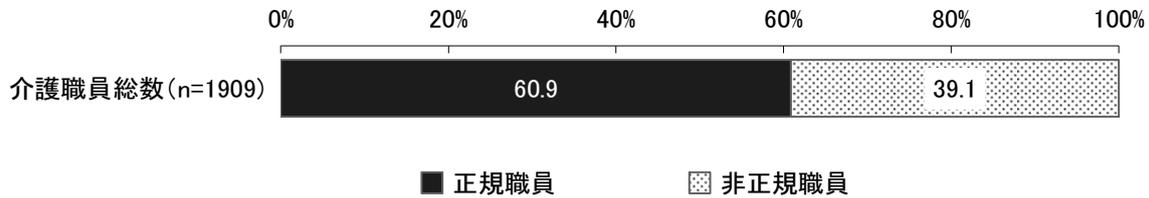
問2 貴施設等（問1で○をつけたサービス種別の施設等）に所属する介護職員の総数をご記入ください。（令和4年11月1日時点の人数を記入）（数量回答）

施設等に所属する介護職員について、正規職員・非正規職員を合算した総数は「5～10人未満」が28.7%と最も高く、次いで「10～20人未満」が23.3%、「1～5人未満」が20.0%となっています。



■ ■ 正規職員・非正規職員の比率

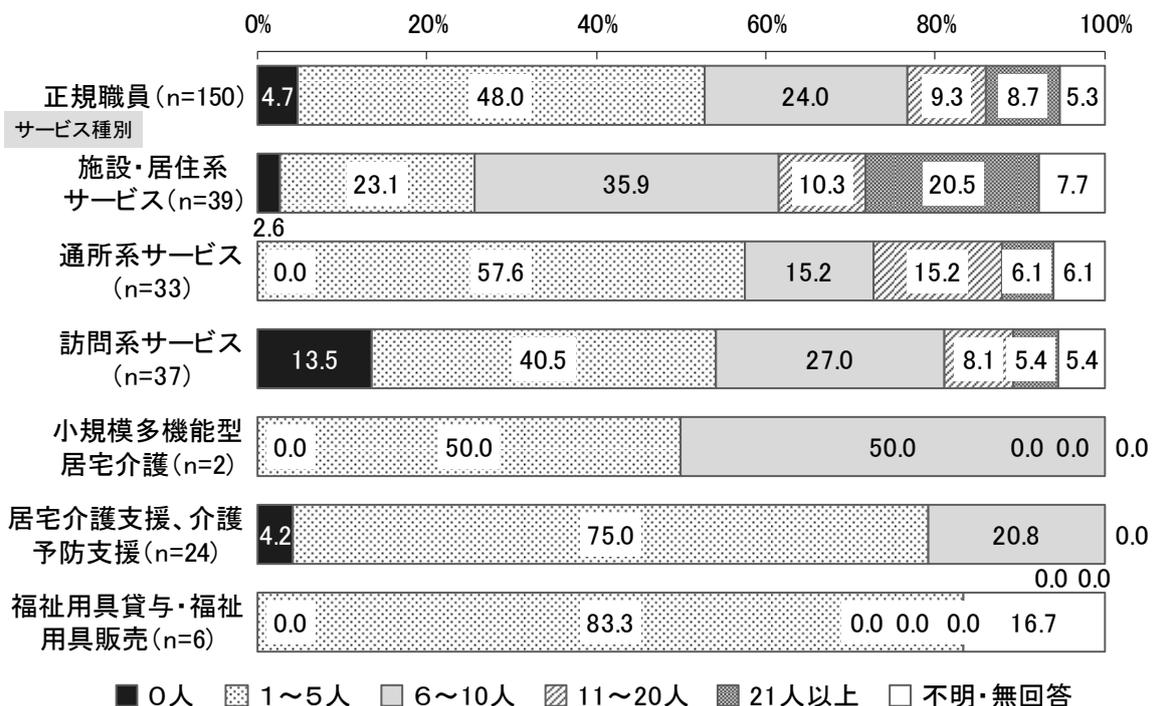
回答した事業所の介護職員すべてを合算すると、1,909人となっています。内訳は「正規職員」が60.9%、「非正規職員」が39.1%となっています。



■ ■ 正規職員

施設等に所属する介護職員の総数について、正規職員は「1～5人」が48.0%と最も高く、次いで「6～10人」が24.0%、「11～20人」が9.3%となっています。

サービス種別では、『施設・居住系サービス』では「6～10人」が、『通所系サービス』『訪問系サービス』『居宅介護支援、介護予防支援』で「1～5人」が、それぞれ最も高くなっています。なお、『施設・居住系サービス』で「21人以上」が20.5%と、他のサービス種別と比べて高くなっています。

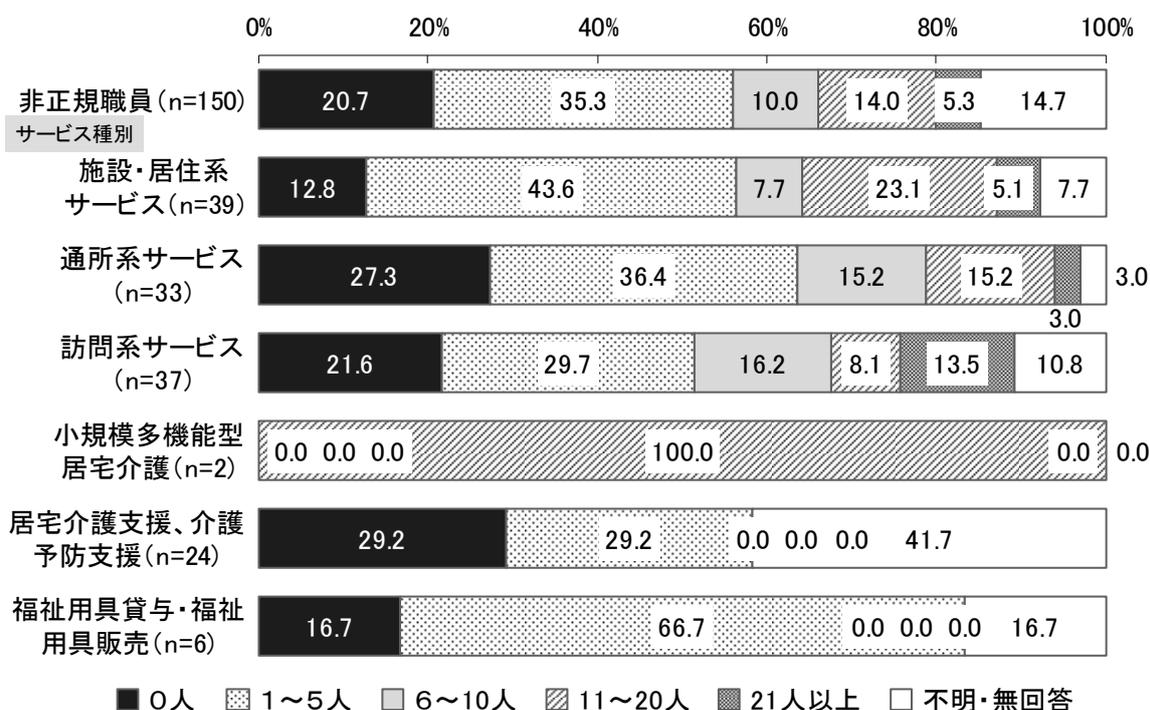


※「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」はそれぞれ0件であるため、掲載していません。

■ ■ 非正規職員

施設等に所属する介護職員の総数について、非正規職員は「1～5人」が35.3%と最も高く、次いで「0人」が20.7%、「11～20人」が14.0%となっています。

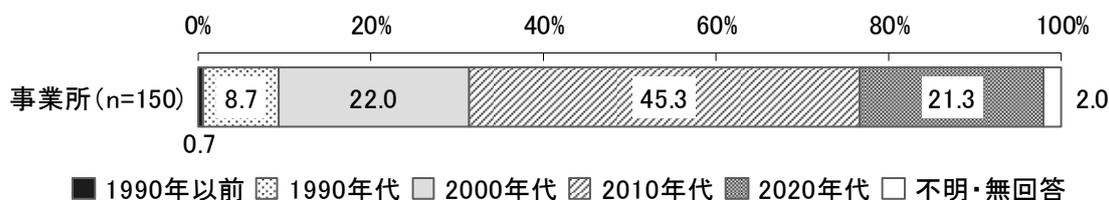
サービス種別では、『施設・居住系サービス』『通所系サービス』『訪問系サービス』で「1～5人」が、それぞれ最も高くなっています。なお、『訪問系サービス』で「21人以上」が13.5%と、他のサービス種別と比べて高くなっています。



※「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」はそれぞれ0件であるため、掲載していません。

問3 貴事業所・施設等の開設時期について、ご記入ください。(数量回答)

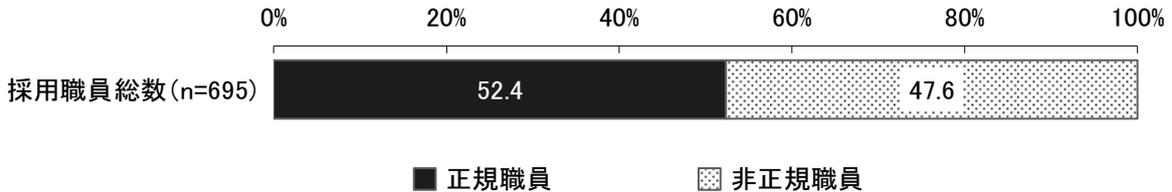
事業所・施設等の開設時期について、「2010年代」が45.3%と最も高く、次いで「2000年代」が22.0%、「2020年代」が21.3%となっています。



問4 過去1年間（令和3年11月1日～令和4年10月31日）の介護職員等の採用者数と離職者数をご記入ください。（数量回答）

■ ■ 採用者の正規職員・非正規職員の比率

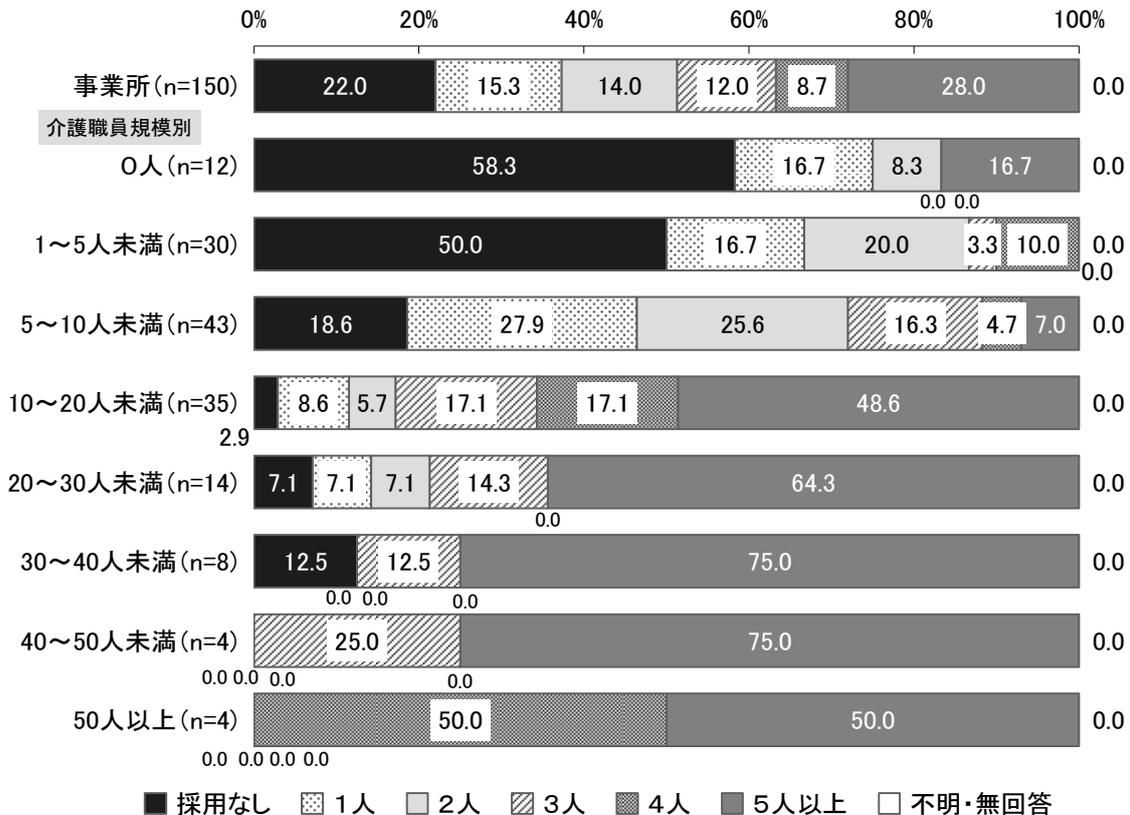
回答した事業所の過去1年間の介護職員等の採用者数すべてを合算すると、695人となっています。内訳は「正規職員」が52.4%、「非正規職員」が47.6%となっています。



■ ■ 介護職員規模別の採用者数

過去1年間の介護職員等の採用者数について、「5人以上」が28.0%と最も高く、次いで「採用なし」が22.0%、「1人」が15.3%となっています。

介護職員規模別では、介護職員規模が0人、1～5人未満で「採用なし」が50%を超えています。職員数が20人以上の施設等では「5人以上」が高くなっています。



■ ■ 離職者の正規職員・非正規職員の比率

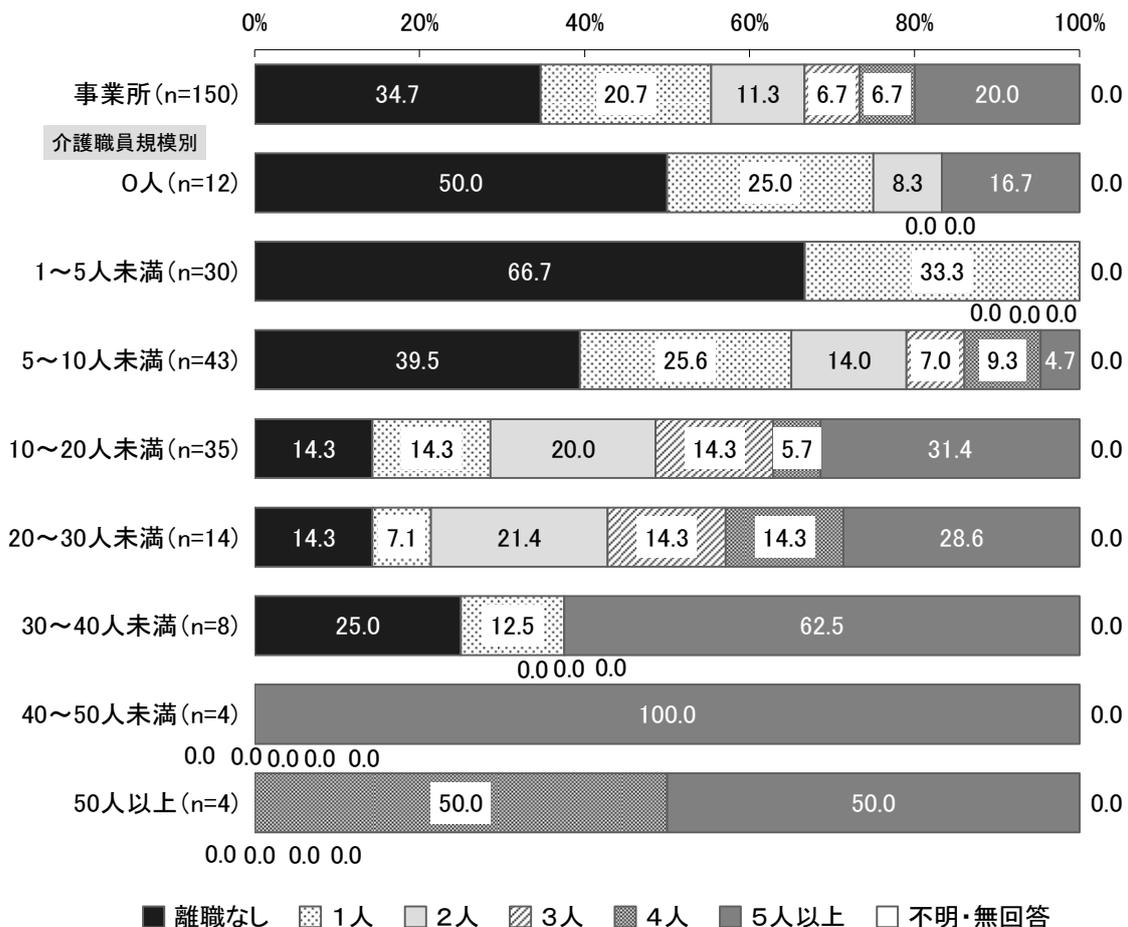
回答した事業所の過去1年間の介護職員等の離職数すべてを合算すると、406人となっています。内訳は「正規職員」「非正規職員」それぞれ50.0%ずつとなっています。



■ ■ 介護職員規模別の離職者

過去1年間の介護職員等の離職者数について、「離職なし」が34.7%と最も高く、次いで「1人」が20.7%、「5人以上」が20.0%となっています。

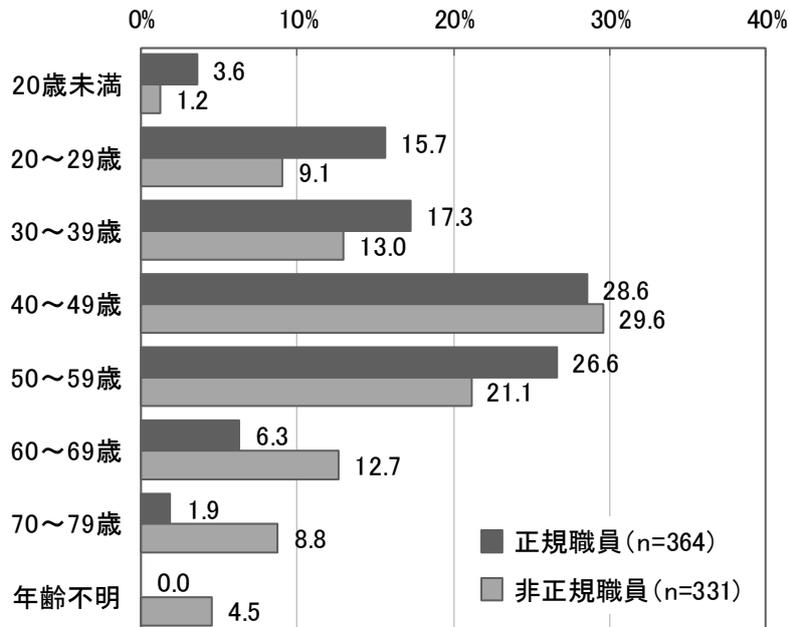
介護職員規模別では、介護職員規模が0人、1～5人未満で「離職なし」が50%を超えています。職員数が30人以上の施設等では「5人以上」が高くなっています。



問5 問4の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。
(数量回答)

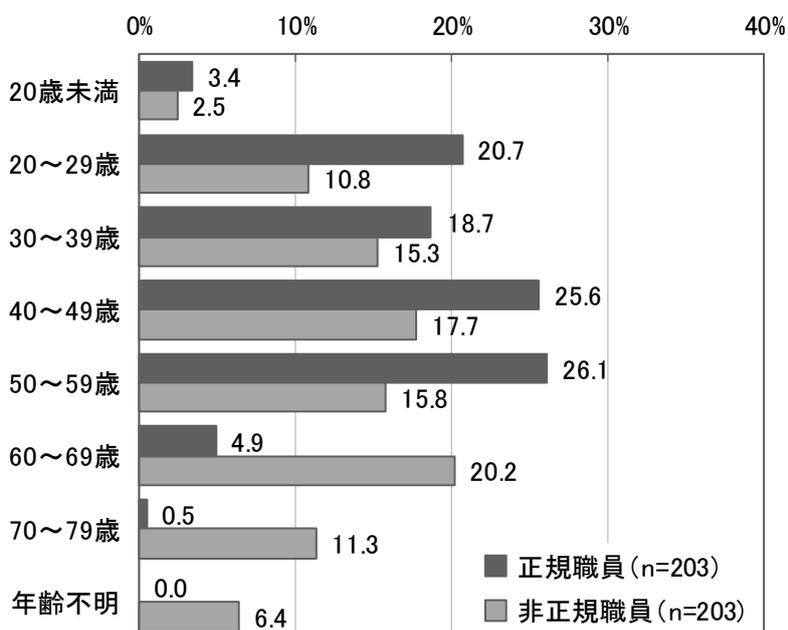
■ ■ 採用者の正規職員・非正規職員別の年齢

過去1年間の介護職員等の採用者数の年齢をみると、正規、非正規ともに「40～49歳」が最も高く、次いで「50～59歳」が高くなっています。



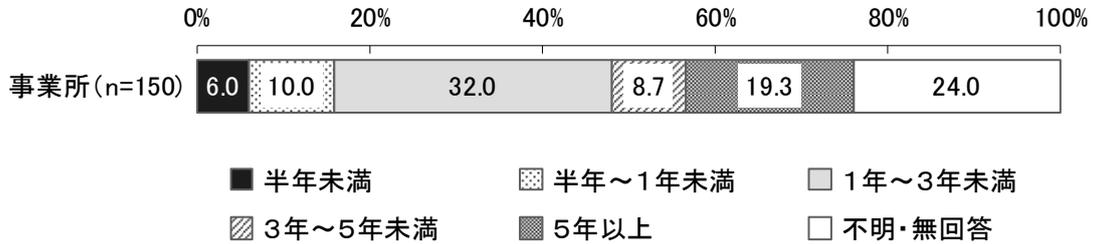
■ ■ 離職者の正規職員・非正規職員別の年齢

過去1年間の介護職員等の離職者の年齢をみると、正規職員では「50～59歳」が最も高く、次いで「40～49歳」となっています。非正規職員では「60～69歳」が最も高くなっています。



問6 離職者の平均勤続年数はどれくらいですか。(数量回答)

離職者の平均勤続年数について、「1年～3年未満」が32.0%と最も高く、次いで「5年以上」が19.3%、「半年～1年未満」が10.0%となっています。



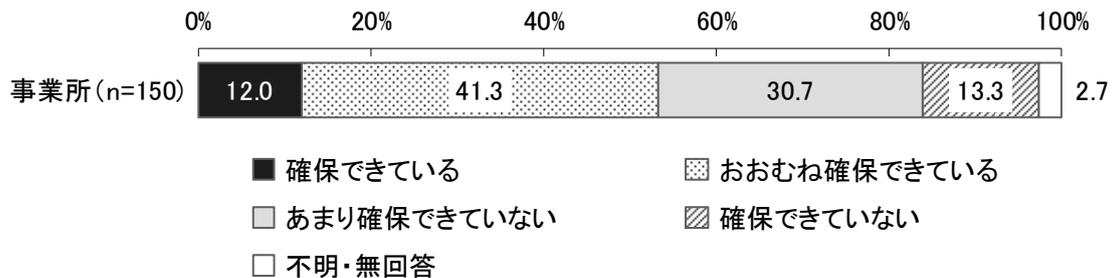
2 事業所の人材確保の状況について

問7 この1年間、貴事業所における介護人材の確保について、おおむねどのような状況ですか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

- 『確保できている』 … 「確保できている」と「おおむね確保できている」を合算
- 『確保できていない』 … 「あまり確保できていない」と「確保できていない」を合算

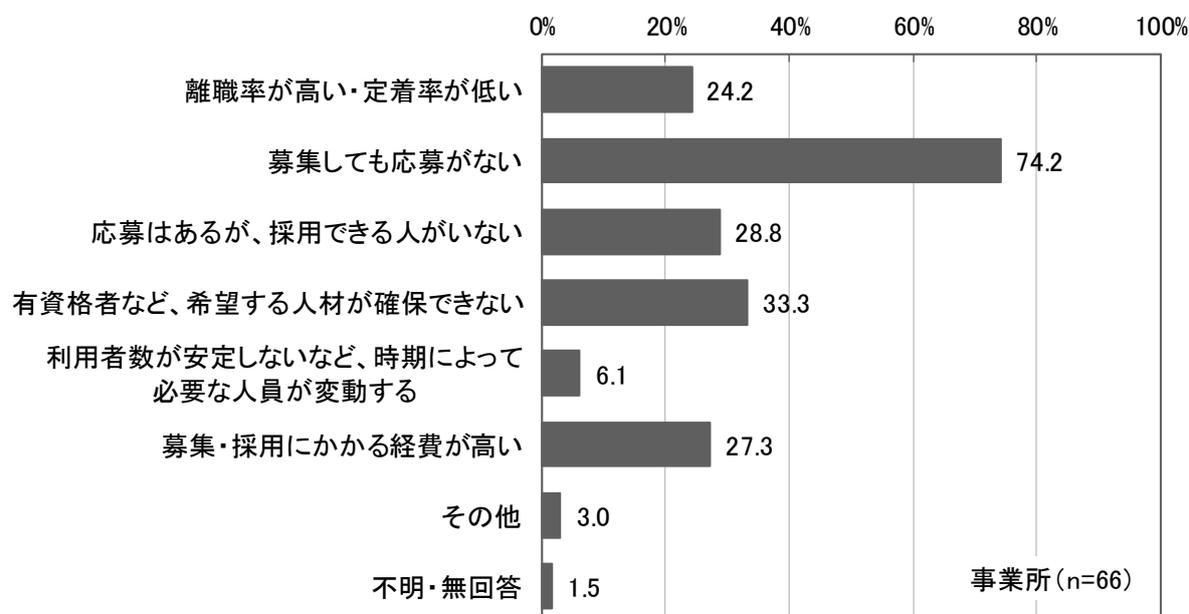
この1年間、事業所における介護人材の確保の状況について、『確保できている』が53.3%、『確保できていない』が44.0%となっています。



<問7で「あまり確保できていない」または「確保できていない」と回答した事業所のみ>

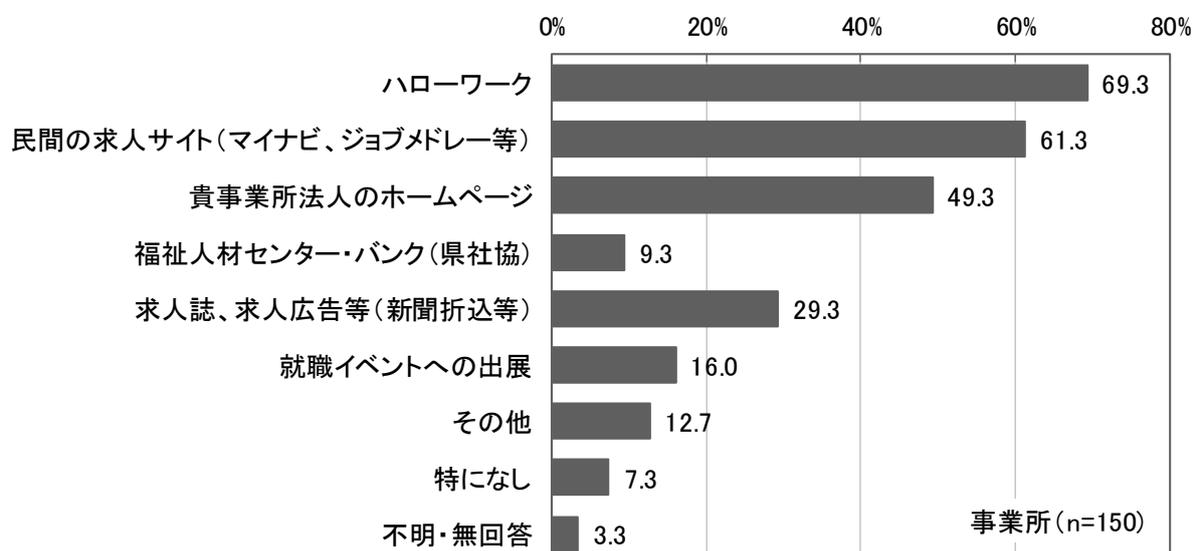
問8 介護人材が不足している主な理由をお答えください。(複数回答)

介護人材が不足している主な理由について、「募集しても応募がない」が74.2%と最も高く、次いで「有資格者など、希望する人材が確保できない」が33.3%、「応募はあるが、採用できる人がいない」が28.8%となっています。



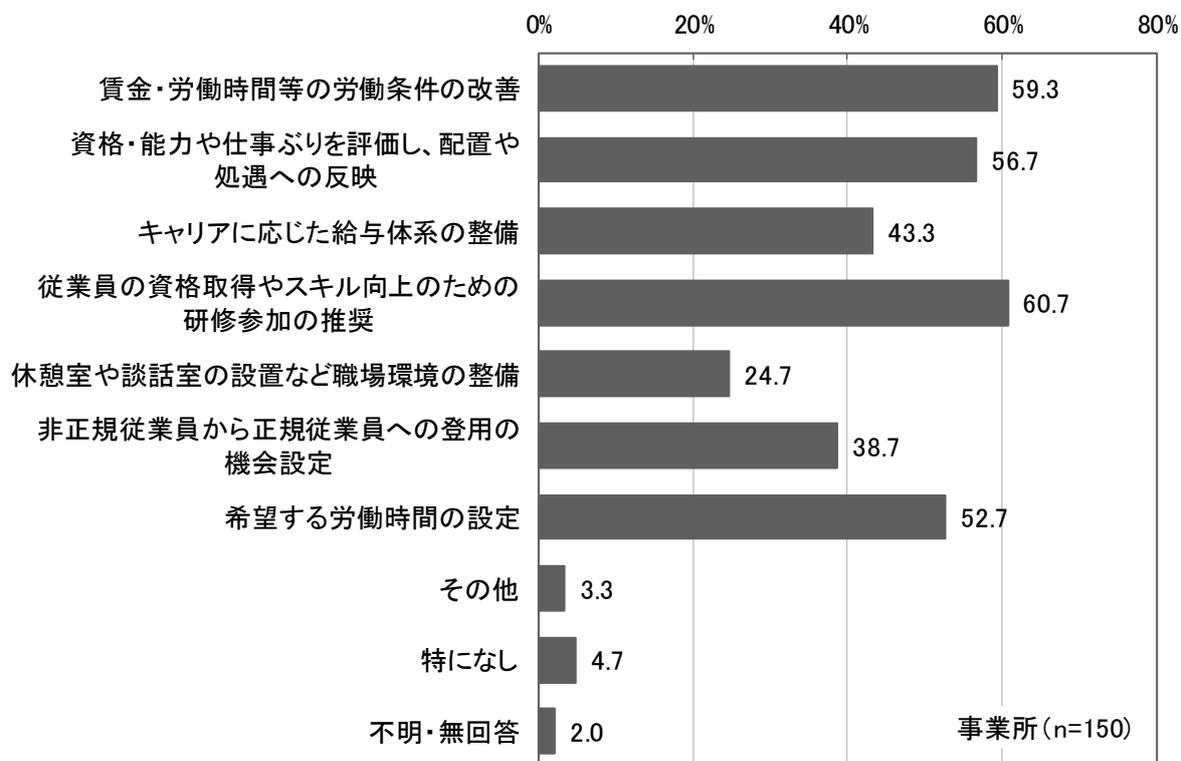
問9 貴事業所において、介護職員の求人に利用しているものは何ですか。(直近1年以内に利用) (複数回答)

介護職員の求人に利用している媒体について、「ハローワーク」が69.3%と最も高く、次いで「民間の求人サイト(マイナビ、ジョブメドレー等)」が61.3%、「貴事業所法人のホームページ」が49.3%となっています。



問10 貴事業所で人材を定着させるために取り組んでいることは何ですか。(複数回答)

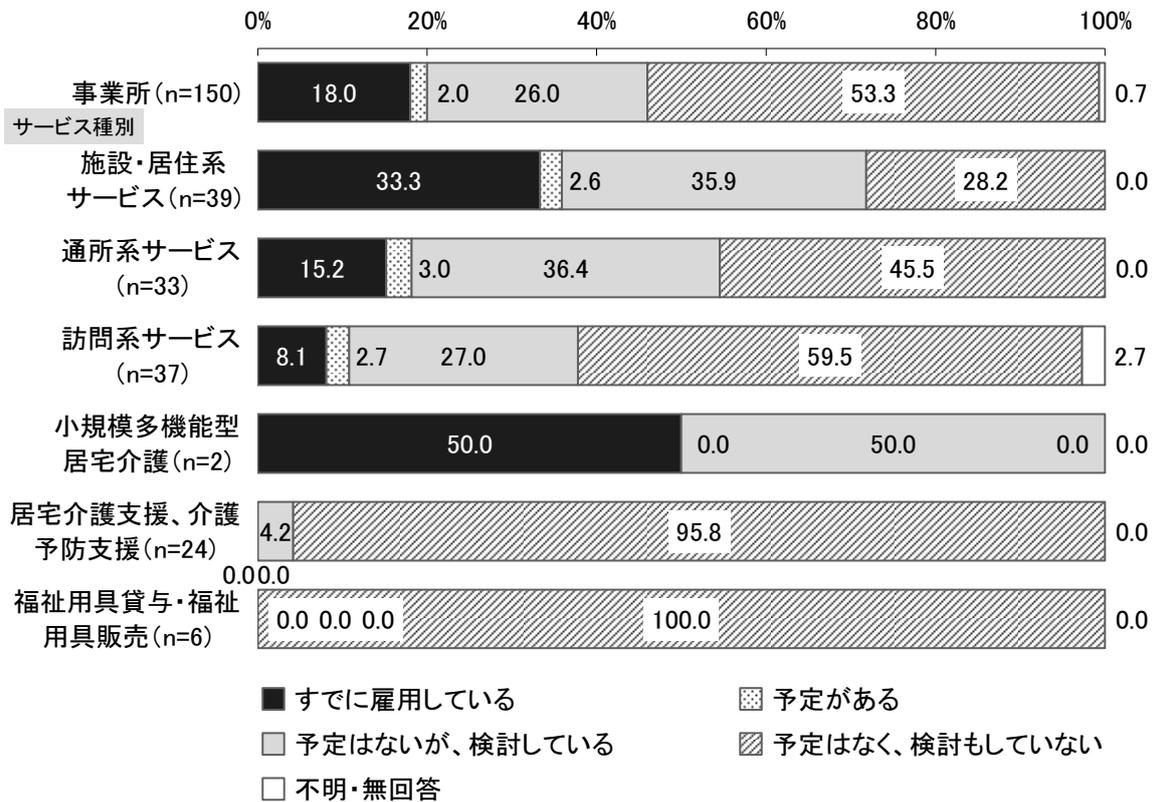
事業所で人材を定着させるために取り組んでいることについて、「従業員の資格取得やスキル向上のための研修参加の推奨」が60.7%と最も高く、次いで「賃金・労働時間等の労働条件の改善」が59.3%、「資格・能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇への反映」が56.7%、「資格・能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇への反映」が56.7%となっています。



問11 貴事業所において、外国人従業者を雇う予定はありますか。(単数回答)

外国人従業者を雇う予定について、「予定はなく、検討もしていない」が53.3%と最も高く、次いで「予定はないが、検討している」が26.0%、「すでに雇用している」が18.0%となっています。

サービス種別では、「予定はなく、検討もしていない」が『施設・居住系サービス』で28.2%、『通所系サービス』で45.5%、『訪問系サービス』で59.5%となっています。



※「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」はそれぞれ0件であるため、掲載していません。

<問11で「すでに雇用している」と回答した事業所のみ>

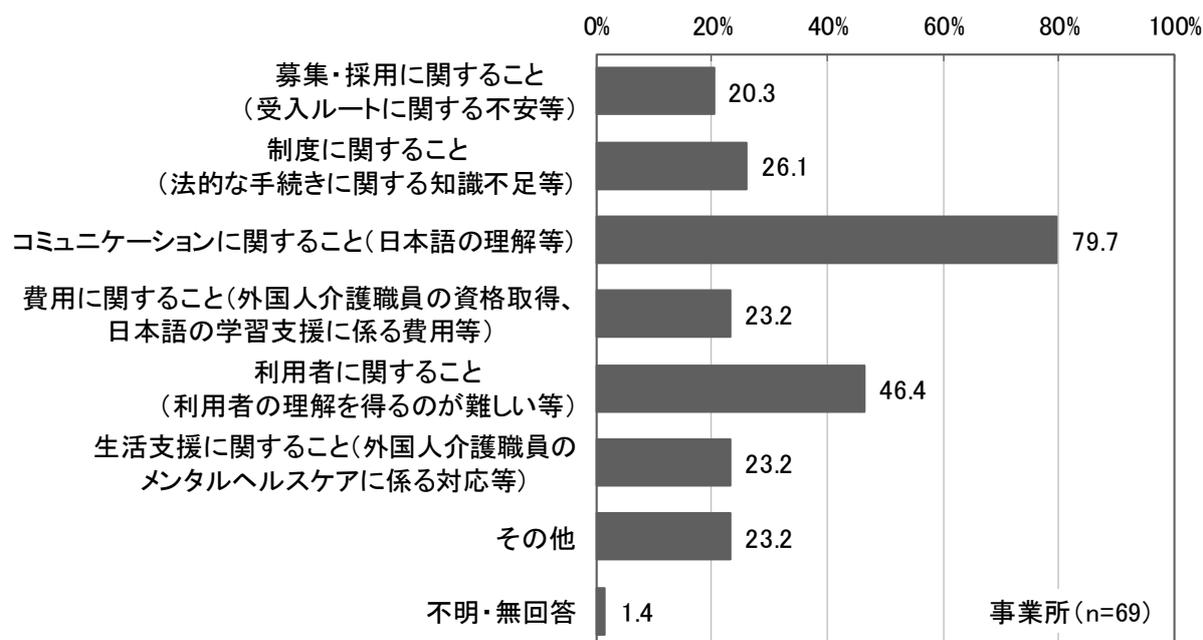
問12 外国人従業員を雇用するにあたって、特に苦慮した点等をご記入ください。(自由記述)

特に苦慮した点等
■ 言語、コミュニケーション能力、文化の違いに関すること
言葉
言葉・コミュニケーション、文化
言葉のアクセント、言葉使い
言葉の壁
言葉の理解について
言葉や習慣の違い、利用者様によっては人種差別的なことを言って介護拒否があり、苦慮しました。
利用者とのコミュニケーション
日本語の理解
なかなか日本語が伝わらないこと。
ご利用されている方の方言などが理解できない場面がある。
コミュニケーション。説明したことに相手が理解していないことがよくある。
以前雇用した経験あり。現在家庭の事情により退職。海外の実家に帰国されることがある。コロナの影響があり、当初の日本へ戻る予定よりも遅れていたため、いつ日本へ戻られるのか等聞く際には時差等があるので、思うようにいかないことも。
お国柄で仕事より家族が大事。すぐ仕事を休む。利用者の人数が多いため名前が覚えられない。漢字が読めない。
■ その他
記録等の書物や漢字の入った掲示物への配慮。
民間の求人サイトを見ての応募だった。在日20年以上だったので特に苦慮したことはないが、読めない漢字は仮名をふる等の配慮はしました。
雇用をする際には在留カードの確認がどこを見ればいいのかわからず、戸惑った。また外国の方を雇用するにあたり、どのような手順が必要かわからず手間取った。
宗教に関わること。
間接経費。日本語の習得具合とコミュニケーション能力を計る。

<問11で「すでに雇用している」「予定がある」「予定はないが、検討している」のいずれかに回答した事業所のみ>

問13 外国人従業員を雇用するにあたって、特に問題となった点もしくは懸念している点は何ですか。(複数回答)

外国人従業員を雇用するにあたって、特に問題となった点もしくは懸念している点について、「コミュニケーションに関すること(日本語の理解等)」が79.7%と最も高く、次いで「利用者に関すること(利用者の理解を得るのが難しい等)」が46.4%となっています。



<問11で「予定はなく、検討もしていない」と回答した事業所のみ>

問14 検討していない理由を以下にご記入ください。(自由記述)

検討していない理由
■ 専門知識やスキルの問題
専門職のため。
専門性が必要。
介護支援専門員の資格が必要だから。
看護師資格を有する者しか就業できない。
資格を持つ外国人の方が少ないと考えるため、現在は検討していない。
専門職が必要なので、外国人の専門職はあまりいないと思われる。
専門職の募集をかけているが、今までそのような問い合わせがなかったため。
訪問看護という特殊性、専門性から人材確保が困難と考えています。
個人の家に訪問するので、運転技術や個人のスキルが必要になるため。
訪問先で1対1のサービスを行うため、言葉などのコミュニケーション力や文化の違いが影響大と考えている。それらをクリアしている場合は可能だが(面接後、受入実績あり)、あえては検討せず。
利用者対ヘルパーの1対1に係わる訪問介護は習慣や言葉等まだまだ高齢者の方には受け入れが困難。

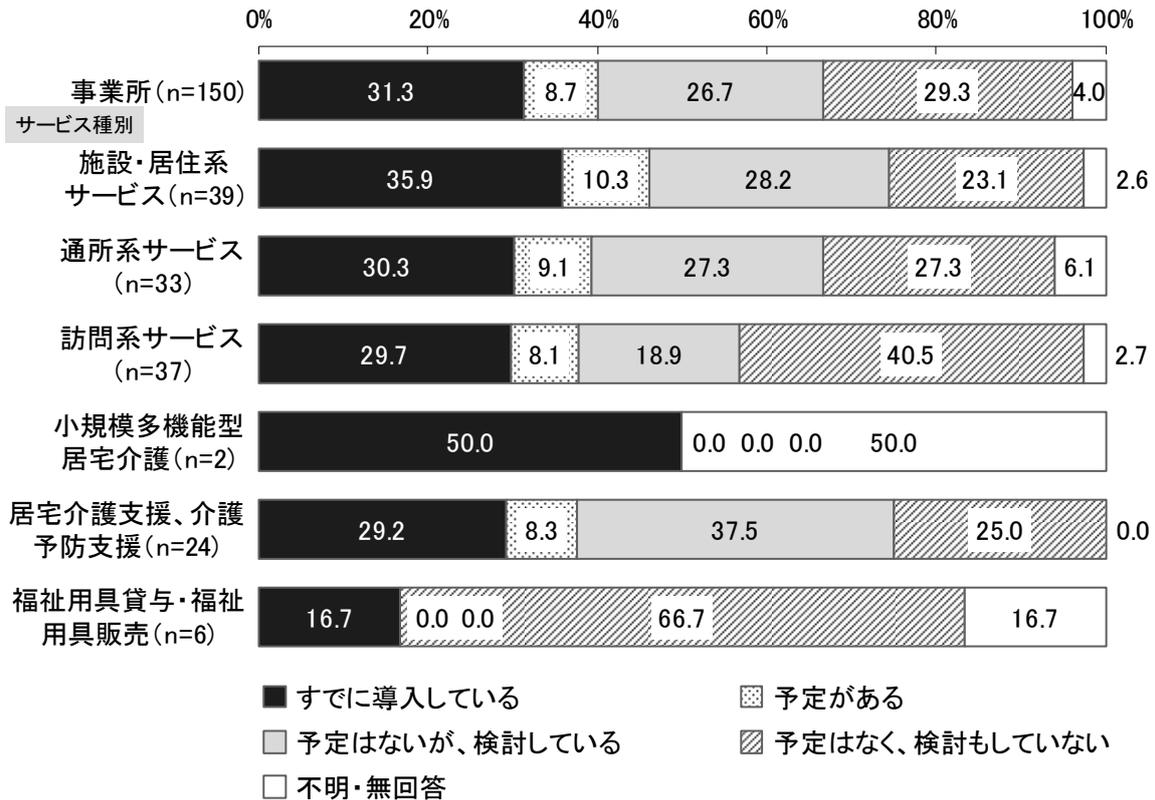
検討していない理由
資格を要するものであり、文化の違いなどもある。
精神科看護に特化した訪問を行っており、精神疾患や、対象への対応の経験を積んだ方を重視しているところもあり、単に考えたことがない。
接客スキルが必要なので、外国人には日本人特有のニュアンスがわからないと判断。
相談業務で制度を扱うため、外国人へは制度説明等のハードルが高いと感じるため。
■ コミュニケーションの問題
1対1の訪問介護で、特にコミュニケーション能力が求められるため。
医師・看護師との専門用語を使つてのコミュニケーションがとても重要であり、日本語が不慣れな外国人従業員では困難であると考え。
外国人従業員を雇用していたが、仕事に対する考え方の違い等があり、歩み寄り妥協点を見出そうとしたが、結果的に日本人従業員、外国人従業員の双方が疲れ果ててしまった。また、会話は流暢でも記録等の記載に苦労している様子が見られた。
教育、指導の難しさ、コミュニケーションの難しさ等から。
言葉、習慣の違いで難しい。
言葉の問題、文化の違いによるコミュニケーションの違い。
言葉や生活習慣が違うため。
言葉と習慣の違いが不安なため。
日本語理解がどこまでか不明確なため。
日本の制度、心配りなど理解力がない。日本語の理解がなく、介護はできない。
コミュニケーションに難が出るといけないので。
文化の違い。
訪問介護なので、ヘルパーと利用者1対1でのケアの中で、コミュニケーションが難しいのでは？と思う。
対象者に対する接遇や面接技法において、日本の文化や風習についての理解が必要と考えている。
■ 受け入れ態勢の問題
今現在は、外国人従業員を雇う環境が整っていないため。
今現在は外国人従業員を雇う環境になっていないため。
現状では、教えていくことが難しいと思うので。
受入体制が整っていないため。
研修等に対応する人員不足
スタッフ人数が少なく、教育が十分にできない。
指導者不足
従業員数が少なく、1人で担う割合が多く、外国の方に介護以外の業務を任せにくい。
■ 会社の方針
現段階での法人方針。
採用に関しては法人内の人事担当係が担当。
事業所職員の採用は法人が行い、配属も法人が決定しているため。
新規採用をする予定がないため。
人事に関しては本社への稟議書の提出があり、一事業所で検討しても、採用まで到らない。
前例がなく、外国人に対して不安がある。(本部の考え)
■ 人材が確保できている
確保できている。
現状、職員が充足している。

検討していない理由
従業員が充足しているため。
人材確保できているため。
人材はおおむね確保されているため。コミュニケーションや生活習慣等不安がある。
■ 働く外国人側の問題
以前、外国人従業者がいたが、いいイメージがない。遅刻する、無断欠勤など、コミュニケーションも図りづらい。
以前採用したことがあるが、自由に動き、注意すると「私の国はこうだ」と言って改善が見られなかった。また、当日になり今日は休むと連絡があり、仕事に穴をあけることが多かった。
以前雇った際、時間にルーズ、すぐ「分からない」と責任を逃れるなどあり、トラブルに。
以前雇っていたが、遅刻や仕事に対しての考え方が良い意味で悪く、トラブルになったため。
■ 資格を持つ外国人の情報がない
ケアマネの応募がない。
外国人のケアマネジャーは聞いたことがない。
資格のある外国人を聞いたことはない。
介護支援専門員の資格取得者の外国人の情報がないため。
■ 必要性がない
居宅には必要性なし。
特に必要ないから。
必要性がないため。
■ その他
検討はしていないが、面接の機会があれば面接を行い、コミュニケーションが十分に取れると判断した場合は採用も考えたい。
機会がないため
職種がなじまないとされるため。
将来的には外国人従業員を雇用しなければならない状況になっていくと思う。また、全国的にそのような動きになってきている。
デイサービスでの日本人スタッフのニーズが多いから。
特に国籍にこだわりがないため。

問15 貴事業所において、ICTやAI、ロボットなどを導入する予定はありますか。
(単数回答)

ICTやAI、ロボットなどを導入する予定について、「すでに導入している」が31.3%と最も高く、次いで「予定はなく、検討もしていない」が29.3%、「予定はないが、検討している」が26.7%となっています。

サービス種別では、『居宅介護支援、介護予防支援』が「予定はないが、検討している」が37.5%と、他のサービス種別と比べて高くなっています。

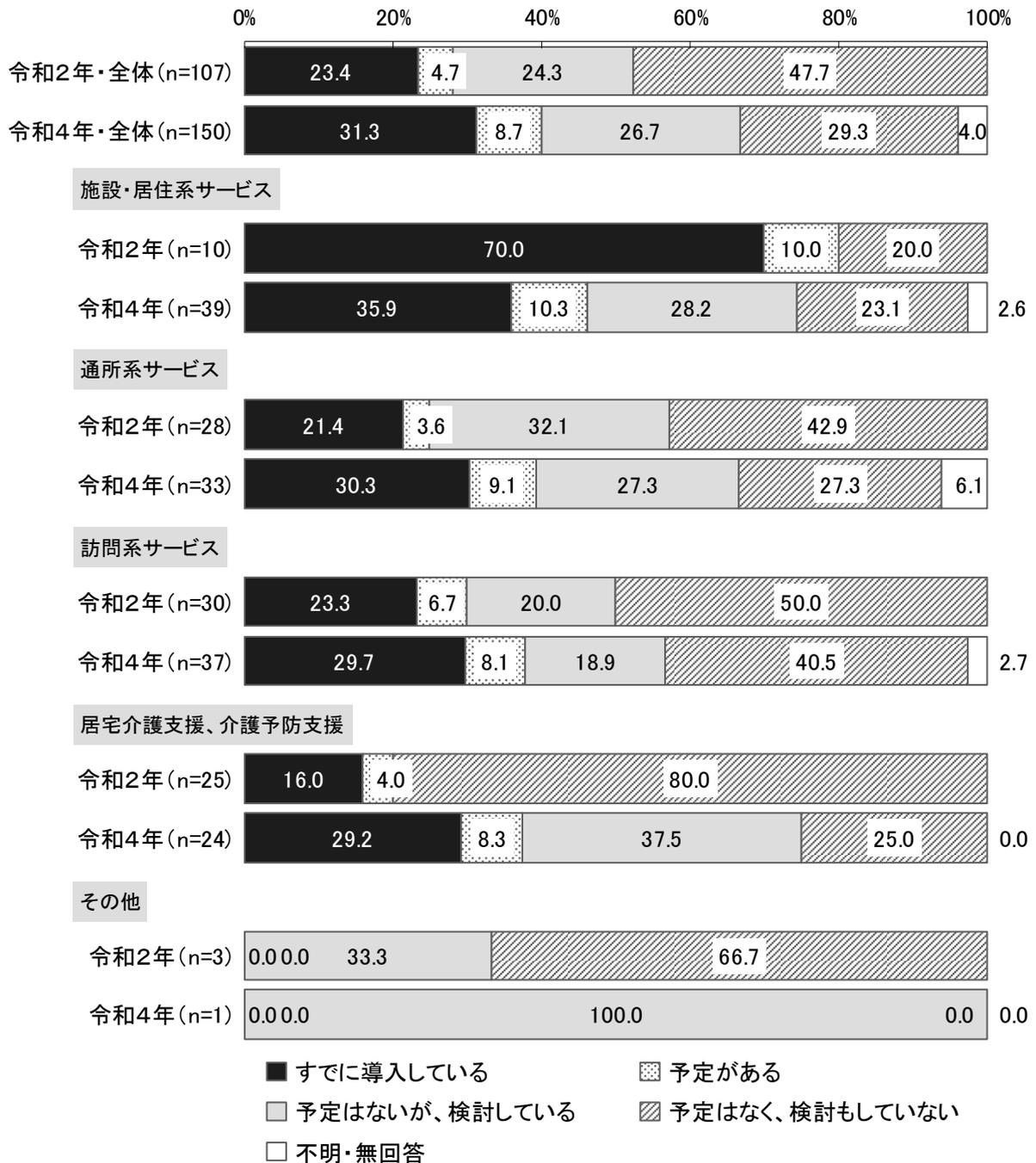


※「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」はそれぞれ0件であるため、掲載していません。

■ ■ 経年変化

経年変化をみると、令和2年と比べて「予定はなく、検討もしていない」が29.3%と18.4ポイント低くなっています。

サービス種別では、『施設・居住系サービス』『その他』を除き、「すでに導入している」が高くなっています。



※令和2年調査では、『施設・居住系サービス』『居宅介護支援、介護予防支援』において、選択肢の「予定はないが、検討している」はありません。

※令和2年調査では、『小規模多機能型サービス』の回答は0件でした。

※令和2年調査では、事業所種別『短期入所系サービス』は別集計のため掲載していません。

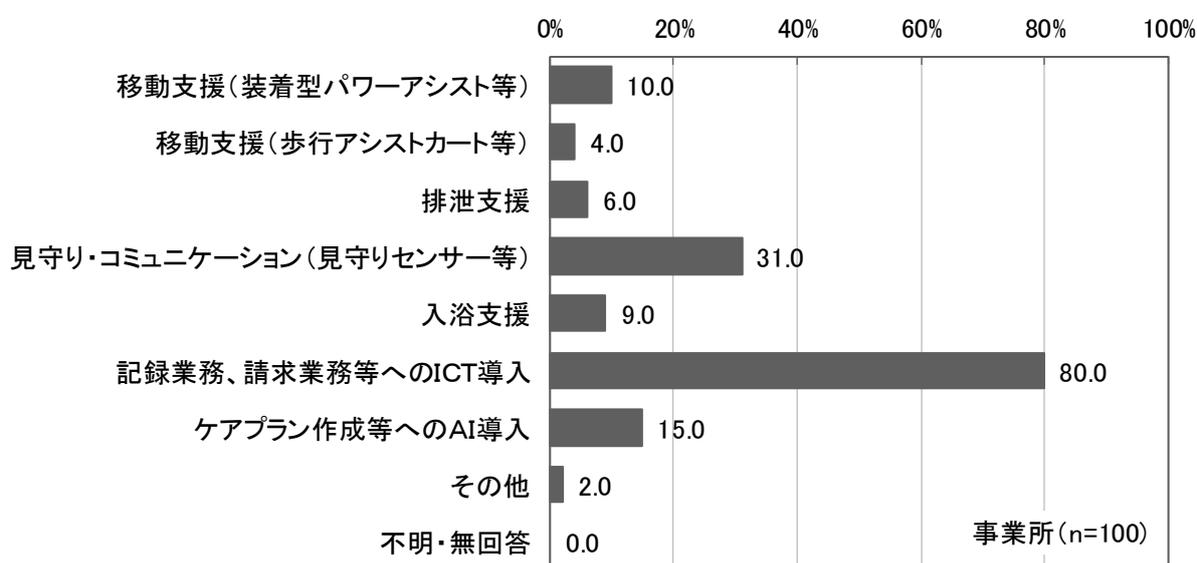
※令和2年調査では、「不明・無回答」はありません。

<問15で「すでに導入している」「予定がある」「予定はないが、検討している」のいずれかに回答した事業所のみ>

問16 すでに導入している、もしくは導入したいと思っているICTやAI、ロボットは何ですか。(複数回答)

すでに導入している、もしくは導入したいと思っているICTやAI、ロボットについて、「記録業務、請求業務等へのICT導入」が80.0%と最も高く、次いで「見守り・コミュニケーション（見守りセンサー等）」が31.0%となっています。

サービス種別では、『施設・居住系サービス』『通所系サービス』『訪問系サービス』で「記録業務、請求業務等へのICT導入」「見守り・コミュニケーション（見守りセンサー等）」が、『居宅介護支援、介護予防支援』では「記録業務、請求業務等へのICT導入」「ケアプラン作成等へのAI導入」がそれぞれ上位となっています。



■サービス種別

(単位:%)	n=	移動支援(装着型パワーアシスト等)	移動支援(歩行アシストカート等)	排泄支援	見守り・コミュニケーション(見守りセンサー等)	入浴支援	記録業務、請求業務等へのICT導入	ケアプラン作成等へのAI導入	その他	不明・無回答
サービス種別										
施設・居住系サービス	29	17.2	3.4	10.3	58.6	17.2	55.2	13.8	0.0	0.0
通所系サービス	22	18.2	9.1	0.0	31.8	4.5	95.5	18.2	0.0	0.0
訪問系サービス	21	4.8	4.8	9.5	14.3	9.5	81.0	4.8	9.5	0.0
小規模多機能型居宅介護	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
居宅介護支援、介護予防支援	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.4	27.8	0.0	0.0
福祉用具貸与・福祉用具販売	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

※「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」はそれぞれ0件であるため、掲載していません。

<問15で「予定はなく、検討もしていない」と回答した事業所のみ>

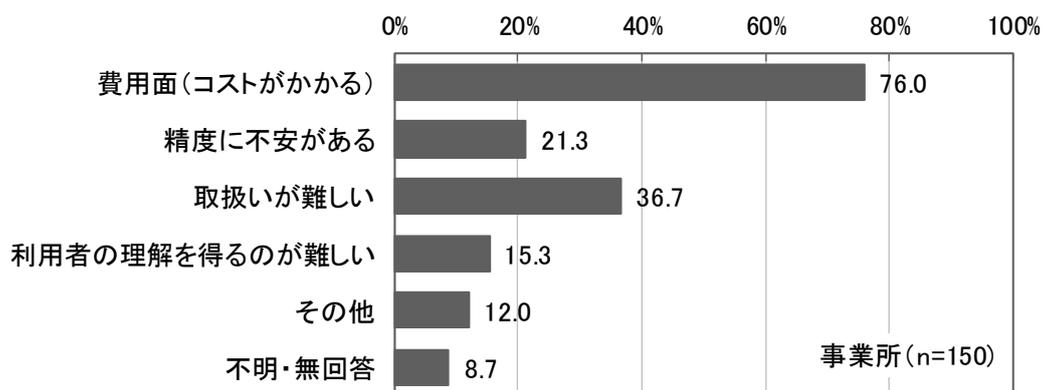
問17 検討していない理由を以下にご記入ください。(自由記述)

検討していない理由
■ コスト面の問題
コストの面で検討していない。
コスト面。
費用がかかるため。
費用がかかるというのが大きい。
予算の問題。
経済的に考えていない。
設備投資をする余力がないため。
導入する費用の捻出が厳しいことに加え、システムを扱うことが難しいと考えるため。
理解者不足、コストがかかる
スタートして半年、資金繰りが大変。スマホは連絡ツールとして活用。
■ 必要性がない・感じられない
特に必要性を感じない。
特に必要ないから。
必要ないため。
必要にせまられていないため。
現在のところ、必要性を感じていないです。AIを使い色々解析をしたいのですが、結局レセプト、指示書など紙ベースが多いため、手間がかかりそうです。
■ 会社の方針
事業所としては、導入してもらいたくても本社の許可がおりないと聞いています。
会社の方針。

検討していない理由
本社が判断しているため。
本社判断のため。
■ 感情面の不安
感謝(喜怒哀楽)が感じられない。
認知症の方達がほとんどなので不安にさせたくない。
人の感情が感じられない。
■ その他
活用できる見込みがないため。
スタッフが使いこなせるか分からない。
人材不足で、現場のサービスが多く余裕がない。
エラーや故障時の管理が難しいと考えられるため、導入には消極的です。
介護関係の事業所ではないため。
■ 導入検討の余地はある
良いものがあれば導入したい。
検討まで至っていないため。
内容を検討。
AIの分析には興味はあるが人の細かな感情、またその変化、人間関係を踏まえたプランの作成は人間の手が必要と思われるので、AIが分析したものの再調整を人間が行うことになるかも勝手に推測する。どのようなものか、どのような結果が出るのか、知りたい思いはある。決して否定ではない。

問18 ICTやAI、ロボットを導入するにあたって、特に問題となった点もしくは懸念している点は何ですか。(複数回答)

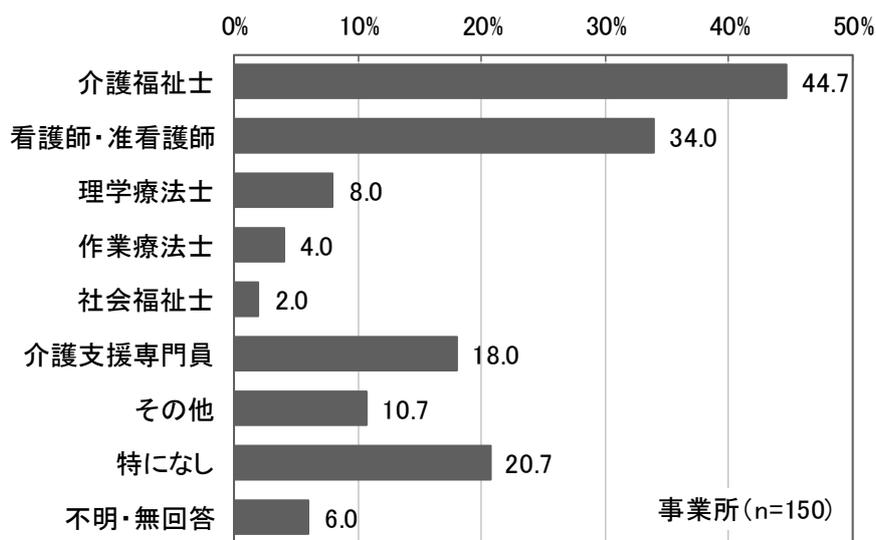
ICTやAI、ロボットを導入するにあたって、特に問題となった点もしくは懸念している点について、「費用面(コストがかかる)」が76.0%と最も高く、次いで「取扱いが難しい」が36.7%、「精度に不安がある」が21.3%となっています。



問 19 貴事業所で不足している専門職種がある場合、その専門職種は何ですか。(複数回答)

事業所で不足している専門職種について、「介護福祉士」が 44.7%と最も高く、次いで「看護師・准看護師」が 34.0%、「特になし」が 20.7%となっています。

サービス種別では、『施設・居住系サービス』『通所系サービス』『訪問系サービス』で「介護福祉士」「看護師・准看護師」が、『居宅介護支援、介護予防支援』では「介護支援専門員」がそれぞれ上位となっています。



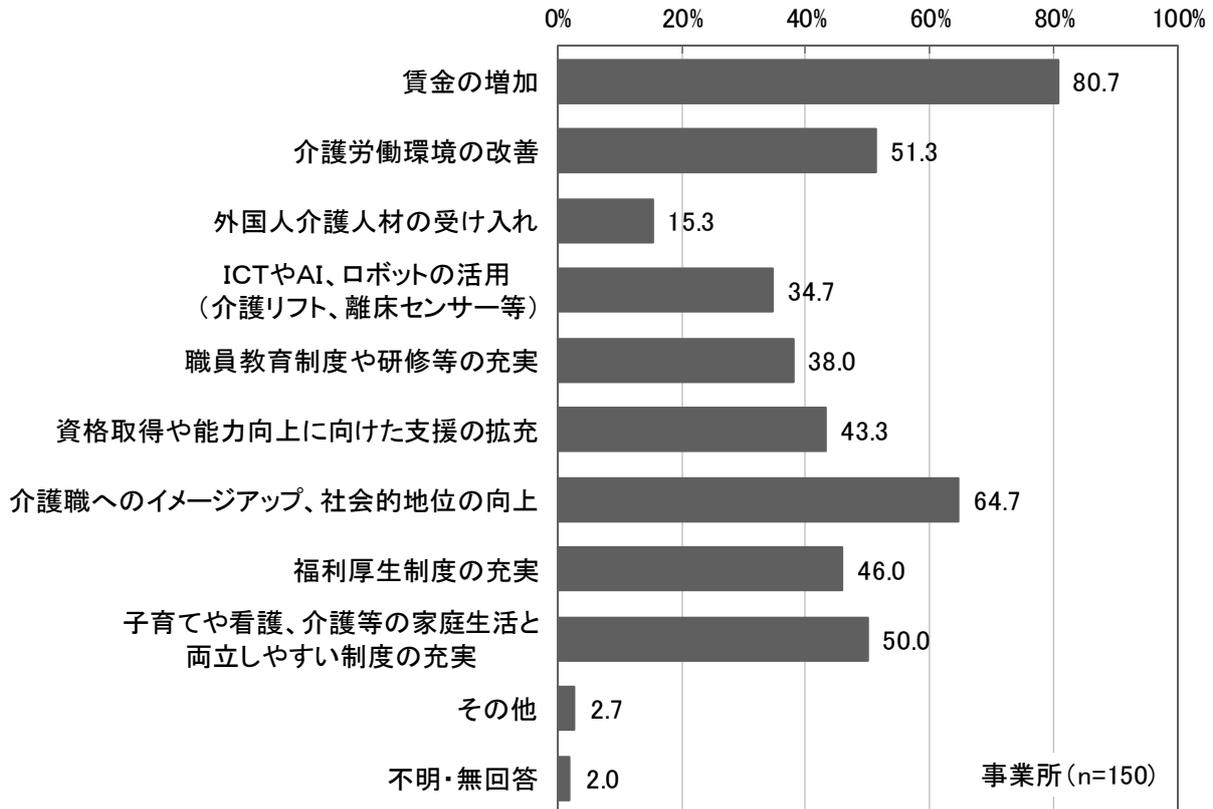
■サービス種別

(単位: %)	n=	介護福祉士	看護師・准看護師	理学療法士	作業療法士	社会福祉士	介護支援専門員	その他	特になし	不明・無回答
サービス種別										
施設・居住系サービス	39	69.2	48.7	12.8	2.6	0.0	15.4	5.1	17.9	2.6
通所系サービス	33	54.5	45.5	15.2	9.1	3.0	6.1	12.1	18.2	6.1
訪問系サービス	37	35.1	32.4	5.4	5.4	0.0	2.7	21.6	21.6	5.4
小規模多機能型居宅介護	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居宅介護支援、介護予防支援	24	8.3	8.3	0.0	0.0	4.2	62.5	4.2	16.7	12.5
福祉用具貸与・福祉用具販売	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	50.0	16.7
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

※「看護小規模多機能型居宅介護」「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」はそれぞれ0件であるため、掲載していません。

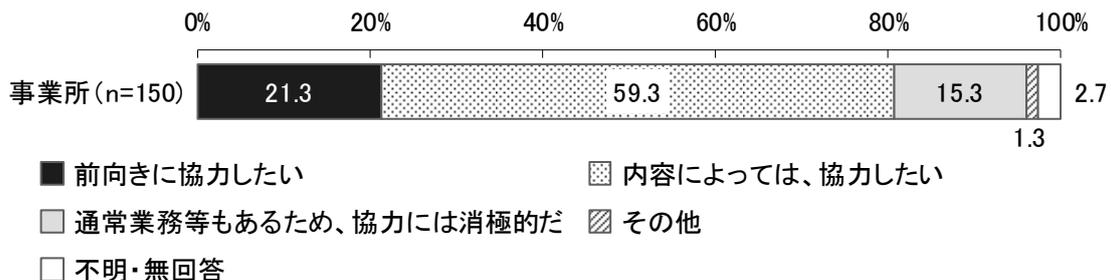
問20 今後、介護人材の不足を解消するための取組として、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

今後、介護人材の不足を解消するための取組として必要なことについて、「賃金の増加」が80.7%と最も高く、次いで「介護職へのイメージアップ、社会的地位の向上」が64.7%、「介護労働環境の改善」が51.3%となっています。



問21 当市においても介護職の魅力発信等に関する取組を検討しているところですが、当市のそのような取組への事業所としての協力についてお聞かせください。(単数回答)

市の取組への事業所としての協力について、「内容によっては、協力したい」が59.3%と最も高く、次いで「前向きに協力したい」が21.3%、「通常業務等もあるため、協力には消極的だ」が15.3%となっています。



問22 介護人材の確保は、今後の介護業界において非常に重要な課題です。人材確保に関する本市への要望や実施すべき取組等のご意見があればご記入ください。(自由記述)

人材確保に関する市への要望や実施すべき取組等の意見	
■ 待遇の改善・業務負担の軽減	
介護支援専門員には処遇改善もベースアップもなく、特定を取って何とか給与を出したくても出せない状況です。人材を確保するために年収の30%を紹介料でとられる現実。小さい事業所は淘汰されます。市民だよりに求人掲載したい。	
介護職員の処遇改善のため、刈谷市独自の賃金に対する補助金を検討してほしい。	
介護報酬の値上げ。	
介護保険改正ごとに書類が必要+データ入力が多くなるため、現場の負担軽減を国に働きかけてほしいです。給与面を上げられるよう報酬単価を上げてほしい。加算を加えないと収入が上がらない仕組みは、書類が増えて現場が厳しくなる一方です。	
確保も大事だが、離職、転職の方が大きな問題である。そもそも資格が必要なのに低賃金設定の介護保険料がおかしい。	
業務以外の書類提出を減らしてほしい。	
ケアマネジャーの数が不足しているの、離職を踏みとどまるような賃金を実現するために、補助金等の制度をつくってほしいです。ケアマネジャーが抱えているストレスを少しでも軽減できるよう研修体制も構築してほしいです。	
自社のような株式会社は社会福祉法人と違い非課税の対象とならないので、経営面でも厳しい。そのため、人材募集の際にも社会福祉法人ほど賃金アップ等ができづらい。そのあたりも考慮して対策案を考えてほしいと思っています。	
処遇改善の取得等の活用による賃金上昇及び労働環境の整備	
■ 介護職のイメージアップ、PR、就職フェアの開催	
介護職のイメージアップを積極的にやってほしい。若い人達が楽しくイキイキと働けるとか、19歳のスタッフがいますが、髪を金髪に染めています。勤める時の彼女の条件がこの髪でいいですかとの事でした。利用者さんの受けとめを心配しましたが、利用者さんはカッコ良いねと好意的で孫のように可愛がられています。	
介護職へのイメージアップ、研修制度の確立、賃金の増加(補助)	
介護人材の確保ですが、紹介も多数されるのですが年齢の高い方が多く、若い方の応募が少ないです。介護福祉士を取得した方は、たくさんいると思うのですが、もっと、子育て世代の人材の方が働きやすい支援や企業への働きかけがあり、会社または、事業所が採用しやすくなれば良いと思います。また、育休中の人材の臨時的確保で、派遣の利用もしたいのですが、責任感のある方が少なく感じます。そのような方の育成に関して市の方が関わって頂き、改善できるようでしたら安心して、若い方も採用していけると思いました。	
刈谷市独自の介護人材確保に関する取り組み。イベント、PR、人材確保に対する助成。	
県内において製造業が主力となっており、福祉へ来られる方が少ないので市内の教育機関に福祉を目指す学生ができるような取り組みができると良いと思っています。	
合同の会社説明会の開催を熱望します。	
採用においてハローワークや求人サイトを見ても介護業界はまだまだ人手不足を感じます。介護職イメージアップのため、今後も日々励んでいきたいと思っています。	
就職フェア等の就職イベントを多く行ってほしい。	
人材確保するにも紹介会社に多額の紹介料、支払って入社してもすぐに辞めてしまう。料金のかからない人材確保ができるとうれしいです。	
人材の案内・紹介	

人材確保に関する市への要望や実施すべき取組等の意見
人材の不足は介護業界全体の課題でもあるため、各事業所の努力もさることながら、刈谷市全体でも取り組めるとよい（就職・転職フェアなど）。
すでに実施していただいている資格取得への補助はありがたいことと思います。地元で資格を有し、活用していきたいと思ってもらえるように仕事先のあっせんや補助などがあつたら、介護業界も若返り、活気づくのではないかと思います。
当市においてケアマネや介護職員の不足があり、高齢化が進む中、今後の支援にも大きな課題となっている。若い方にこの職業に魅力があると思っていただかないといけないと思います。ケアマネの業務は多忙であり、各手続きにも時間をさいていますので、ケアマネ以外でも行えるような（配食サービス）支援を行政で行ってほしいです。研修の機会をつくったり、この職種のやりがいや働きたいと思えるような行政の取り組みをつくってほしいです。メリットとなる目玉があると良いかと思ひます。
■ 研修や資格習得の機会の提供、研修・資格習得等にかかる補助金等制度
介護支援専門員の更新研修の費用について、主任のみ5年雇用で補助金の制度がありますが、全ケアマネジャーに対応できるようにしてほしい。
介護支援専門員の不足はどこ地域でもあると思います。その一つとしては、「更新研修制度」が高額となっています。主任介護支援専門員の助成事業をされていますが、市内に従事している介護支援専門員および主任介護支援専門員に対して、「事業所ではなく直接的な」更新研修助成制度があると、定着率は上がると思ひます。
研修等の補助制度
資格を取る方法など考えてほしい。
資格を持つ人材を確保したいので、教育制度の充実は今後益々お願いしたい。
施設運営において補助金、助成金の拡大が必要。特にICTの活用は、今後の人材確保、利用者様の生活環境向上においても必要となるが、導入のコストがかかるため、補助金、助成金の拡大、充実を要望したい。
初任者研修を公でしてほしい。
初任者研修の研修開催をお願いしたい。それに加え受講後採用につなげられればと思う。就職説明会のようなブースを事業所ごとに設置し、就職につなげられるような・・・研修開催の最終日にやってもいいと思うし、定期的にやってもいいのでは？と思う。
初任者研修等修了者の紹介等していただけると助かります。広報誌に施設マップ等付けていただくと助かります。
スキルアップできる、現場のプロの講義。（介護技術）市役所、ケアマネのスムーズな連携。
無資格の介護人材に対し初任者研修と実務者研修の資格取得支援を実施してほしいです。介護のイメージアップや持続的な賃金アップにつながる取り組みをしてほしいです。
無料で資格取得を支援していただきたい。また、取得した人材を片寄りなく各事業所に案内してもらえたら助かります。
■ 人材バンクの設立
刈谷市独自の人材バンクの設立。
市独自の介護人材バンクを設け事前に登録していただいている人材と市内の各事業所の求人がスムーズにマッチングできるような取り組みをお願いしたいです。
有料人材紹介を使う人が増えてハローワークを利用しなくなった人が多く、人材確保に超高額な経費が掛かってしまうため、市が仲介して介護保険事業の人材を紹介して下さるとありがたいです。また、人材確保にかかった経費の補助金の充実をお願いします。
■ 外国人の雇用
外国の方を雇用しヘルパーとして登録するまでのハードルが高すぎると思ひます。ある程度お話ができて、初任者研修を所持していればヘルパーとして登録が可能となれば採用の機会、外国の方々の活躍が増えるかと思ひます。勉強不足で申し訳ありませんが、外国の方がヘルパー登録ができるのは、①永住権あり②介護福祉取得等、道のりが長すぎる気がします。ハードルを下げることで質は下がることは否定できませんが、戦力が増すことになると思ひます。

人材確保に関する市への要望や実施すべき取組等の意見	
■ 複合的課題、その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市では大手製造業が前面に出ているが、高齢者福祉は日の目を見てない。よって、行政が主体となったWeb媒体を活用した周知活動を市民の方々に実施してほしい。 ・潜在的有資格者の掘り起こし。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市内在勤ケアマネに限定した「更新研修」を市庁舎で行う及び費用の全額補助 ・ケアマネ人材不足に対する求職紹介 ・処遇改善加算に相当する補助金の捻出 ・更新研修での必須要件である研修の回数の増加 ・介護支援専門員の合格率を上げる勉強会の実施 ・介護支援専門員離職者を減らすための取組み（クレーム対応の援助、同行） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・特定技能・外国人採用に関する企業がたくさんあり、選ぶのに苦勞をしています。優良企業等の一覧があると助かります。 ・本社が岐阜県のため、ハローワーク刈谷主催のミニ面接会等に参加することができません。福祉企業合同説明会等に参加できる機会がほしいです。 	
<p>介護支援専門員は、理想と現実をうまく融合させていかなければいけない仕事だと思います。支援員によってゴールや方法は違って、利用者のQOLを向上させようと日々頑張っています。それなりに経験を積んだ人たちがケアプランをつくっているのもう少し私たちの裁量を信じてほしいと思います。質を上げるための研修が充実し過ぎていて、日常業務が滞ることもあります。</p>	
<p>高齢者世代などのボランティアの活用の推進、有償ボランティアの賃金の拡充。</p>	
<p>情報発信、いつもありがとうございます。今後、情報得ながら業務遂行に役立てたいと考えています。よろしくお願い致します。</p>	
<p>人員確保が今後厳しくなる中、グループホームの人員基準が昔と変化が無いので、基準の緩和を求めたい。</p>	
<p>フォーマル、インフォーマルサービスの充実化と市民への発信の手段の検討。</p>	
<p>福祉用具は上限価格があるので賃金を上げづらい。また特定福祉用具購入や住宅改修は物価や消費税が上がっているのに補助金は変わらないので、利用控えがあるのではないか。</p>	
<p>平均賃金向上に伴う介護報酬等の支援金の増加。キャリアアップの可視化。オンラインでの資格取得推進特に期待していない。</p>	

<問1で「施設・居住系サービス」「通所系サービス」と回答した事業所の方のみ>

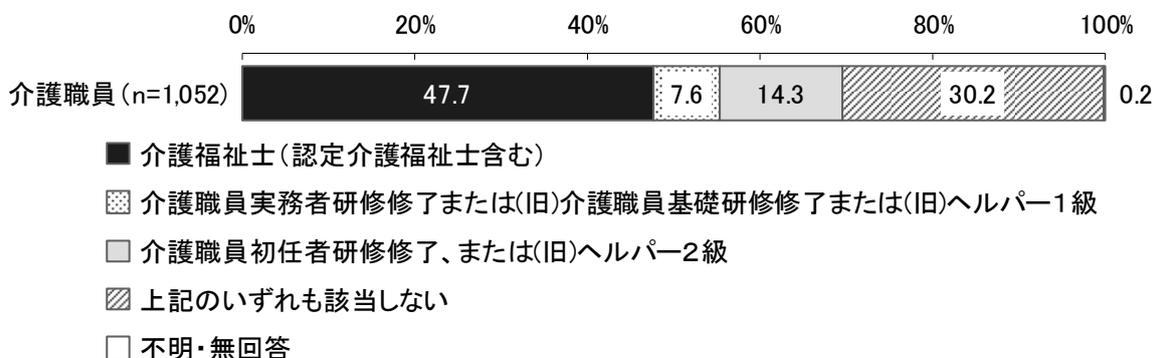
問23 貴事業所・施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください。（11月1日現在）

※ 問23に回答いただいた介護職員の総数は1,052名でした。

※ 本設問は、件数1,052（n=1,052）であり、問22までの設問の事業所総数とは異なります。

問23（1）資格の取得、研修の修了の状況（単数回答）

資格の取得や研修の修了の状況について、「介護福祉士（認定介護福祉士含む）」が47.7%と最も高く、次いで「上記のいずれも該当しない」が30.2%、「介護職員初任者研修修了、または（旧）ヘルパー2級」が14.3%となっています。



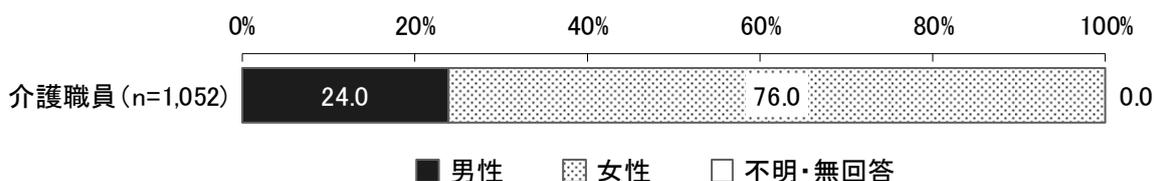
問23（2）雇用形態（単数回答）

雇用形態について、「正規職員」が63.4%、「非正規職員」が36.6%となっています。



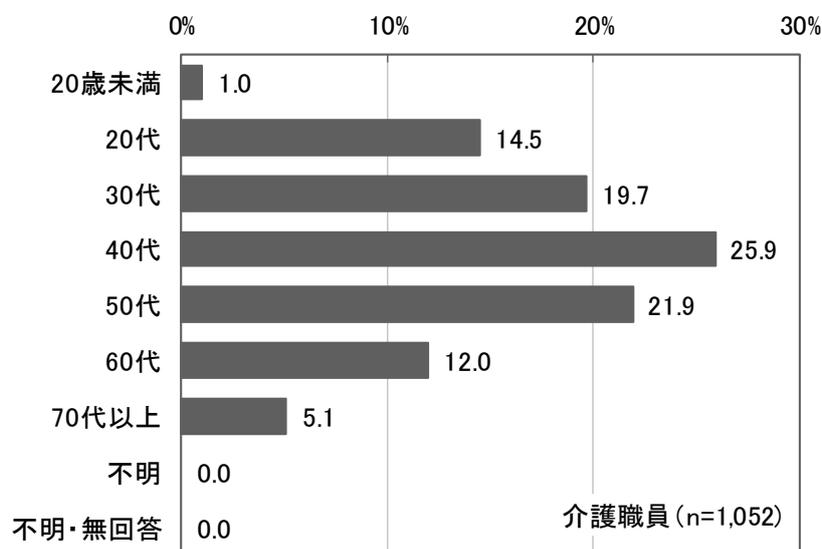
問23（3）性別（単数回答）

性別について、「女性」が76.0%、「男性」が24.0%となっています。



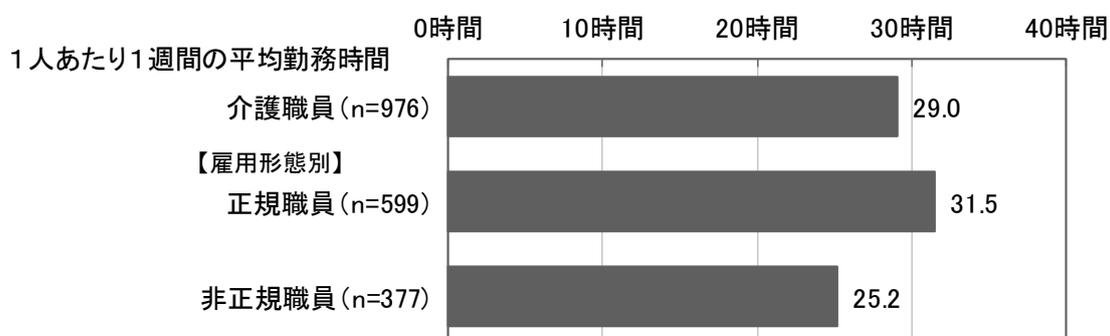
問23(4) 年齢(単数回答)

年齢について、「40代」が25.9%と最も高く、次いで「50代」が21.9%、「30代」が19.7%となっています。



問23(5) 過去1週間の勤務時間(数量回答)

介護職員1人あたりの過去1週間の勤務時間について、全体では平均29.0時間となっています。雇用形態別では、正規職員が平均31.5時間、非正規職員が平均25.2時間となっています。



※介護職員は、総数1,052人のうち本設問の「不明・無回答」を除いた集計です。

問23(6) 現在の施設等での勤務年数(単数回答)

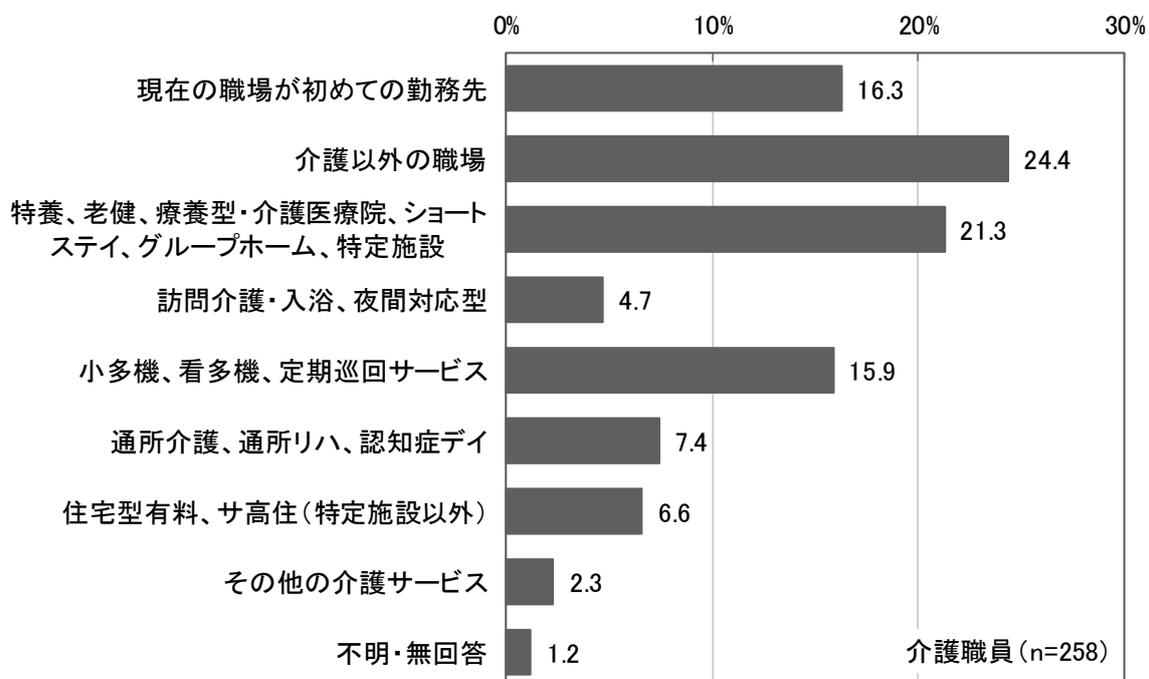
現在の施設等での勤務年数について、「1年以上」が74.7%、「1年未満」が24.5%となっています。



<問23(6)で、現在の施設等での勤務年数が「1年未満」と回答した事業所のみ>

問23(7) 現在の施設等に勤務する直前の職場 (単数回答)

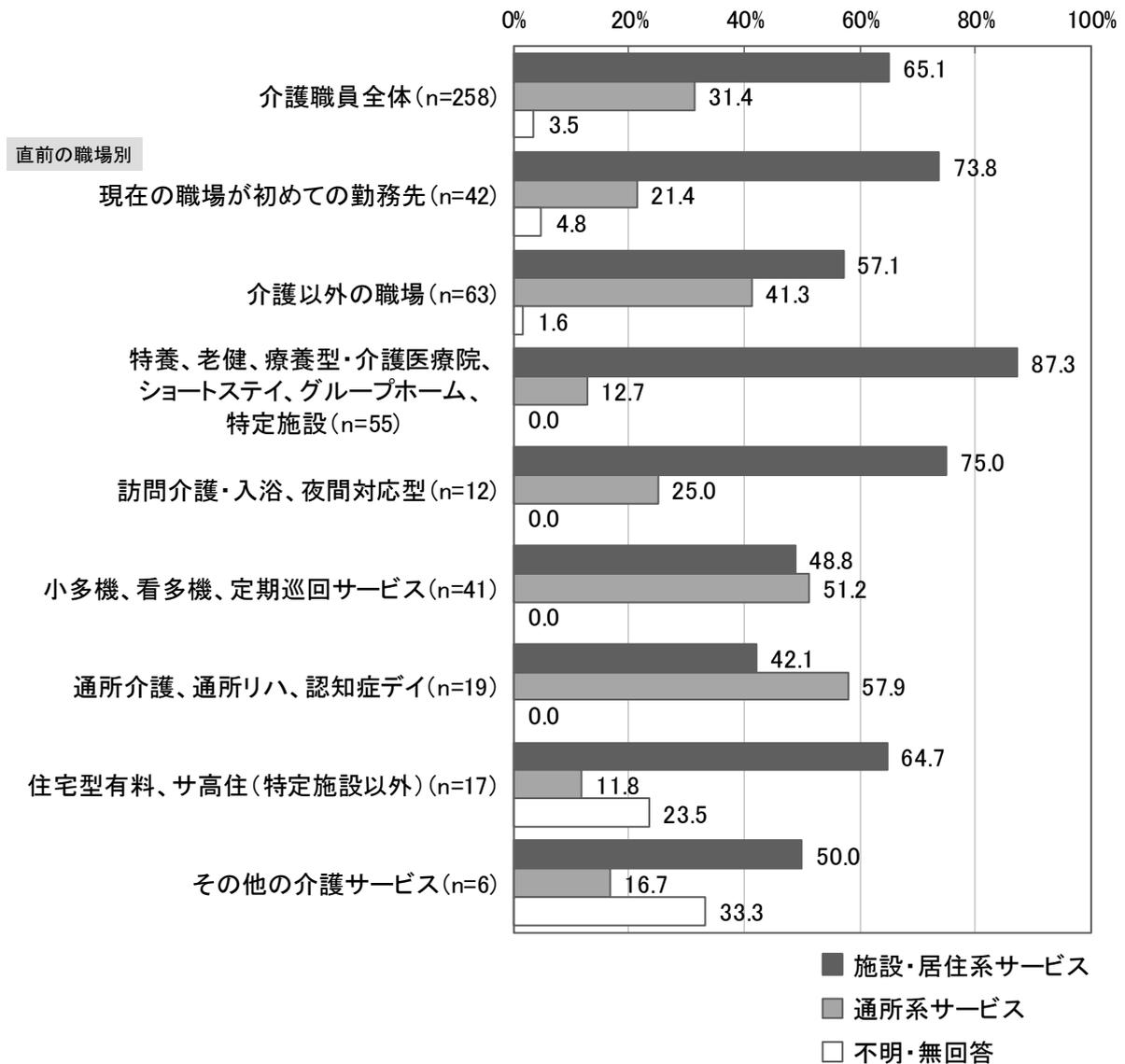
現在の施設等に勤務する直前の職場について、「介護以外の職場」が24.4%と最も高く、次いで「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」が21.3%、「現在の職場が初めての勤務先」が16.3%となっています。



問1 現職サービス種別×問23(7)前職のクロス

どのような職場から現在のサービス種別の施設等に勤務しているのかについて、介護職員全体では「施設・居住系サービス」が65.1%、「通所系サービス」が31.4%となっています。

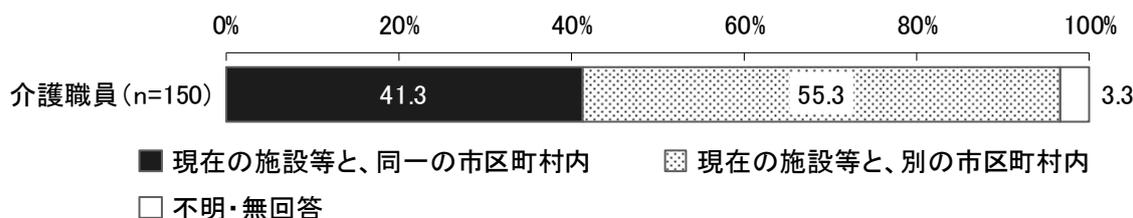
直前の職場別では、『現在の職場が初めての勤務先』で「施設・居住系サービス」が73.8%、「通所系サービス」が21.4%となっています。『小多機、看多機、定期巡回サービス』『通所介護、通所リハ、認知症デイ』を除いたサービスで「施設・居住系サービス」がそれぞれ高くなっています。



<問 23 (7) で、現在の施設等に勤務する直前の職場が「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」「訪問介護・入浴、夜間対応型」「小多機、看多機、定期巡回サービス」「通所介護、通所リハ、認知症デイ」「住宅型有料、サ高住（特定施設以外）」「その他の介護サービス」のいずれかと回答した事業所のみ>

問 23 (8) -1 直前の職場の所在地について (単数回答)

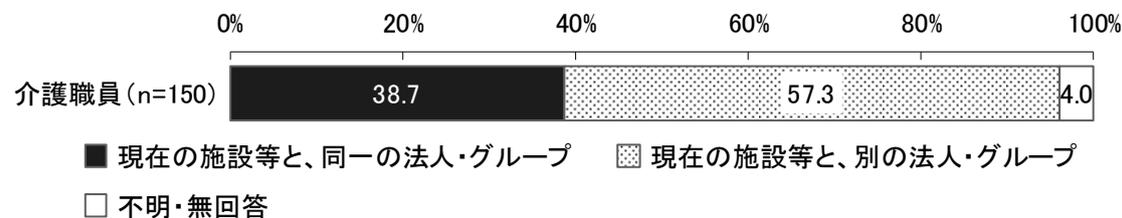
直前の職場の所在地について、「現在の施設等と、別の市区町村内」が 55.3%、「現在の施設等と、同一の市区町村内」が 41.3%となっています。



<問 23 (7) で、現在の施設等に勤務する直前の職場が「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」「訪問介護・入浴、夜間対応型」「小多機、看多機、定期巡回サービス」「通所介護、通所リハ、認知症デイ」「住宅型有料、サ高住（特定施設以外）」「その他の介護サービス」のいずれかと回答した事業所のみ>

問 23 (8) -2 直前の職場の事業形態について (単数回答)

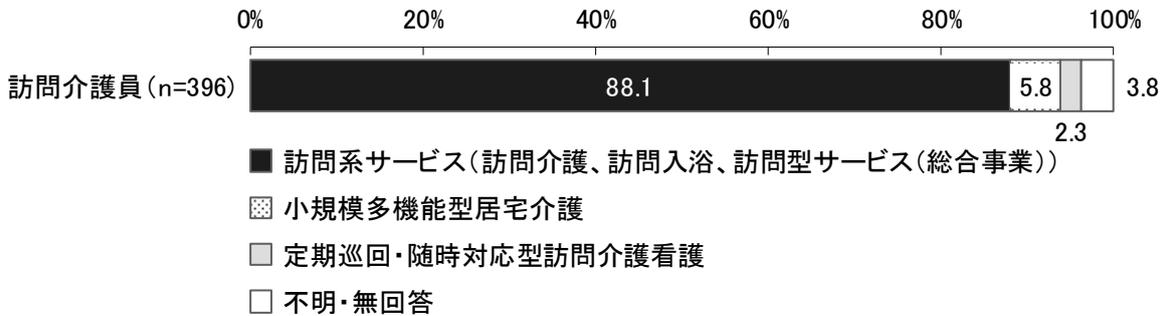
直前の職場の事業形態について、「現在の施設等と、別の法人・グループ」が 57.3%、「現在の施設等と、同一の法人・グループ」が 38.7%となっています。



VII 訪問介護員調査結果

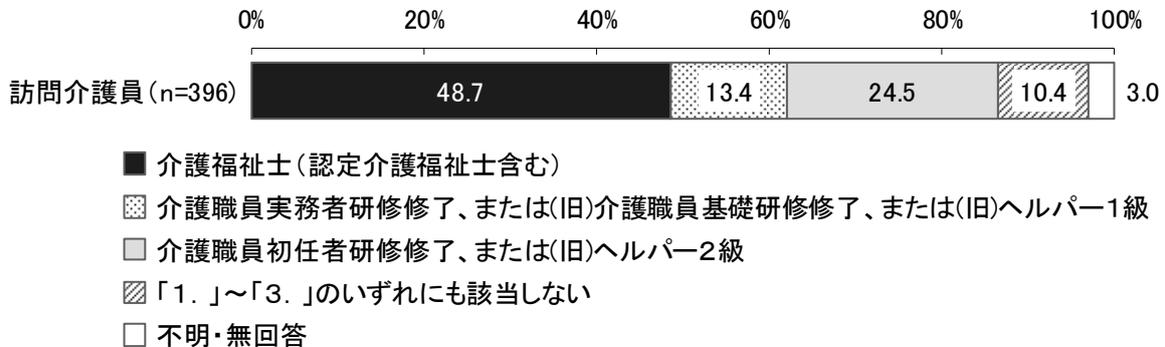
問1 あなたが、本調査票を受け取った事業所で提供するサービス種別（介護予防を含む）について、ご回答ください。（単数回答）

事業所で提供するサービス種別について、「訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、訪問型サービス（総合事業）」が88.1%と最も高く、次いで「小規模多機能型居宅介護」が5.8%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が2.3%となっています。



問2 あなたの資格の取得、研修の修了の状況について、ご回答ください。（単数回答）

資格の取得、研修の修了の状況について、「介護福祉士（認定介護福祉士含む）」が48.7%と最も高く、次いで「介護職員初任者研修修了、または(旧)ヘルパー2級」が24.5%、「介護職員実務者研修修了、または(旧)介護職員基礎研修修了、または(旧)ヘルパー1級」が13.4%となっています。



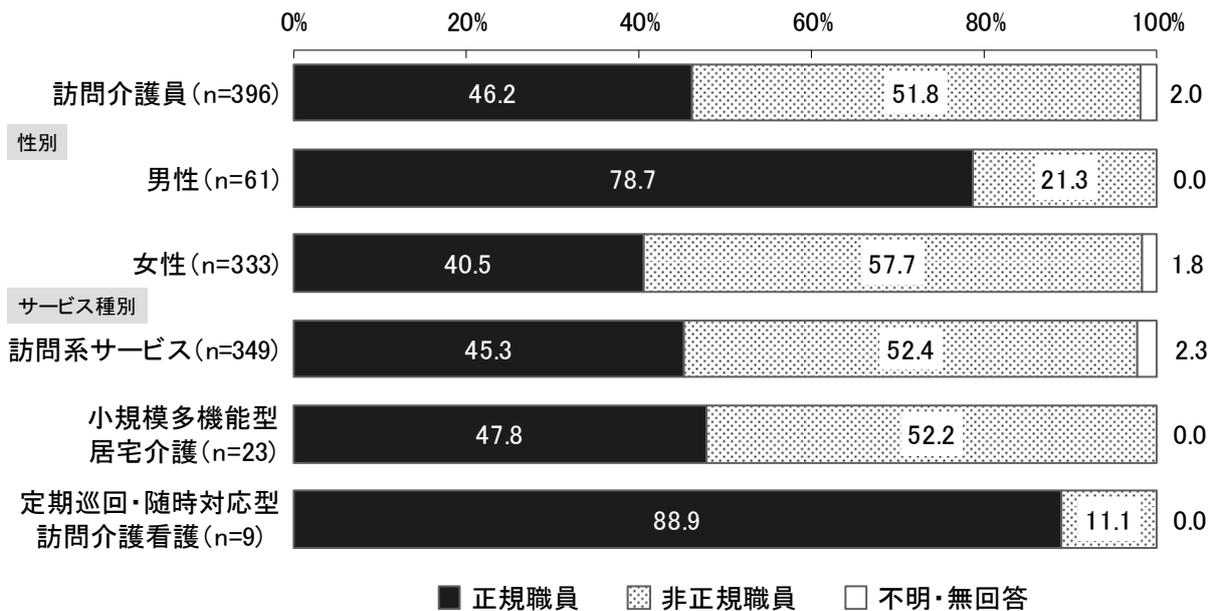
問3 あなたの雇用形態、性別、年齢、過去1週間の勤務時間等について、ご回答ください。

問3 (1) 雇用形態 (単数回答)

雇用形態について、全体で「非正規職員」が51.8%、「正規職員」が46.2%となっています。

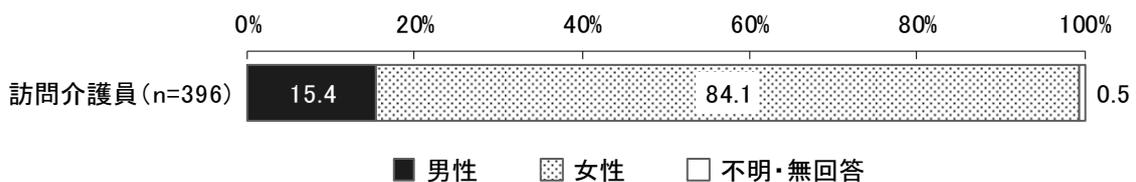
性別では、「正規職員」が男性で78.7%、女性で40.5%となっています。

サービス種別では、『訪問系サービス』『小規模多機能型居宅介護』で「非正規職員」がそれぞれ5割を超えています。



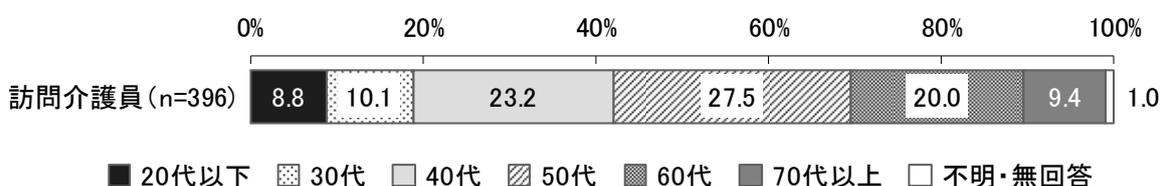
問3 (2) 性別 (単数回答)

性別について、「女性」が84.1%、「男性」が15.4%となっています。



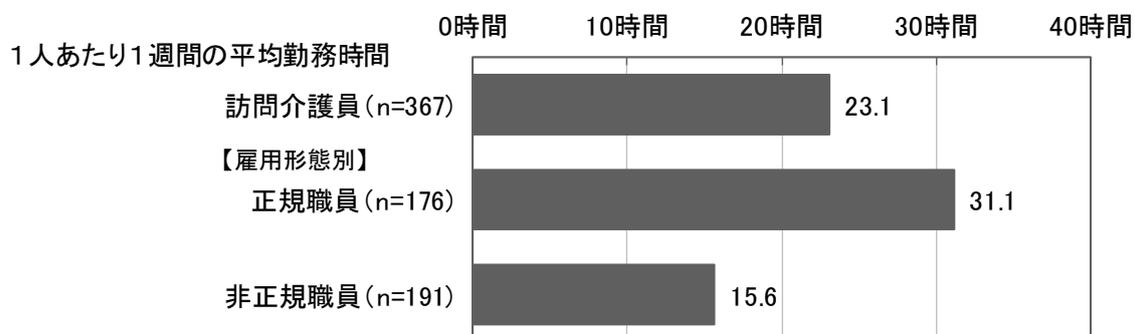
問3 (3) 年齢 (数量回答)

年齢について、「50代」が27.5%と最も高く、次いで「40代」が23.2%、「60代」が20.0%となっています。



問3（4）過去1週間の勤務時間（数量回答） ※問1で回答した勤務先における時間

訪問介護員1人あたりの過去1週間の勤務時間について、全体では平均23.1時間となっています。雇用形態別では、正規職員が平均31.1時間、非正規職員が15.6時間となっています。



※訪問介護員は、総数396人のうち本設問の「不明・無回答」を除いた集計です。

※雇用形態別は、問3.（1）雇用形態の「不明・無回答」を除いた集計です。

問3（5）現在の事業所での勤務年数（単数回答）

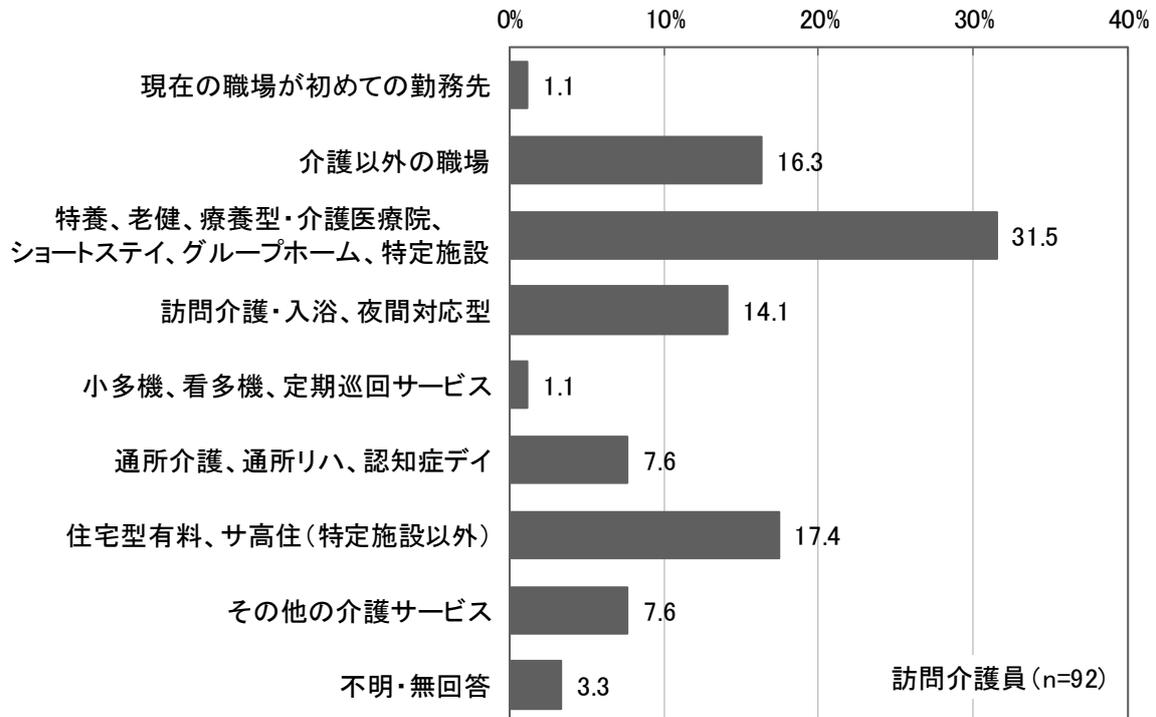
現在の事業所での勤務年数について、「1年以上」が71.2%、「1年未満」が23.2%となっています。



<問3（5）で、現在の施設等での勤務年数が「1年未満」と回答した方のみ>

問4 現在の事業所に勤務する直前の職場（単数回答）

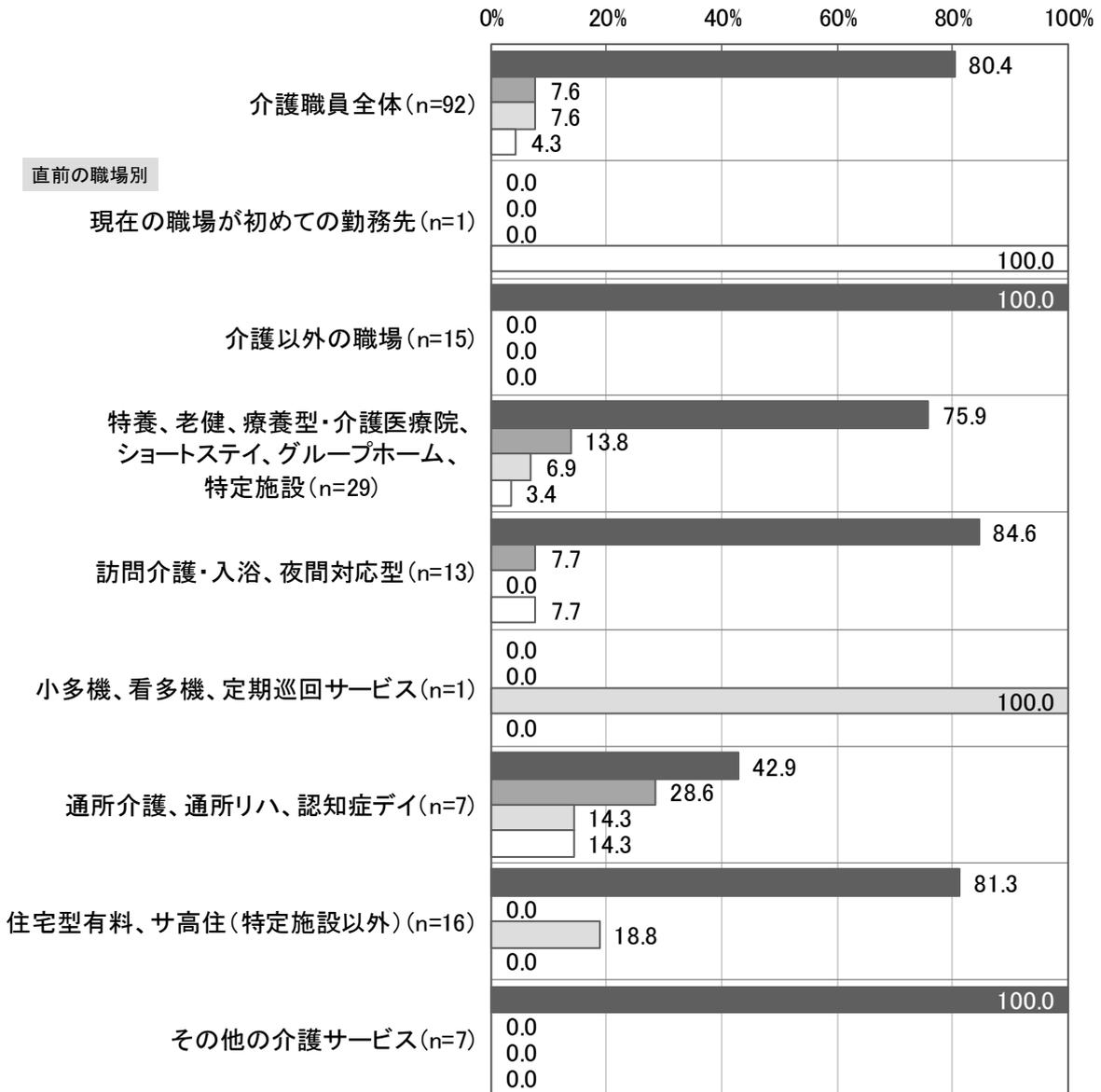
現在の事業所に勤務する直前の職場について、「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」が31.5%と最も高く、次いで「住宅型有料、サ高住（特定施設以外）」が17.4%、「介護以外の職場」が16.3%となっています。



問1 現提供サービス種別×問4前職のクロス

どのような職場から現在のサービス種別で勤務しているのかについて、介護職員全体では「訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、訪問型サービス（総合事業）」が80.4%となっています。

直前の職場別では「訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、訪問型サービス（総合事業）」が、『介護以外の職場』で100.0%、『訪問介護・入浴、夜間対応型』で84.6%、『住宅型有料、サ高住、（特定施設以外）』で81.3%、『特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設』で75.9%となっています。

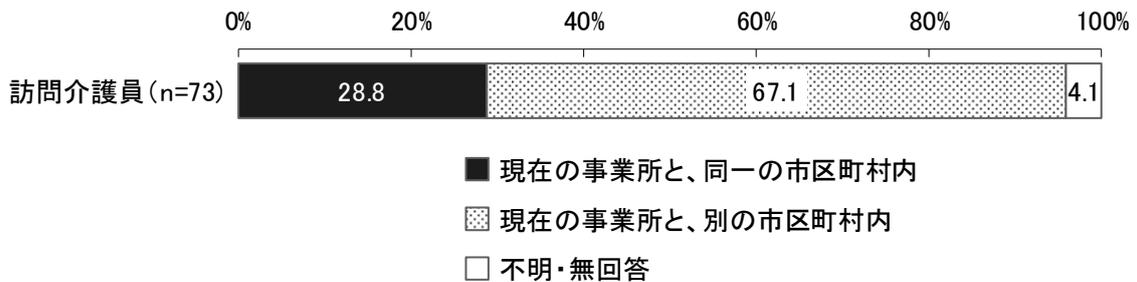


- 訪問系サービス(訪問介護、訪問入浴、訪問型サービス(総合事業))
- 小規模多機能型居宅介護
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- 不明・無回答

<問4で、現在の施設等に勤務する直前の職場が「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」「訪問介護・入浴、夜間対応型」「小多機、看多機、定期巡回サービス」「通所介護、通所リハ、認知症デイ」「住宅型有料、サ高住（特定施設以外）」「その他の介護サービス」のいずれかと回答した方のみ>

問5（1） 直前の職場の所在地について（単数回答）

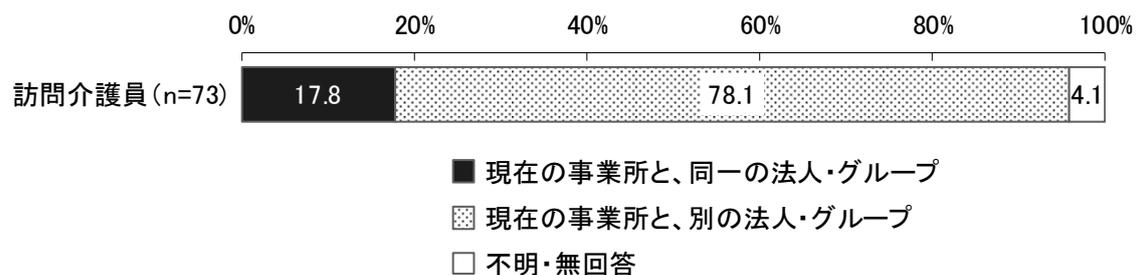
直前の職場の所在地について、「現在の事業所と、別の市区町村内」が67.1%、「現在の事業所と、同一の市区町村内」が28.8%となっています。



<問4で、現在の施設等に勤務する直前の職場が「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」「訪問介護・入浴、夜間対応型」「小多機、看多機、定期巡回サービス」「通所介護、通所リハ、認知症デイ」「住宅型有料、サ高住（特定施設以外）」「その他の介護サービス」のいずれかと回答した方のみ>

問5（2） 直前の職場の事業形態について（単数回答）

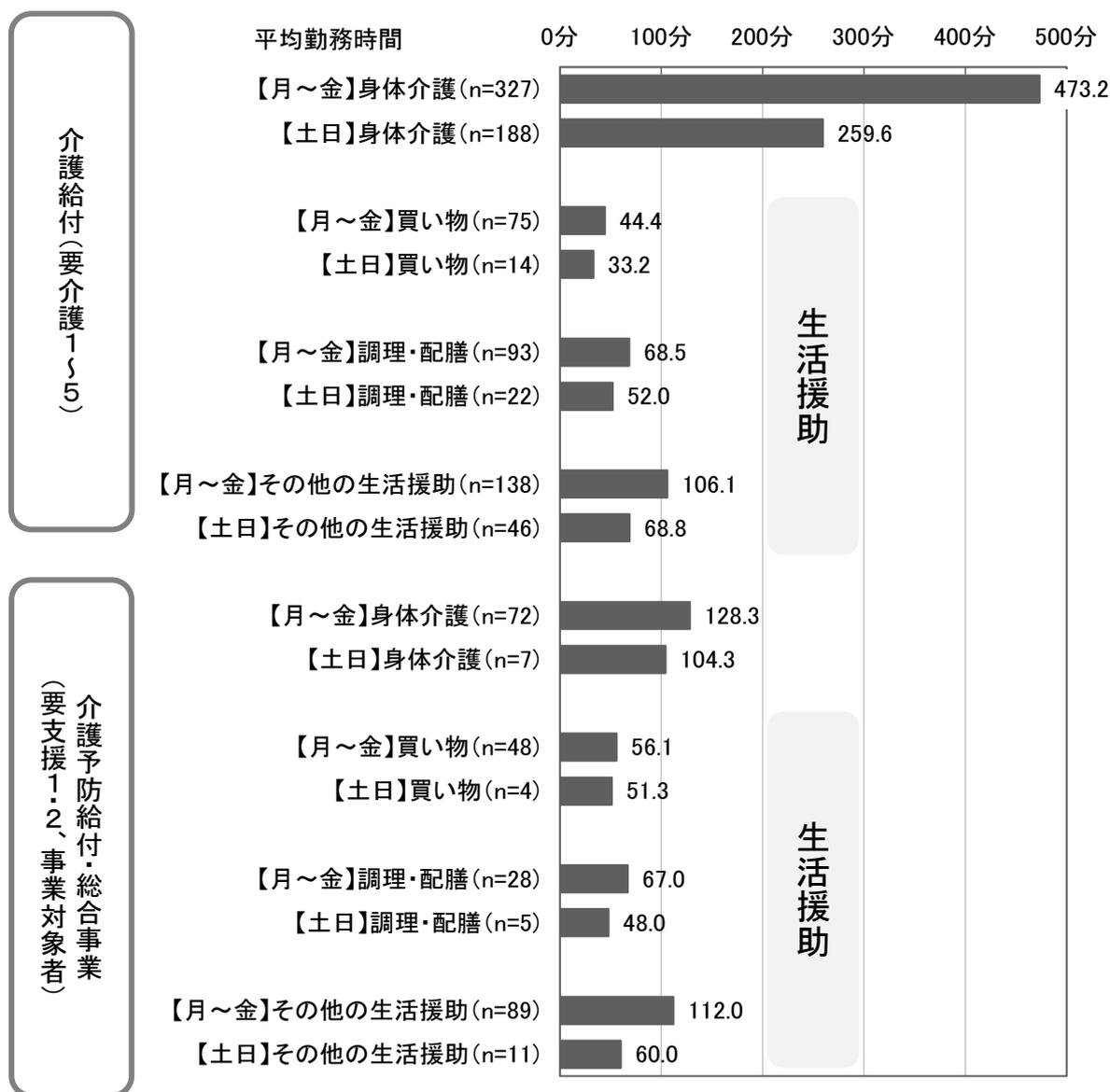
直前の職場の事業形態について、「現在の事業所と、別の法人・グループ」が78.1%、「現在の事業所と、同一の法人・グループ」が17.8%となっています。



問6 問3「(4) 過去1週間の勤務時間」で回答した7日間の勤務時間について、身体介護・生活援助を提供した時間(分)を記入してください。(数量回答)

介護給付(要介護1~5)について、「身体介護」が平日(月~金)で平均473.2分、休日(土日)で平均259.6分と多くなっています。

介護予防給付・総合事業(要支援1・2、事業対象者)について、「身体介護」が平日(月~金)で平均128.3分、「その他の生活援助」が平日(月~金)で平均112.0分と多くなっています。



VIII 介護支援専門員調査結果

1 あなたについて

問1 あなたの勤務形態はどれですか。(単数回答)

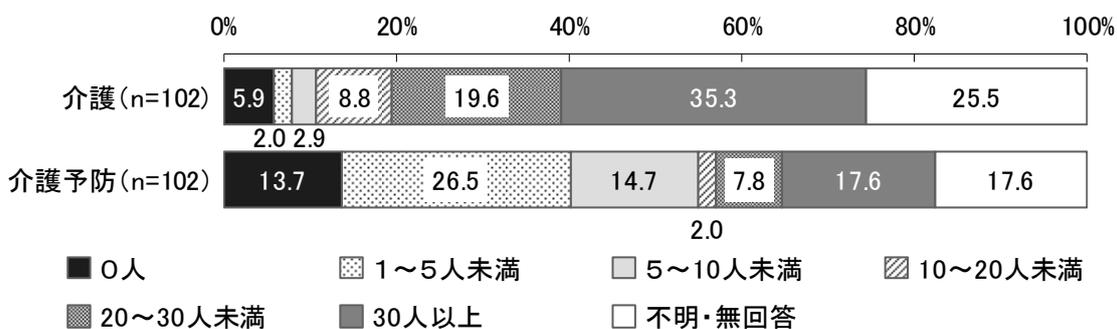
勤務形態について、「専従(常勤)」が66.7%と最も高く、次いで「兼務(常勤)」が18.6%となっています。



問2 令和4年11月1日現在、あなたは介護サービス計画又は介護予防サービス計画を何人担当していますか。(数量回答)

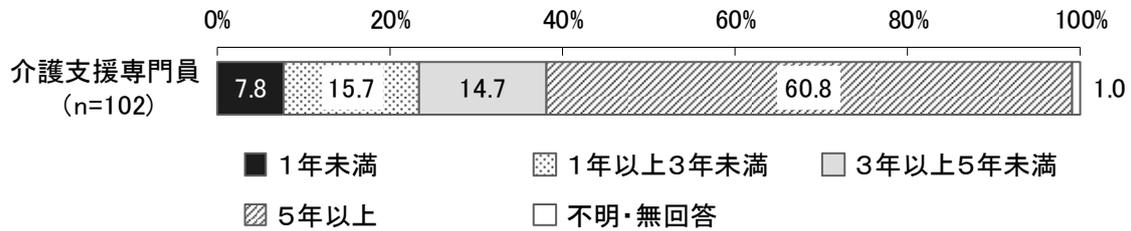
介護サービス計画の担当人数は「30人以上」が35.3%と最も高く、次いで「20～30人未満」が19.6%となっています。介護予防サービス計画の担当人数は「1～5人未満」が26.5%と最も高く、次いで「30人以上」が17.6%となっています。

なお、1人あたり担当件数の平均は、介護サービス計画で24.9人、介護予防サービス計画で14.1人となっています。



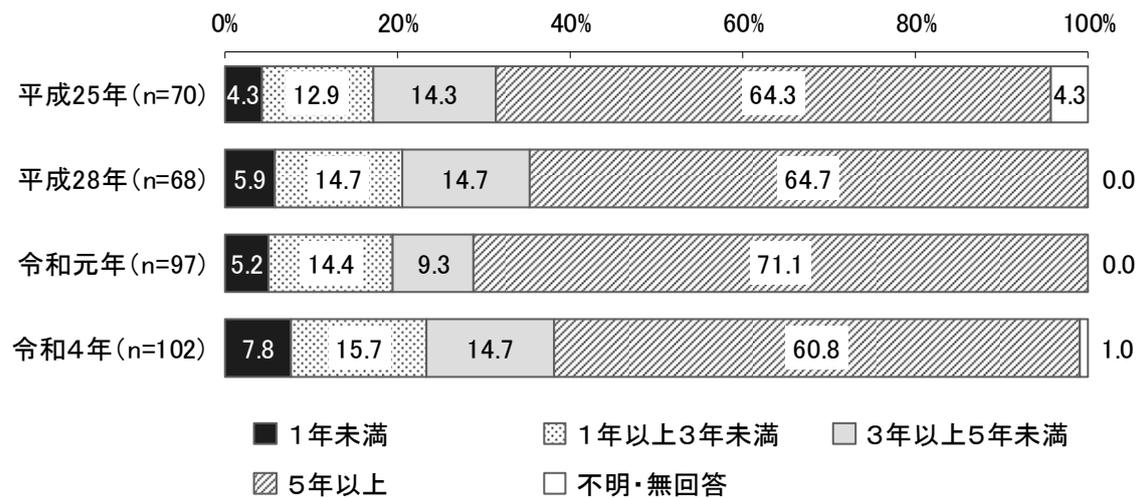
問3 介護支援専門員の業務を通算して何年行っていますか。(単数回答)

通算年数では「5年以上」が60.8%と最も高く、次いで、「1年以上3年未満」が15.7%となっています。



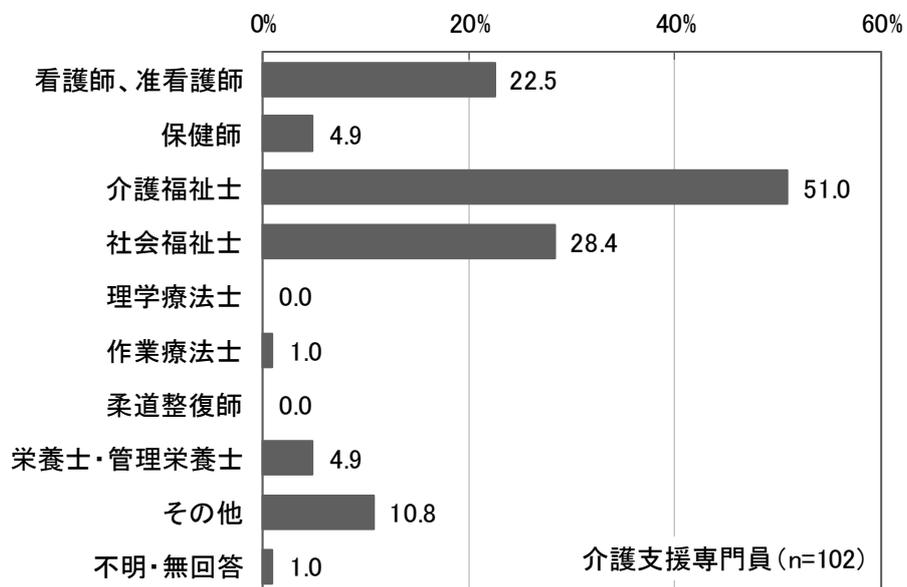
■ 経年変化

経年変化をみると、令和元年と比較して「5年以上」が10.3ポイント低くなっています。



問4 あなたは、介護支援専門員以外に何か資格をお持ちですか。(複数回答)

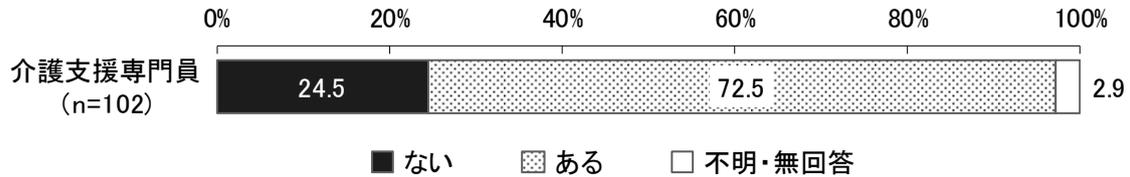
介護支援専門員以外の保有資格では「介護福祉士」が 51.0%と最も高く、次いで「社会福祉士」が 28.4%、「看護師、准看護師」が 22.5%となっています。



2 介護サービス計画について

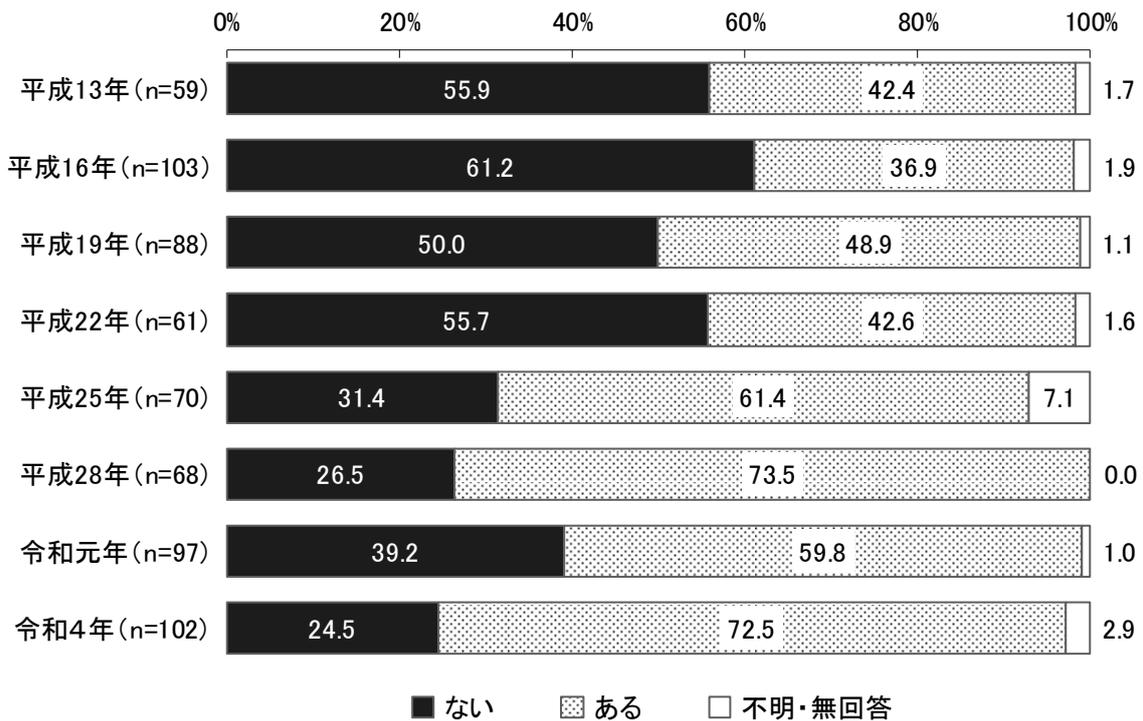
問5 サービス提供事業者からサービス提供を拒否されたことはありますか。(単数回答)

サービス提供拒否の経験について、「ある」が72.5%、「ない」が24.5%となっています。



■ 経年変化

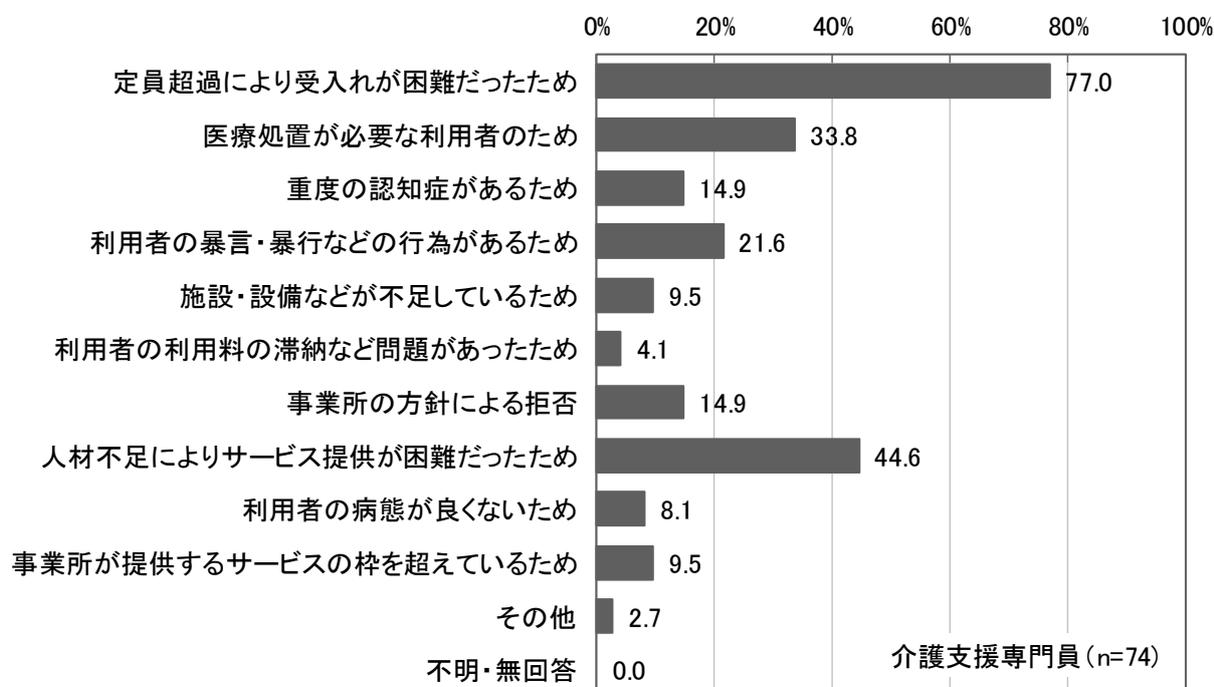
経年変化をみると、令和元年と比較して「ある」が12.7ポイント高くなっています。



<問5でサービス提供を拒否されたことが「ある」と回答した方のみ>

問6 サービス提供事業者からサービス提供を拒否された理由は何ですか。(複数回答)

サービス提供を拒否された理由は、「定員超過により受入れが困難だったため」が77.0%と最も高く、次いで「人材不足によりサービス提供が困難だったため」が44.6%、「医療処置が必要な利用者のため」が33.8%となっています。



<問6で「定員超過により受入れが困難だったため」と回答した方のみ>

問7 受入れが困難なサービス提供事業者の種類をご記入ください。(自由回答)

受入れが困難なサービス提供事業者の種類	件数
訪問介護 (ホームヘルプ)	18
訪問介護員 (ホームヘルパー、ヘルパー、介護員)	12
短期入所生活介護 (ショートステイ)	12
訪問看護	6
通所型サービス	6
通所リハビリテーション (デイケア)	6
短期入所療養介護	2
訪問リハビリテーション	2
訪問入浴介護	2
訪問型サービス	2
小規模多機能型居宅介護	2
地域密着型通所介護 (デイサービス)	2
リハビリテーションサービス	1

受入れが困難なサービス提供事業者の種類	件数
要支援で入浴可の事業所	1
グループホーム	1
介護予防通所介護（デイサービス）	1
居宅サービス	1
定員というものについて、何をお示しなのか不明です。「今、その曜日はいっぱいです」ということであれば通所系、「今、対応できる者がいません」ということであれば訪問系、「今、お部屋の空きがありません」ということであれば、短期入所、入所系になります。定員について、上記全てに該当する事であれば、「訪問介護」の受け入れ先を探すことが一番難しい印象があります。	1

問8 介護サービス計画などに介護保険以外のサービスを取り入れたことがありますか。(単数回答)

介護サービス計画などに介護保険以外のサービスを取り入れたことがあるかについて、「取り入れたことがある」が90.2%、「取り入れたことはない」は8.8%となっています。



<問8で「取り入れたことがある」と回答した方のみ>

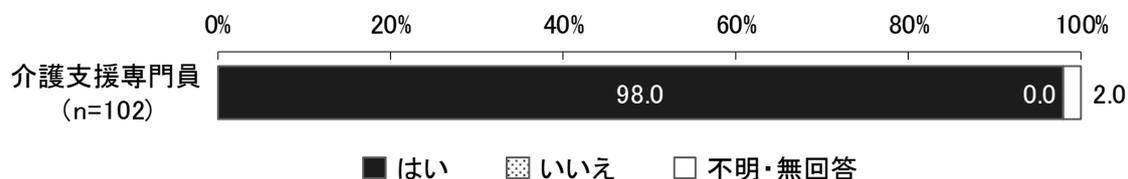
問9 取り入れたことがあるサービスについてお書きください。(自由回答)

取り入れたことがあるサービス	件数
配食サービス	33
自費サービス(ヘルパー、デイサービス、リハビリ等)	20
刈谷市の高齢者福祉サービス	19
医療機関、医療系サービス(往診、訪問診療、医療訪問看護)	18
マッサージ(訪問マッサージ、医療マッサージ)	14
介護タクシー、タクシー会社	9
家族、親類、友人、近隣の人	9
ごみ個別収集	9
介護支援ベッド	8
民生委員(訪問など)	8
身元保証機関・団体	7
障害者福祉サービス	7
配食弁当	6
サロン	6
移動販売(移動配達販売、移動スーパー、とくし丸)	5

取り入れたことがあるサービス	件数
ボランティア	5
日常生活自立支援事業	5
針灸	4
訪問理美容、出張理美容	4
訪問薬剤師	4
シルバーハウジング、有料老人ホーム、サ高住、高専住など	4
布団乾燥、洗濯	4
移動支援サービス（移動援助）	3
宅配弁当	3
精神科訪問看護	3
訪問診療	3
傾聴ボランティア	2
訪問歯科診療	2
カフェ、食堂	2
声の訪問	2
ワンコインサービス	2
趣味（華道、クラブ活動、趣味活動など）	2
見守り安心機器	2
インフォーマルサービス	1
グランドゴルフ	1
車イス貸出	1
御用聞き	1
在宅療養管理指標	1
ペットホテル	1
行方不明高齢者等 SOS ネットワーク	1
緊急時見守り装置	1
緊急通報	1
筋力向上トレーニング	1
通院時の介助	1
就労支援	1
自立支援医療の訪問看護	1
シルバー人材センター	1
成年後見制度	1
体操教室	1
タクシー券	1
訪問販売	1
見舞金	1
民間サービス	1
老人会	1
便利屋（家具の廃棄）	1
地域サービス	1
ねたきり見舞金	1
福祉電話	1
福祉用具	1
見守りサービス	1
民間緊急通報	1

問10 介護サービス計画などを作成する際、自立支援を促す、という視点に立って作成をしていますか。(単数回答)

介護サービス計画などを作成する際、自立支援を促す、という視点に立って作成をしているかについて、「はい」が98.0%、「いいえ」が0.0%となっています。



<問10で「はい(自立支援を促す視点に立って作成している)」と回答した方のみ>

問11 今まで担当した利用者で、自立支援を促すことができ、介護度が改善されるほど状態が改善したことはありましたか。(単数回答)

今まで担当した利用者で、自立支援を促すことができ、介護度が改善されるほど状態が改善したことはあるかについて、「はい」が63.0%、「いいえ」が32.0%となっています。

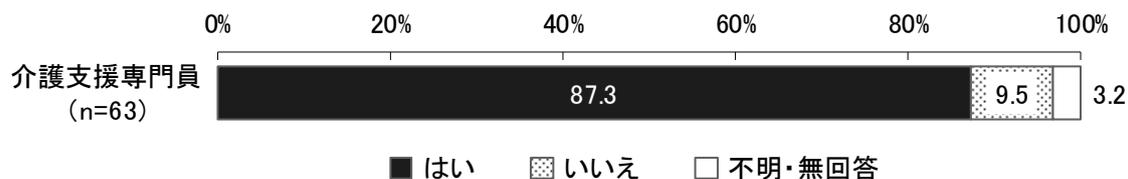


<問11で「はい(改善したことがある)」と回答した方のみ>

問12 状態が改善したときに、以下のことを行い、利用者の負担軽減につながったことはありますか。

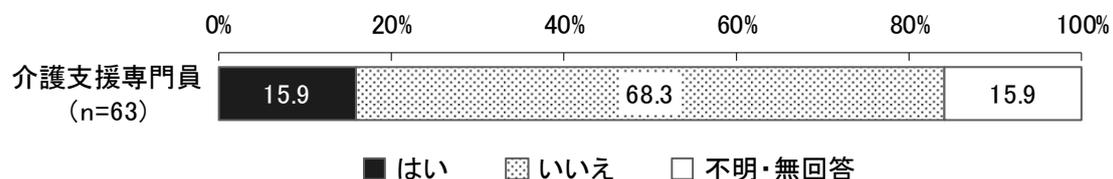
①利用しているサービスを見直した(単数回答)

状態が改善したときに、利用しているサービスを見直したことにより、利用者の負担軽減につながったことはあるかについて、「はい」が87.3%、「いいえ」が9.5%となっています。



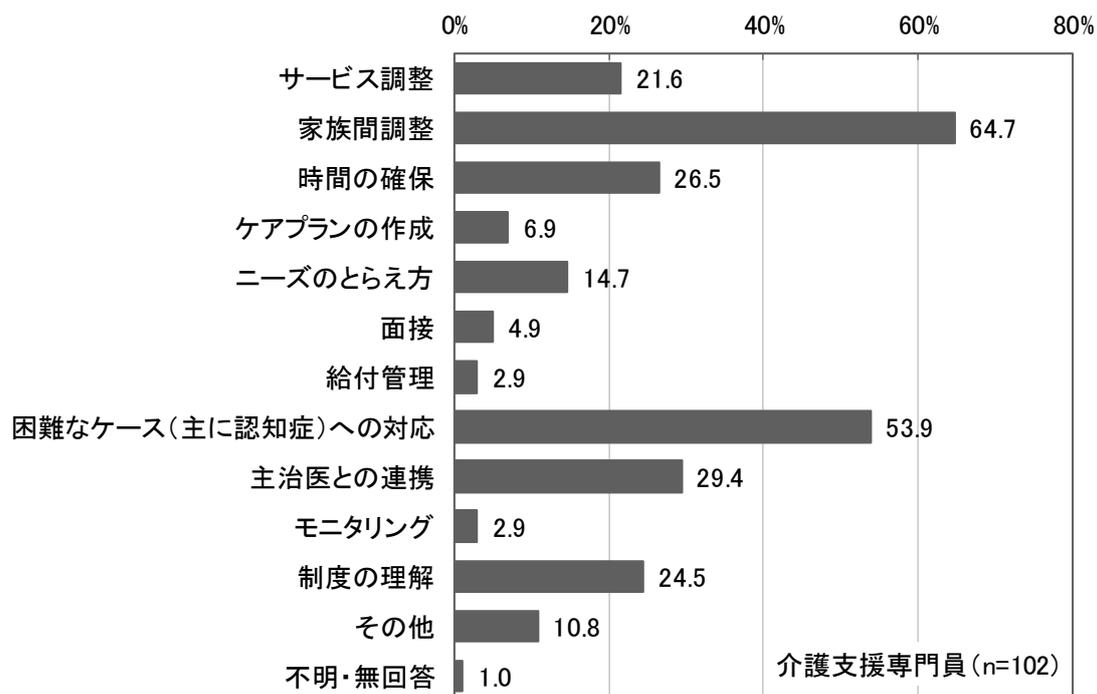
②介護認定の更新を待たずに区分変更を申請した（単数回答）

状態が改善したときに、介護認定の更新を待たずに区分変更を申請したことにより、利用者の負担軽減につながったことはあるかについて、「いいえ」が68.3%、「はい」が15.9%となっています。



問13 介護支援専門員の業務として難しいことは何ですか。（複数回答）

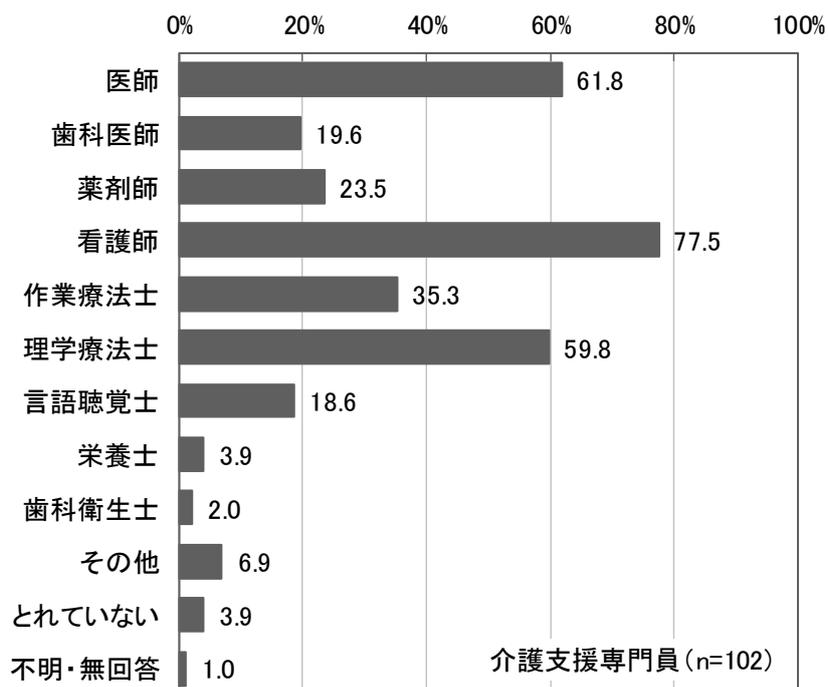
介護支援専門員の業務として難しいことは「家族間調整」が64.7%と最も高く、次いで「困難なケース（主に認知症）への対応」が53.9%。「主治医との連携」が29.4%となっています。



3 医療関係者との連携について

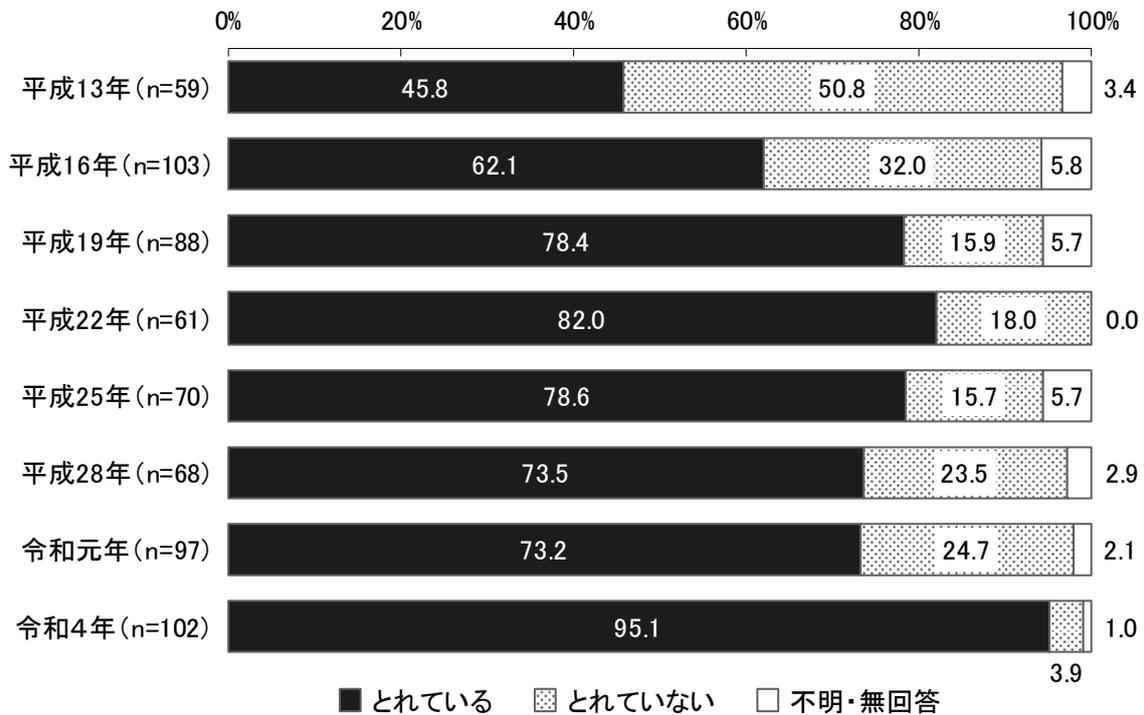
問 14 利用者の病状や健康状態について、下記の医療関係者と連携がとれていますか。
(複数回答)

利用者の病状や健康状態について、医療関係者と連携がとれているかについて、「看護師」が 77.5%と最も高く、次いで「医師」が 61.8%、「理学療法士」が 59.8%となっています。なお、「とれていない」は 3.9%となっています。



■ 経年変化（参考値）

経年変化をみると、令和元年と比較して「とれている」が21.9ポイント高くなっています。



※令和元年までの調査では、設問「利用者の病状や健康状態について、主治医との連携が取れていますか。」に対し、選択肢「とれている」「とれていない」でした。このため、令和4年の調査については、選択肢「医師」「歯科医師」「薬剤師」「看護師」「作業療法士」「理学療法士」「言語聴覚士」「栄養士」「歯科衛生士」「その他」のいずれかに回答した方を『とれている』としました。

問15 連携をとる際、工夫している点についてお書きください。（自由回答）

連携をとる際に工夫している点
■ 対面、診察同席による情報共有
会って話す。
医師、薬剤師へは訪問する。理学、言語Nsなど、変化があれば電話にて連絡する。えん joy ネットを活用する。
可能な限り会って話を聞いている。
事前に約束して訪問する。
ケア中に訪問する。
直接出向き、情報交換することが多い。医師は訪問診療時間に合わせる。
できるだけ会って、信頼構築につとめる。
同席、立ち会い状態把握する。
ケアプランを持っていける範囲の主治医には直接渡すようにして顔のみえる関係をつくること。
こまめに電話で確認する。訪問時間に合わせて自宅訪問し、アセスメント・モニタリングに行く。主治医意見書には返信に手間がかからないような質問をする。

連携をとる際に工夫している点
訪問時に同席する。
訪問時の同席。
訪問診療などの際、積極的に同席する。
■ FAXによる連絡
FAX で要点を先に伝える。
FAX で連携している。(回答しやすい文書)
FAX と窓口への電話連絡。
FAX による連絡票を使用している。病院では、医療相談員を通して連絡や情報を取る。
FAX の利用、診察の立ち合い。
FAX 様式の作成。
FAX をこまめに送る。
医師とは、主に FAX でのやりとりです。医療職とは、電話や現場で情報共有させていただいております。まだまだ不十分だと感じています。
エンジョイネットの活用や、FAX、電話連絡。
ご家族による病院受診がほとんどですが、必要時は医師宛にお手紙や FAX で状況説明行っています。
なるべく相手の負担にならないよう、文書(FAX 等)での問い合わせを主にしている。訪問系のサービスの場合は、訪問予定時間に合わせて訪問して直接話しを聞くようにしている。
訪問看護師さん、デイサービスの看護師さんには電話や FAX で連絡が業務の迷惑にならないように考えて行っている。
■ 主治医連絡票の活用
主治医連絡票
主治医連絡票、状況報告書等で連絡を共有している。
主治医連絡票で意見を求める時、医師がコメントをしやすいように選択式にしている
主治医連絡票の回答は○印をつけてもらう、自由記載欄をつくっている。
主治医連絡票の活用、FAX にて報告。
主治医連絡票を、電話ではやめに連絡する。
主治医連絡票を活用している。
主治医連絡票を用いる、朝会をする。
主治医連絡票を利用したり、いただいた診療情報提供書や訪問歯科診療など利用し、電話をしたりして連携を取っている。直接訪問し、理学療法士や作業療法士さんと連携を取っている。
状況が変わった時、利用者を取り巻く状況が変化した時にはこまめに主治医連絡票を送っている。
医師…主治医連絡票
えん JOY ネットや主治医連絡票を活用している。
■ 連携内容を簡潔にわかりやすく伝える工夫(簡潔な文章、時間帯、多様な伝達手段等)
相手も忙しい中時間をさいてもらっているという意識を持つ。協力して担当の方の支援にあたっているということを考える。
相手に理解してもらえように話す。
相手の都合の良い時間に合わせる。
回答しやすいように、時間がかからないような質問を心掛けている。
簡潔に伝えるように気を付けている。
時間や連絡方法に注意している。
短時間でも理解しやすいよう文章をシンプルにし分かりやすく伝えるようにしている。
連絡のとれる時間帯などあらかじめ聞いて対応している。

連携をとる際に工夫している点
連携方法について電話、FAX、郵送、往診時の同席、電子連絡帳の活用等その人や機関に合わせた連携方法をとるようにしている。
■ 書面による連携
簡潔に主旨を伝える事、医療連絡シートの活用。
業務の支障にならないようお伺いを立ててからの連絡を、書面で行っている。
仕事で忙しく時間取れない事が多いので、書面でのやりとりがほとんどです。
事前に受付の人などに了承を得て、書面でやり取りしている。
書面によるやり取りが多いため、わかりやすく簡潔な文書作成。
■ その他
<ul style="list-style-type: none"> ・専門職の意見、考えを聴取し、本人希望、家族等の環境と照らし合わせ、処置を決める。 ・医療分野は勉強不足なので、担当利用者の疾病は多少なりの勉強を事前にする。
異常の報告、連絡で早期対応。訪問看護師による健康観察、看護師から主治医につなげる。
お互いに情報を提供するようにしている。
ケアマネタイム等を活用し、スムーズな連携がとれるようにしている。
ケアマネタイムを参考にするなど、対応してもらいやすい時間に連絡をする。簡潔に要件を伝えるようにしています。
受診にあわせて連絡を取っている。
情報の共有。
先方の望む手段・時間に行うこと。こちらの把握した情報は関係者にできる限り、速やかに伝達してゆくこと。
専門性に留意している。
顔のみえる関係をつくる。
常に医療の知識を得ている。
特に報告がなくてもすすんで状態を確認する。
内容が解りやすく、返答しやすい質問方法。
病院や担当者によって多職種連携への理解が異なることを理解している。連携先のご負担ができる限り少なく済むよう配慮している。
訪看、往診等利用する場合、毎月報告があり、それ以外でも気になることがあればこまめに報告している。
利用者、家族から体調変化や困り事の相談があればできるだけすみやかに主治医や看護師など必要な連絡し、問題点の共有、解決を図っていく。
利用者の現状を聞く。
分からないことは、しっかり細かく聞く。いつも利用者さんの変わりと思い、情報収集するようにしている。
事前の電話でもとりあってもらえない。
医療関係者の場合、丁寧にお伺いを立てるようにしている。
医師に連絡を取りたくても中々返事をいただけず。
怒られても気にしない。
特にありません。

問16 連携がとれていない場合に困っていることについてお書きください。(自由回答)

連携がとれていない場合に困っていること
■ 医療関係者及び医療施設について
医師との連携は難しい、医師と連絡できる時間帯がとりにくい。多忙である。
医師によって、介護に理解がある無しの差を大きく感じる
医師により、介護保険について関心がないような場合がある。
医師はとくに、相談にしても、簡単に出来ない。病院によって手順のふみ方もあるし、文面にも非常に気をつかう、そのせいで、言いたいことが、逆に伝わりにくくなっていることがある。
医療的側面のみで判断され、生活的側面を説明しても、理解されない場合があること。
主治医意見書に医学的管理のチェックがなく、サービスが始められない。
主治医意見書の遅れ。
主治医に意見書をお願いしても、検討を依頼した内容でない意見が記載され戻ってきたりする。ターミナル対応中、主治医に迅速な意見を求めようとしても意見書の送付から2週間程度かかる。
主治医連絡票に返信がない場合、受診同席時に横柄な医師にケアマネには話ほしなさいといわれたとき、ICがきちんとされていないとき、こちらは医療保険なので介護は関係ないという訪問看護事業所など、チームで動く意思が相手側にない場合、非常に困る。
主治医連絡票の受け取り拒否、返信がない。
主治医連絡票の受け取りを拒否するクリニックがある。
総合病院の医師とはなかなか連携がとりづらいため医療ソーシャルワーカーに相談する場合がある。
総合病院の医師に特に連携は取りづらい。えん joy ネットを活用されていない医師が多すぎると思います。
退院の連絡を依頼していても連絡をいただけないこと。退院直前となりサービス調整を急いで行い、家族に負担がかかったこと。
多忙な医療職にアポとりにくい。
入退院時に情報連携に非協力的な病院があることに困っている。
病院とのやり取りの中で、個人情報だからと入院中の情報を教えてもらえない時。
話も聞いてくれないクリニック。書面でくれない病院は信頼うすい。
必要最低限の連絡はとれているが、主治医が多忙であり、回答がない場合や意見「特になし」のみでFAX返信される場合あり。
■ サービス利用者及びその家族について
本人の状態が見えない。
連絡がなく、急に退院が決定すること。
相手の介護保険の理解度にある。
急な体調変化。
コロナでまったく顔すら知らない人がいる。
ご家族への説明が不十分になる。
受診時の指示を家族の理解不足等から聞き取れない時。
本人の自己判断や家族判断で医師の指示が守られない。
■ 連絡に対する返事がない
FAXなどで連絡をとっても返事がない。
先方からの返答がない。
なかなか返事がいただけないこと。書面のやり取りで字が読みづらいこと。
なかなか返答がもらえない時がある。
返事が急ぎでほしい時。
末期の利用者、急いで返事がほしいのに来ない。

連携がとれていない場合に困っていること

■ その他

往診、医療での訪問看護、配食。

介護保険制度の理解不足、在宅での生活への無関心。

介護保険の制度や決め事を理解して対応してほしい。

ケアプランが結果的に使えない。

施設入所者の場合は、施設が中心となるため直接の連携はとりにくい部分がある。(コロナや感染対策中の場合、訪問や立ち会い面接ができない。)

情報にかたよりが出てスムーズにいかない。

退院時のサービス調整でケアマネにサマリー等必要な情報を提供してもらえない病院があるので困る。

退院時の状況が分からない。(入院、面会制限あり)担当がいないと連携がとれない、時間ラグあり。

通所リハ、訪看等のサービス利用をする時に、連携がとれず、本人様、家族様が望まれるサービスの利用ができなかったこと。後は必要な情報に答えがないこと。

常に、詳細に連携することは難しい。

特に医療関係の職種の方とは、先方が多忙なことが多く、連絡がつきにくいと感じます。

配食サービス。

訪問してくれる栄養士さんが少ないと思う。

まだ経験が浅く工夫している点、困っている点、困っていることがまだわかっていません。

利用者さんの生活全般を支える支援とはならない。

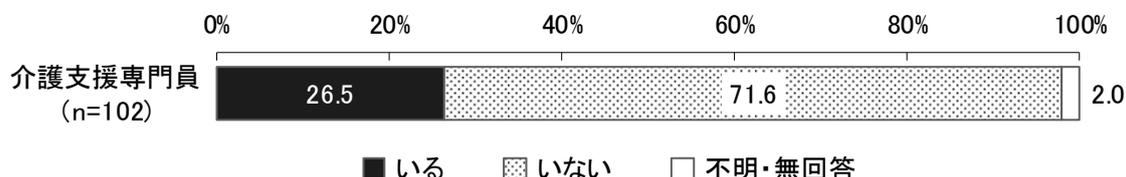
問17 医療関係者との連携に必要なことについてお書きください。(自由回答)

医療関係者との連携に必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が疾患、障害の基礎知識を身に着ける事。 ・利用者の普段の様子を伝えたり、ニーズの共有をする。 ・リハビリ施設を訪問する等、顔の見える関係性を築く事。
医師がケアマネの話聞くこと。聞かずに行動する医師が多い。
ICTの活用。
電話に出してくれる窓口の人の理解。
相手の時間に配慮する。不明なことは説明を受ける。
歩み寄ろうという姿勢。
医師と利用者が会うまでに、必要な情報、希望する部分は伝えておく、また返答をもらう。
忙しいので、様子を見て連携している。
医療、介護、障害すべての関係者が協力的になり、情報共有できるようになること。
医療依存度が高い方、病状不安定な方の場合、こまめな報告、相談は必要だと考える。退院時、医療ソーシャルワーカーと連携し、本人が在宅でも困らないよう事前のサービス調整が必要。
医療関係者の理解、協力。
医療知識や相談のタイミング
お互いの仕事を理解する。お互い時間に配慮する。
お互いの専門性や立場などの理解と協力姿勢。
介護保険サービスの利用状況を伝え、医療の方の欲している情報の提供。
顔の見える関係の構築、医療と介護の現状の確認。お互いの役割や行っている業務の理解。
家族が医師に話すことと現状とに相違があり、本人の状態変化を理解されなかった。事情を直接ケアマネが医師に連絡して再度診察することで薬剤変更の処置がなされた。相談を受けてくださる先生であったからこそ改善できた症例です。
関係している機関がどれくらいあるか把握する。
関係をしっかり築く。
気合い、根性。
気になることがあれば主治医、看護師等とこまめな相談・報告をしていくこと。
決まった書式があるとよい。集まりがほしい。顔が見えない。
緊急時には素早く連絡が取れる。
緊急の時に、先生や訪看さんとすぐに必ず連絡がつく体制づくり。
具体的に知りたい情報
こちらから医師などにおうかがいしたり、状況確認したりすることはありますが、クリニックなどから、こちらへの問い合わせがあることはまずありません。と思うと、患者さんの日常生活について、把握したいと考えている先生方が少ないのではないのでしょうか。
時間や期間に充分余裕を持って、調整したいので早めの連絡をしてほしい。
疾患の特徴の把握。
自分自身も日常的にしっかりと状態把握できていること。
主治医意見書の医学的管理の必要性や調整の指示等で、主治医に改めて意見や相談をしなければならないことがある。記入の仕方などが、医師にきちんと伝わっていない。
主治医からの指示、制限、守るべきこと、家族指導。
状況に応じて適時状況報告を行う事。
状況変化時の情報共有。
状態変化の時にはすぐに対応できるように、顔が知れている必要あり。

医療関係者との連携に必要なこと
情報の共有。
迅速に対応する事。情報共有を図ること。
信頼関係、地域包括ケアシステムの協働。
スムーズで明確な支援を調整するために、医療関係者には連携に前向きな姿勢を持ってもらいたい。
精神疾患の利用者の状態について。
制度上の制約で医師の判断、同意を書面で必要とする場合。
それぞれの役割を理解すること。
直接顔を合わせての対話。電話、FAX、メール等でやりとりできるのですが、やはり直接顔を合わせての対話は大事だと思います。
人間性。
熱意、情熱、利用者を中心としたチームワーク。
必要なことを簡潔に伝えられること。
病院の先生は特に病院の関係者も非常に気を使っているのがわかるので、忙しいし、権限があるのも分かっているが、フラットな関係ならやりやすいだろうにと思う。
病気についての理解を深める。
病識
病状の提供や、情報をいただくために連携は必要。
返答がしやすい文書にする。
もう少しエンジョイネットがうまく使いこなせるようにしたい。以前利用していたが、この頃使わなくなりこれではいけないと思うが、手が出せていない。何度か講習してほしい。
理解できていない事も多く、下調べしてから連絡する。「教えて下さい」という姿勢で話をする。
利用者の在宅生活がその人らしく送ることができるという理念。
利用者の状態をしっかりと把握し、伝えていく事。利用者の状態が悪い時は、連絡を密に取り、連携していく。
利用者ように興味、関心を持って接する事。またできるだけ医療についてはこちら側も勉強すること。

問 18 あなたが担当されている利用者の中で、痰の吸引や経管栄養などの医療行為が必要な人はいますか。(単数回答)

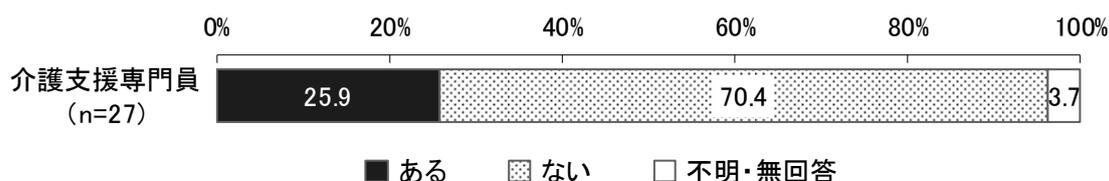
担当している利用者の中で、痰の吸引や経管栄養などの医療行為が必要な人について、「いない」が71.6%、「いる」が26.5%となっています。



<問18で医療行為が必要な人が「いる」と回答した方のみ>

問 19 医療行為が必要なためにケアマネジメントで困っていることはありますか。(単数回答)

医療行為が必要なためにケアマネジメントで困っていることの有無について、「ない」が70.4%、「ある」が25.9%となっています。



<問19でケアマネジメントで困っていることが「ある」と回答した方のみ>

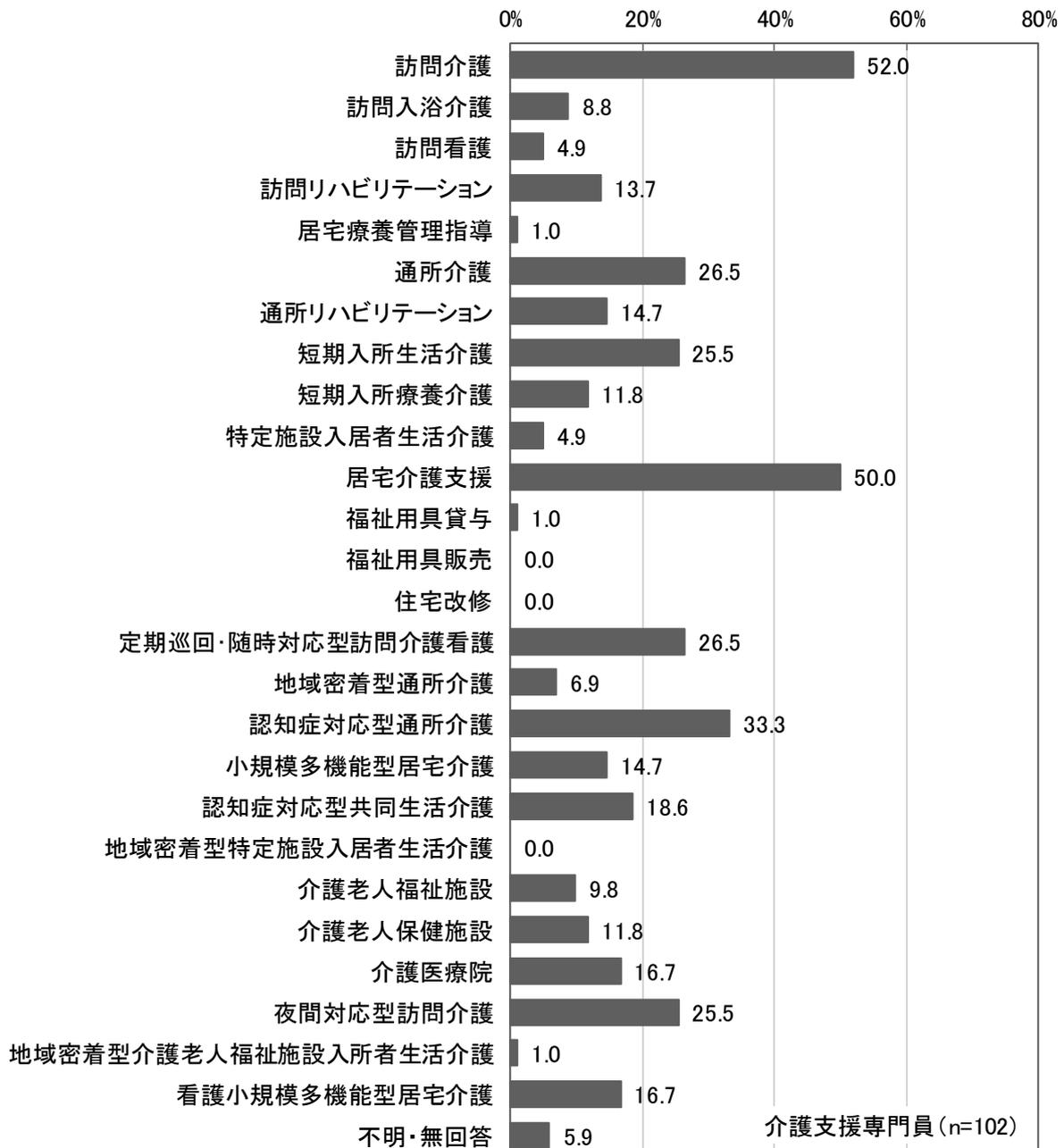
問 20 医療行為が必要なためにケアマネジメントで困っていることをお書きください。(自由記述)

医療行為が必要なためケアマネジメントで困っていること
医療行為があることで、事業所の受け入れ先がかなり狭まります（通所、短期入所、入居・入所）。また、難病などで、痰の吸引や経管栄養が必要な方に、訪問介護をお願いしようとしても、喀痰吸引登録の事業所を探すのはかなり大変な状況です。また、経管からの薬投与が医療行為とされ、登録事業所のヘルパーでもできません。
インスリン自己接種。
介護スタッフで吸引ができる人材が少なすぎる。
吸引、インシュリン3回/日、マヤク、浣腸、摘便など、可能な方法を探してサービス利用、調整している。
急な退院やサービスの依頼調整を受けるが、医療機関が想定しているよりもサービスの調整に時間を要するため焦ってしまう。
現在は利用者がいないが、医療的処置の多い利用者は在宅が難しく、施設に行くしかなくなる。しかし、介護保険の施設は受け入れが難しく、また有料に行くには金銭的に困難な方もおり、医療介護員がほしい。療養型の病院の中には、選定基準が厳しすぎる病院もあり、地域包括ケアをうたいながら絶対使えない病院がある。
サービスの不足、人員の不足。
ショートの利用ができない。入所できない。
退院時に看護サマリーなどの必要な情報を出していただけないことで、状態の把握やサービス調整ができず、困っている。
特養などの施設に入りたくても入れない。金額の高い施設にいけなくなる。自宅だと家人の負担が大きい。

4 本市の介護サービスの供給について

問 21 本市の介護サービスの中で、現在供給が不足していると感じているサービスは何ですか。(複数回答)

供給が不足していると感じている介護サービスについて、「訪問介護」が 52.0%と最も高く、次いで「居宅介護支援」が 50.0%、「認知症対応型通所介護」が 33.3%となっています。



■ 経年変化

経年変化をみると、令和元年と比べて「居宅介護支援」が 50.0%で 46.9 ポイント、「訪問介護」が 52.0%で 23.1 ポイント、「通所介護」が 26.5%で 14.1 ポイント、「認知症対応型通所介護」が 33.3%で 11.7 ポイント、それぞれ高くなっています。なお、26 のサービス中 19 のサービスで、令和元年の割合と同等もしくはそれ以上の割合となっています。

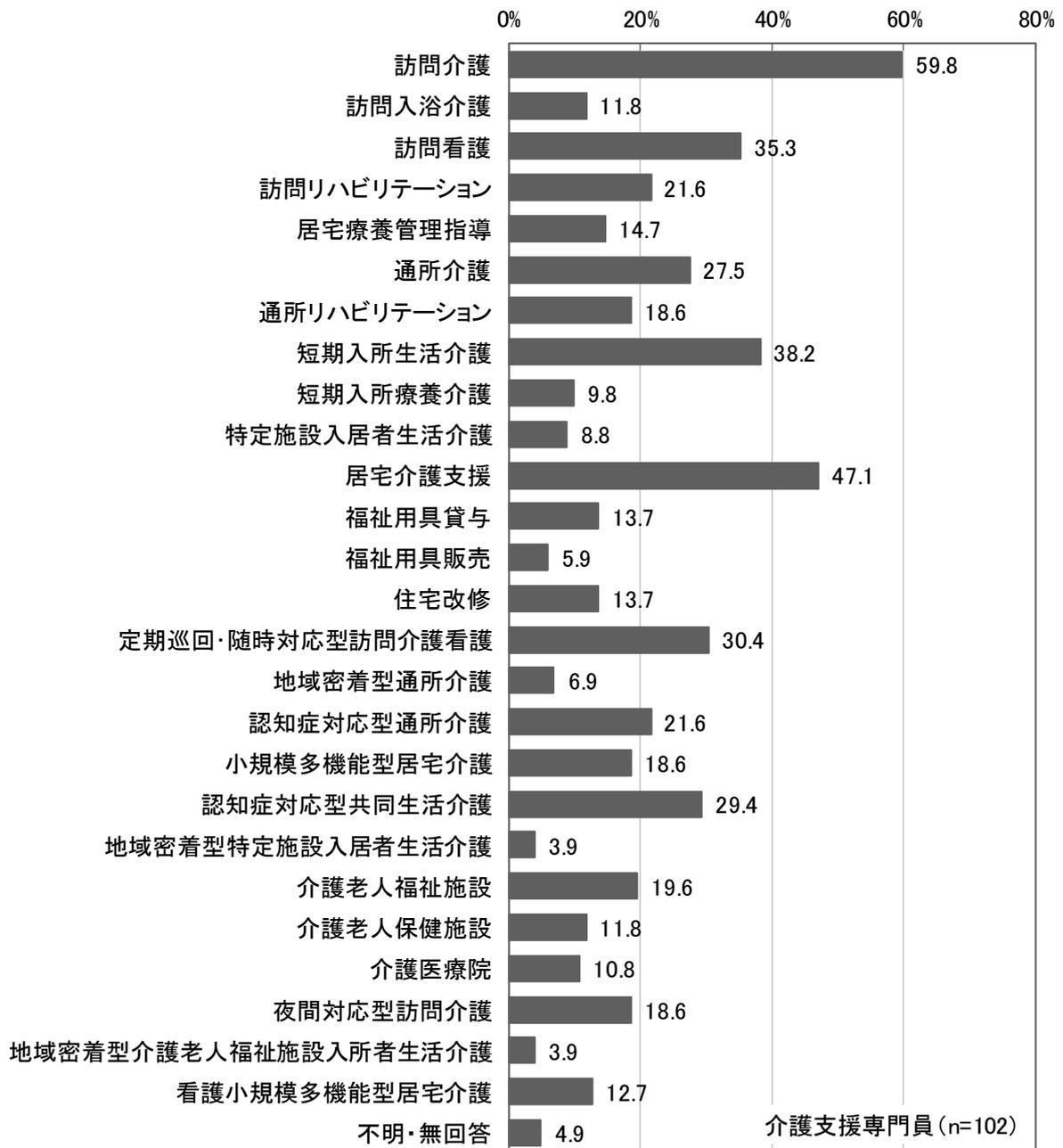
(単位:%)	n=	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定施設入居者生活介護
		調査年度									
令和元年	97	28.9	3.1	6.2	11.3	2.1	12.4	19.6	24.7	10.3	2.1
令和4年	102	52.0	8.8	4.9	13.7	1.0	26.5	14.7	25.5	11.8	4.9

(単位:%)	n=	居宅介護支援	福祉用具貸与	福祉用具販売	住宅改修	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	地域密着型通所介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護
		調査年度									
令和元年	97	3.1	0.0	1.0	0.0	24.7	5.2	21.6	9.3	9.3	2.1
令和4年	102	50.0	1.0	0.0	0.0	26.5	6.9	33.3	14.7	18.6	0.0

(単位:%)	n=	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護医療院	夜間対応型訪問介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	看護小規模多機能型居宅介護	不明・無回答
		調査年度						
令和元年	97	9.3	9.3	11.3	30.9	2.1	12.4	16.5
令和4年	102	9.8	11.8	16.7	25.5	1.0	16.7	5.9

問 22 本市の介護サービスの中で、今後、需要が増加すると予測するサービスは何ですか。(複数回答)

今後需要が増加すると予測する介護サービスについて、「訪問介護」が59.8%と最も高く、次いで「居宅介護支援」が47.1%、「短期入所生活介護」が38.2%となっています。



■ 経年変化

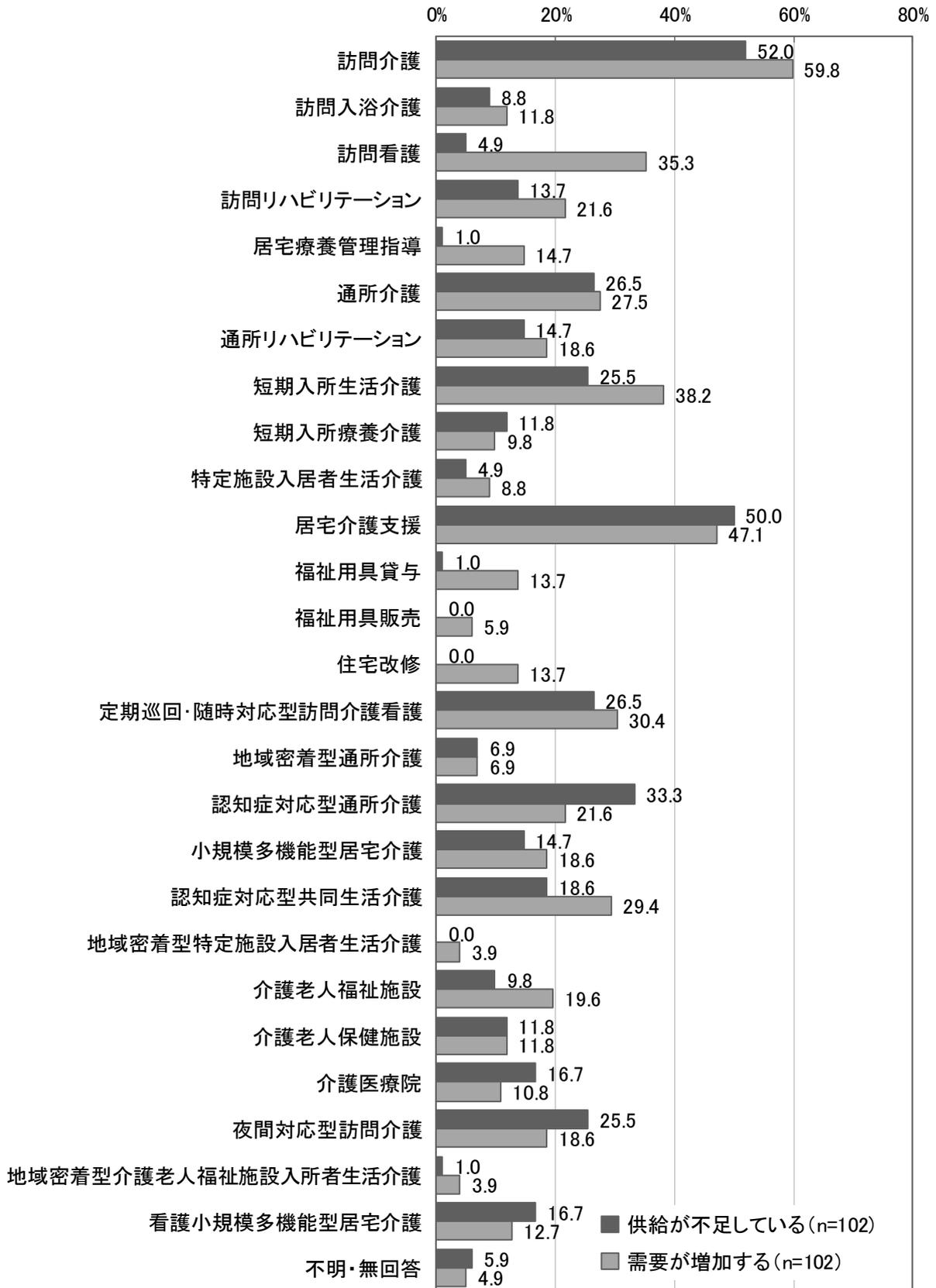
経年変化をみると、令和元年と比べて「居宅介護支援」が 47.1%で 37.8 ポイント、「訪問介護」が 59.8%で 27.8 ポイント、「通所介護」が 27.5%で 15.1 ポイント、「短期入所生活介護」が 38.2%で 13.5 ポイント、それぞれ高くなっています。なお、26 のサービス中 19 のサービスで、令和元年の割合以上となっています。

(単位:%)	n=	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定施設入居者生活介護
		調査年度									
令和元年	97	32.0	5.2	26.8	12.4	7.2	12.4	19.6	24.7	13.4	6.2
令和4年	102	59.8	11.8	35.3	21.6	14.7	27.5	18.6	38.2	9.8	8.8

(単位:%)	n=	居宅介護支援	福祉用具貸与	福祉用具販売	住宅改修	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	地域密着型通所介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	認知症対応型共同生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護
		調査年度									
令和元年	97	9.3	4.1	1.0	8.2	26.8	4.1	23.7	10.3	15.5	4.1
令和4年	102	47.1	13.7	5.9	13.7	30.4	6.9	21.6	18.6	29.4	3.9

(単位:%)	n=	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護医療院	夜間対応型訪問介護	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	看護小規模多機能型居宅介護	不明・無回答
		調査年度						
令和元年	97	15.5	15.5	14.4	21.6	2.1	11.3	13.4
令和4年	102	19.6	11.8	10.8	18.6	3.9	12.7	4.9

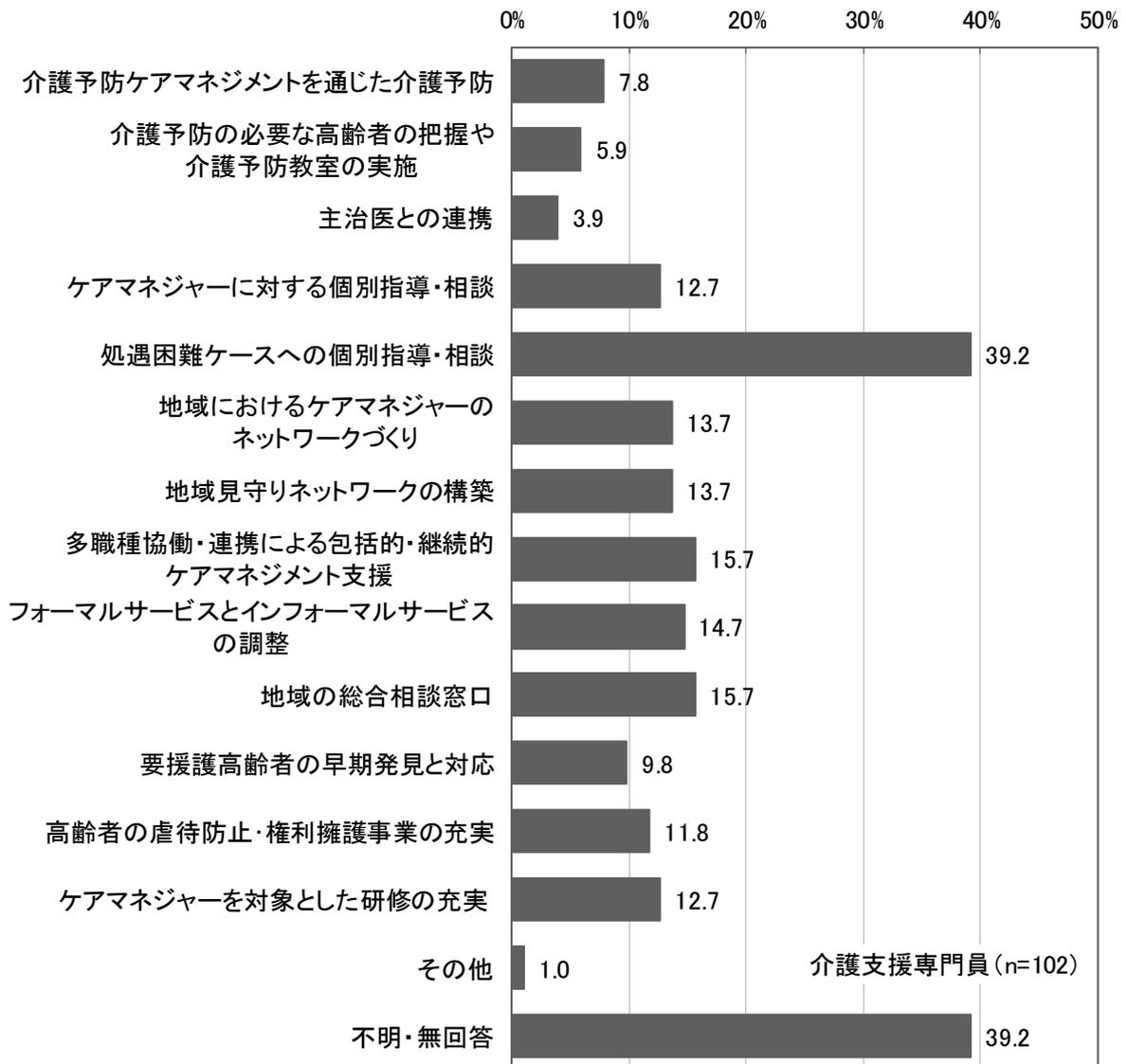
■ ■ 問21・問22の比較



<地域包括支援センターに従事している方以外の方のみ>

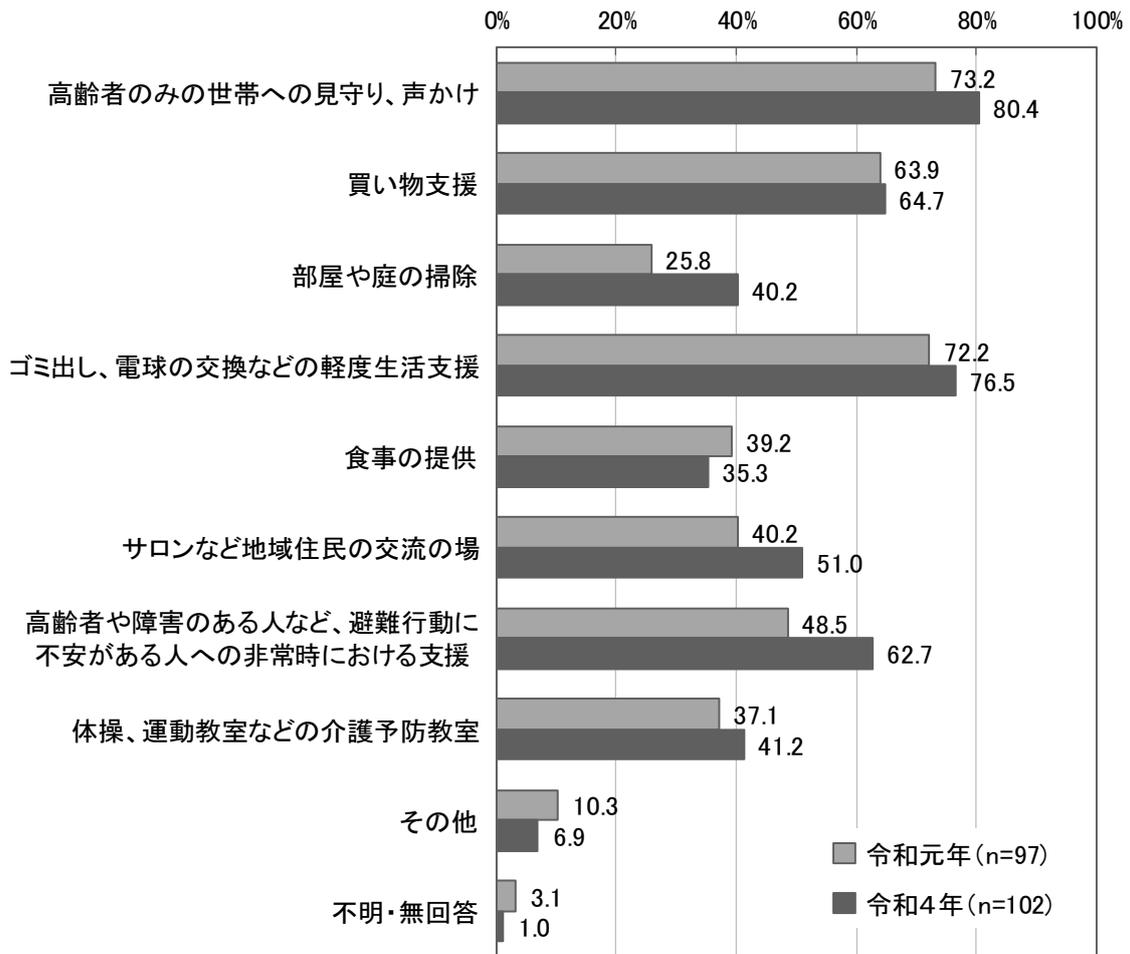
問 23 地域包括支援センターについて感じていること、期待することは何ですか。(複数回答)

地域包括支援センターについて感じていること、期待することについて、「処遇困難ケースへの個別指導・相談」が39.2%と最も高く、次いで「多職種協働・連携による包括的・継続的ケアマネジメント支援」「地域の総合相談窓口」がそれぞれ15.7%、「フォーマルサービスとインフォーマルサービスの調整」が14.7%となっています。



問 24 誰もが住み慣れた地域の中で安心して暮らしていくためには、地域住民同士の助け合い、支え合いの活動が重要となります。そこで、地域住民の力を生かした高齢者支援で必要だと思うものについて、あてはまるものをお答えください。
(複数回答)

地域の住民の力を生かした高齢者支援で必要だと思うものについて、「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」が80.4%と最も高く、次いで「ゴミ出し、電球の交換などの軽度生活支援」が76.5%、「買い物支援」が64.7%となっています。

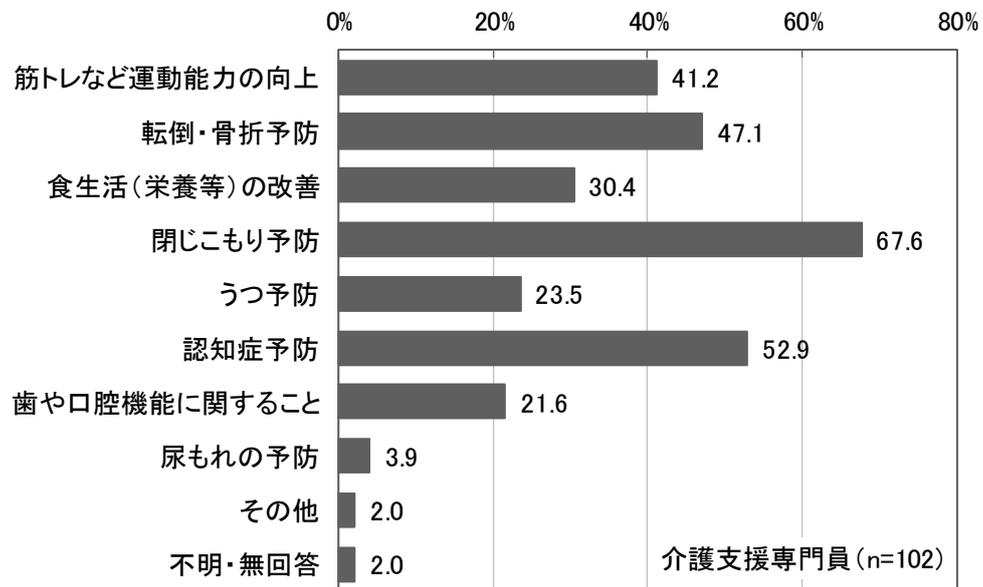


■ 経年変化

経年変化をみると、令和元年と比べて「部屋や庭の掃除」が40.2%で14.4ポイント、「高齢者や障害のある人など、避難行動に不安がある人への非常時における支援」が62.7%で14.2ポイント、「サロンなど地域住民の交流の場」が51.0%で10.8ポイント、それぞれ高くなっています。なお、令和元年、4年ともに「高齢者のみの世帯への見守り、声かけ」「ゴミ出し、電球の交換などの軽度生活支援」「買い物支援」が上位となっています。

問 25 介護予防に関して、特に強化したほうがいいと感じる取り組みは何ですか。(複数回答)

介護予防に関して、特に強化したほうがいいと感じる取り組みについて、「閉じこもり予防」が67.6%と最も高く、次いで「認知症予防」が52.9%、「転倒・骨折予防」が47.1%となっています。



5 虐待や権利擁護について

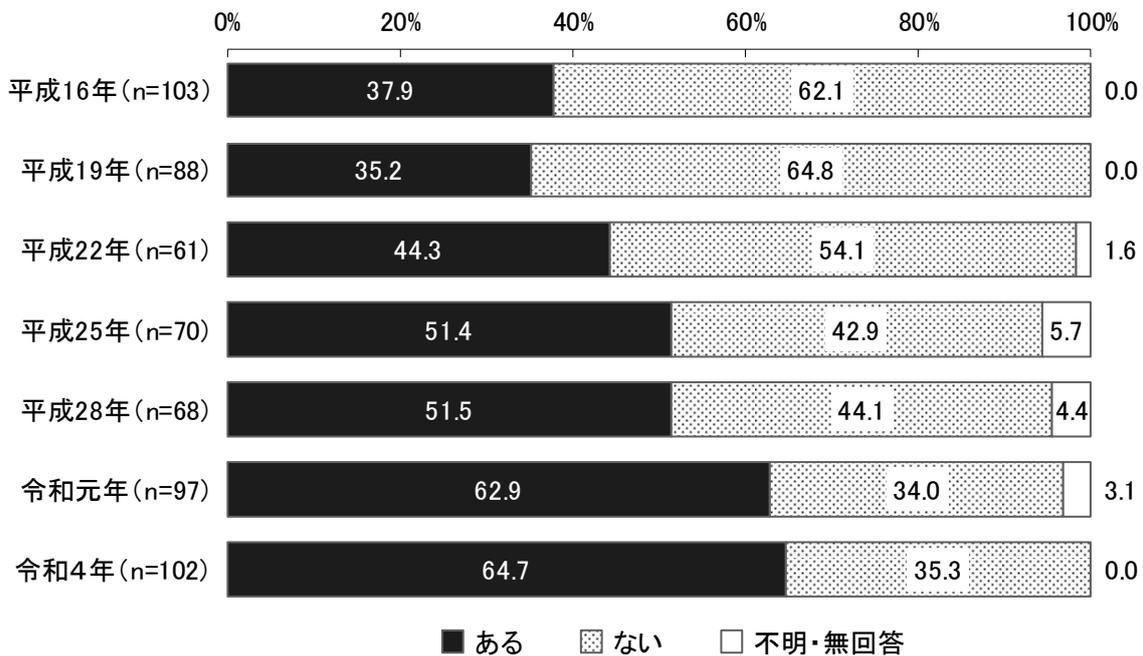
問 26 あなたは、過去3年間に虐待の疑われるケースに関わったことがありますか。
(単数回答)

虐待の疑われるケースに関わったことがあるかについて、「ある」が64.7%、「ない」が35.3%となっています。



■ ■ 経年変化

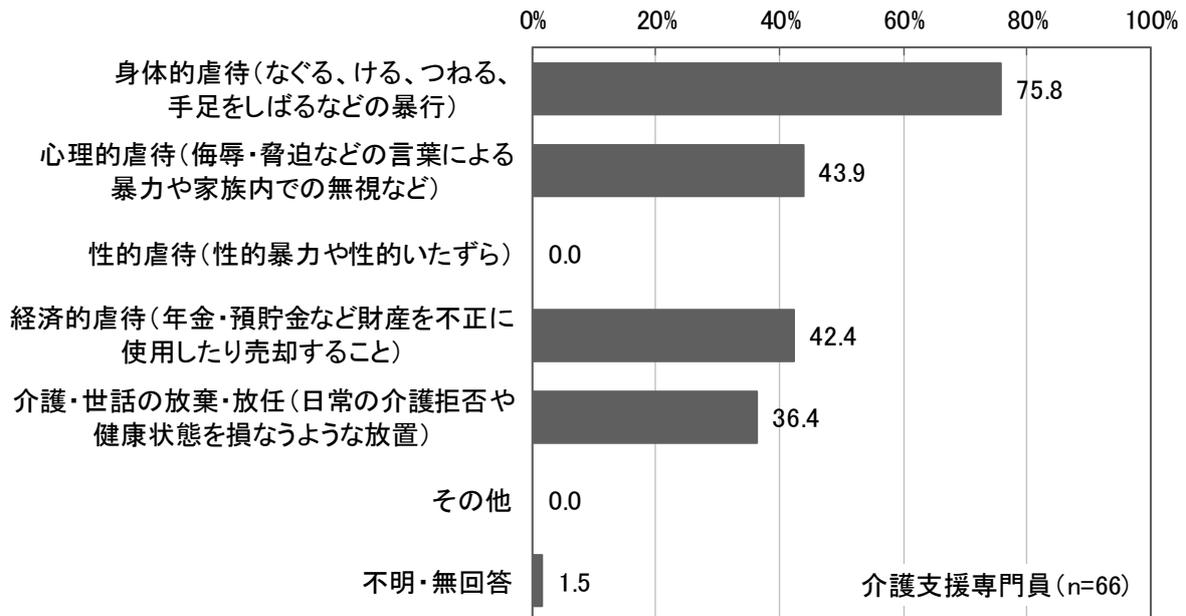
経年変化をみると、平成22年以降「ある」が増加しています。



<問26で虐待の疑われるケースに関わったことが「ある」と回答した方のみ>

問27 あなたが関わった虐待の疑われるケースは、どのような状況のケースですか。
(複数回答)

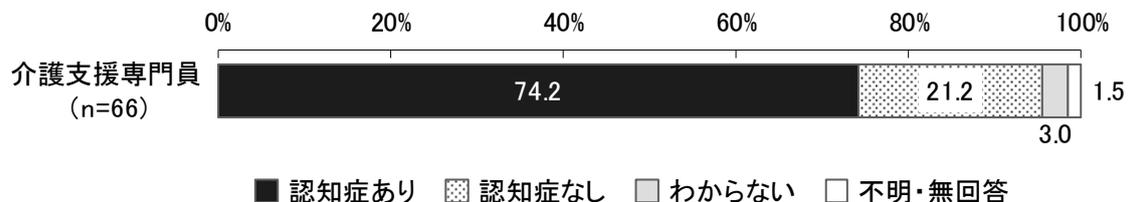
関わった虐待の疑われるケースについて、「身体的虐待(なぐる、ける、つねる、手足をしぼるなどの暴行)」が75.8%と最も高く、次いで「心理的虐待(侮辱・脅迫などの言葉による暴力や家族内での無視など)」が43.9%、「経済的虐待(年金・預貯金など財産を不正に使用したり売却すること)」が42.4%となっています。



<問26で虐待の疑われるケースに関わったことが「ある」と回答した方のみ>

問28 虐待を受けている高齢者本人に認知症はありますか。(単数回答)

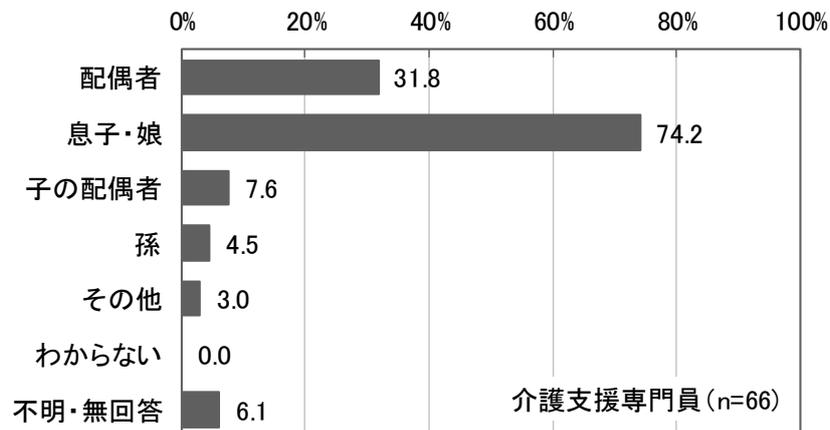
被虐待高齢者の認知症の有無について、「認知症あり」が74.2%と最も高く、次いで「認知症なし」が21.2%、「わからない」が3.0%となっています。



<問 26 で虐待の疑われるケースに関わったことが「ある」と回答した方のみ>

問 29 高齢者を虐待していると思われる人（虐待者）と高齢者本人との続柄についてお答えください。（複数回答）

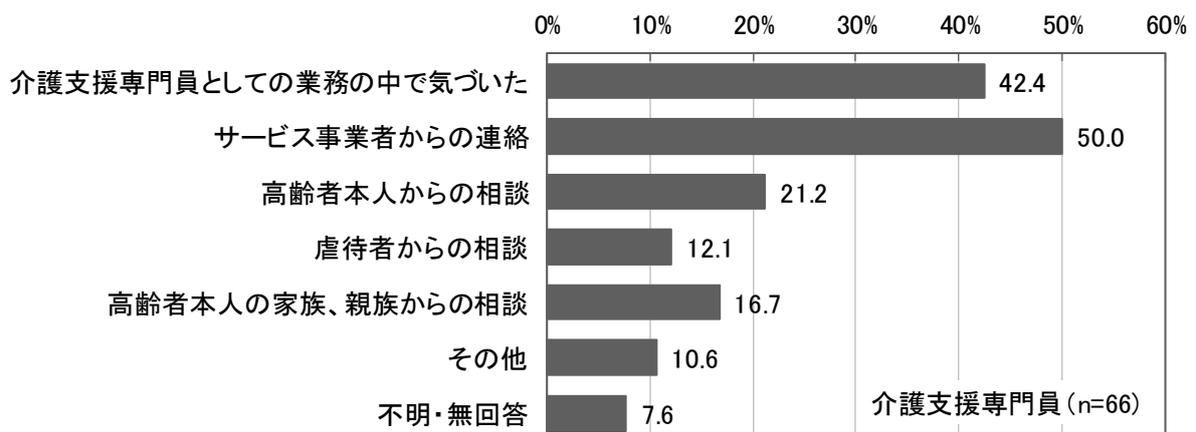
虐待者との続柄について、「息子・娘」が 74.2%と最も高く、次いで「配偶者」が 31.8%となっています。



<問 26 で虐待の疑われるケースに関わったことが「ある」と回答した方のみ>

問 30 あなたが高齢者虐待を知った経緯は何ですか。（複数回答）

高齢者虐待を知った経緯については、「サービス事業者からの連絡」が 50.0%と最も高く、次いで「介護支援専門員としての業務の中で気づいた」が 42.4%、「高齢者本人からの相談」が 21.2%となっています。



6 在宅生活の継続や介護人材について

※問 31～34 は住宅型有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等を除いてお考え下さい。

問 31 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者はいますか。
(単数回答)

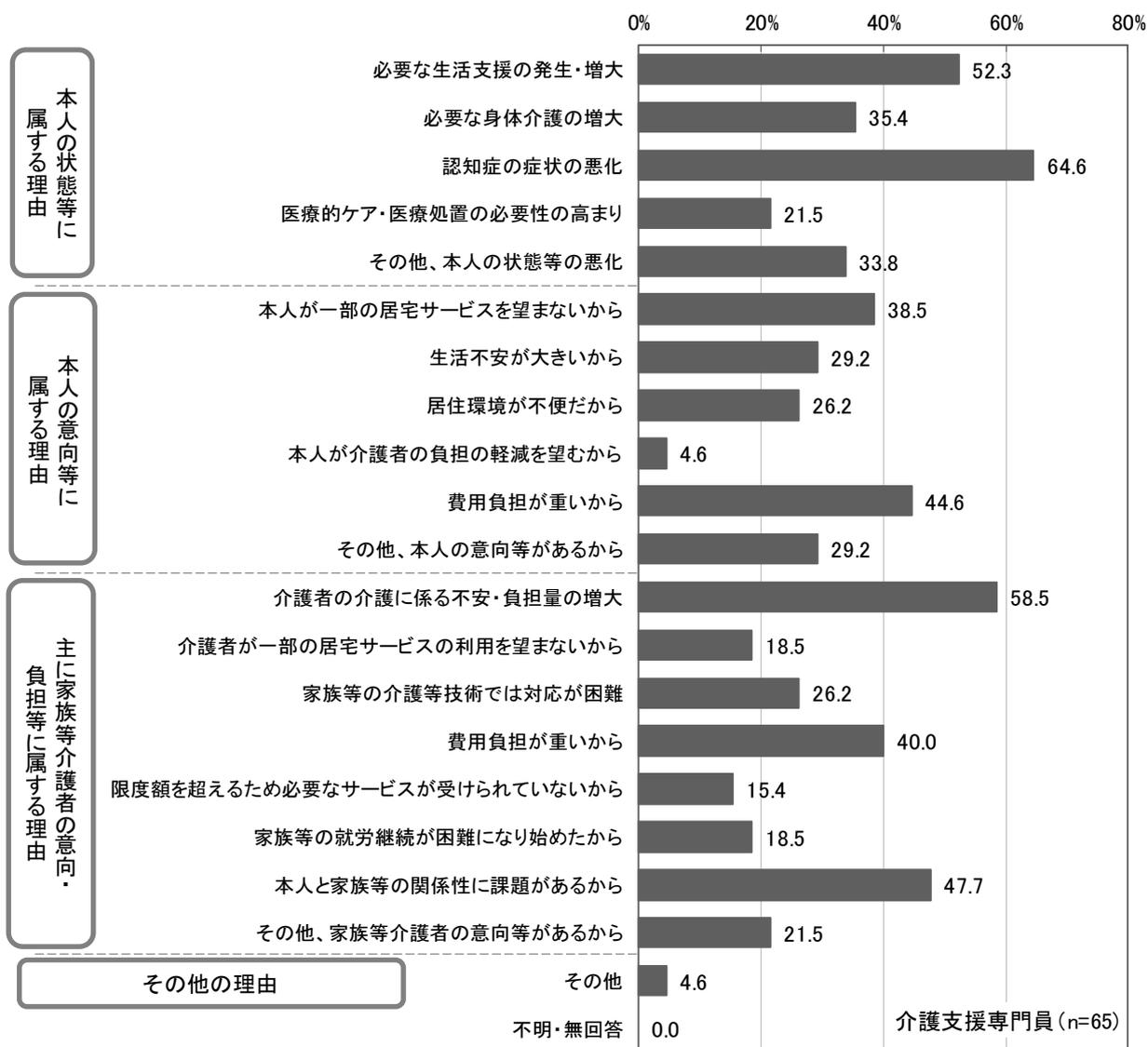
現在のサービス利用で、生活の維持が難しくなっている利用者の有無について、「いる」が 63.7%、「いない」が 32.4%となっています。



<問31で生活の維持が難しくなっている利用者が「いる」と回答した方のみ>

問32 生活の維持が難しくなっている理由で多いものは何ですか。(複数回答)

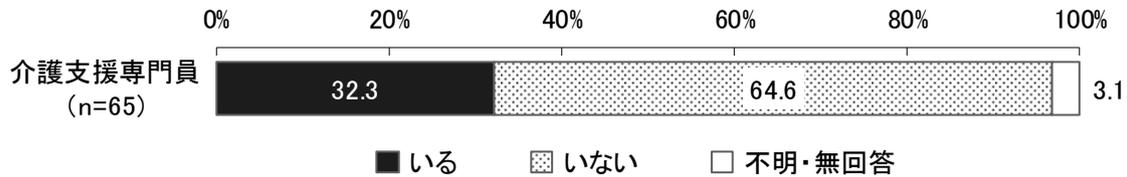
生活の維持が難しくなっている理由で多いものについて、「認知症の症状の悪化」が64.6%と最も高く、次いで「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が58.5%、「必要な生活支援の発生・増大」が52.3%となっています。



<問31で生活の維持が難しくなっている利用者が「いる」と回答した方のみ>

問33 担当されている利用者の中で、施設の入所・入居の緊急度が高いと思われる人はいますか。(単数回答)

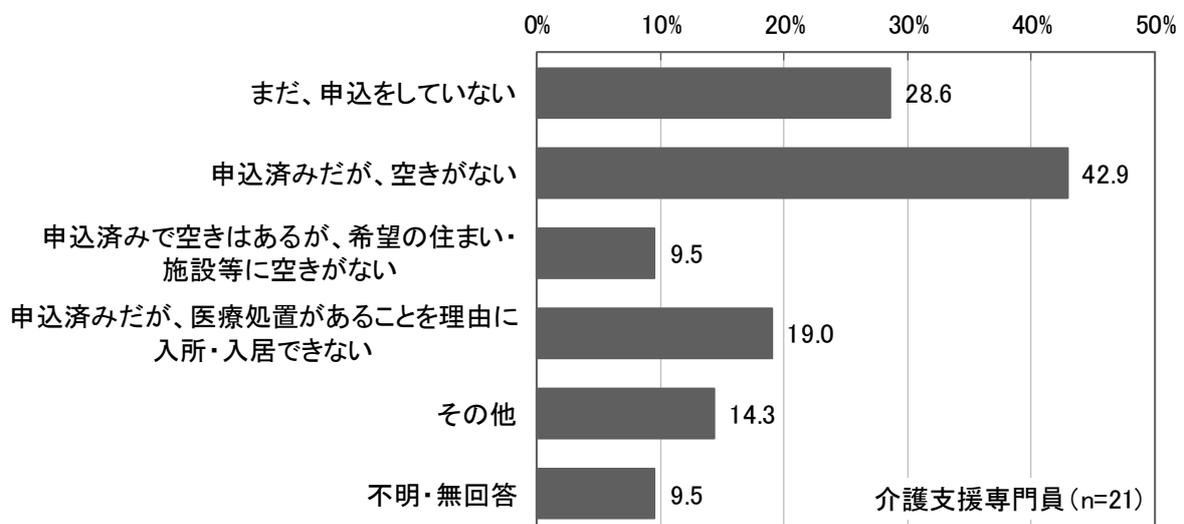
担当している利用者の中で、施設の入所・入居の緊急度が高いと思われる人の有無について、「いない」が64.6%、「いる」が32.3%となっています。



<問33で施設の入所・入居の緊急度が高いと思われる人が「いる」と回答した方のみ>

問34 入所・入居できていない理由は何ですか。(複数回答)

入所・入居できていない理由について、「申込みだが、空きがない」が42.9%と最も高く、次いで「まだ、申込をしていない」が28.6%、「申込みだが、医療処置があることを理由に入所・入居できない」が19.0%となっています。

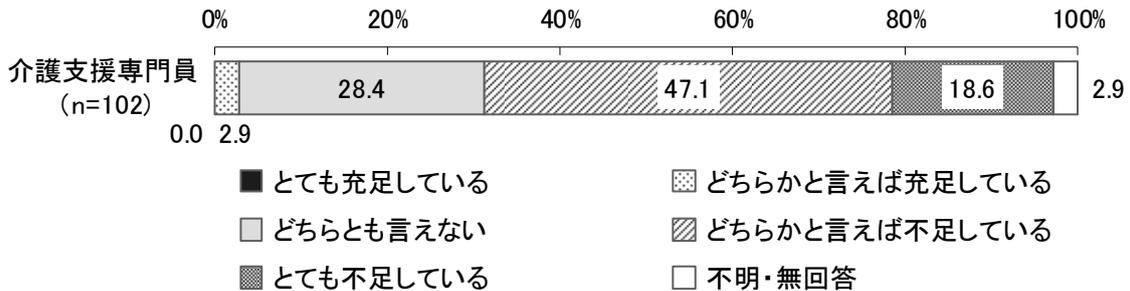


問 35 近年の刈谷市の介護人材について、おおむねどのように感じておられますか。
(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

- 『充足している』 … 「とても充足している」と「どちらかと言えば充足している」を合算
- 『不足している』 … 「どちらかと言えば不足している」と「とても不足している」を合算

近年の刈谷市の介護人材について、『不足している』が 65.7%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が 28.4%、『充足している』が 2.9%となっています。

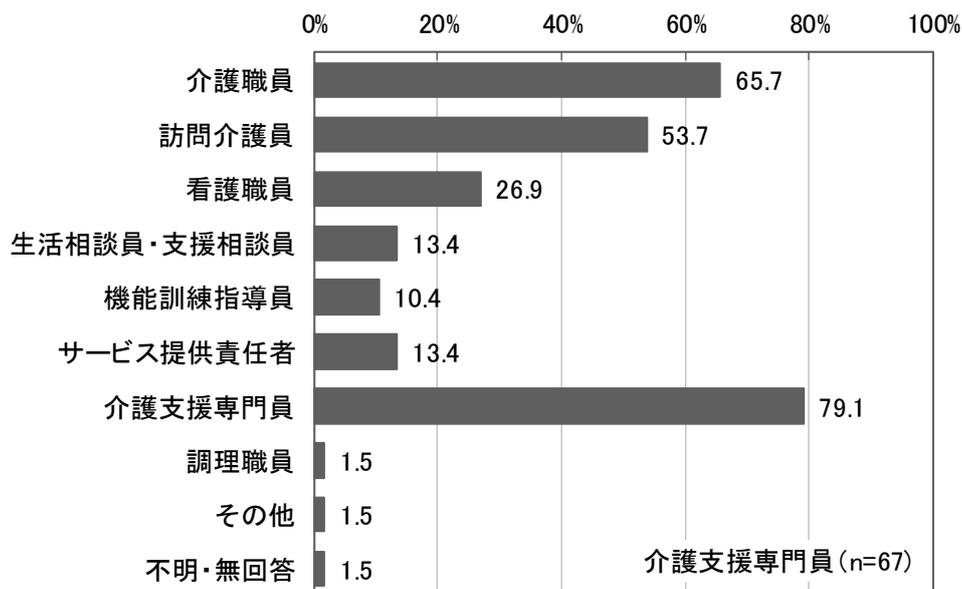


<問 35 で近年の刈谷市の介護人材について「どちらかと言えば不足している」または「とても不足している」と回答した方のみ>

問 36 刈谷市で不足していると感じる介護人材は何ですか。

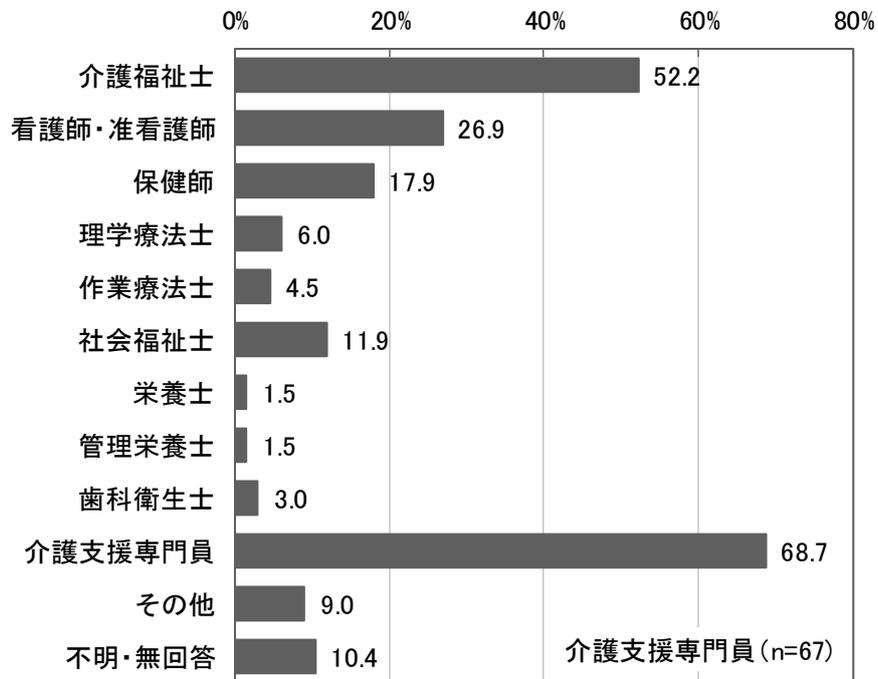
①職種 (複数回答)

刈谷市で不足していると感じる介護の職種について、「介護支援専門員」が 79.1%と最も高く、次いで「介護職員」が 65.7%、「訪問介護員」が 53.7%となっています。



②有資格者（複数回答）

刈谷市で不足していると感じる介護の有資格者について、「介護支援専門員」が 68.7%と最も高く、次いで「介護福祉士」が 52.2%、「看護師・准看護師」が 26.9%となっています。



問 37 介護人材の不足への対応として、市に望む支援等があればお書きください。(自由回答)

介護人材の不足への対応として市に望む支援等の内容
介護支援専門員が不足しており、新規のケアプランの受け入れ先にも苦勞している。
介護支援専門員の確保のため給与体系等の改革(特別手当等の支給による賃金アップ)が必要。
介護支援専門員の更新研修の費用負担を、主任のみではなく、他介護支援専門員にもお願いしたいと思ひます。
介護支援専門員の処遇改善の声を県や国へ上げてほしい。
介護職員初任者研修の開催、シルバー人材センター、いきいきクラブへの訪問型サービスBの導入、介護予防 60 歳から地域社会へ参加できるしくみづくり(定年退職者層の介護予防支援人材へのシフト)。
介護人材へ、現金を！
金銭や家族関係等、複雑な問題を抱えるケースが増えてきており、チームとして支える支援相談員等(包括の職員)が増えてもらえると 1 人で抱え込まず対応でき、ケアマネの負担も軽くなると思ひます。
ケアマネさんといつも接しています。少しでもケアマネさんが働きやすいようにしてもらえたらいいのにな、と思ひてしまいます。
ケアマネにも処遇改善、交付金など手当がほしい。
ケアマネの確保を早急にお願ひします。要介護の認定が出て、引き継ぎができません。
ケアマネの人材不足。ケアマネの不足解消のため、研修を減らすなどの対応があってもいい。
ケアマネは不足し、高齢化しています。若い世代が働きたいと思える、魅力のある仕事になるようにいろいろな面で支援をお願ひします。
資格取得のための支援。
人材会社に依頼し、運よく人材を確保すると年収の 25~30%の支払いが生じます。年収 300 万でも 90 万円です。小さな事業所はこれでは閉鎖に追い込まれてしまいます。ただでさえ賃金を上げたくても上げられないので、特定取得に必死。しかし、人材確保のため 90 万も費やしてはやっていけない。刈谷市はケアマネの高齢化も進んでおり、人材不足。せめて市民だよりなどに、市内の居宅だけでも募集要項を掲載してほしいと思ひている。
人材が高齢化している。若い人が入ってこない！これに対して、市に何ができるのか？
人材派遣ばかりでお金が高い。
独居の場合、食の確保が重要となりますが、ご自分で買い物や用意ができない場合、ヘルパーさんや配食サービスに頼ることになります。ただ、刈谷市の配食サービスの制度では、夕食に週 3・4 回の支援のみです。名古屋市は、毎日 1 回対象となっています。ヘルパーの人材確保が難しいのであれば、配食制度の充実など、他の手段に対する支援が望まれます。
包括も含め、ケアマネジメント業務、研修の負担を減らしてほしい。
訪問介護事業所の不足、就業しているのは女性で主婦が多く、就業時間も長く働けない事情もある。早朝や夕方～夜に働ける人材が少ない。以前、市の支援であった買い物支援等の事業を再開していただけると助かると思ひます。
ものづくりから人づくりへの政策転換。
要介護がでてもケアマネがよりごのみし、受けなかったり、いっぱいであったり、なかなか担当者が決まらず、市外に依頼したりしている。ヘルパー不足で、思った生活リズムがつかれない。
<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員の人員確保。介護支援専門員の処遇改善。 ・介護人材増加のための計画。サービスごとの人材確保人数を調べる。 ・訪問介護の職員が高齢化してきている。訪問介護の人員確保をした方がよい。 ・訪問介護は小規模な事業所が多い。大きな法人も事業を持つことが望まれる。大きい法人の方が人員を流動的に確保できる。若い世代に介護の仕事の魅力を感じてほしい。

刈谷市高齢者等実態調査報告書
【後編】

発行：令和5年3月

発行者：刈谷市

編集：福祉健康部 長寿課

〒448-8501 刈谷市東陽町1丁目1番地

TEL：(0566) 62-1013

FAX：(0566) 24-2466